

東久留米市男女平等・共同参画に関する  
アンケート調査報告書

平成 2 8 年 7 月  
東久留米市



# 目 次

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 第1章 調査の概要                           | 1  |
| 1. 調査実施の目的                          | 3  |
| 2. 調査対象                             | 3  |
| 3. 調査方法                             | 3  |
| 4. 調査期間                             | 3  |
| 5. 回収数及び回収率                         | 3  |
| 6. 調査項目                             | 3  |
| 7. 調査結果を見る上での注意事項                   | 5  |
| 第2章 調査結果の詳細                         | 7  |
| 1. 回答者の属性                           | 9  |
| (1) 性別                              | 9  |
| (2) 年齢                              | 9  |
| (3) 婚姻状況                            | 10 |
| (4) 家族の就労状況（共働き・片働き）                | 10 |
| (5) 子どもの有無                          | 11 |
| (6) 子どもの性別                          | 11 |
| (7) 末子の年齢                           | 12 |
| (8) 家族構成                            | 12 |
| 2. 家庭生活                             | 13 |
| (1) 家庭内での役割分担                       | 13 |
| 3. 子育てと介護                           | 45 |
| (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について | 45 |
| 4. 仕事と職場                            | 48 |
| (1) 男女が共に育児・介護と仕事の両立を推進するために必要なこと   | 48 |
| (2) 介護が必要になった場合、介護をしてもらいたい人         | 54 |
| (3) 主な職業                            | 57 |
| (4) 主な職業における雇用形態                    | 59 |
| (5) 主な職業の職場の場所                      | 61 |
| (6) 働いている理由                         | 64 |
| (7) 職場における仕事内容や待遇の問題点               | 68 |
| (8) 現在働いていない理由                      | 72 |
| (9) 女性が仕事を持つことについて                  | 75 |
| (10) 各分野で女性のリーダーが増える効果と影響           | 78 |
| (11) 管理職以上に昇進することについてのイメージ          | 81 |
| 5. 地域活動                             | 83 |
| (1) 地域活動への参加状況                      | 83 |
| (2) 地域の活動や行事に参加しようとする場合に必要なこと       | 87 |

|  |     |
|--|-----|
| 6. ワーク・ライフ・バランス .....                      | 89  |
| (1) ワーク・ライフ・バランスにおける希望と現実 .....            | 89  |
| (2) ワーク・ライフ・バランスの推進のために必要なこと .....         | 94  |
| 7. 防災 .....                                | 96  |
| (1) 防災分野で男女共同参画の視点をいかすために必要なこと .....       | 96  |
| (2) 男女共同参画の視点到配慮した避難所の運営で必要なこと .....       | 98  |
| 8. 男女平等 .....                              | 100 |
| (1) 男女の地位の平等観 .....                        | 100 |
| (2) 男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心 .....            | 109 |
| (3) 政策の企画や方針決定過程で女性の参画が少ない理由 .....         | 111 |
| (4) 男女共同参画に関することばや取り組みの認識 .....            | 113 |
| (5) 男女共同参画施策の推進のための取り組みを周知するための有効な手段 ..... | 123 |
| (6) 市発信の情報を入手する主な媒体 .....                  | 125 |
| (7) 男女平等を推進していくために小・中学校で取り組むとよいもの .....    | 129 |
| 9. 配偶者等からの暴力 .....                         | 131 |
| (1) DVの被害・加害経験 .....                       | 131 |
| (2) DVの相談経験 .....                          | 153 |
| (3) 相談していない理由 .....                        | 155 |
| (4) DV防止や被害者支援のために必要な対策 .....              | 157 |
| 10. 性的マイノリティ（性的少数者） .....                  | 159 |
| (1) 性別に悩んだ経験 .....                         | 159 |
| (2) 性的マイノリティという言葉の認識 .....                 | 161 |
| (3) 性的マイノリティが安心して過ごせる環境整備のための有効な取組み .....  | 163 |
| 11. 自由記述 .....                             | 165 |
| (1) 市の男女平等・男女共同参画施策への意見・要望 .....           | 165 |

|               |     |
|---------------|-----|
| 第3章 調査票 ..... | 176 |
|---------------|-----|

# 第 1 章 調査の概要



## 1. 調査実施の目的

本年度は、平成23年度に策定した「東久留米市第2次男女平等推進プラン」の計画期間の最終年にあたり、現在のプランにおける取組みの進捗状況を確認するとともに、次期プラン策定をより良いものとするため、ご意見・ご要望などをお伺いするアンケート調査を実施した。

## 2. 調査対象

東久留米市に居住する満20歳以上の男女2,000人

平成28年4月1日の住民基本台帳から無作為抽出（年齢層、性別割合は同等となるよう設定の上）

## 3. 調査方法

郵送配布－郵送回収法

## 4. 調査期間

平成28年4月28日（木）～5月31日（火）

## 5. 回収数及び回収率

- |          |                             |
|----------|-----------------------------|
| （1）対象者数  | 2,000人（女性：1,000人、男性1,000人）  |
| （2）有効回収数 | 574人（女性：307人、男性249人、無回答18人） |
| （3）有効回収率 | 28.7%（女性：30.7%、男性24.9%）     |

## 6. 調査項目

| 大項目       | 調査項目                                |
|-----------|-------------------------------------|
| 1. 回答者の属性 | F 1 性別                              |
|           | F 2 年齢                              |
|           | F 3 婚姻状況                            |
|           | F 4 家族の就労状況                         |
|           | F 5 子どもの有無                          |
|           | F 6 子どもの性別                          |
|           | F 7 末子の年齢                           |
|           | F 8 家族構成                            |
| 2. 家庭生活   | 問 1 家庭内での役割分担                       |
| 3. 子育てと仕事 | 問 2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について |

## 第1章 調査の概要

| 大項目                 | 調査項目                                 |
|---------------------|--------------------------------------|
| 4. 仕事と職場            | 問3 男女が共に育児・介護と仕事の両立を推進するために必要なこと     |
|                     | 問4 介護が必要になった場合、介護してもらいたい人            |
|                     | 問5 主な職業                              |
|                     | 問5－1 主な職業における雇用形態                    |
|                     | 問5－2 主な職業の職場の場所                      |
|                     | 問5－3 働いている理由                         |
|                     | 問5－4 職場における仕事内容や待遇の問題点               |
|                     | 問5－5 現在働いていない理由                      |
|                     | 問6 女性が仕事を持つことについて                    |
| 5. 地域活動             | 問7 各分野で女性のリーダーが増える効果と影響              |
|                     | 問8 管理職以上に昇進することに持つイメージ               |
|                     | 問9 地域活動への参加状況                        |
| 6. ワーク・ライフ・バランス     | 問10 地域の活動や行事に参加しようとする場合に必要なこと        |
|                     | 問11 ワーク・ライフ・バランスにおける希望と現実            |
| 7. 防災               | 問12 ワーク・ライフ・バランスの推進のために必要なこと         |
|                     | 問13 防災分野で男女共同参画の視点をいかすために必要なこと       |
| 8. 男女平等             | 問14 男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営で必要なこと       |
|                     | 問15 男女の地位の平等観                        |
|                     | 問16 男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心            |
|                     | 問17 政策の企画や方針決定過程で女性の参画が少ない理由         |
|                     | 問18 男女共同参画に関することばや取り組みの認識            |
|                     | 問19 男女共同参画推進のための取り組みを周知するための有効な手段    |
|                     | 問19－1 市発信の情報を入手する主な媒体                |
| 9. 配偶者等からの暴力        | 問20 男女平等を推進していくための小・中学校で取り組むとよいもの    |
|                     | 問21 DVの被害・加害経験                       |
|                     | 問21－1 DVの相談先                         |
|                     | 問21－2 相談していない理由（相談していない人）            |
| 10. 性的マイノリティ（性的少数者） | 問22 DV防止や被害者支援のために必要な対策              |
|                     | 問23 性別に悩んだ経験                         |
|                     | 問24 性的マイノリティという言葉の認識                 |
| 11. 自由意見            | 問25 性的マイノリティが安心して過ごせる環境整備のための有効な取り組み |
|                     | 問26 市の男女平等・男女共同参画施策への意見・要望           |



## 7. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。



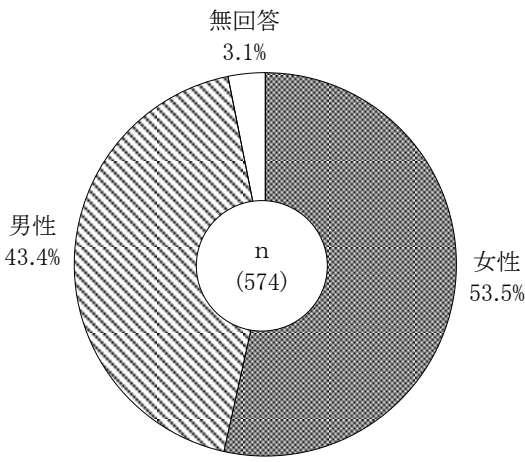
## 第2章 調査結果の詳細



1. 回答者の属性

(1) 性別

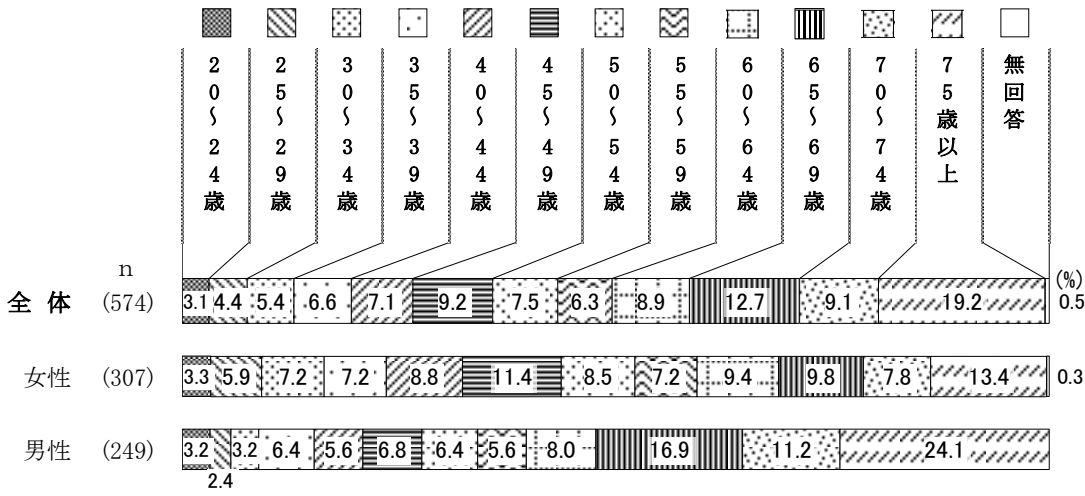
F 1. あなたの性別は。



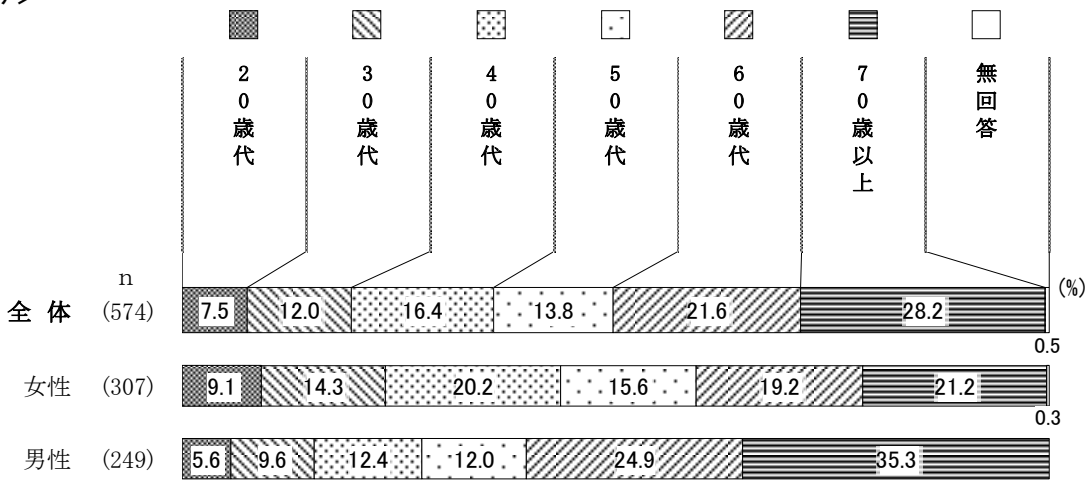
(2) 年齢

F 2. あなたの年齢は。

<年齢>

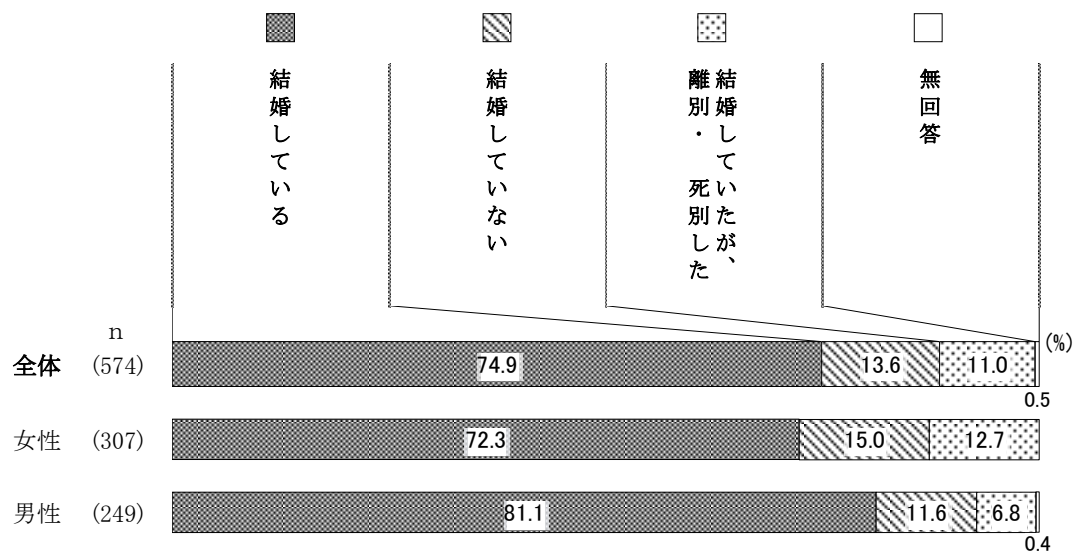


<年齢・10歳刻み>



(3) 婚姻状況

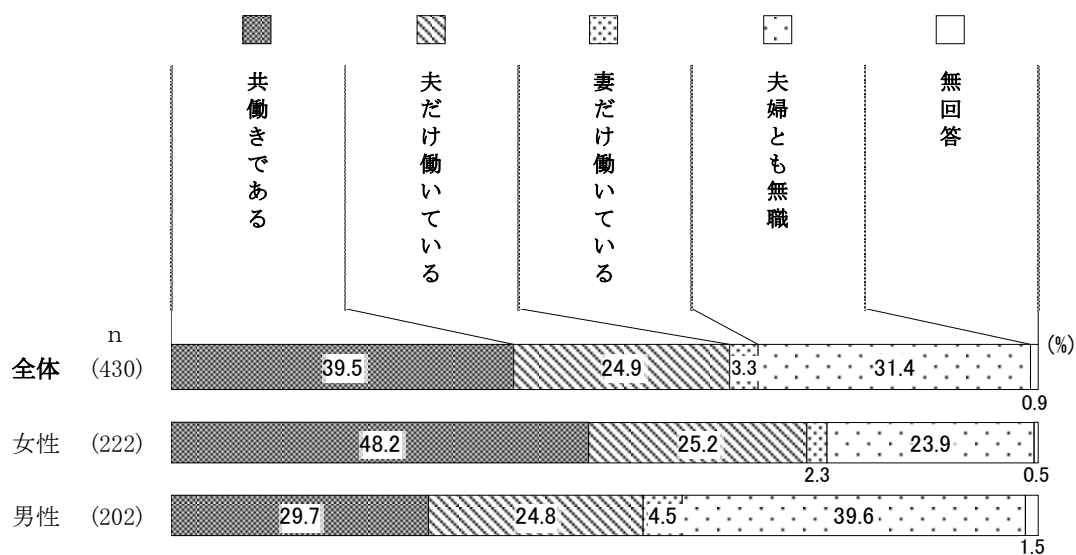
F 3. あなたは、結婚していますか。(婚姻届を出していない場合も含みます)



(4) 家族の就労状況 (共働き・片働き)

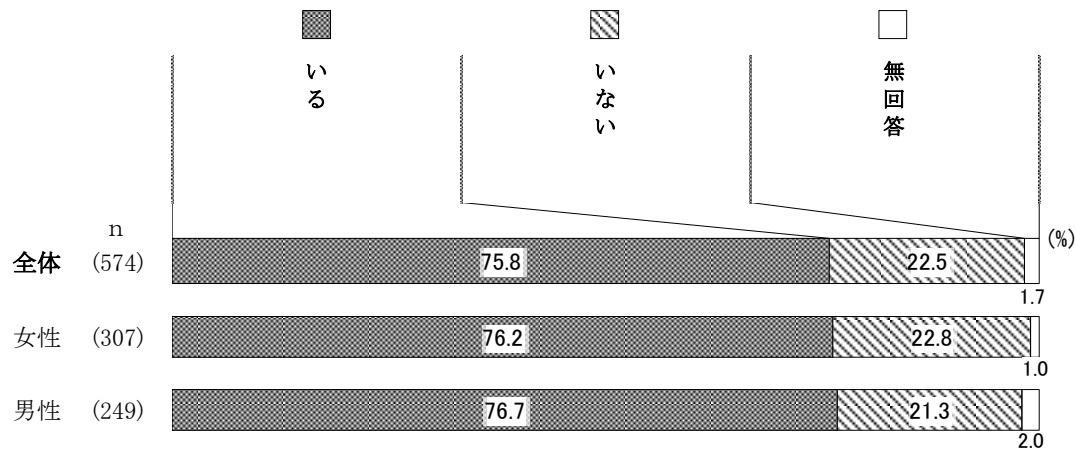
(F 3で「結婚している」とお答えの方)

F 3-1. あなたの世帯は共働きですか。



(5) 子どもの有無

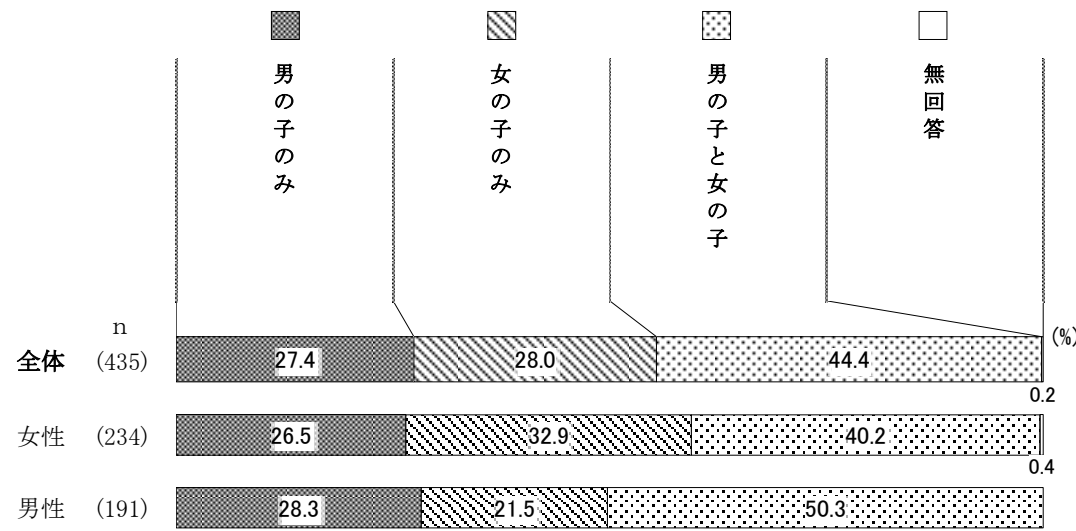
F 4. あなたは、お子さんはいらっしゃいますか。



(6) 子どもの性別

(F 4で「いる」とお答えの方)

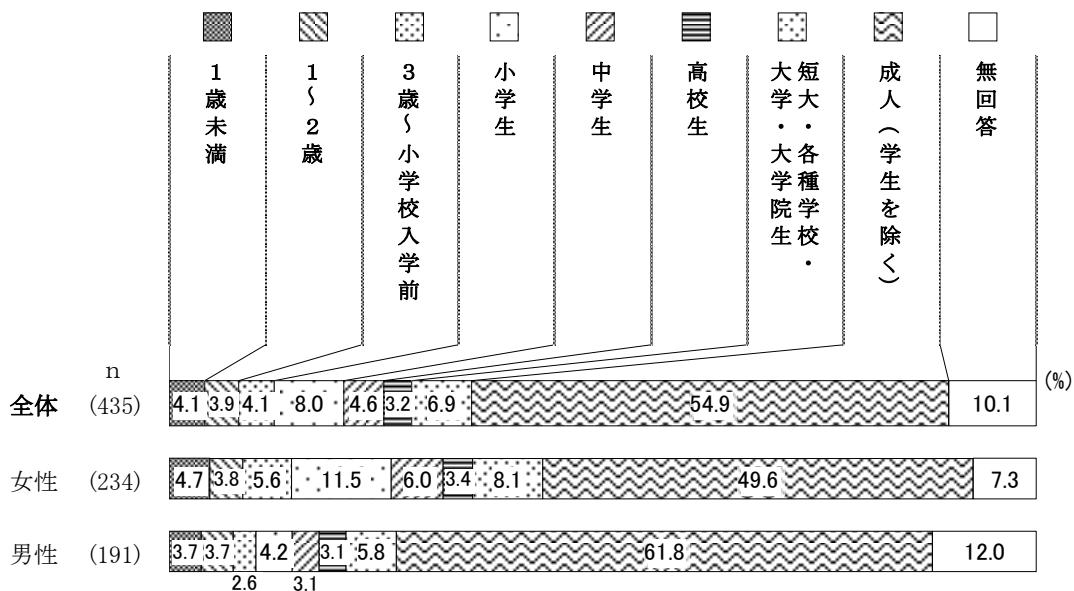
F 4－1. お子さんの性別は。



(7) 末子の年齢

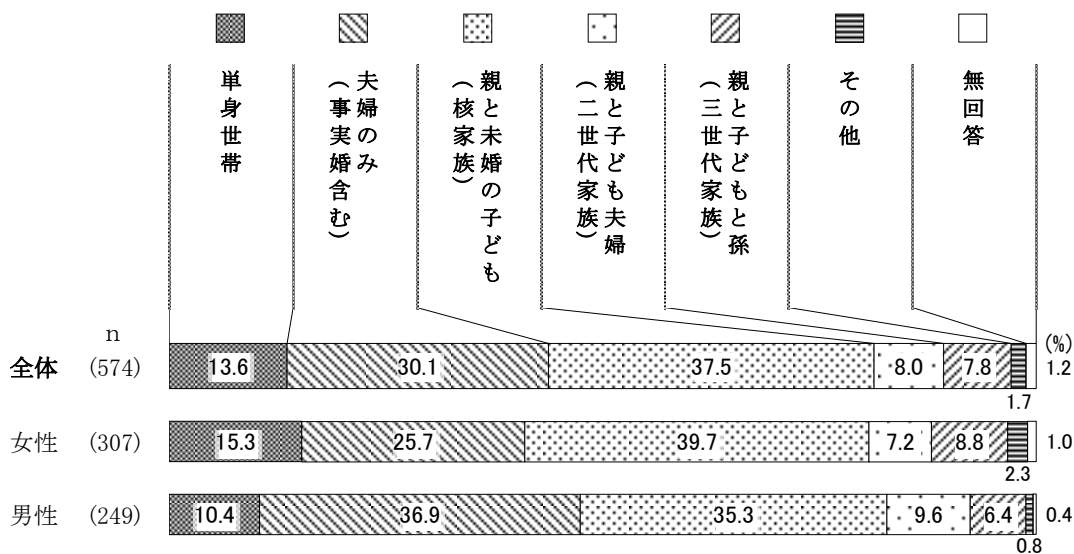
(F4で「いる」とお答えの方)

F4-2. 一番下のお子さんは、おいくつですか。



(8) 家族構成

F5. あなたの家族構成は、次のうちどれに当てはまりますか。ご自身の立場（自分が親、子）に関わらず、世帯の構成をお答えください。



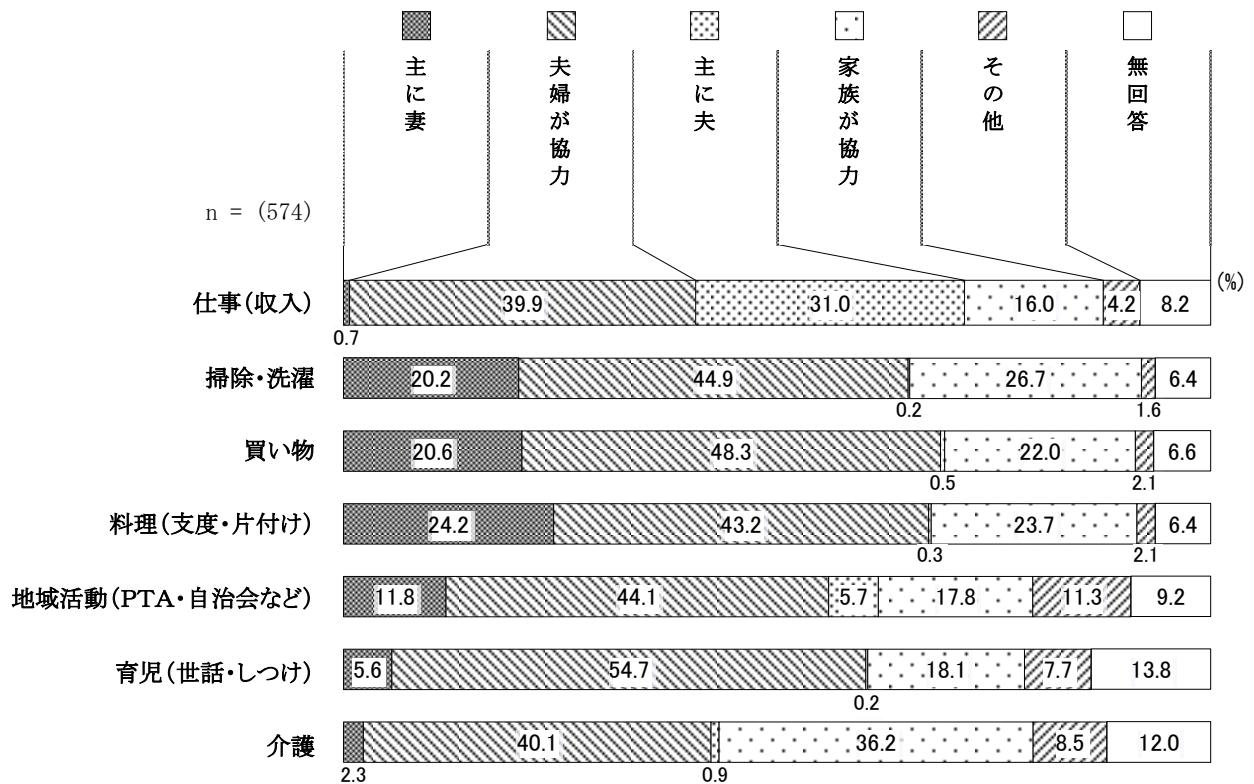


## 2. 家庭生活

### (1) 家庭内での役割分担

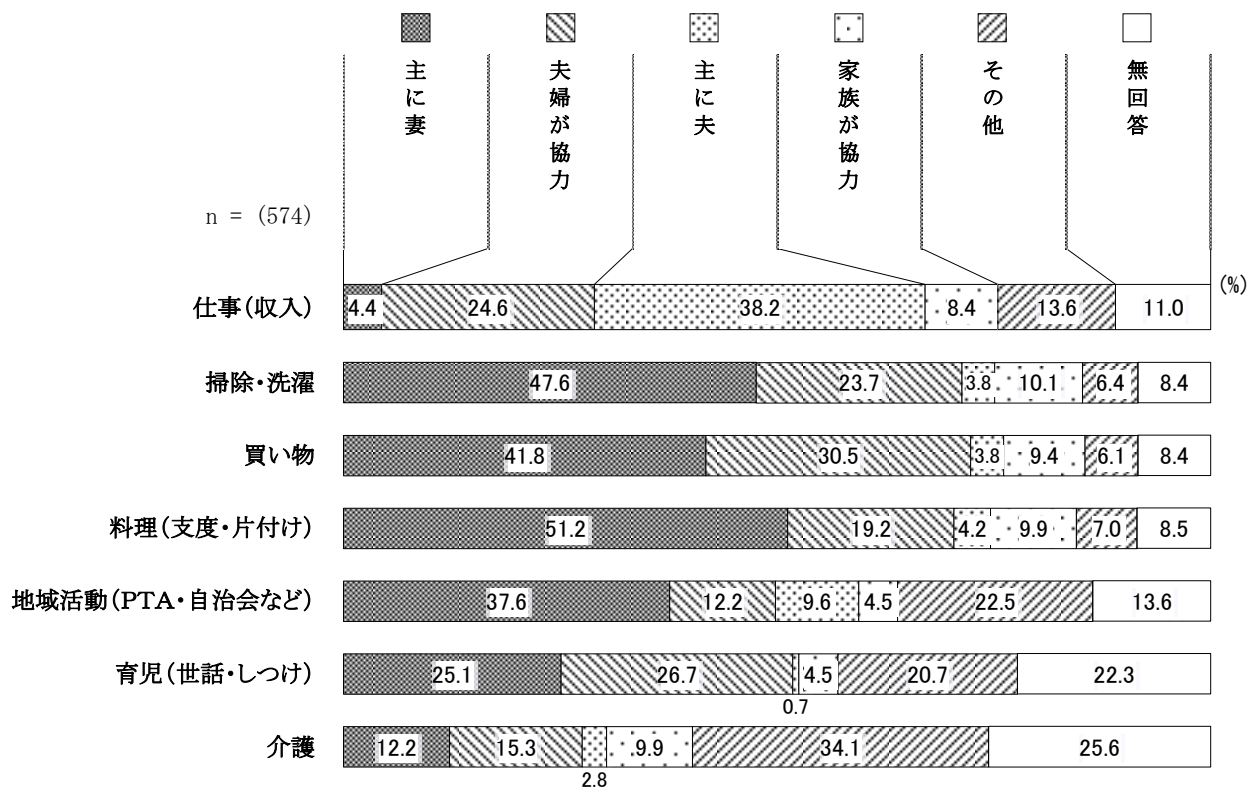
問1 あなたは、家庭内での役割についてどのように担うのがよいと思いますか。あなたの希望に最も近いものと、今の状況（現実）についてお答えください。

#### <家庭内での役割分担の希望>



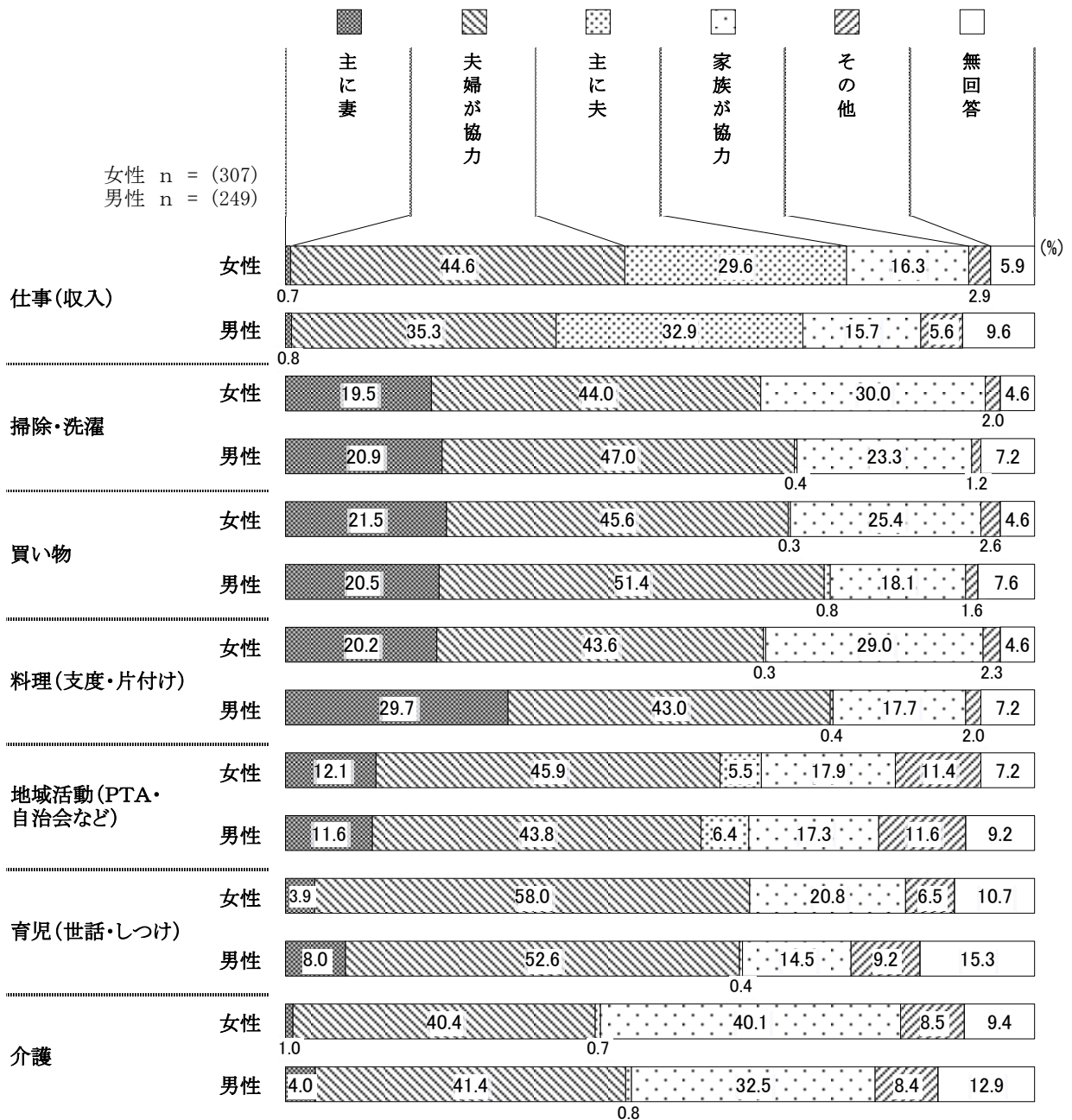
家庭内での役割分担についての『希望』をみると、すべての項目で「夫婦が協力」が最も高く、特に“育児（世話・しつけ）”では54.7%と半数を超えています。“介護”では「家族が協力」が36.2%と高く、“掃除・洗濯”、“買い物”、“料理（支度・片付け）”では「家族が協力」と「主に妻」がともに2割台となっています。また、“仕事（収入）”では「主に夫」が31.0%と高くなっています。

<家庭内での役割分担の現実>



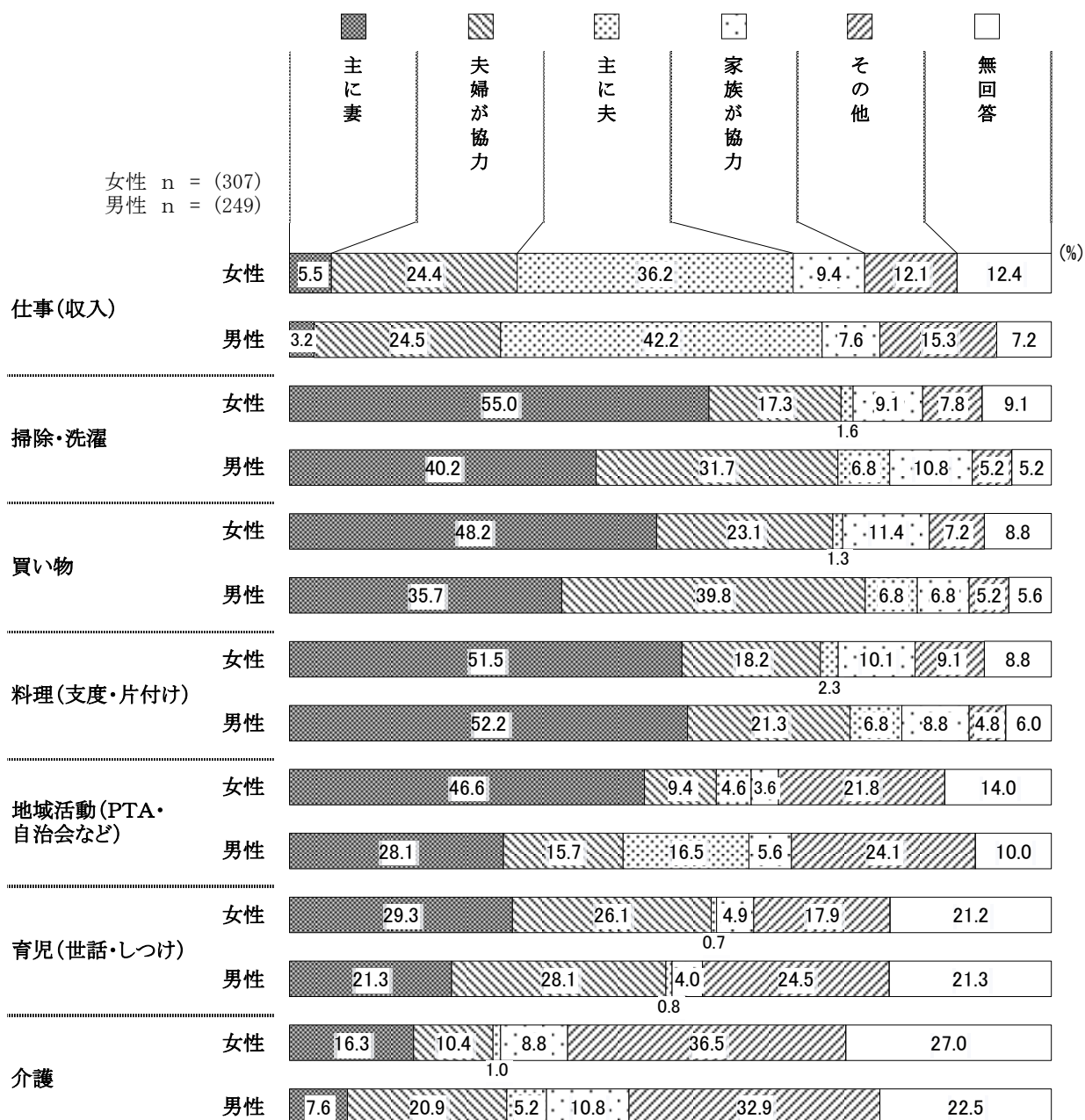
家庭内での役割分担についての『現実』をみると、“掃除・洗濯”、“買い物”、“料理（支度・片付け）”、“地域活動（PTA・自治会など）”で「主に妻」が最も高く、特に“料理（支度・片付け）”では51.2%と半数を超えています。“育児（世話・しつけ）”では「夫婦が協力」、「主に妻」、「その他」がいずれも2割台となっています。また、“仕事（収入）”では「主に夫」が38.2%、“介護”では「その他」が34.1%と高くなっています。

## ＜性別／家庭内での役割分担の希望＞



性別でみると、“仕事（収入）”では「夫婦が協力」が女性で44.6%と、男性の35.3%よりもやや高くなっています。“料理（支度・片付け）”では「主に妻」が男性で29.7%と、女性の20.2%よりもやや高く、「家族が協力」が女性で29.0%と、男性の17.7%よりも高くなっています。また、「家族が協力」は女性の“介護”で40.1%、“掃除・洗濯”で30.0%、“買い物”で25.4%と高く、いずれも男性を上回っています。

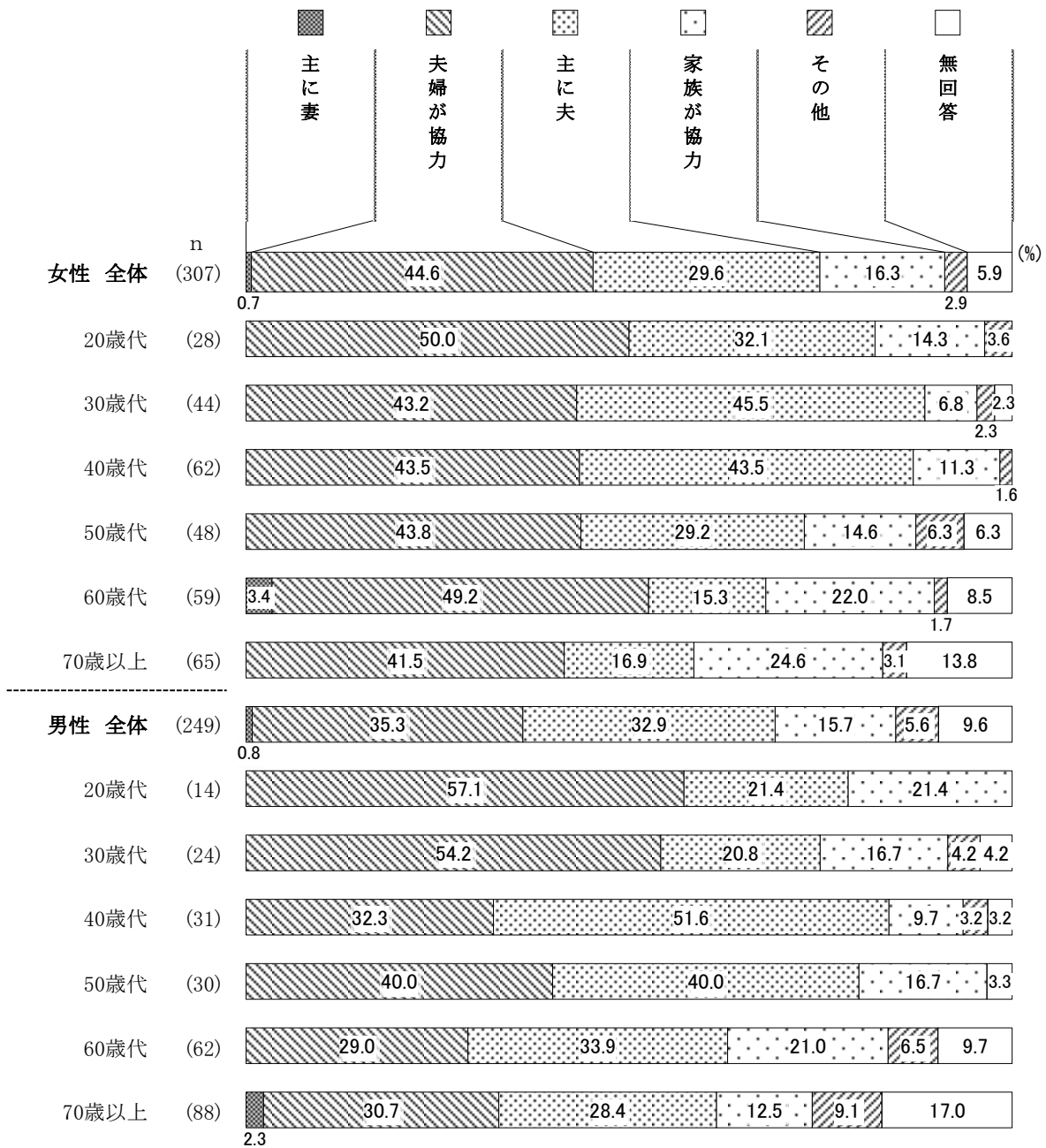
## ＜性別／家庭内での役割分担の現実＞



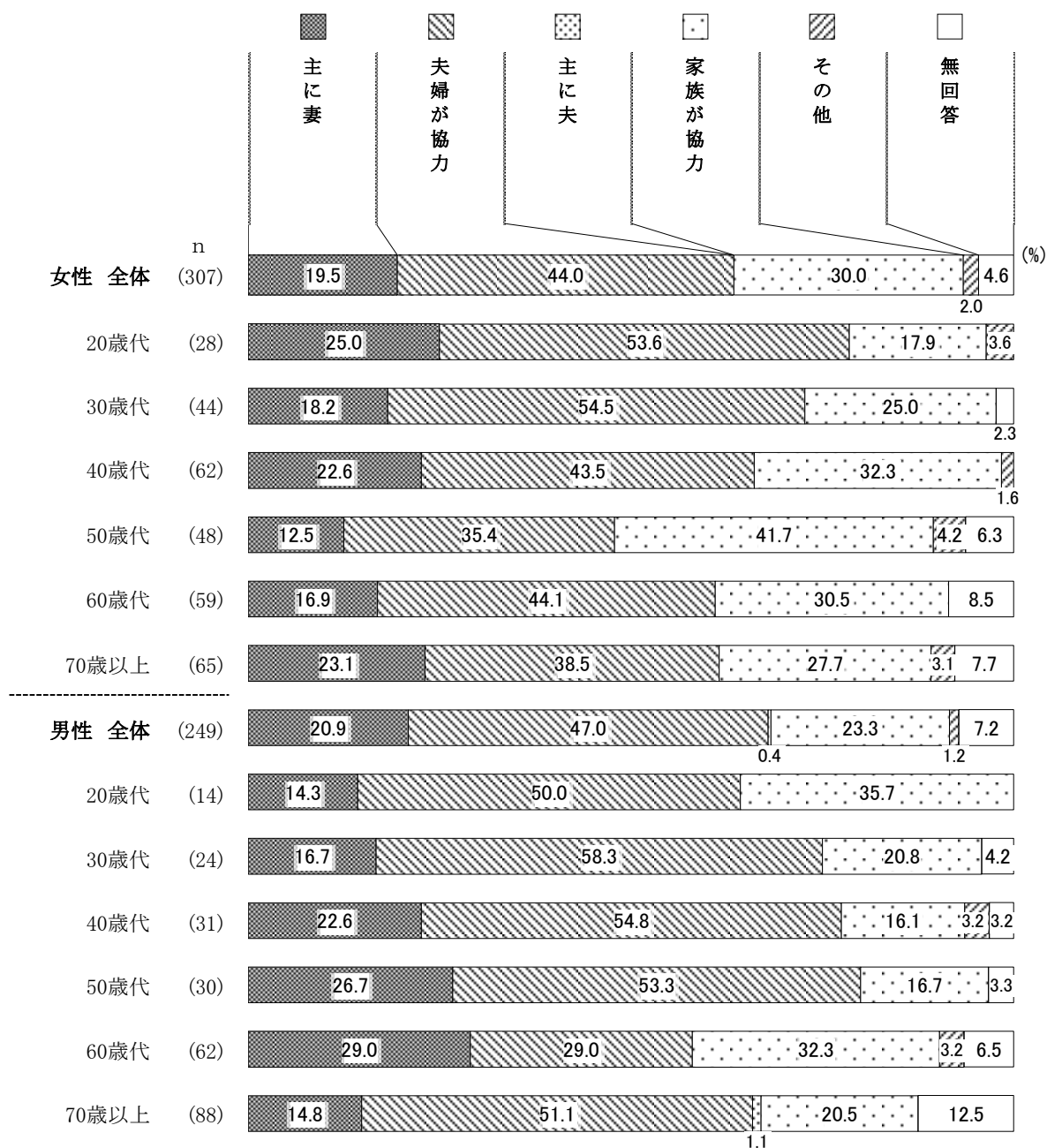
性別でみると、“料理（支度・片付け）”では男女ともに「主に妻」が半数を超えています。また、「主に妻」は女性の“掃除・洗濯”で55.0%、“買い物”で48.2%、“地域活動（PTA・自治会など）”で46.6%と高く、それ以外の項目でも男性を上回っています。一方、「夫婦が協力」は男性の“買い物”で39.8%、“掃除・洗濯”で31.7%と高く、それ以外の項目でも女性を上回っています。

## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の希望／仕事（収入）＞

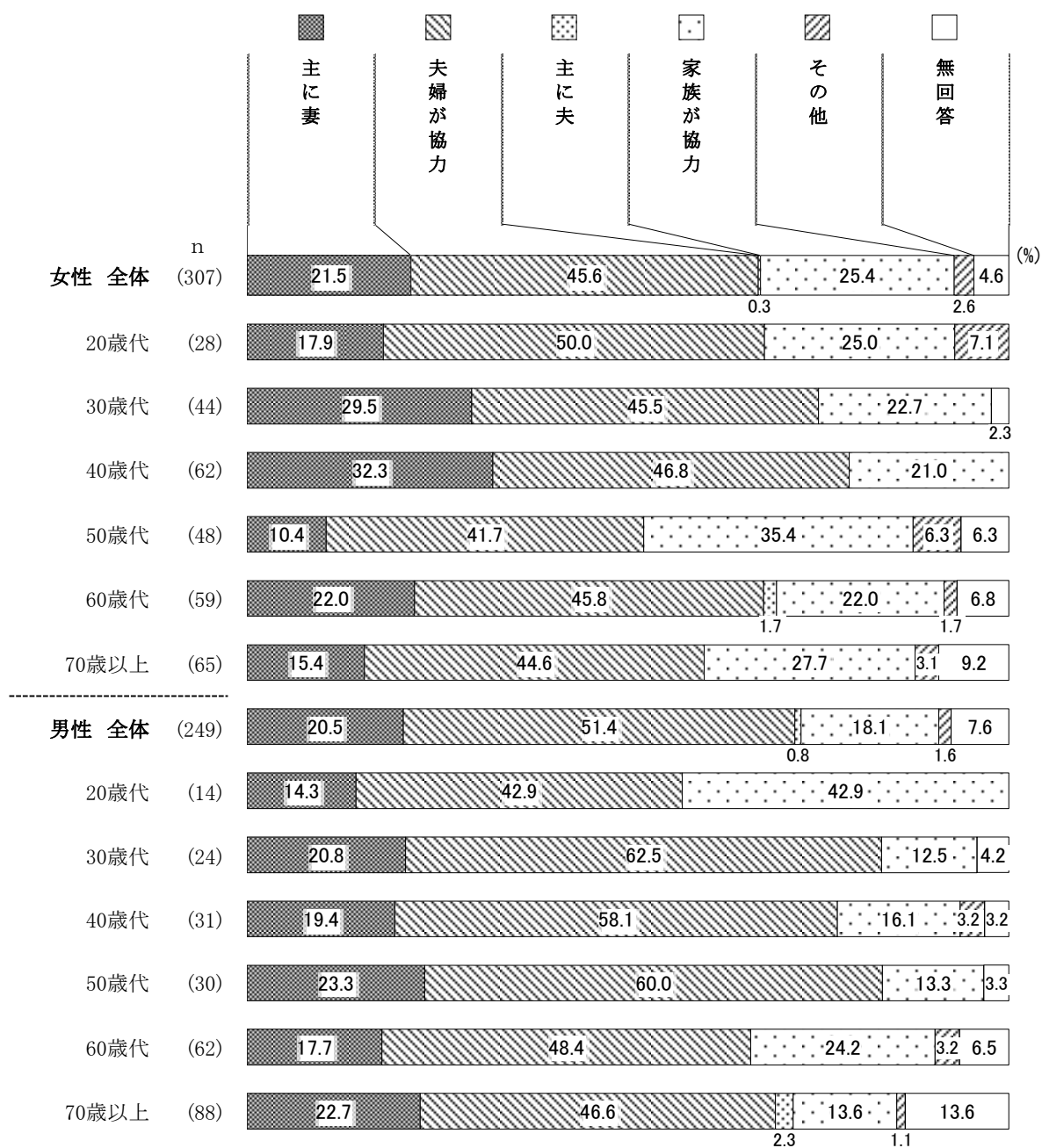
性・年代別にみると、役割分担の希望としてはいずれも「夫婦が協力」がほとんどの年代で高くなっています。



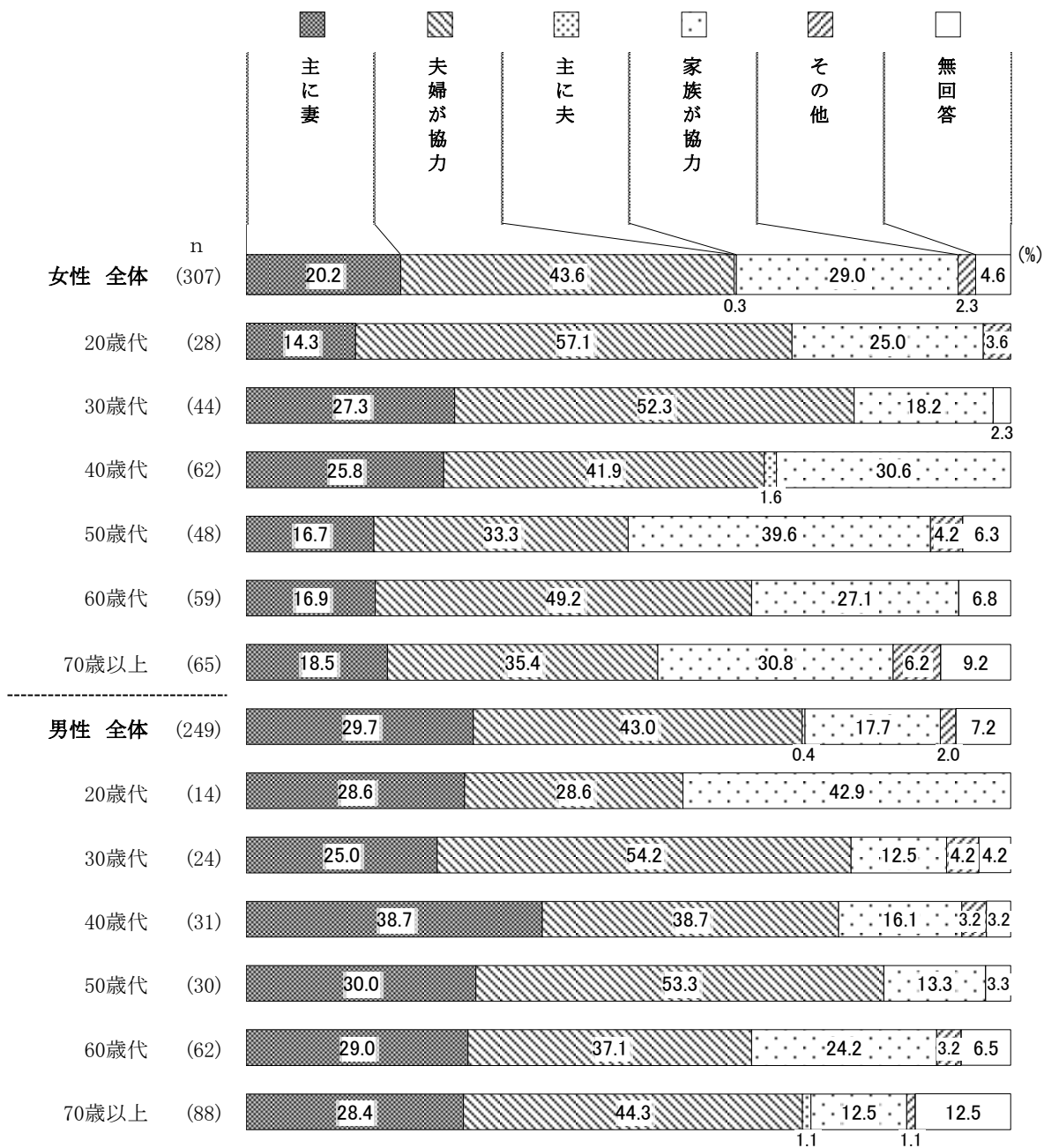
<性・年代別／家庭内での役割分担の希望／掃除・洗濯>



## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の希望／買い物＞

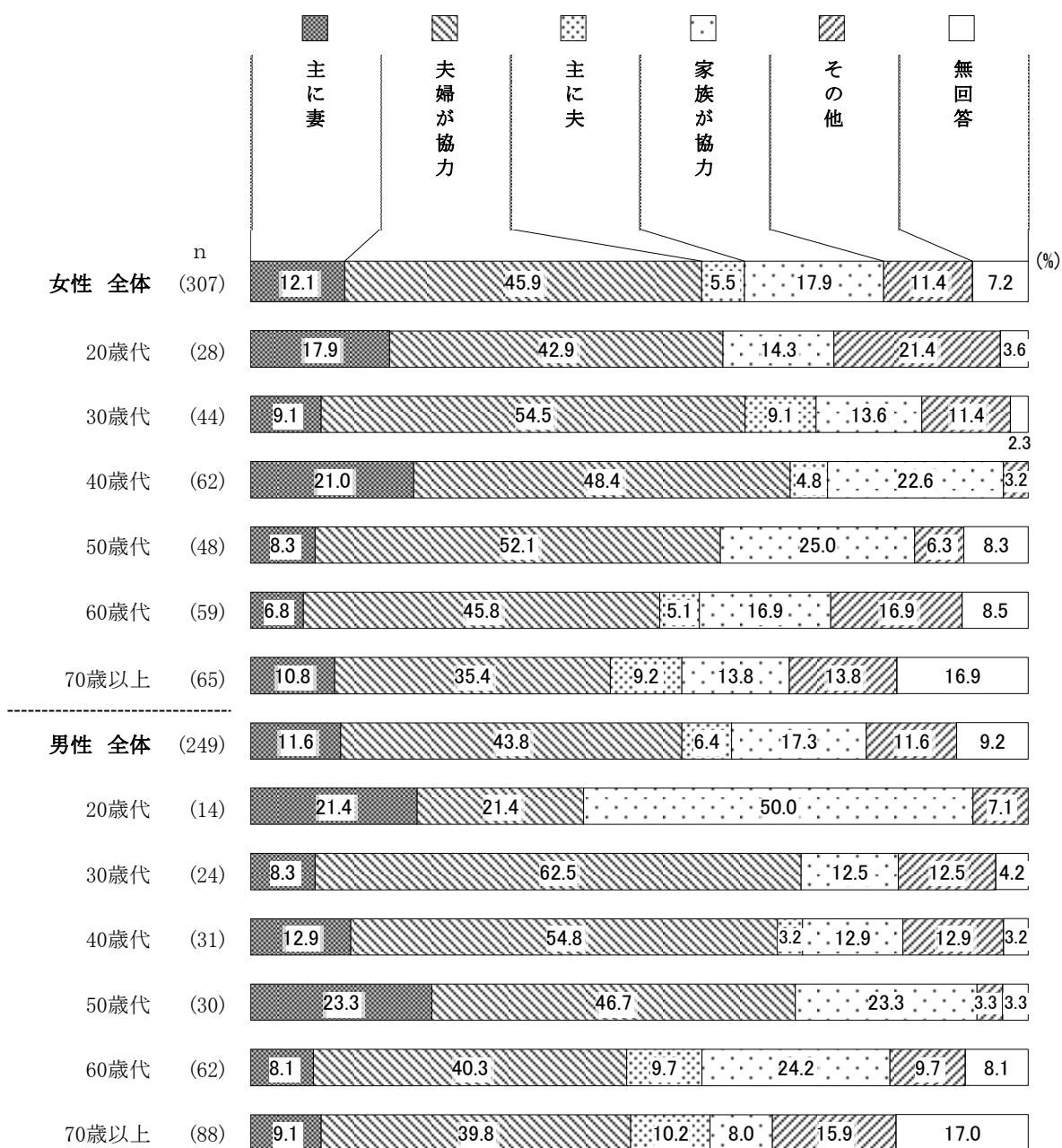


<性・年代別／家庭内での役割分担の希望／料理（支度・片付け）>

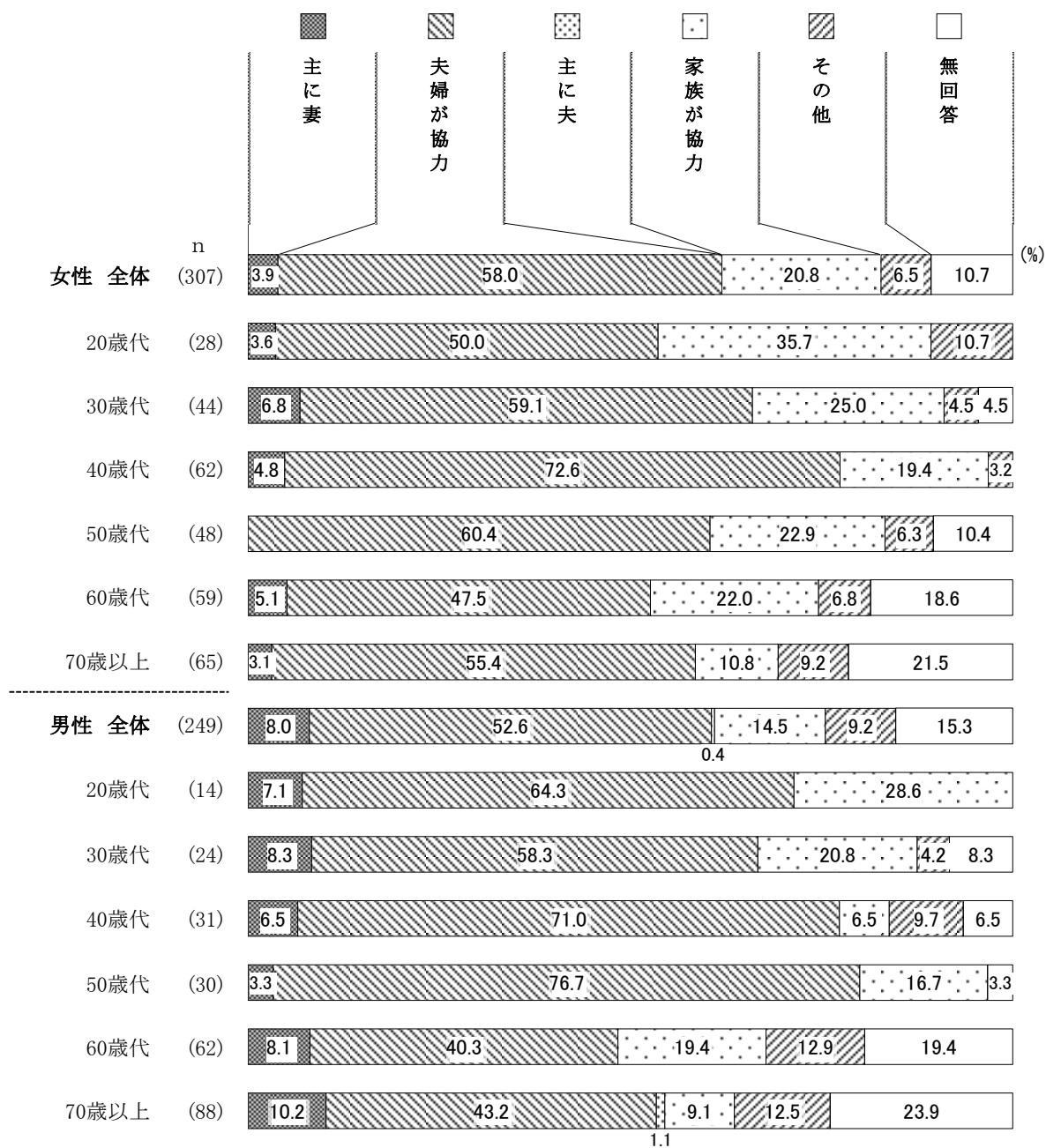




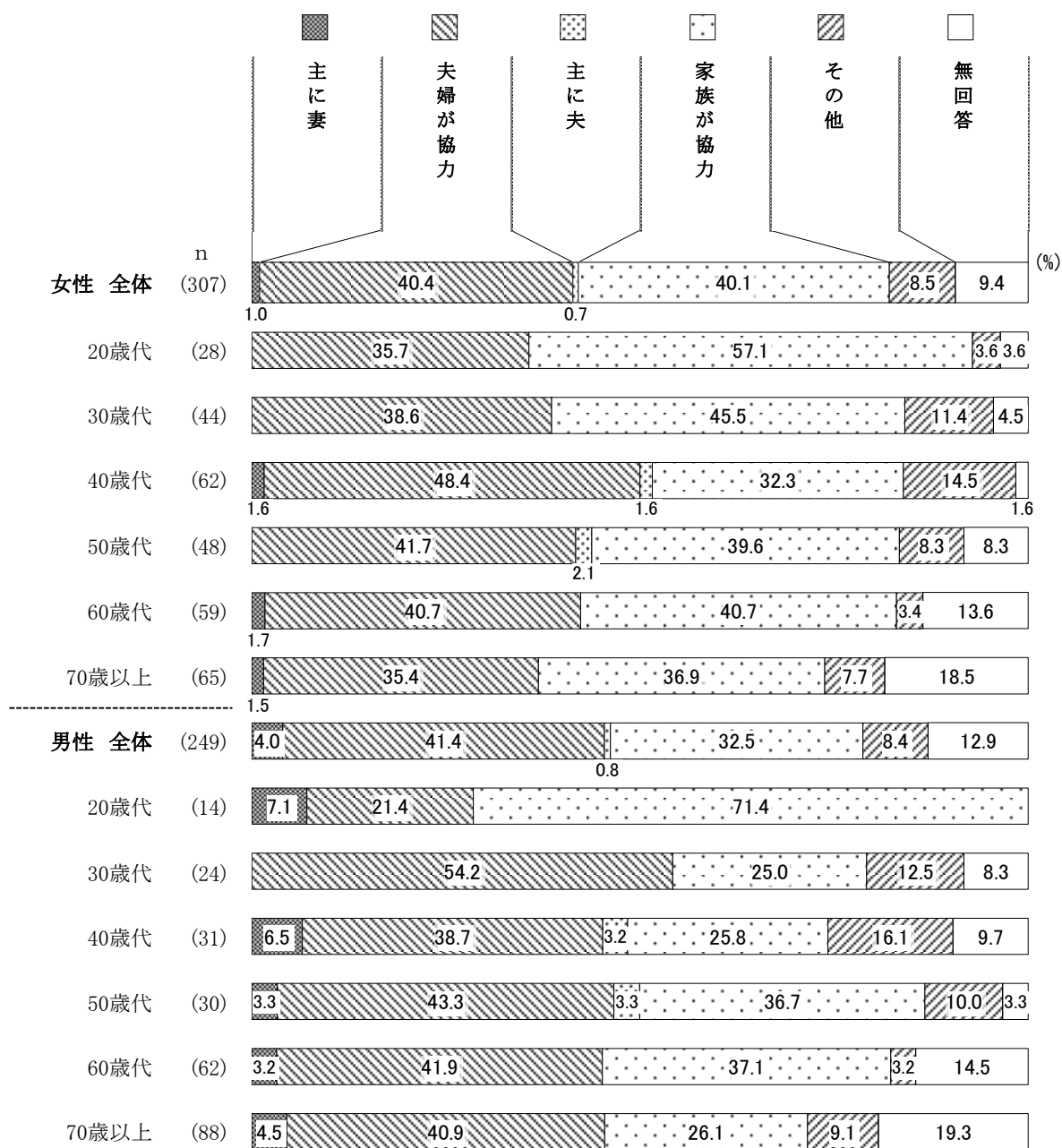
## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の希望／地域活動（PTA・自治会など）＞



<性・年代別／家庭内での役割分担の希望／育児（世話・しつけ）>

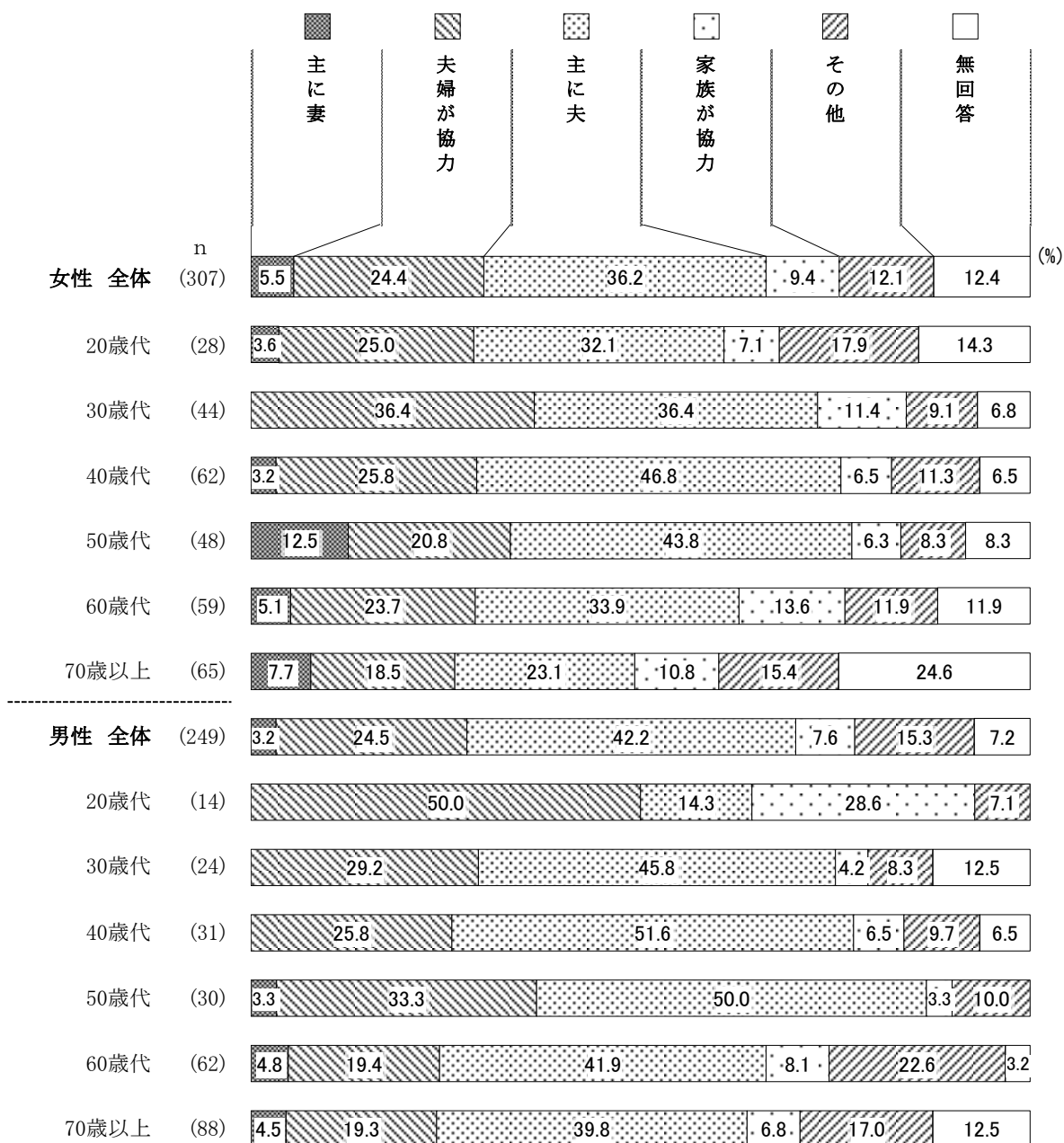


## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の希望／介護＞

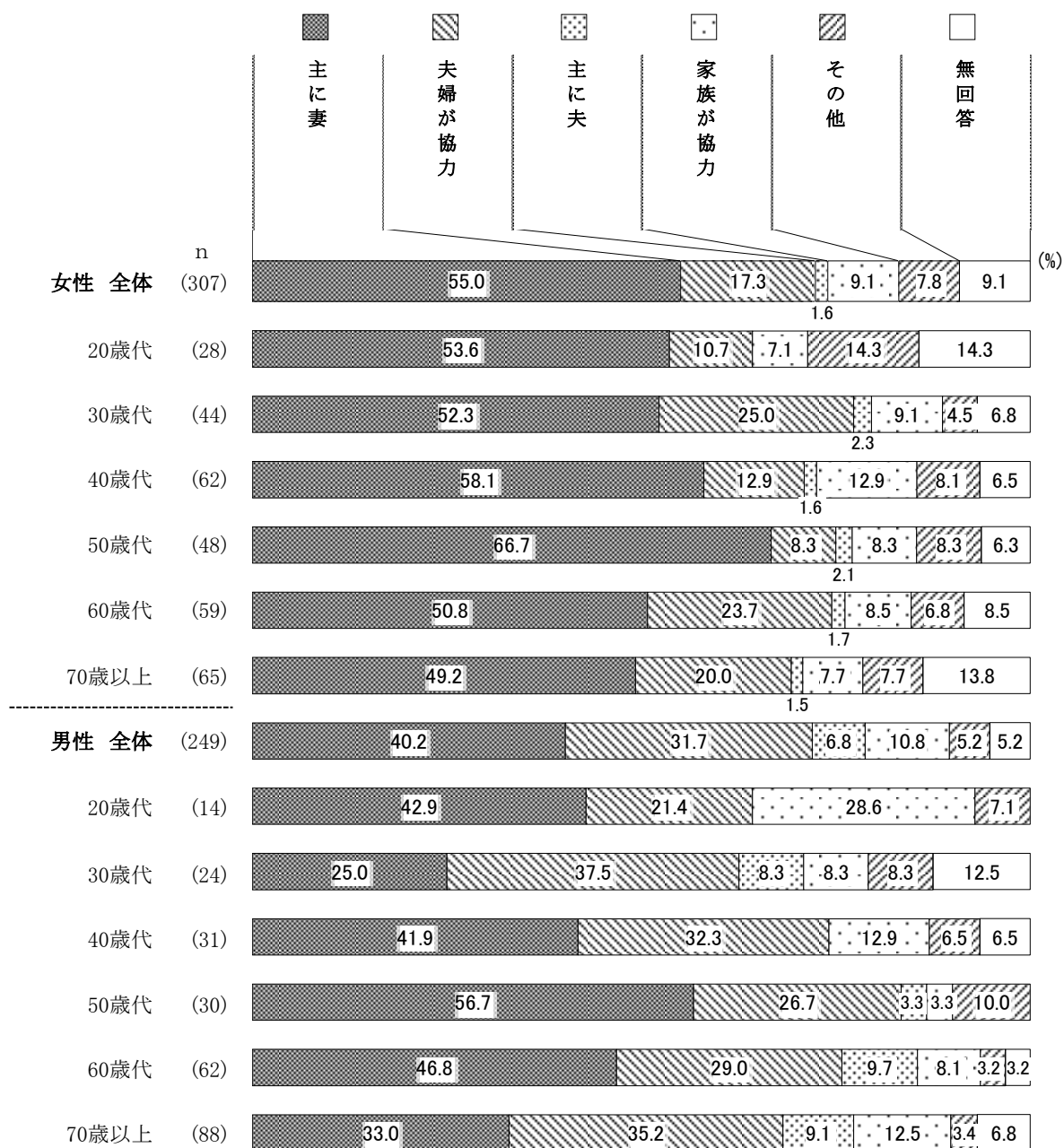


## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の現実／仕事（収入）＞

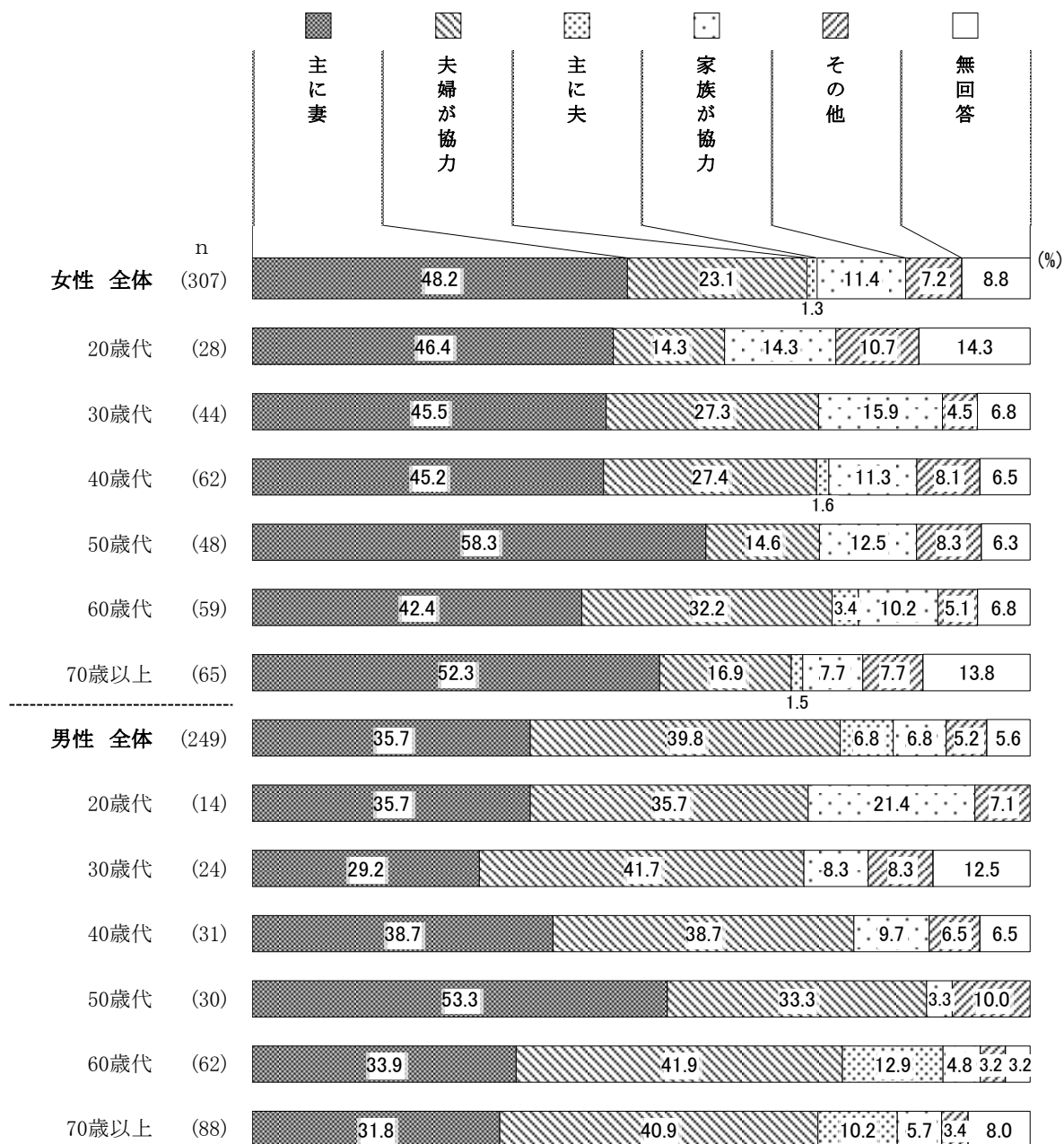
現実の役割としては、各年代で“掃除・洗濯”、“買い物”、“料理（支援・片付け）”、“地域活動（PTA・自治会など）”は「主に妻」が高く、“仕事（収入）”は「主に夫」が高くなっています。また、“育児（世話・しつけ）”、“介護”は女性の各年代で「主に妻」、男性の各年代で「夫婦が協力」が比較的高くなっています。



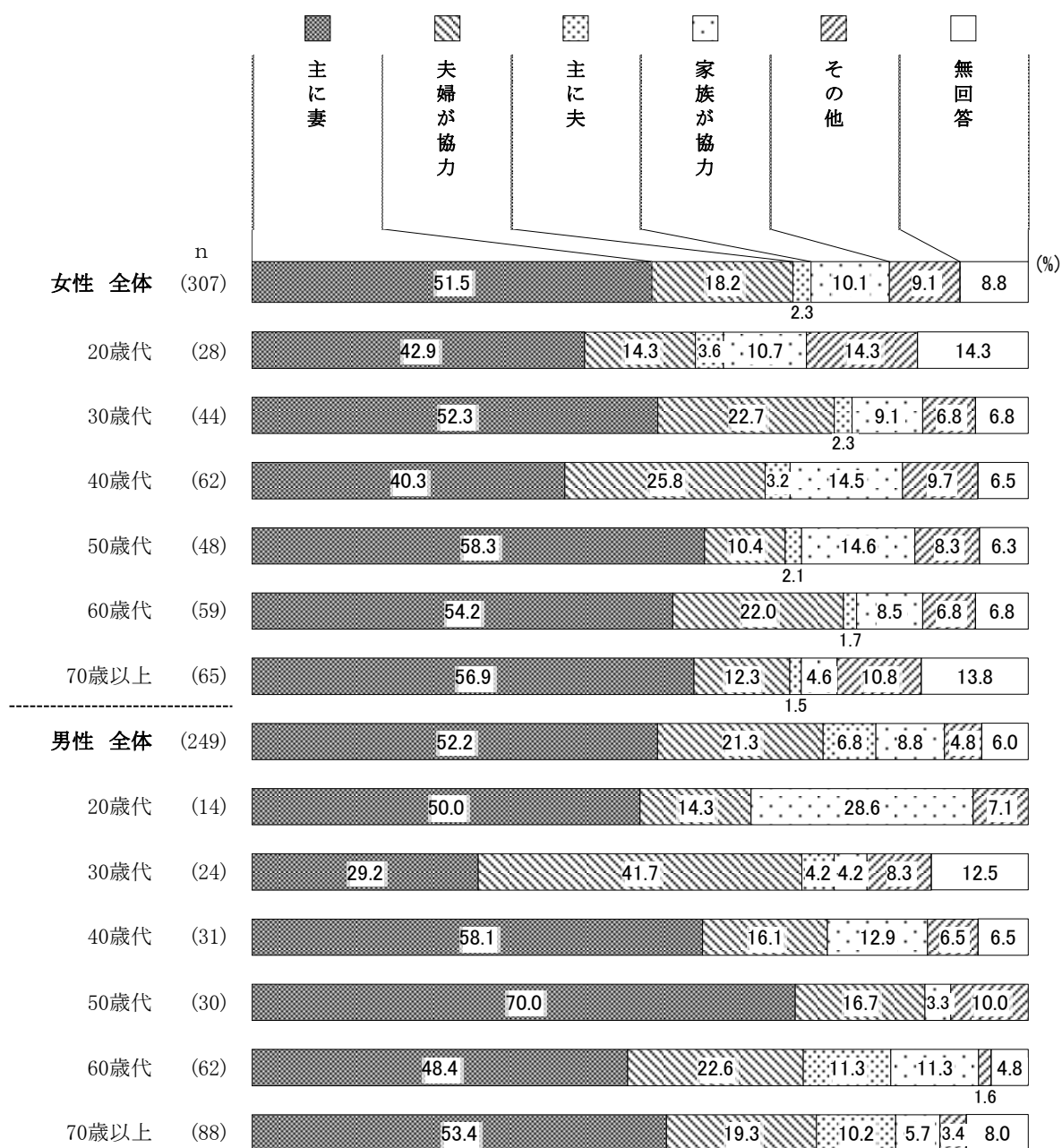
## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の現実／掃除・洗濯＞



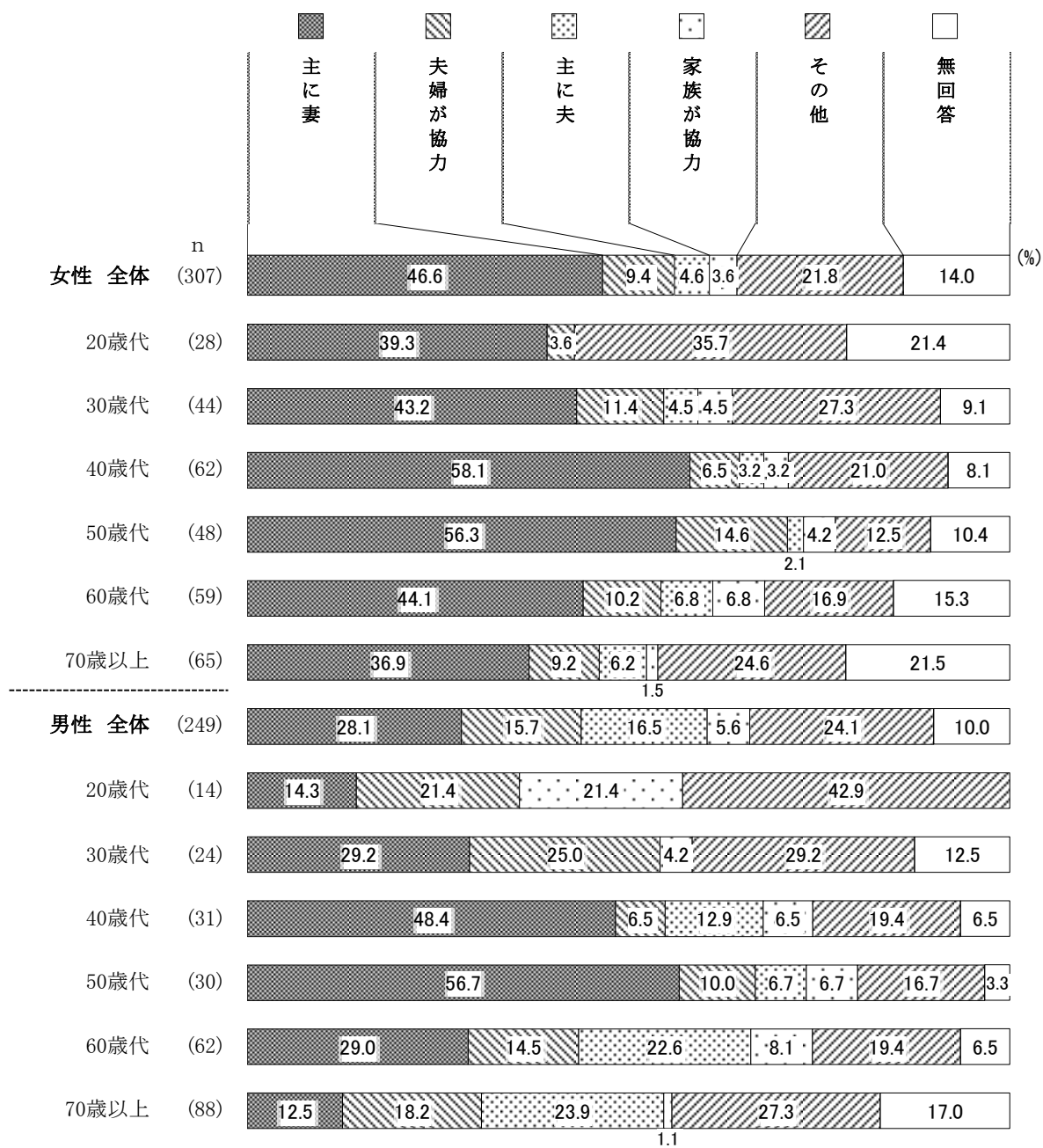
＜性・年代別／家庭内での役割分担の現実／買い物＞



## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の現実／料理（支度・片付け）＞

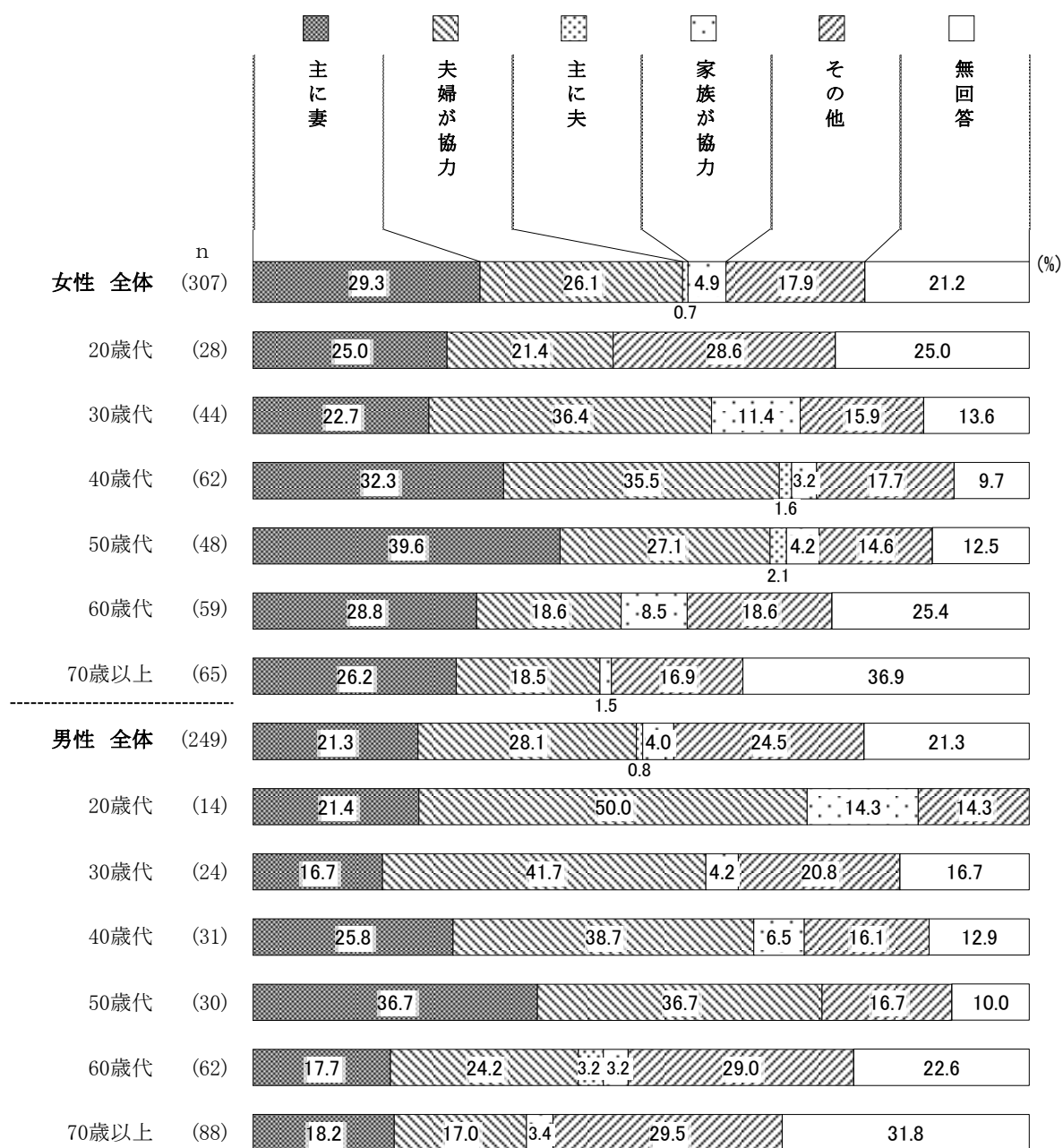


＜性・年代別／家庭内での役割分担の現実／地域活動（PTA・自治会など）＞

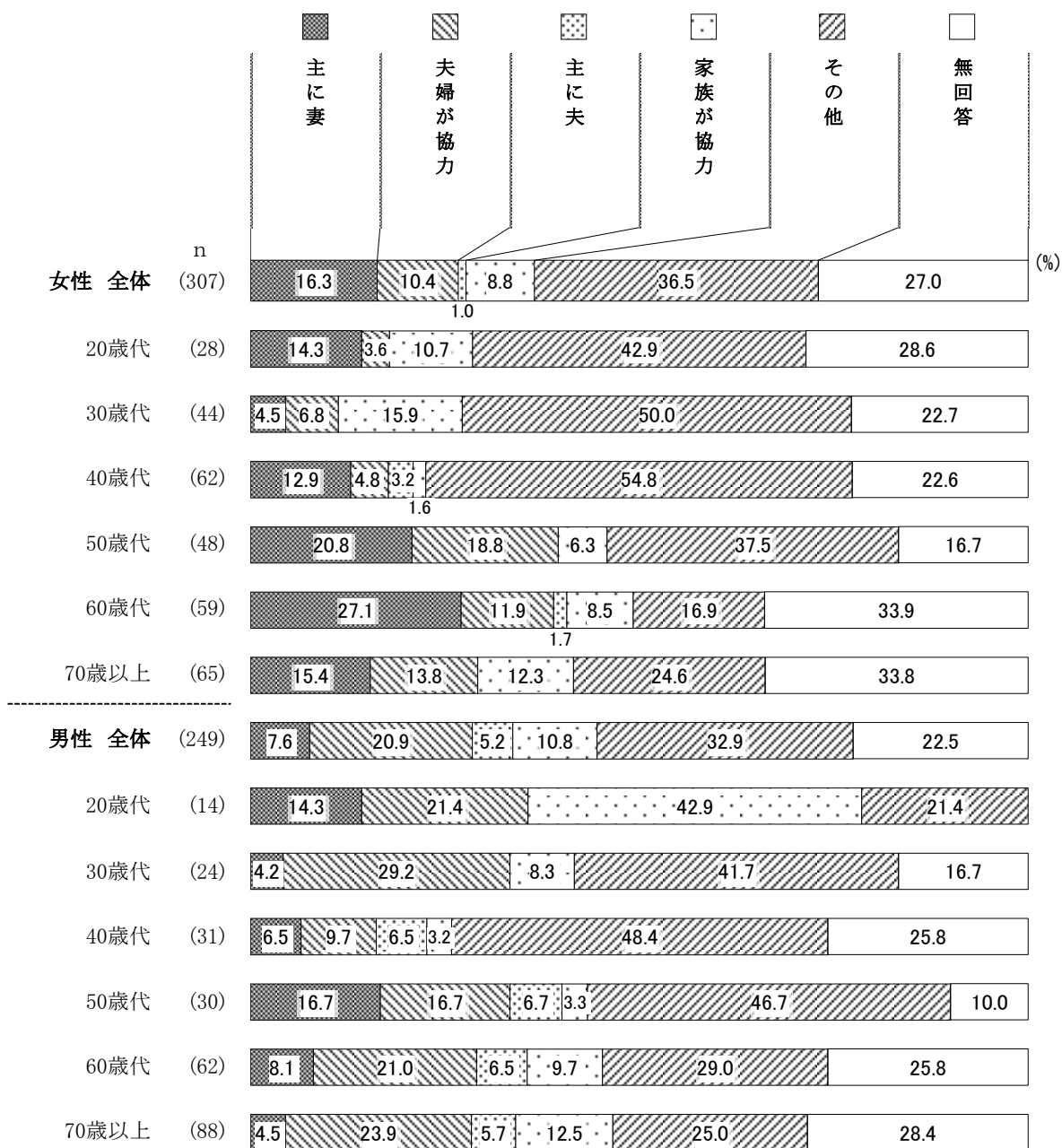




## ＜性・年代別／家庭内での役割分担の現実／育児（世話・しつけ）＞

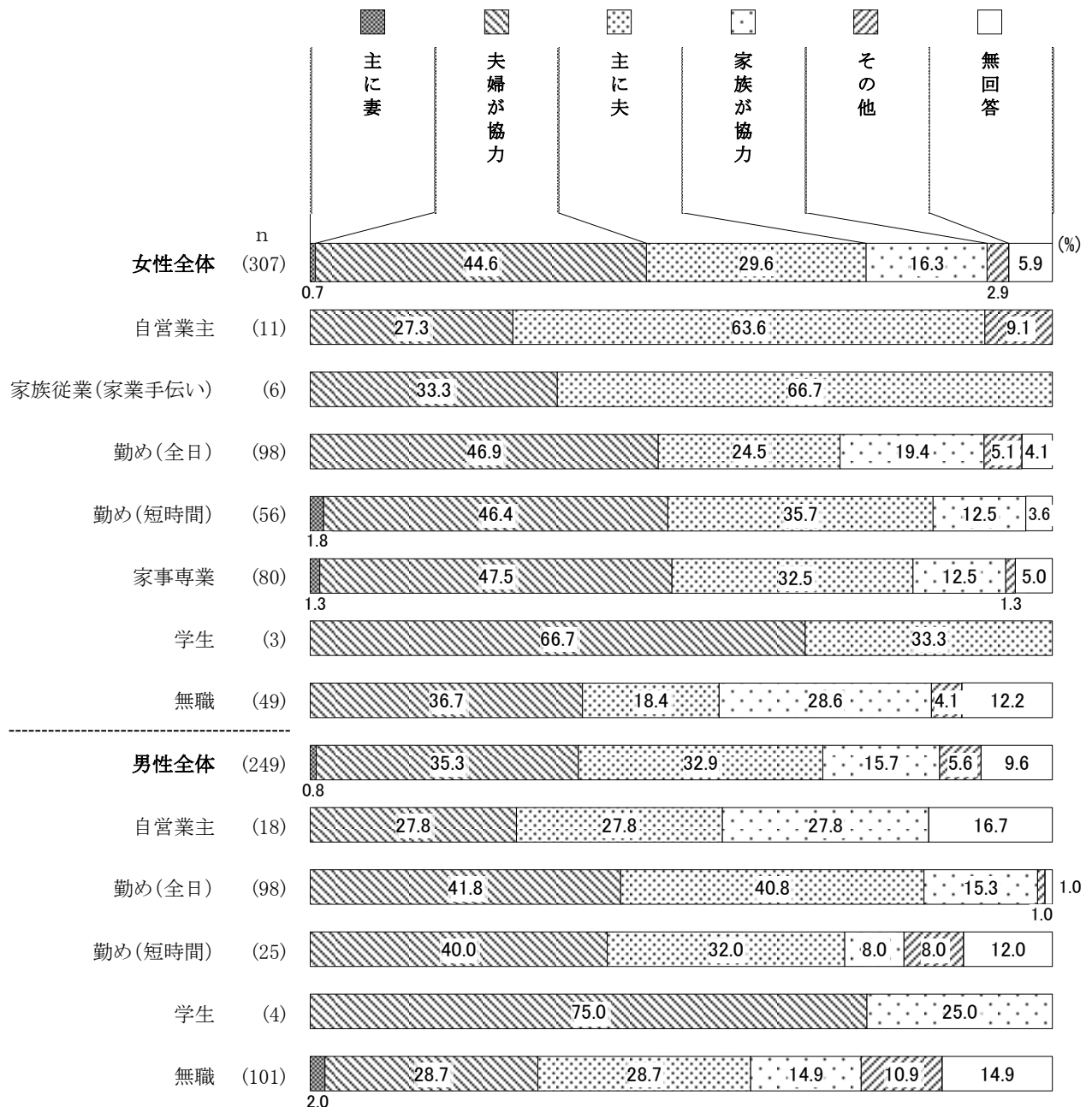


<性・年代別／家庭内での役割分担の現実／介護>

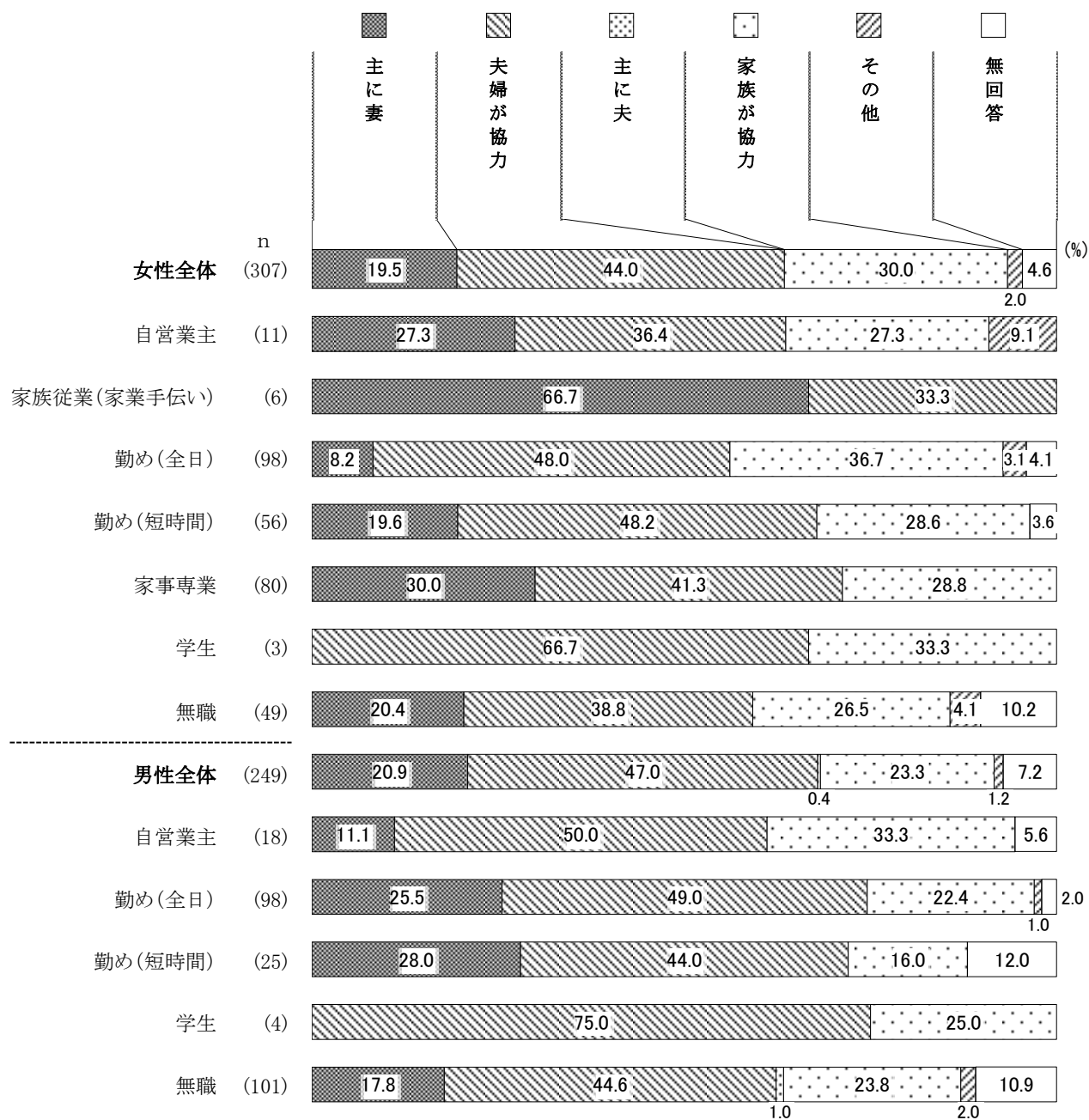


### ＜性・職業別／家庭内での役割分担の希望／仕事（収入）＞

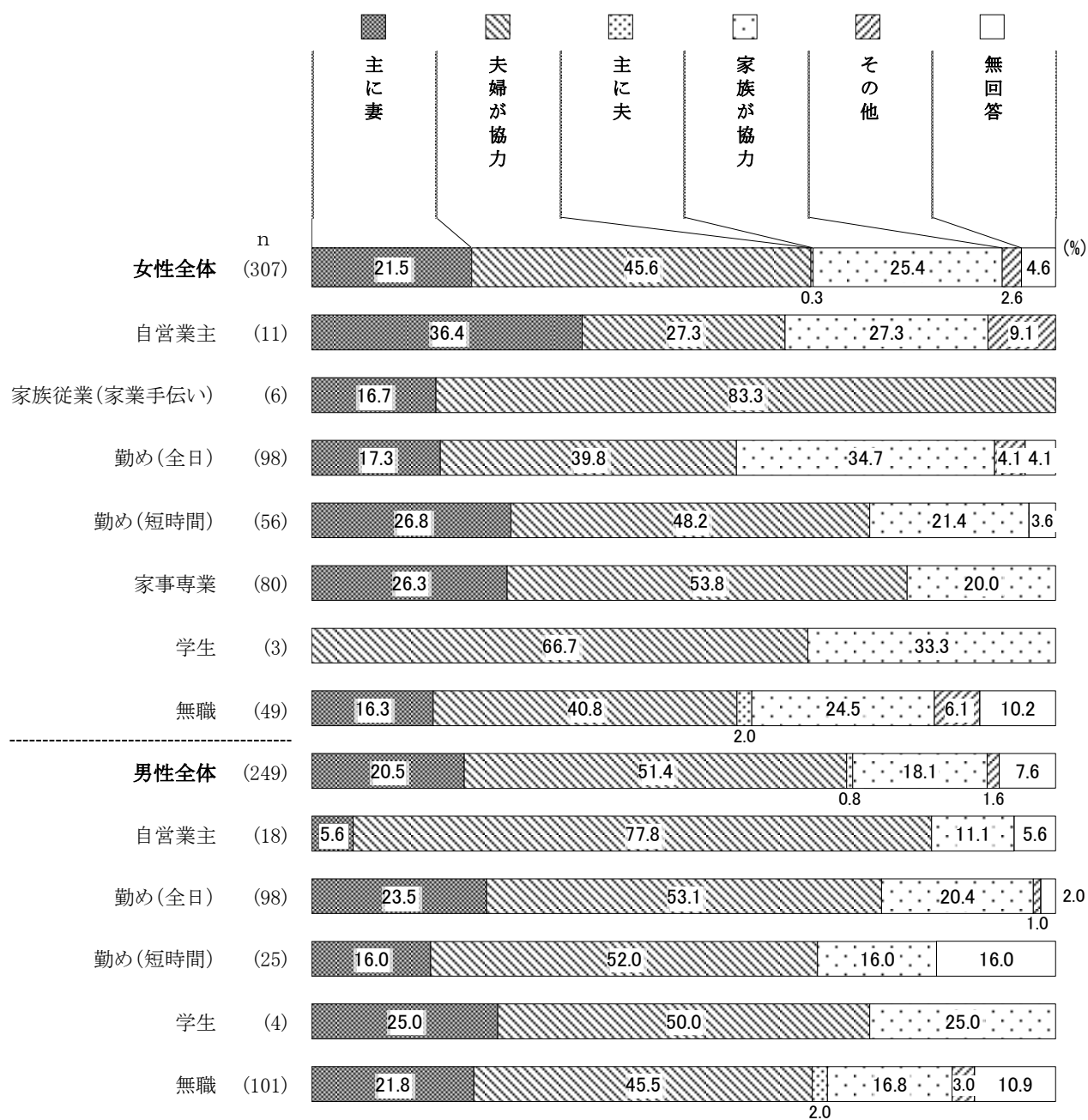
性・職業別にみると、希望の役割としては“仕事（収入）”は男性の勤め（全日）で「主に夫」が4割台と高くなっています。“掃除・洗濯”は女性の家事専業で「主に妻」が3割台と高くなっています。また、“料理（支度・片付け）”でも女性の家事専業、男性の勤め（全日）で「主に妻」が3割台と高くなっています。



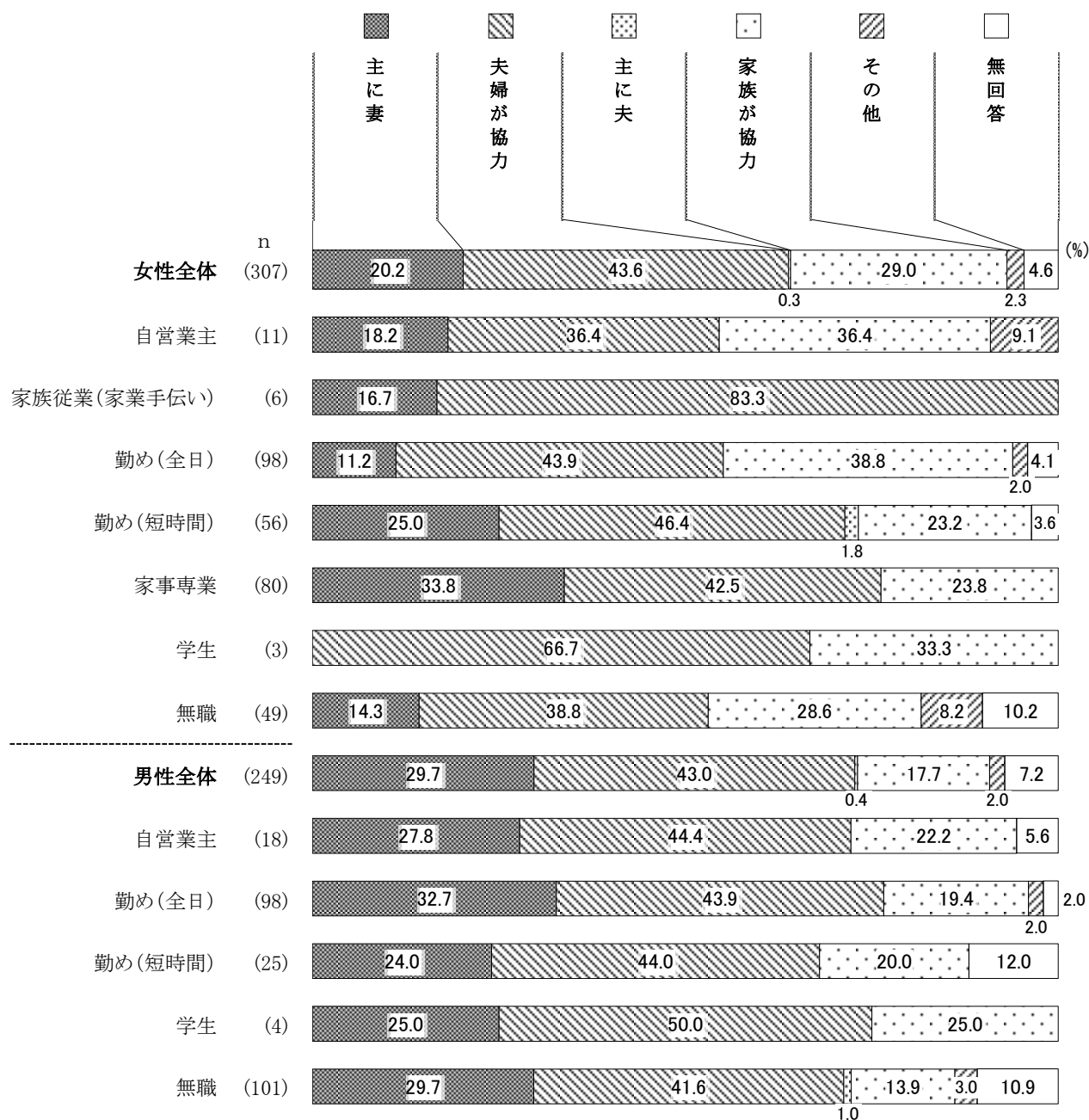
＜性・職業別／家庭内での役割分担の希望／掃除・洗濯＞



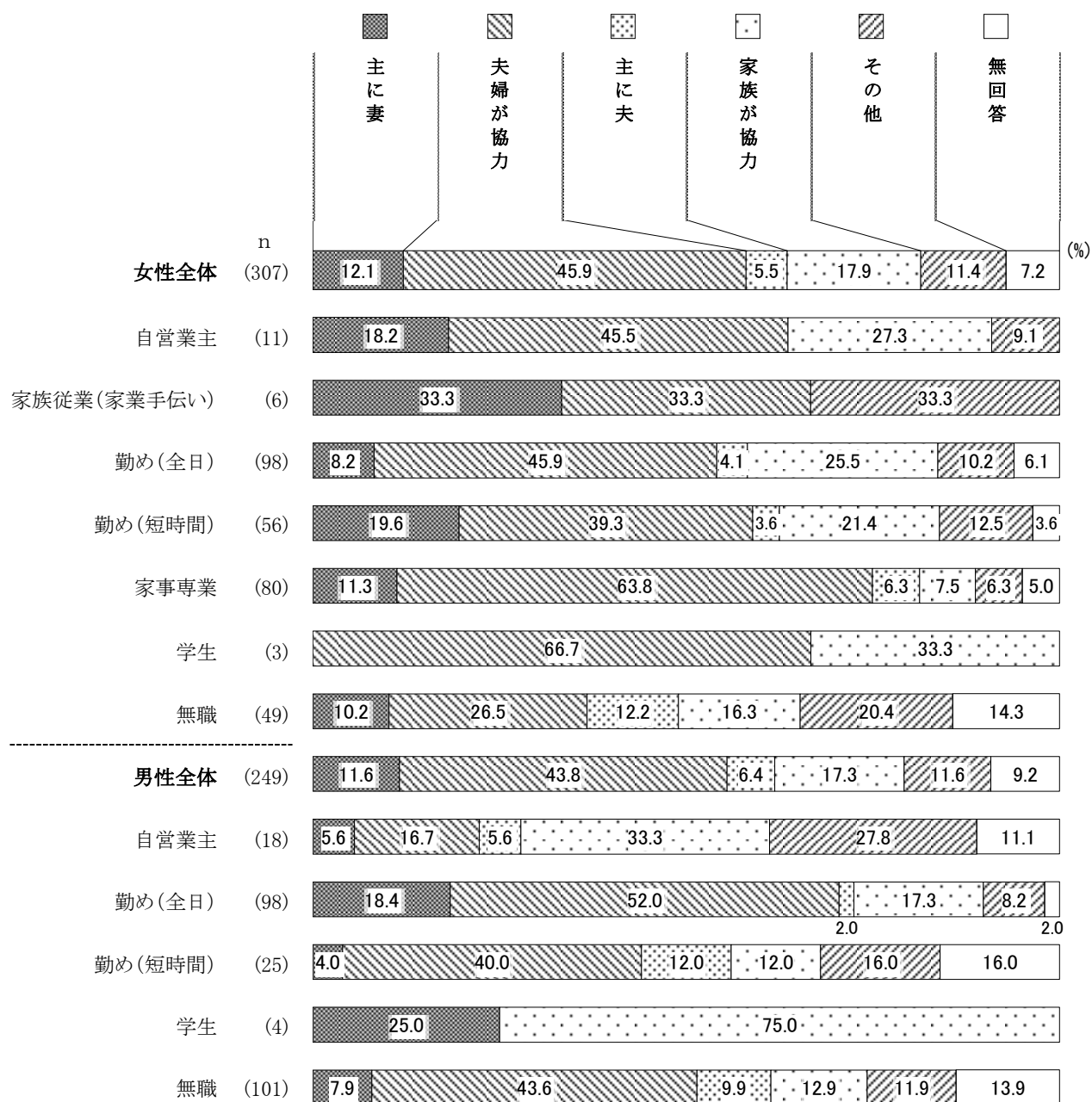
## ＜性・職業別／家庭内での役割分担の希望／買い物＞



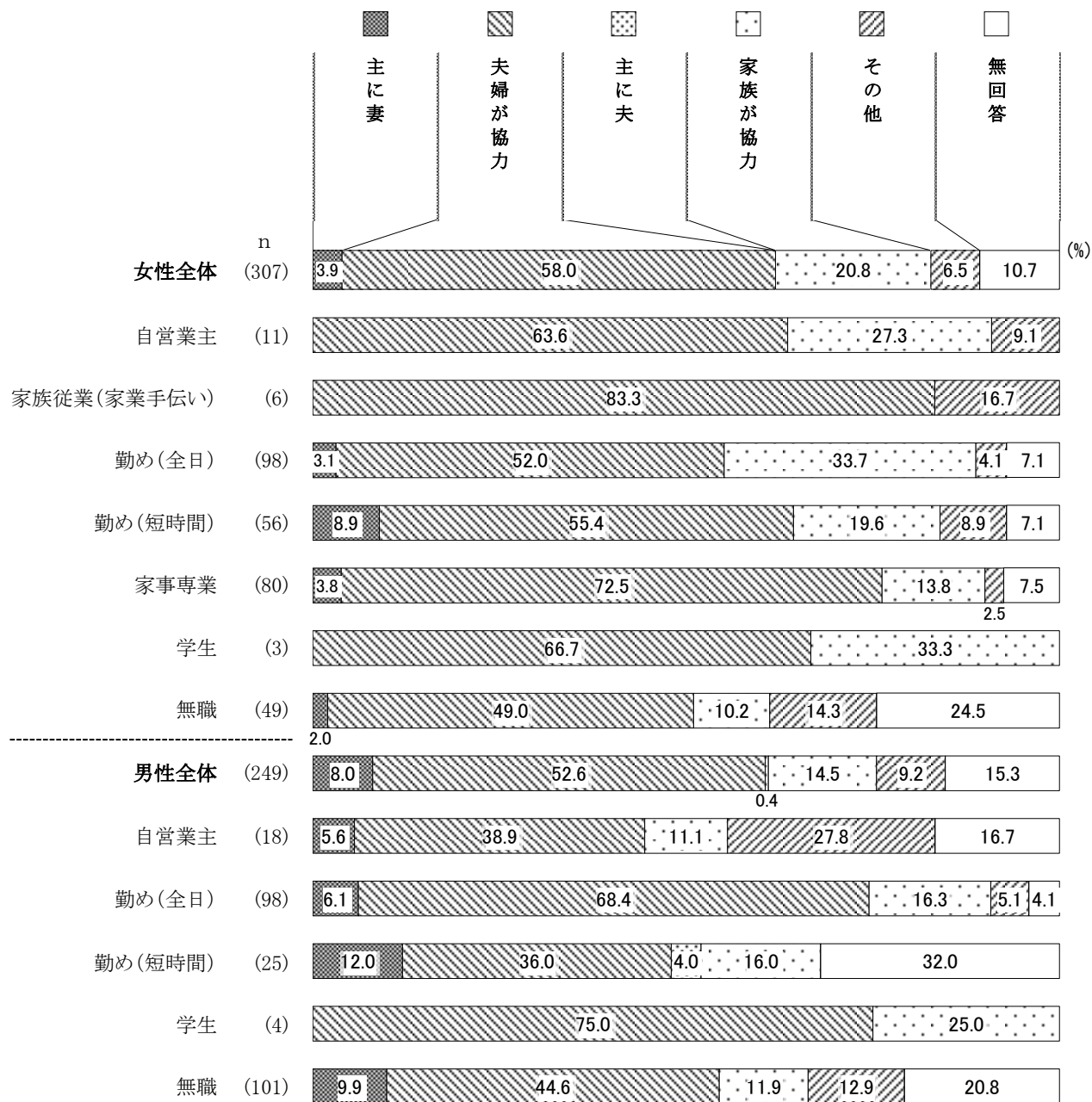
<性・職業別／家庭内での役割分担の希望／料理（支度・片付け）>



## ＜性・職業別／家庭内での役割分担の希望／地域活動（PTA・自治会など）＞

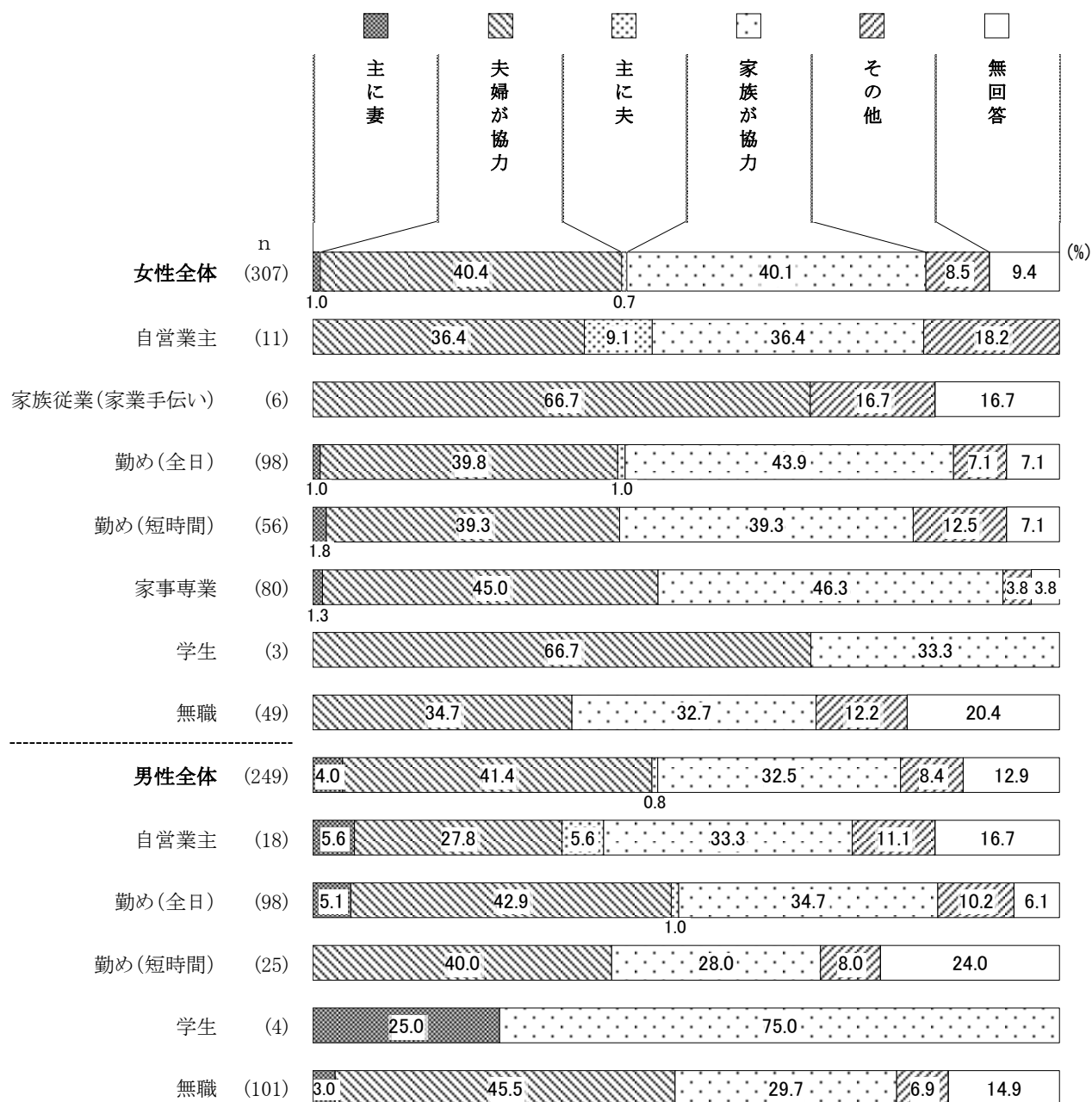


<性・職業別／家庭内での役割分担の希望／育児（世話・しつけ）>



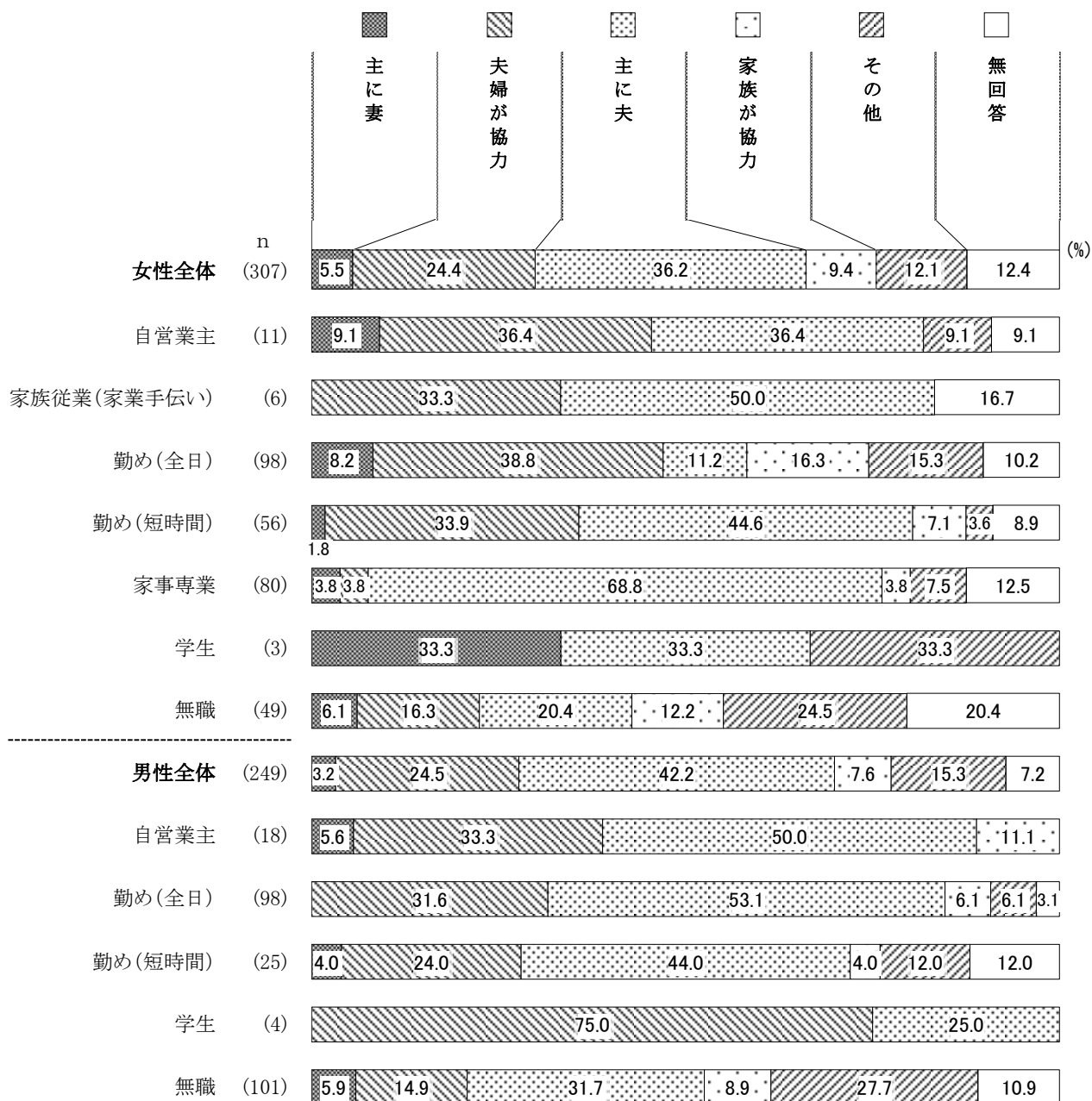


## ＜性・職業別／家庭内での役割分担の希望／介護＞

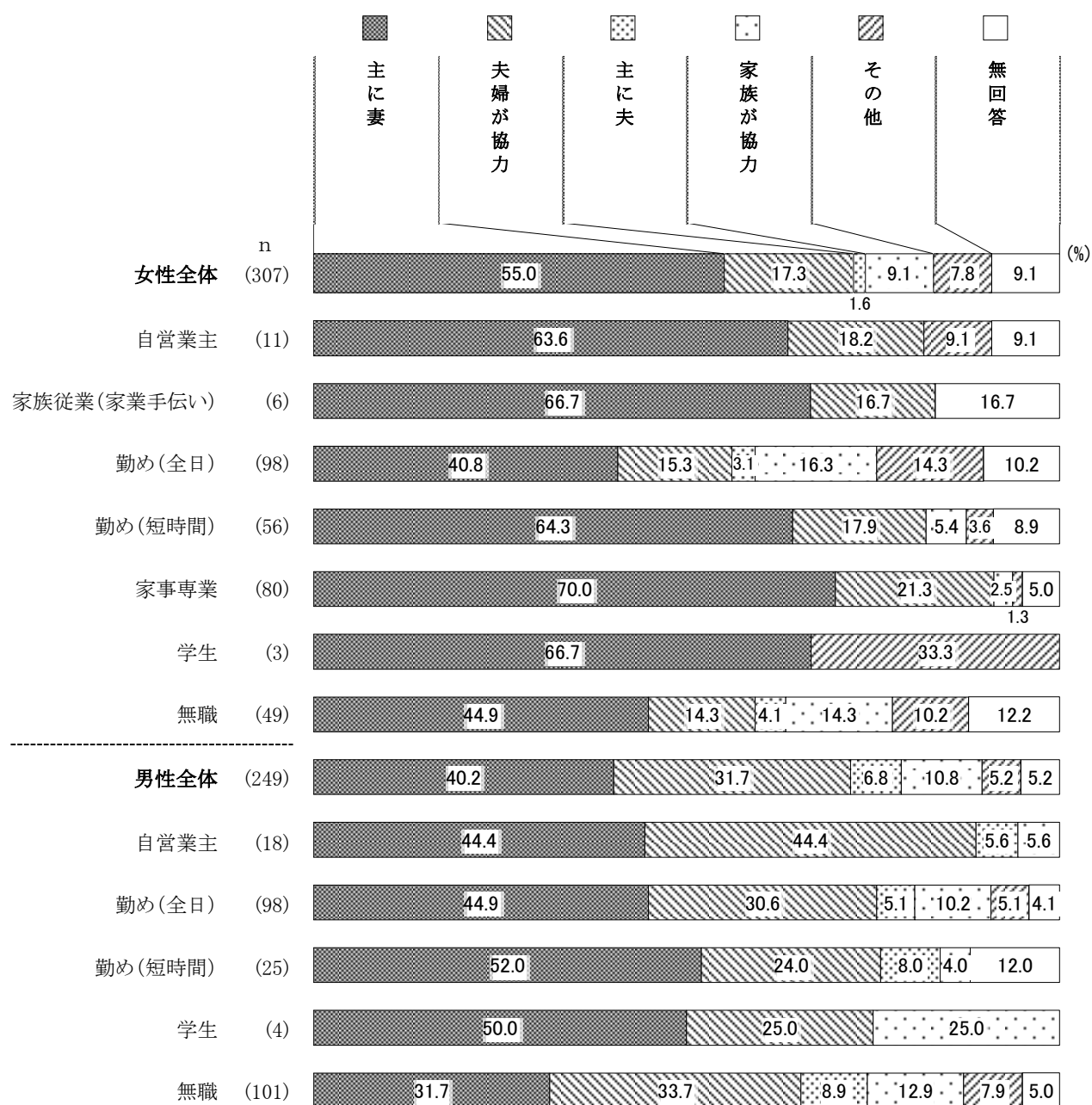


## ＜性・職業別／家庭内での役割分担の現実／仕事（収入）＞

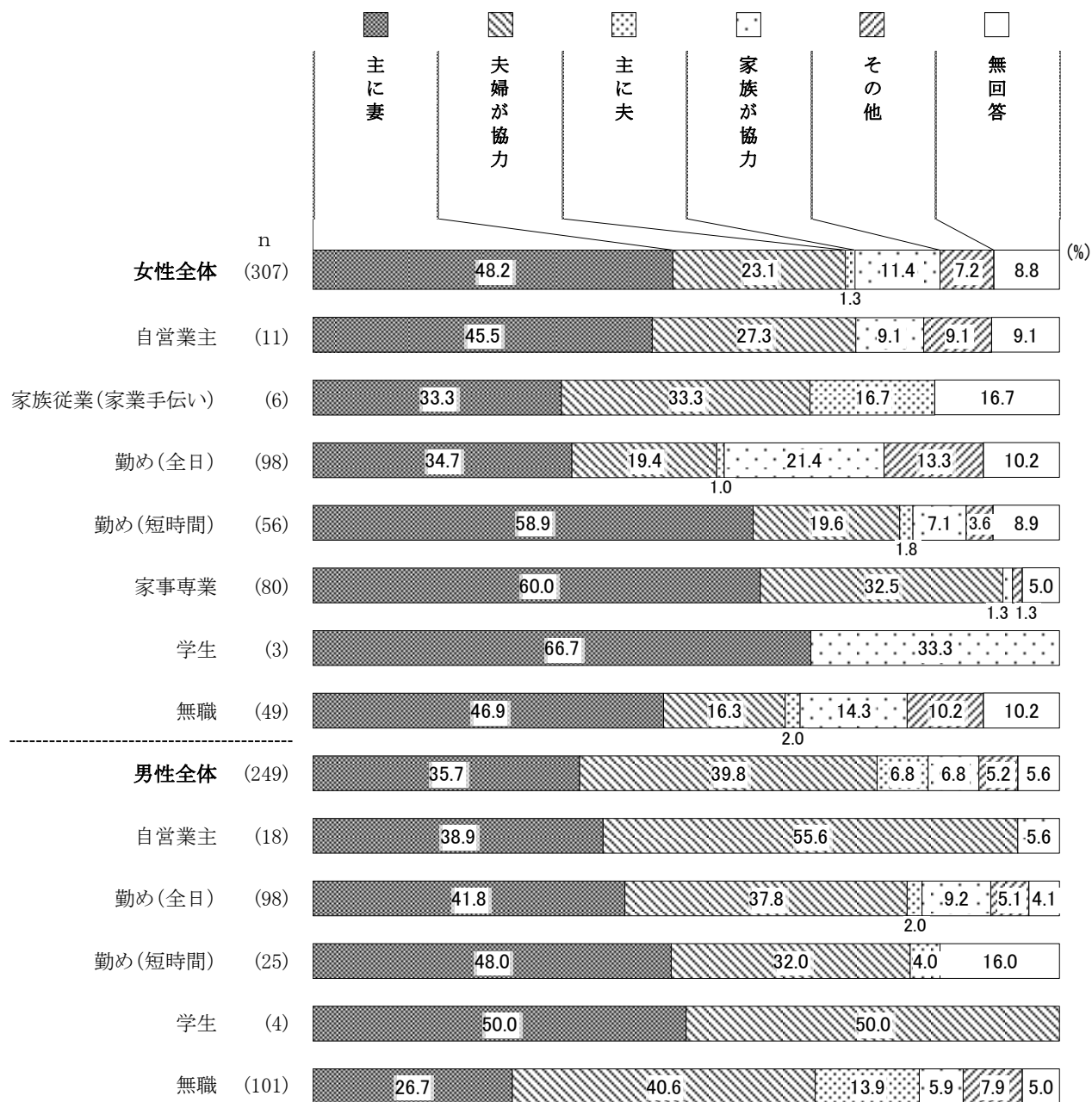
性・職業別にみると、現実の役割としては“仕事（収入）”は「主に夫」が女性の家事専業で6割台、男性の勤め（全日）で5割台と高くなっています。“掃除・洗濯”は「主に妻」が女性の家事専業で7割、勤め（短時間）で6割台と高くなっています。また、“料理（支度・片付け）”でも「主に妻」が女性の家事専業で7割台、女性の勤め（短時間）と男性の勤め（全日）、男女の無職で5割台と高くなっています。



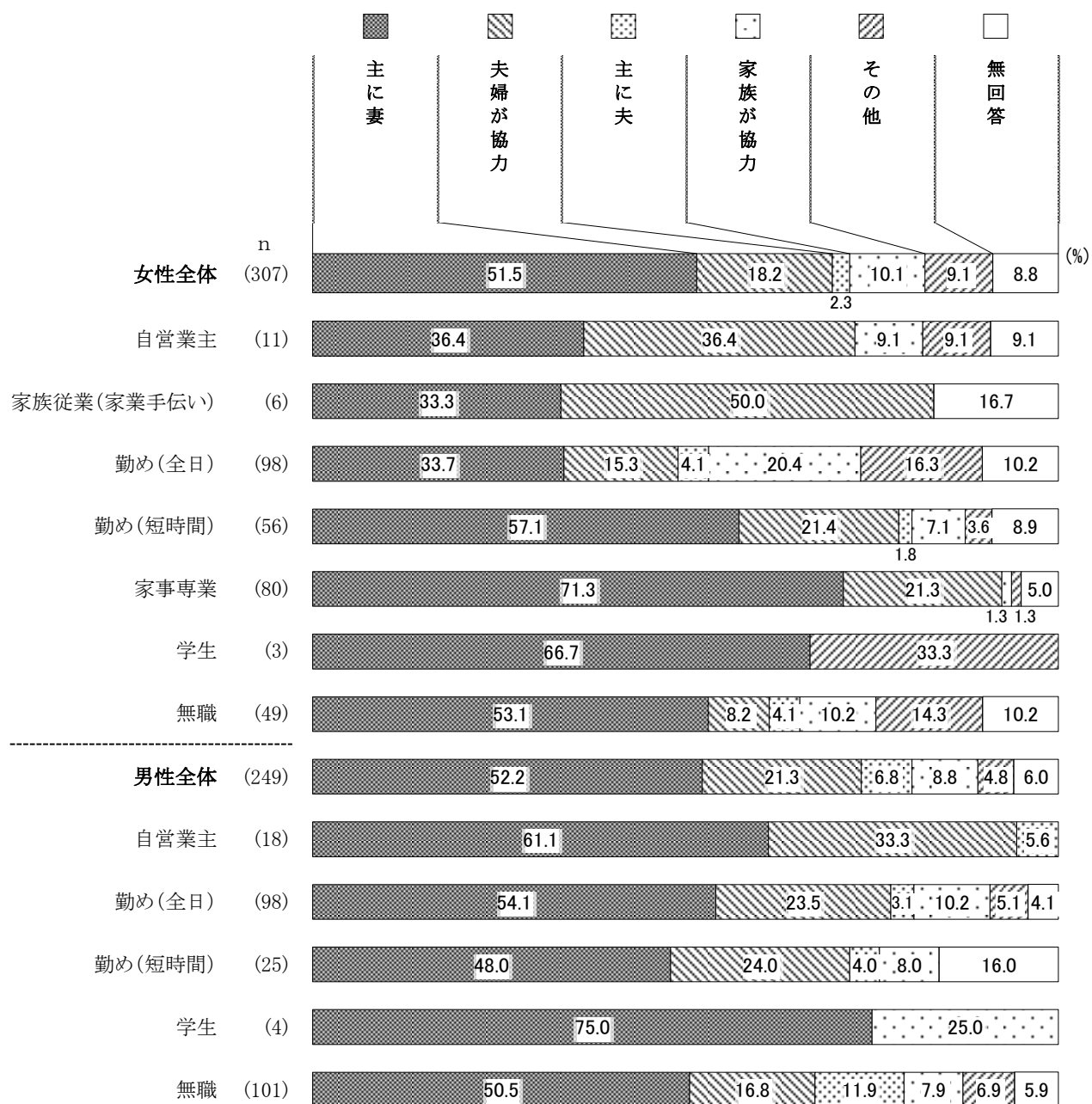
## ＜性・職業別／家庭内での役割分担の現実／掃除・洗濯＞



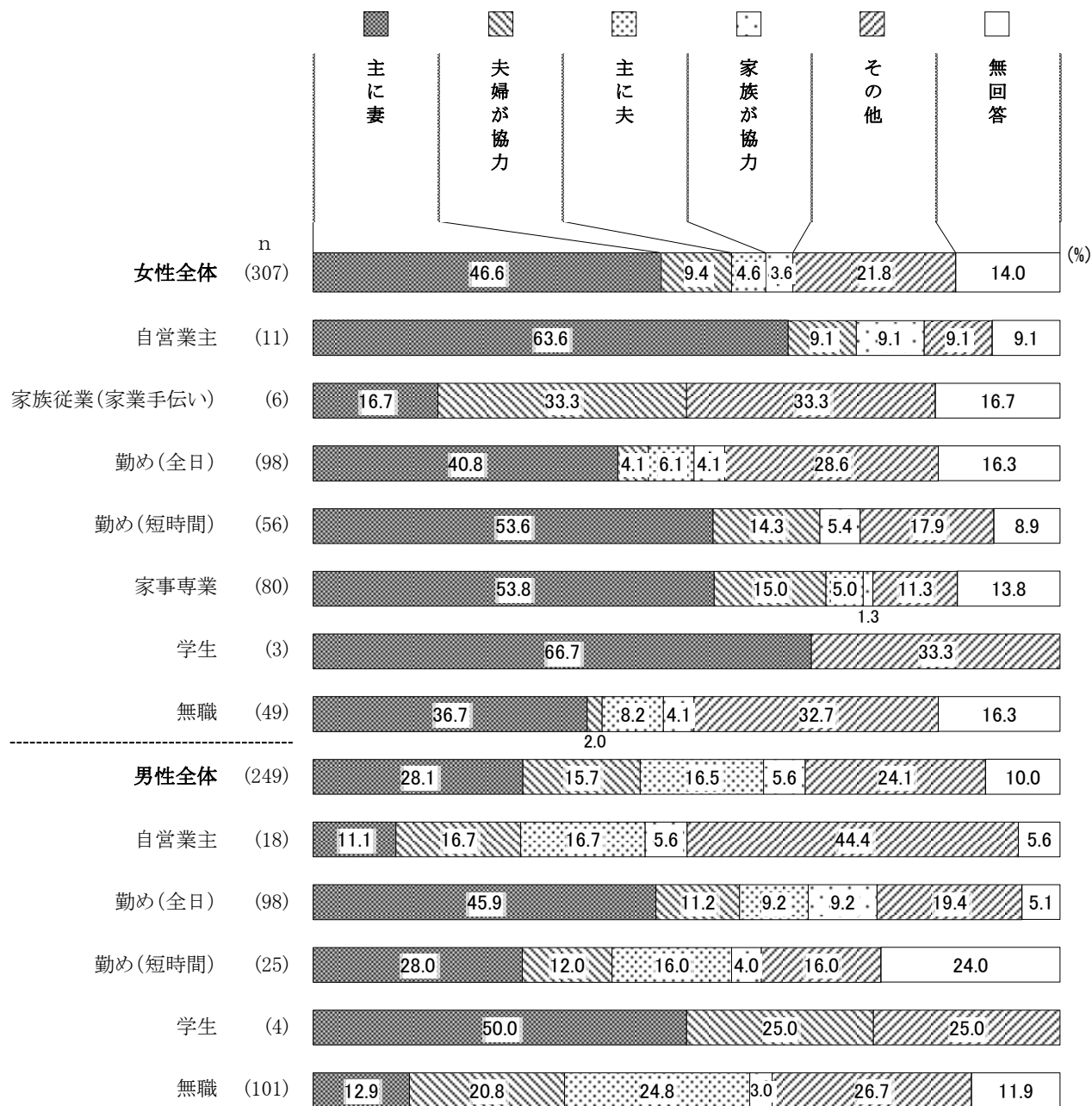
＜性・職業別／家庭内での役割分担の現実／買い物＞



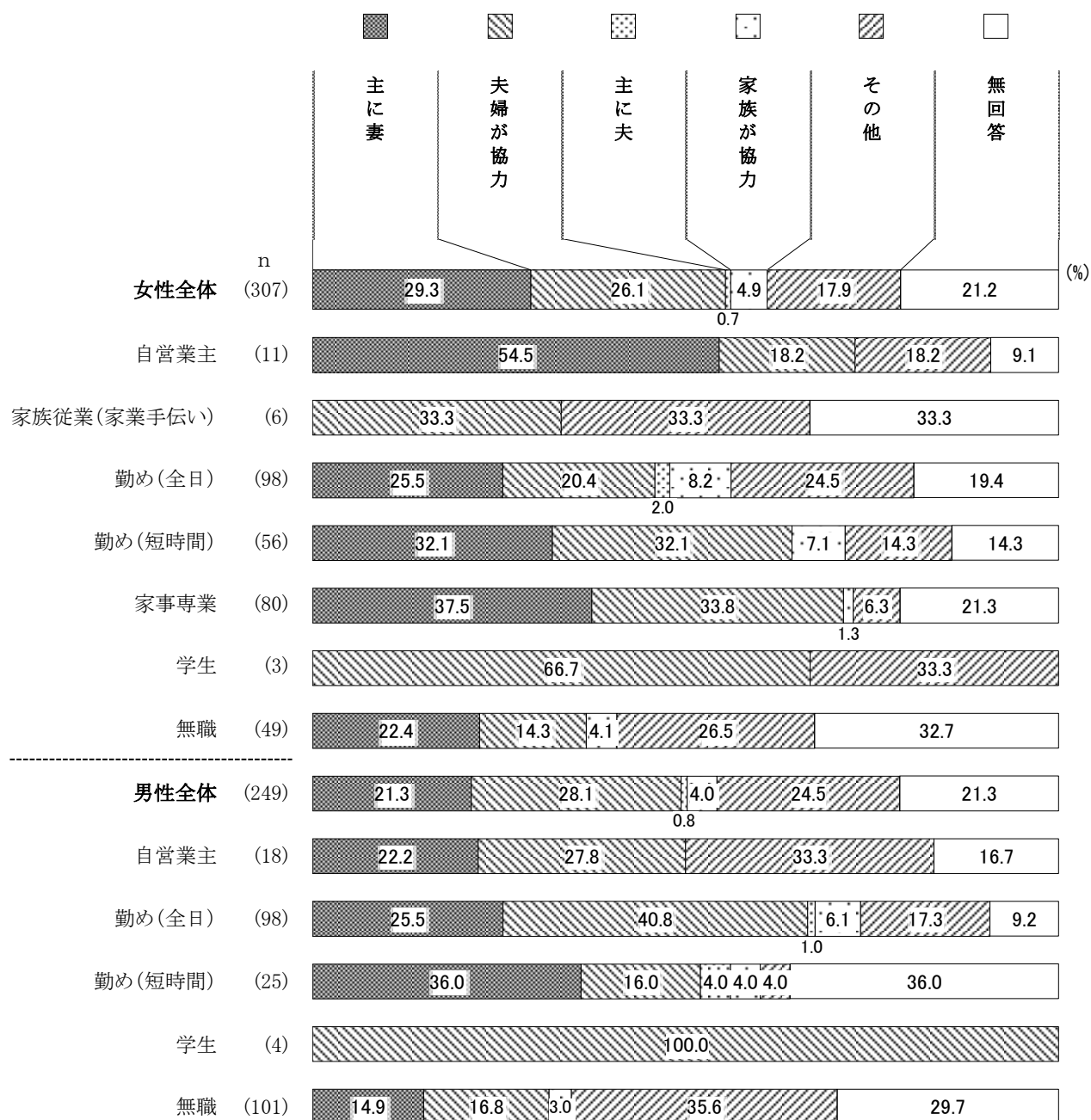
## ＜性・職業別／家庭内での役割分担の現実／料理（支度・片付け）＞



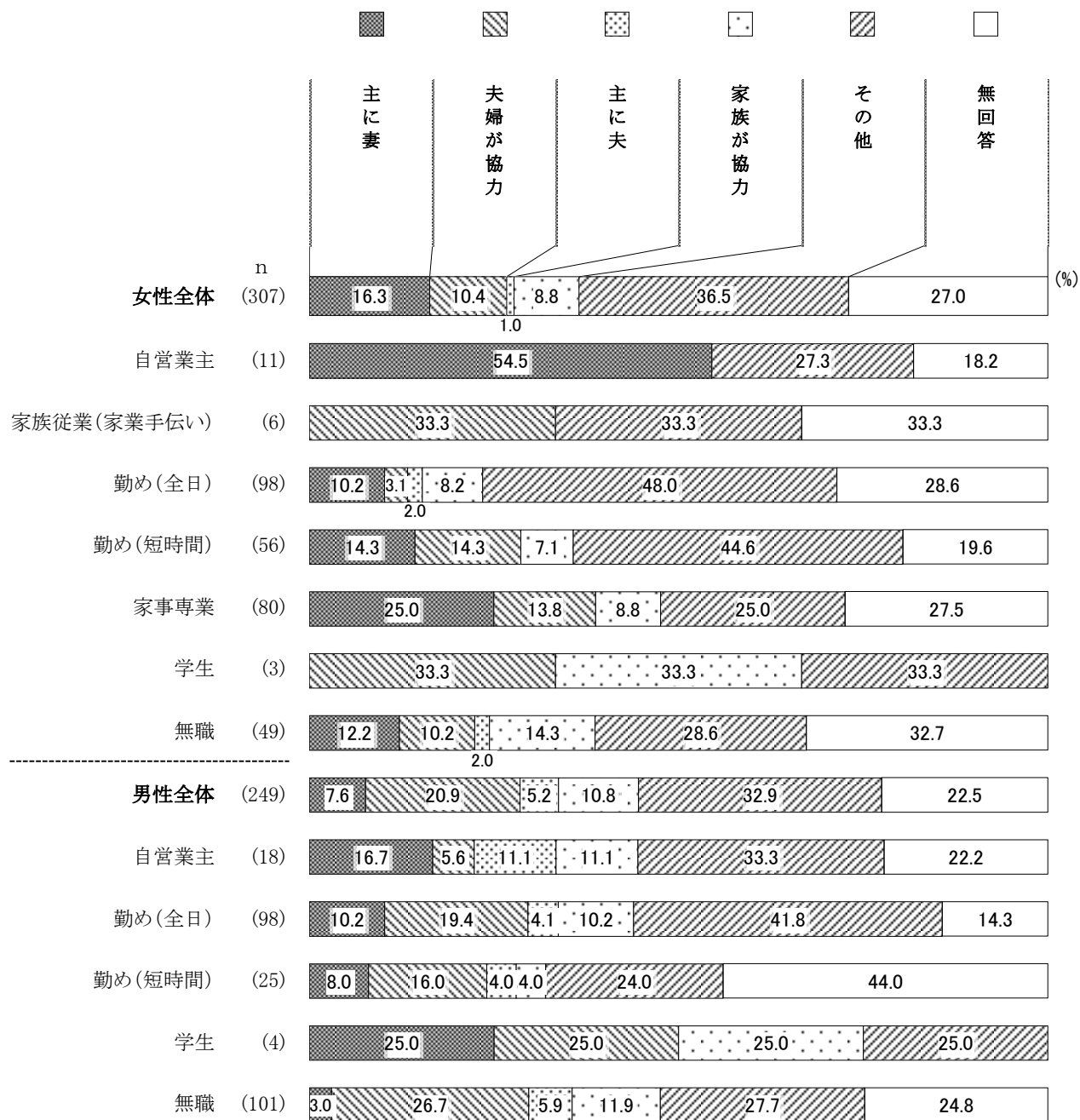
<性・職業別／家庭内での役割分担の現実／地域活動（PTA・自治会など）>



## ＜性・職業別／家庭内での役割分担の現実／育児（世話・しつけ）＞



<性・職業別／家庭内での役割分担の現実／介護>

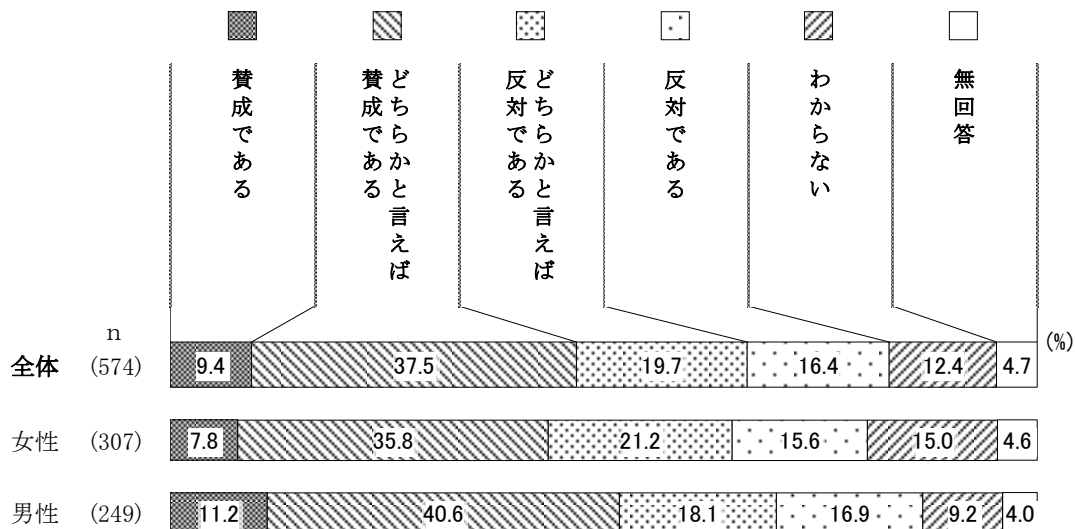




### 3. 子育てと介護

#### (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問2 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。

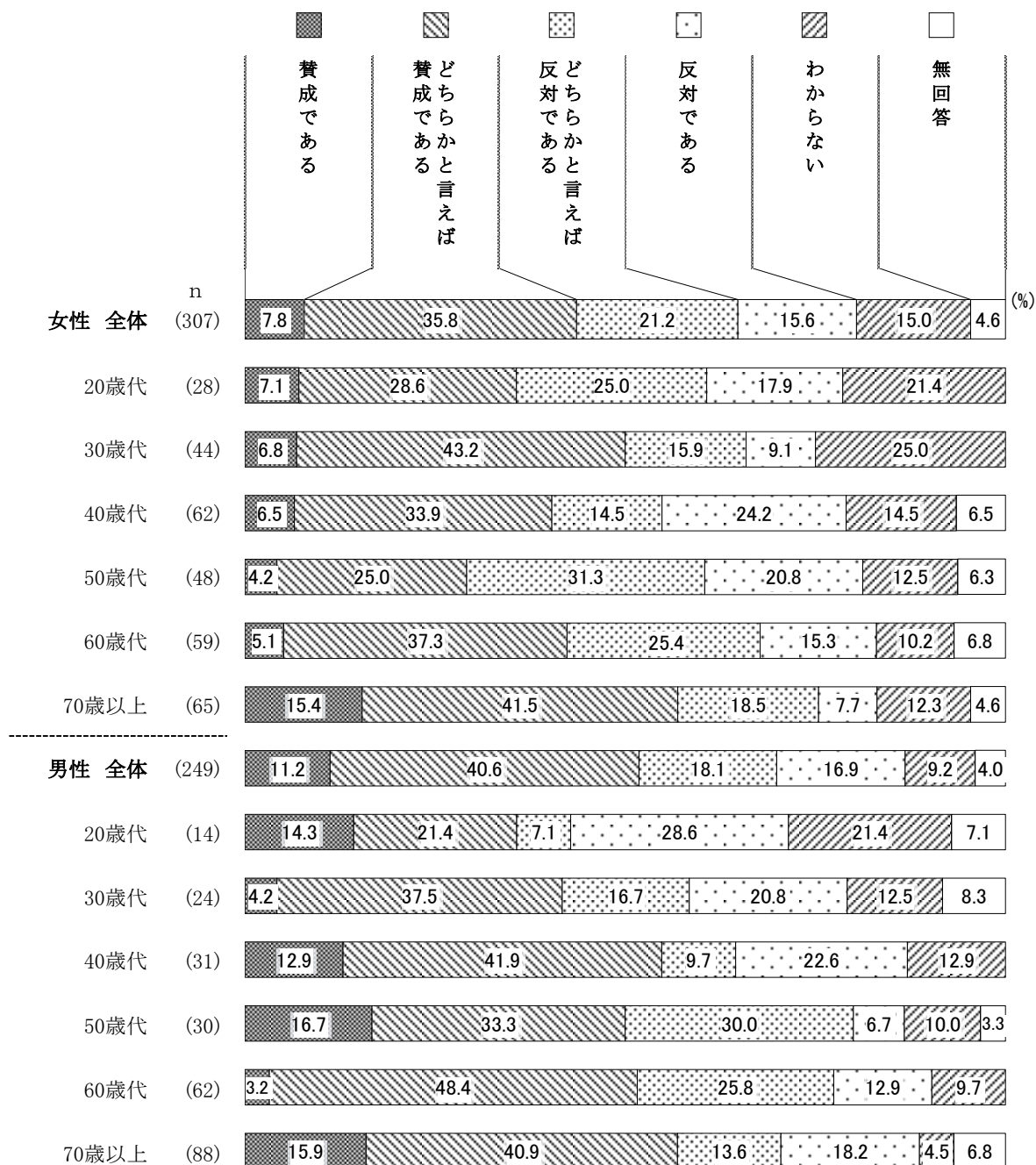


『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、全体では、「どちらかと言えば賛成である」が37.5%と最も高く、賛成（「賛成である」と「どちらかと言えば賛成である」の合計）が46.9%、反対（「反対である」と「どちらかと言えば反対である」の合計）が36.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらかと言えば賛成である」が最も高くなっています。また、賛成は男性で51.8%と半数を超えており、女性の43.6%よりもやや高くなっています。

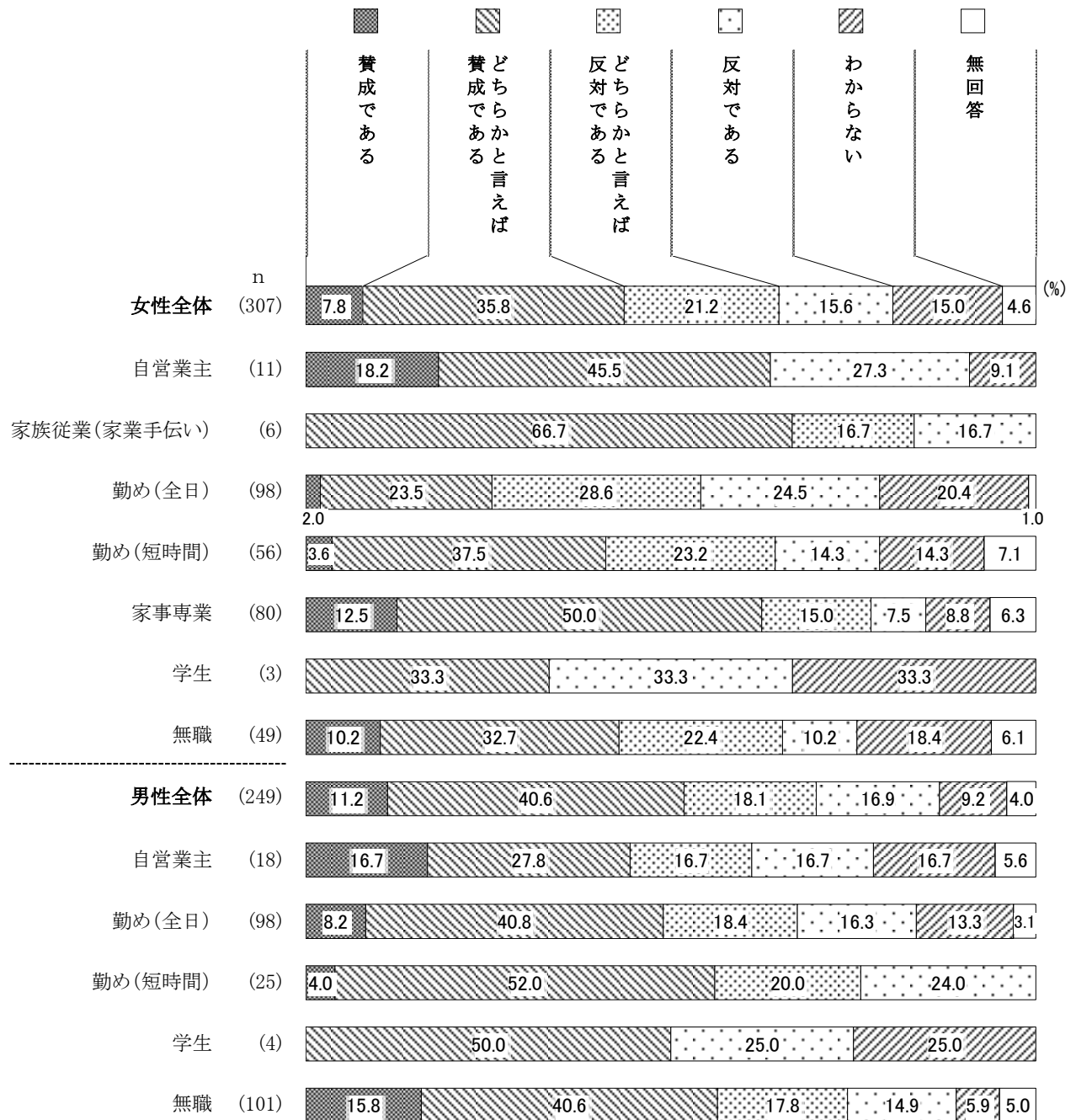
<性・年代別／「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について>

性・年代別にみると、賛成は女性では30歳代と70歳代以上で、男性では40歳代以上で5割台となっています。一方、反対は女性の50歳代で5割台と他の年代より高くなっています。



＜性・職業別／「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について＞

性・職業別にみると、賛成は女性では家事専業で6割台、男性では無職で5割台となっています。一方、反対は女性の勤め（全日）で5割台と他の職業より高くなっています。

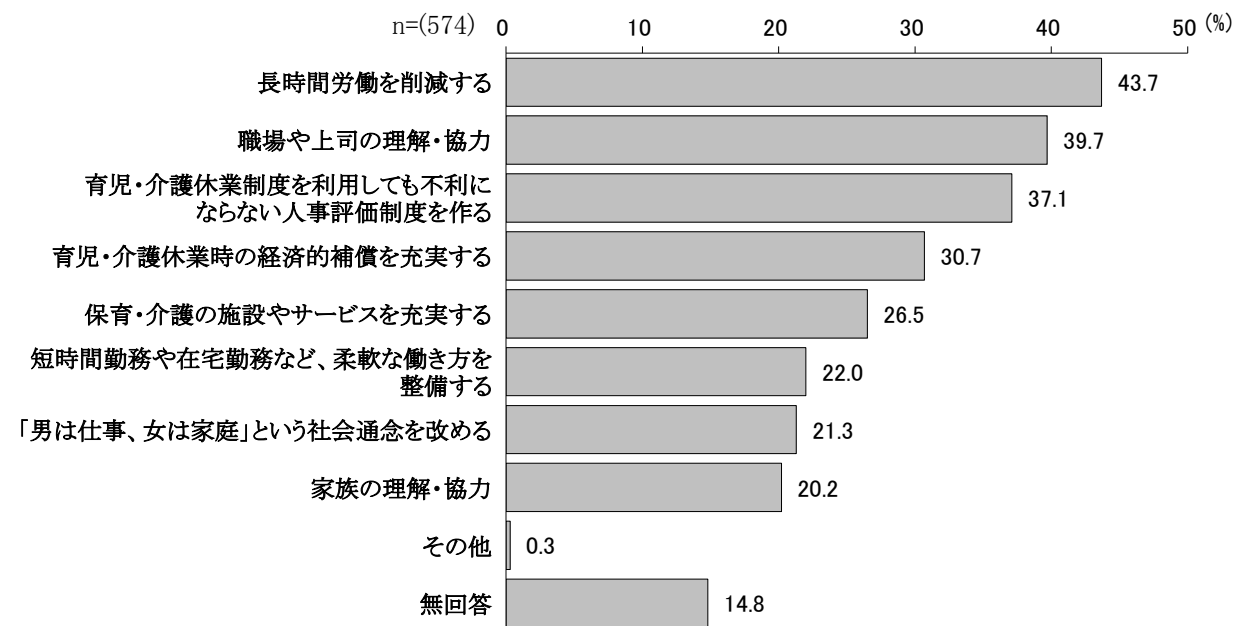


## 4. 仕事と職場

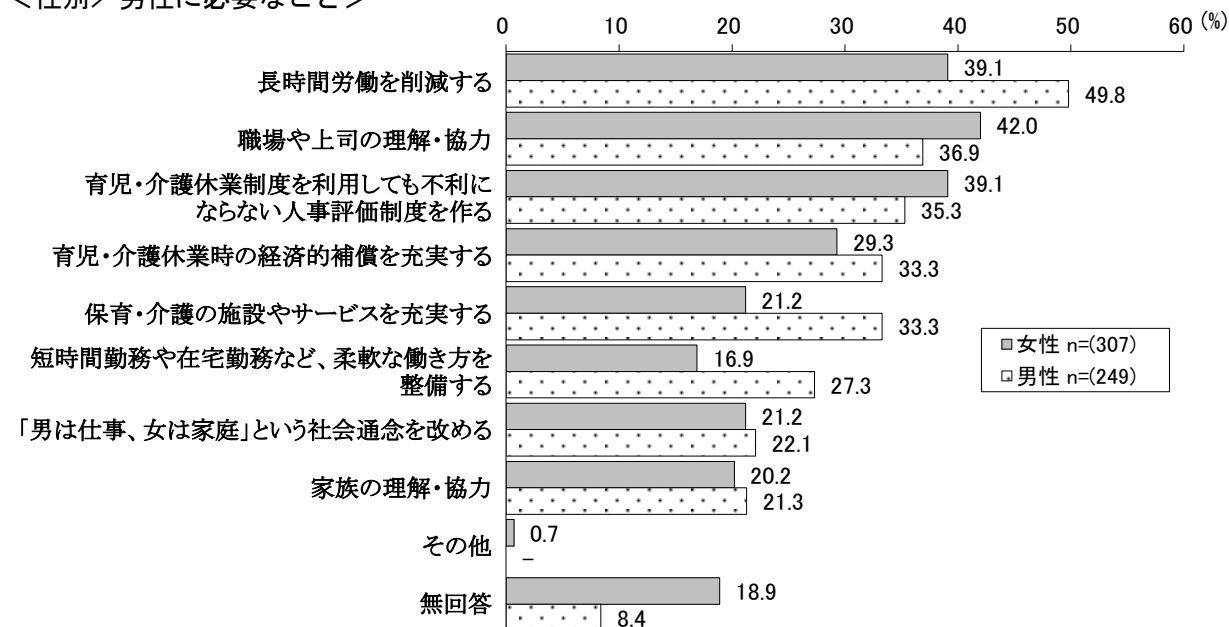
### (1) 男女が共に育児・介護と仕事の両立を推進するために必要なこと

問3 男女が共に育児・介護と仕事の両立を推進するために、どんなことが必要だと思いますか。男性、女性にとって、特に必要だと思うことに、それぞれ3つまで○をつけてください。

#### <全体／男性に必要なこと>



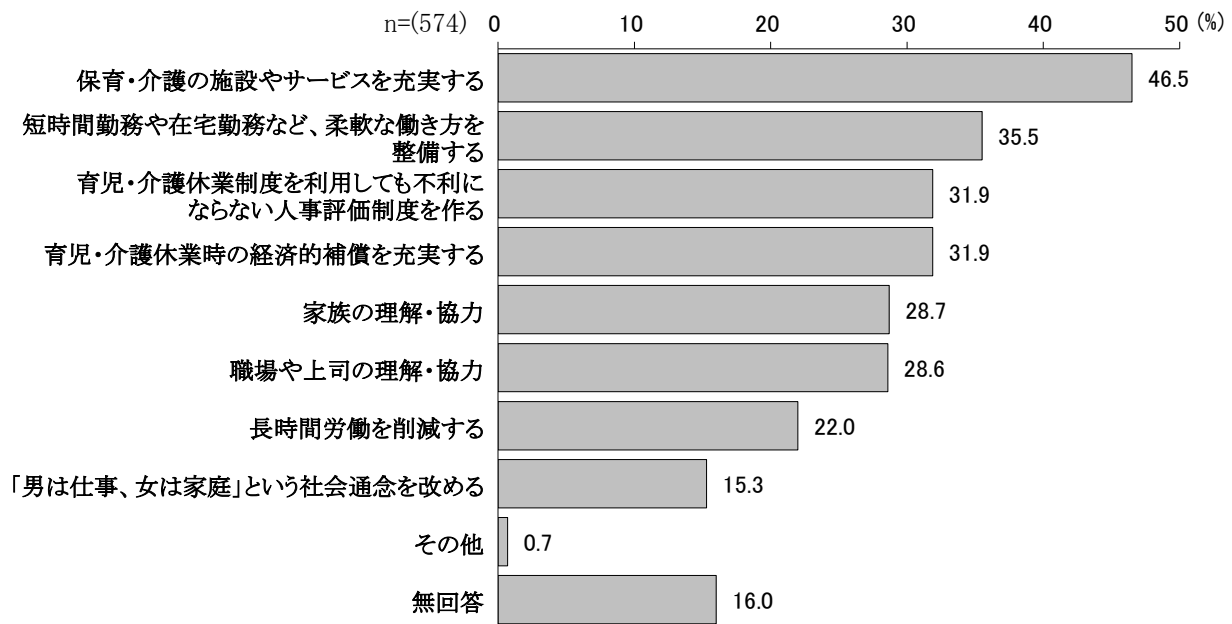
#### <性別／男性に必要なこと>



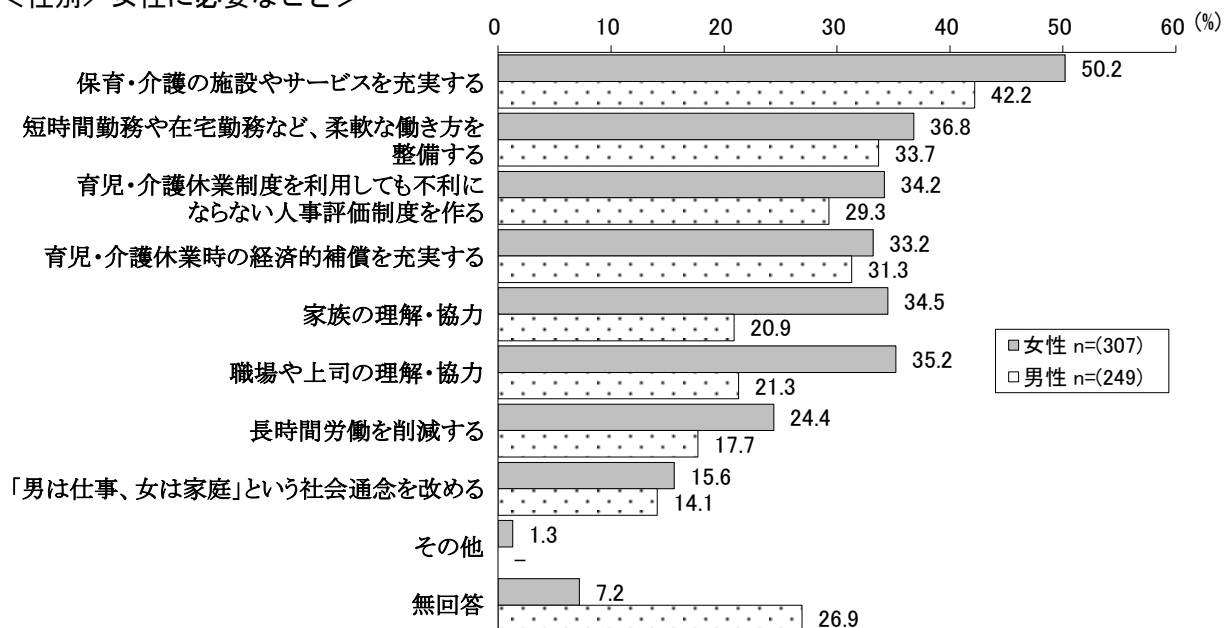
男女が共に育児・介護と仕事の両立を推進するために『男性に必要なこと』としては、「長時間労働を削減する」が43.7%で最も高く、以下「職場や上司の理解・協力」(39.7%)、「育児・介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度を作る」(37.1%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「職場や上司の理解・協力」が42.0%と、男性（36.9%）より高くなっています。一方、男性では「長時間労働を削減する」が49.8%と、女性（39.1%）より高くなっています。

#### ＜全体／女性に必要なこと＞



#### ＜性別／女性に必要なこと＞

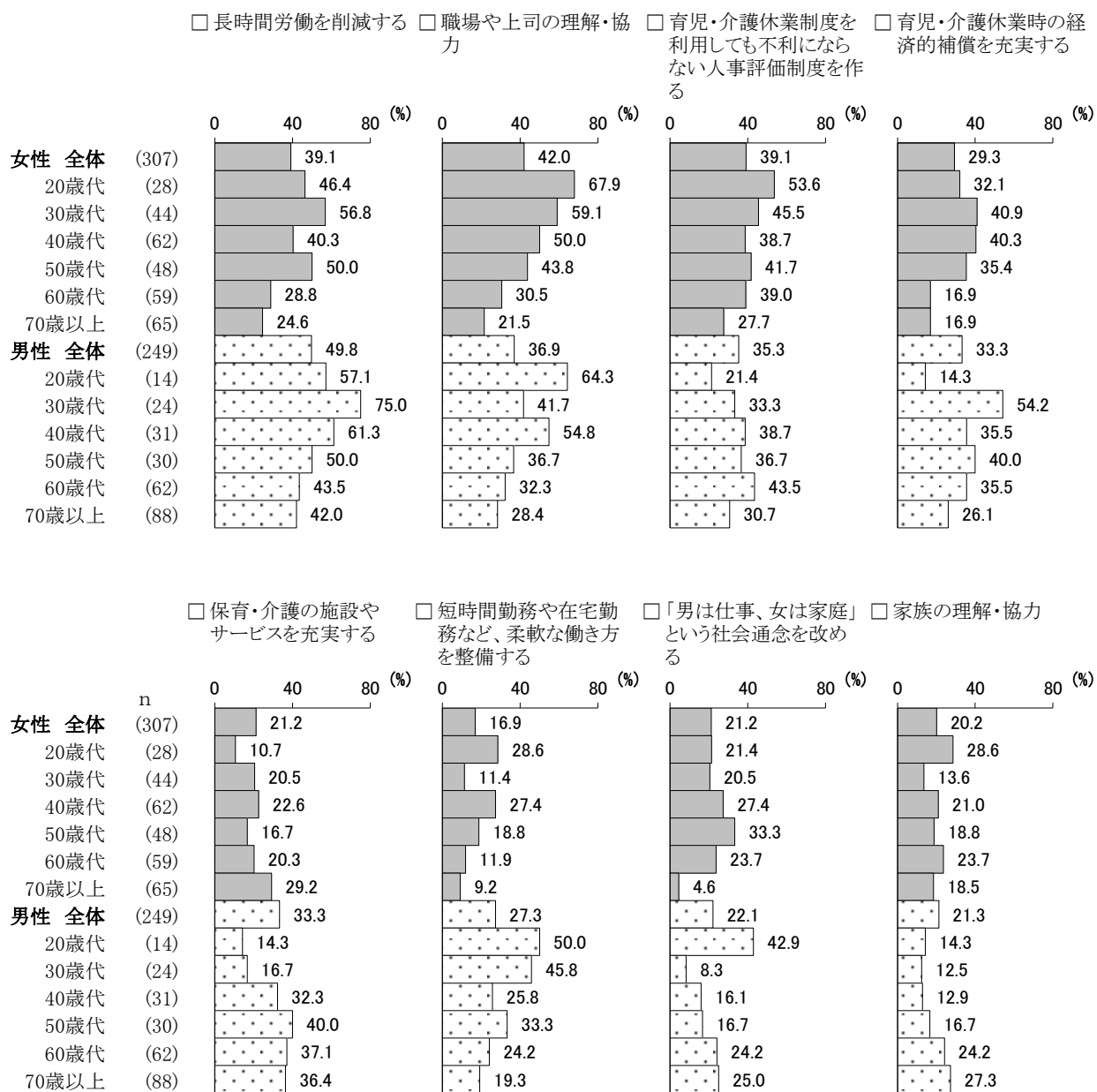


男女が共に育児・介護と仕事の両立を推進するために『女性に必要なこと』としては、「保育・介護の施設やサービスを充実する」が46.5%で最も高く、以下「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方を整備する」（35.5%）、「育児・介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度を作る」「育児・介護休業時の経済的補償を充実する」（ともに31.9%）の順で続いています。

性別でみると、女性では「保育・介護の施設やサービスを充実する」が50.2%と、男性（42.2%）より高くなっています。

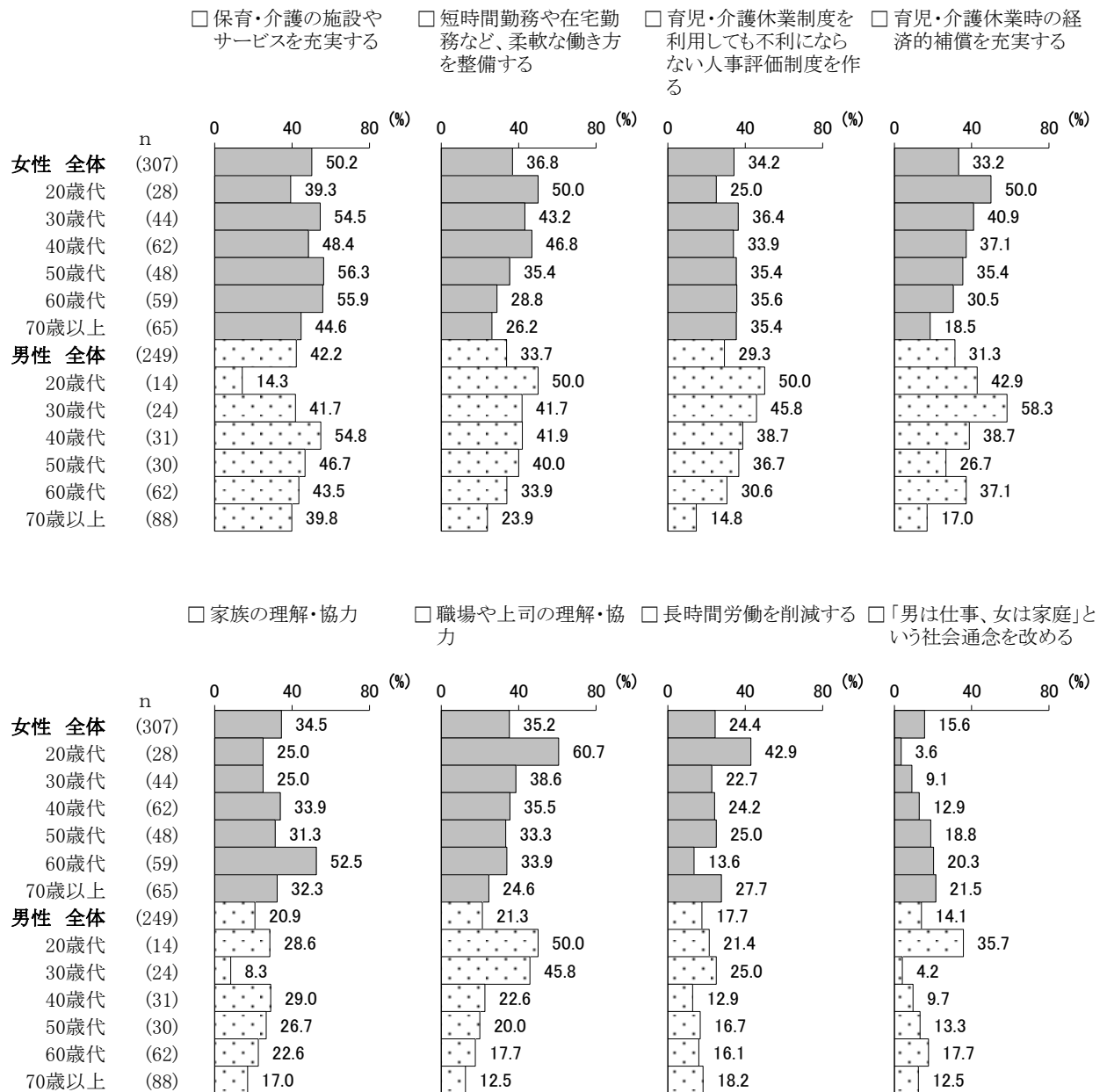
## ＜性・年代別／男性に必要なこと＞

男性に必要なことを性・年代別にみると、「職場や上司の理解・協力」は女性の30歳代と40歳代、男性の40歳代で5割台となっています。「育児・介護休業制度を利用して不利にならない人事評価制度を作る」は女性の30歳代と50歳代、男性の60歳代で、「保育・介護の施設やサービスを充実する」は男性の50歳代で、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方を整備する」は男性の30歳代で4割台、「『男は仕事、女は家庭』という社会通念を改める」は女性の50歳代で3割台と他の年代より高くなっています。



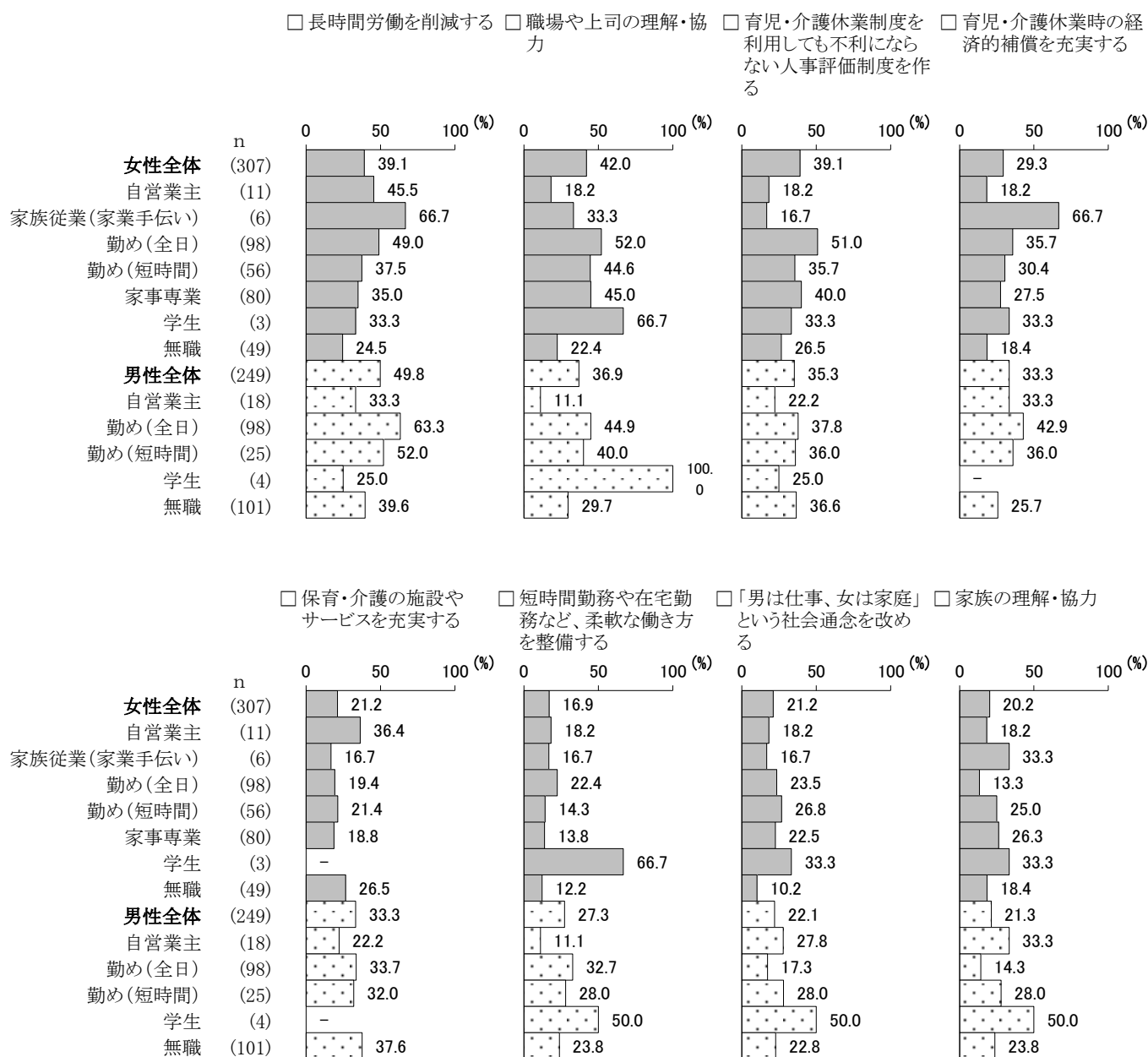
### ＜性・年代別／女性に必要なこと＞

女性に必要なことでは、「保育・介護の施設やサービスを充実する」は女性の30歳代、50歳代と60歳代、男性の40歳代で5割台となっています。「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方を整備する」は女性の30歳代と40歳代、男性の40歳代と50歳代で4割台となっています。また、「家族の理解・協力」は女性の60歳代で5割台と他の年代より高くなっています。



## ＜性・職業別／男性に必要なこと＞

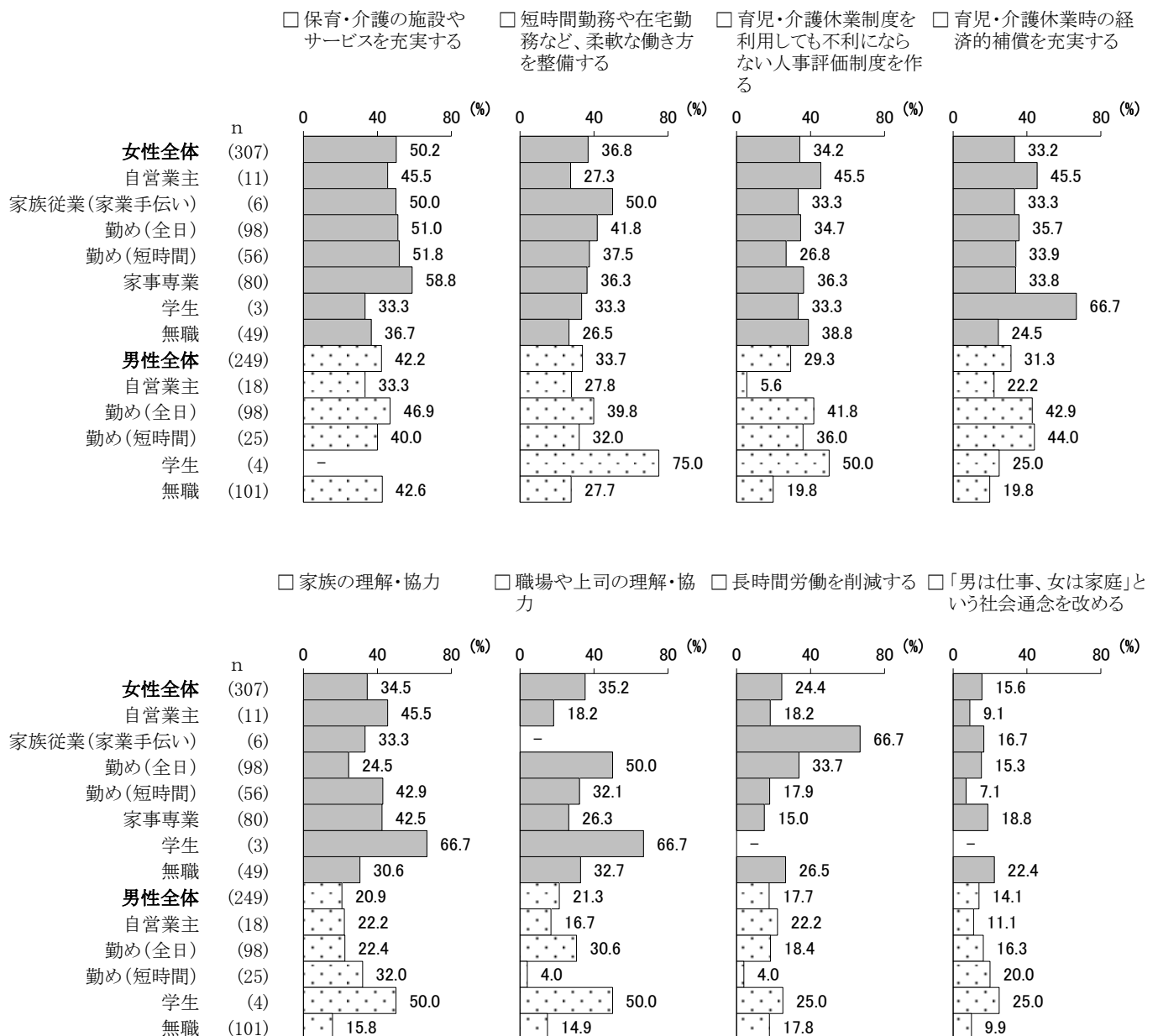
男性に必要なことを性・職業別にみると、「長時間労働を削減する」は男性の勤め（全日）で6割台と高くなっています。「職場や上司の理解・協力」、「育児・介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度を作る」は女性の勤め（全日）で5割台と高くなっています。





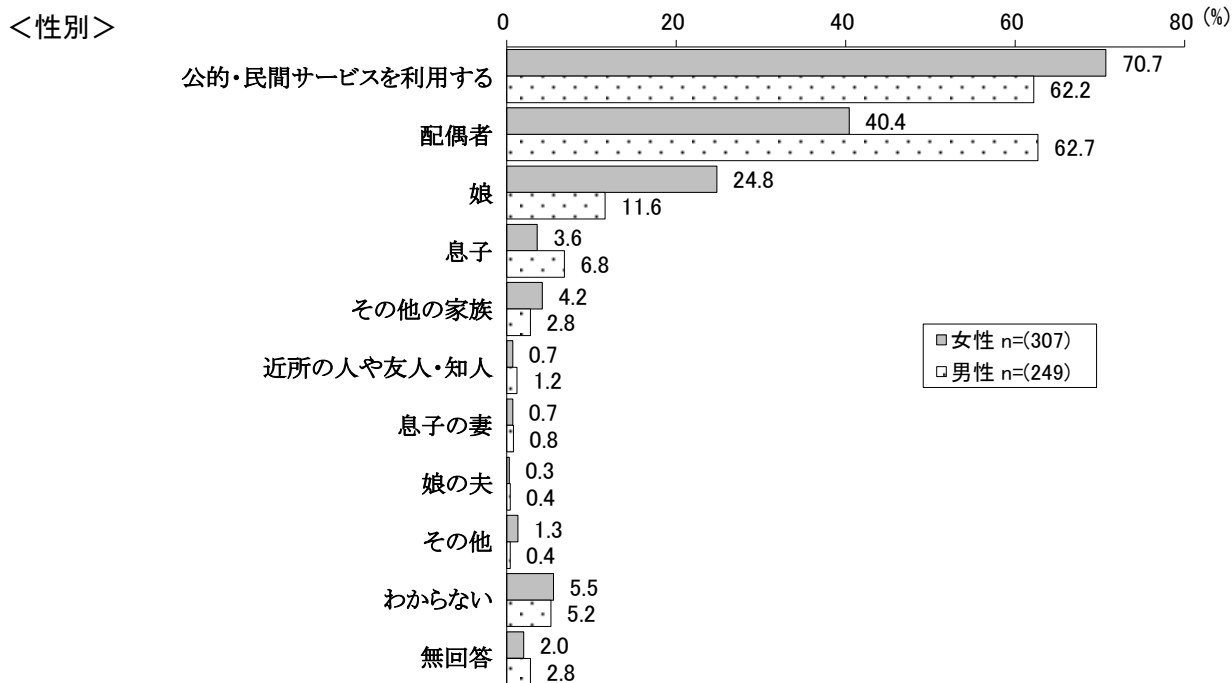
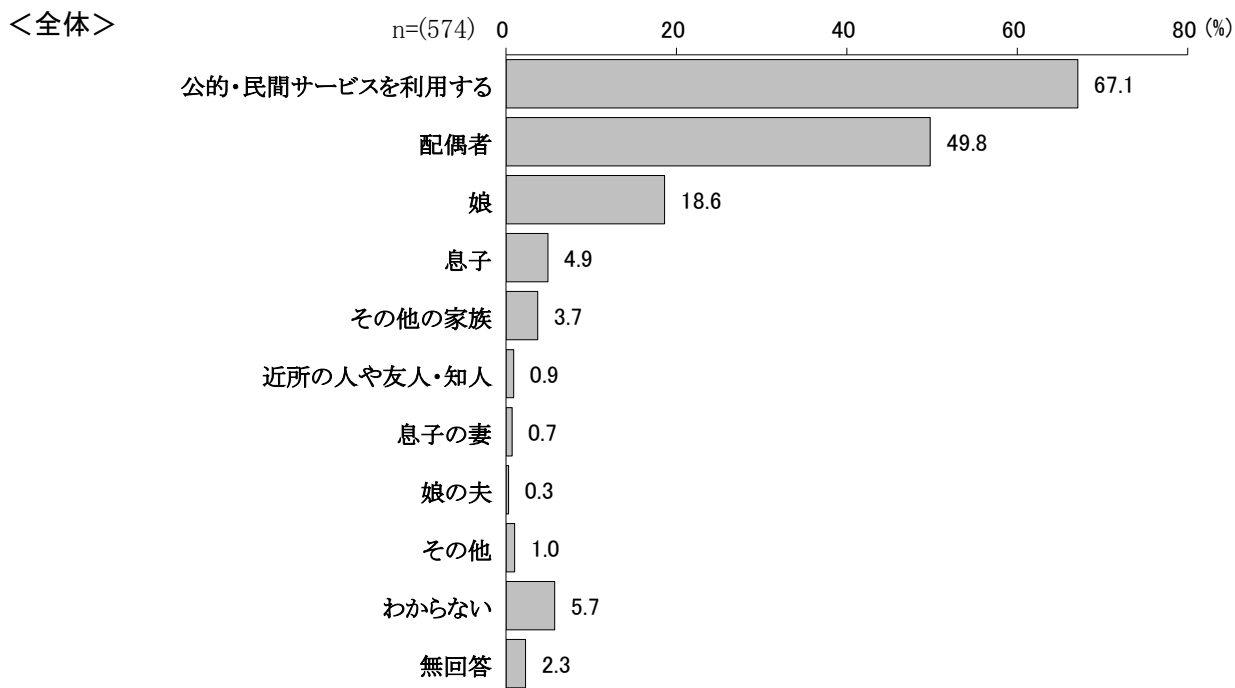
### ＜性・職業別／女性に必要なこと＞

女性に必要なことでは、「保育・介護の施設やサービスを充実する」は女性の勤め（全日）、勤め（短時間）、家事専業で5割台となっています。また、「職場や上司の理解・協力」は女性の勤め（全日）で5割と他の職業より高くなっています。



(2) 介護が必要になった場合、介護をしてもらいたい人

問4 もし、あなたに介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたいですか。2つまでお答えください。

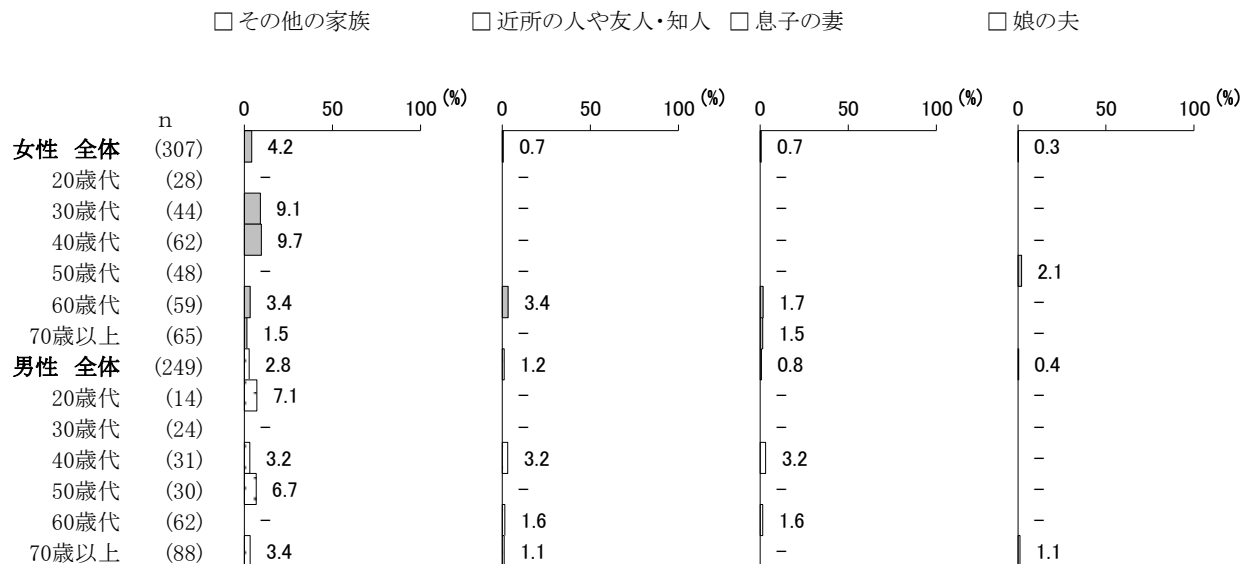
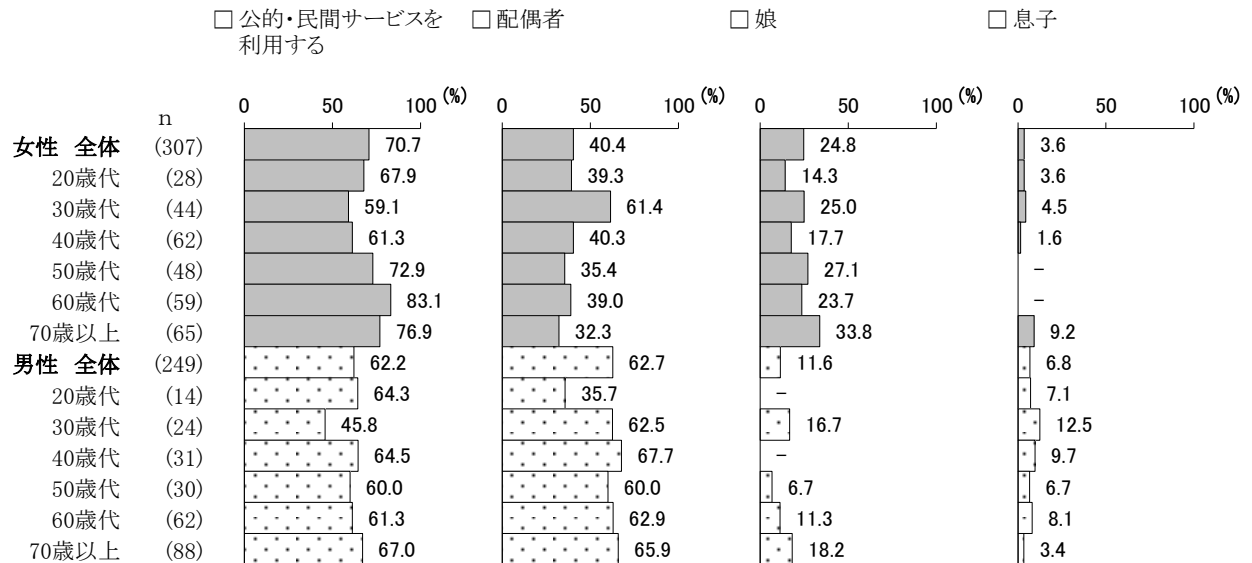


介護が必要になった場合、介護をしてもらいたい人としては、「公的・民間サービスを利用する」が67.1%で最も高く、以下「配偶者」(49.8%)、「娘」(18.6%)の順が続いています。

性別でみると、男性では「配偶者」が62.7%と、女性(40.4%)より高くなっています。

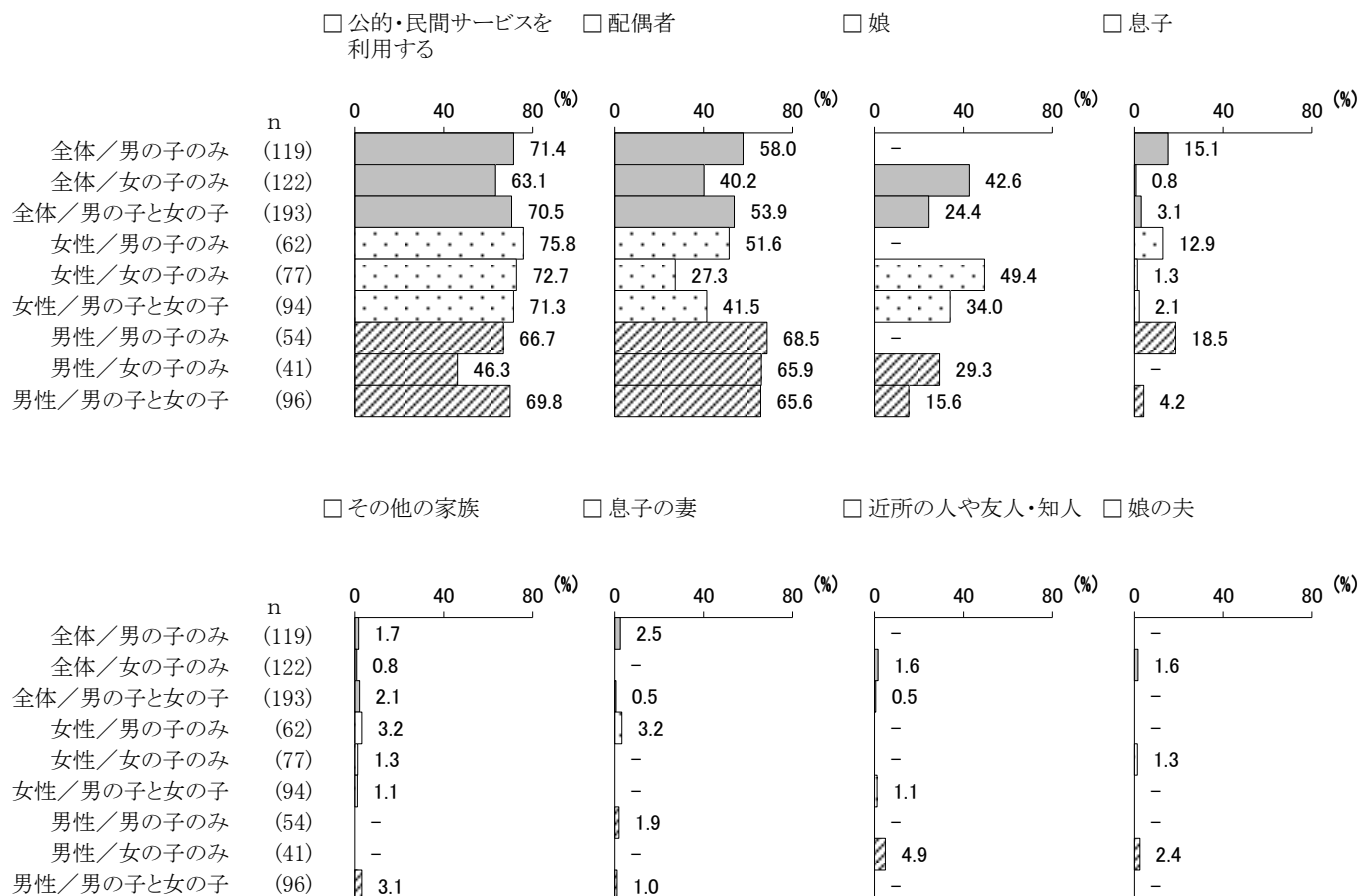
## ＜性・年代別＞

性・年代別にみると、「公的・民間サービスを利用する」、「配偶者」が高く、年代を通じて共通した希望となっています。「配偶者」では、男性の方が女性より希望する割合が高く、特に70歳以上では男性65.9%に対し、女性は32.3%となっています。また、「娘」も女性の30歳代と50歳代以上で2割から3割台と比較的高くなっています。



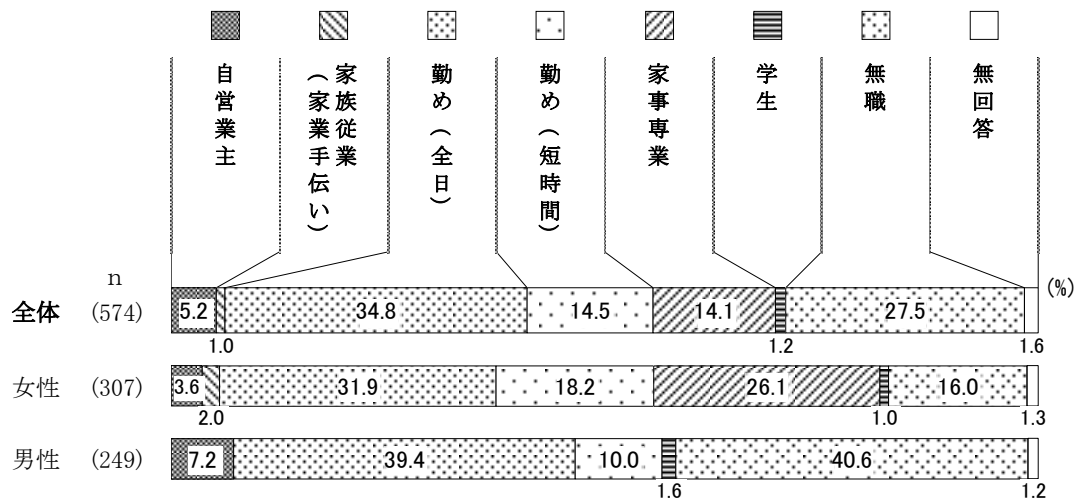
## ＜性・子どもの性別＞

子どもの性別にみると、男の子のみの場合は「息子」が15.1%、女の子のみの場合は「娘」が42.6%となっています。男の子と女の子の場合は「息子」が3.1%に対して、「娘」が24.4%とやや開きが見られます。また、女性では、女の子のみの場合は、「娘」に49.4%が介護してもらいたいと回答しています。



(3) 主な職業

問5 あなたの職業は、次のどれに当てはまりますか。複数あてはまる場合は、主なもの1つをお答えください。

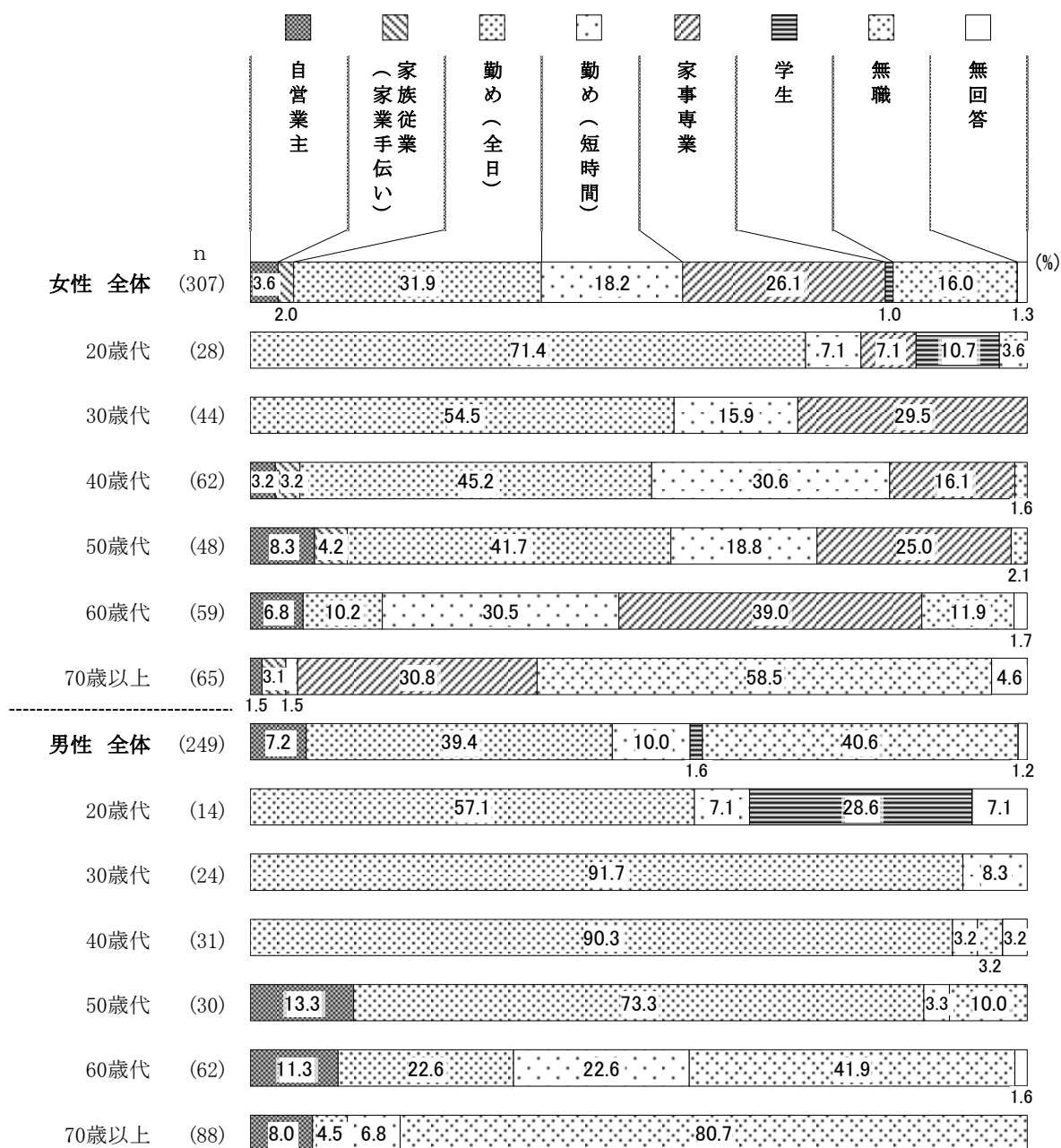


主な職業について、全体では、「勤め（全日）」が34.8%と最も高く、次いで「無職」が27.5%となっています。

性別でみると、女性では「勤め（全日）」が31.9%と最も高く、次いで「家事専業」が26.1%となっています。男性では「無職」が40.6%、「勤め（全日）」が39.4%と高くなっています。

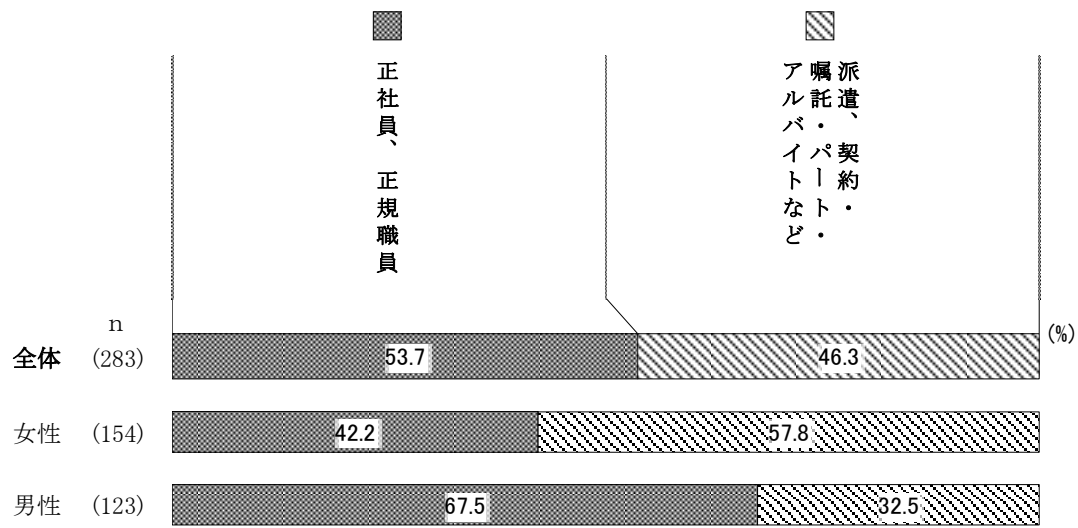
＜性・年代別／主な職業＞

性・年代別にみると、男女とも50歳代以下では「勤め（全日）」が最も高く、女性では40歳代と60歳代で「勤め（短時間）」も約3割となっています。



(4) 主な職業における雇用形態

(問5で「勤め(全日)」、「勤め(短時間)」とお答えの方)  
問5-1 あなたの働き方は、次のどれに当てはまりますか。

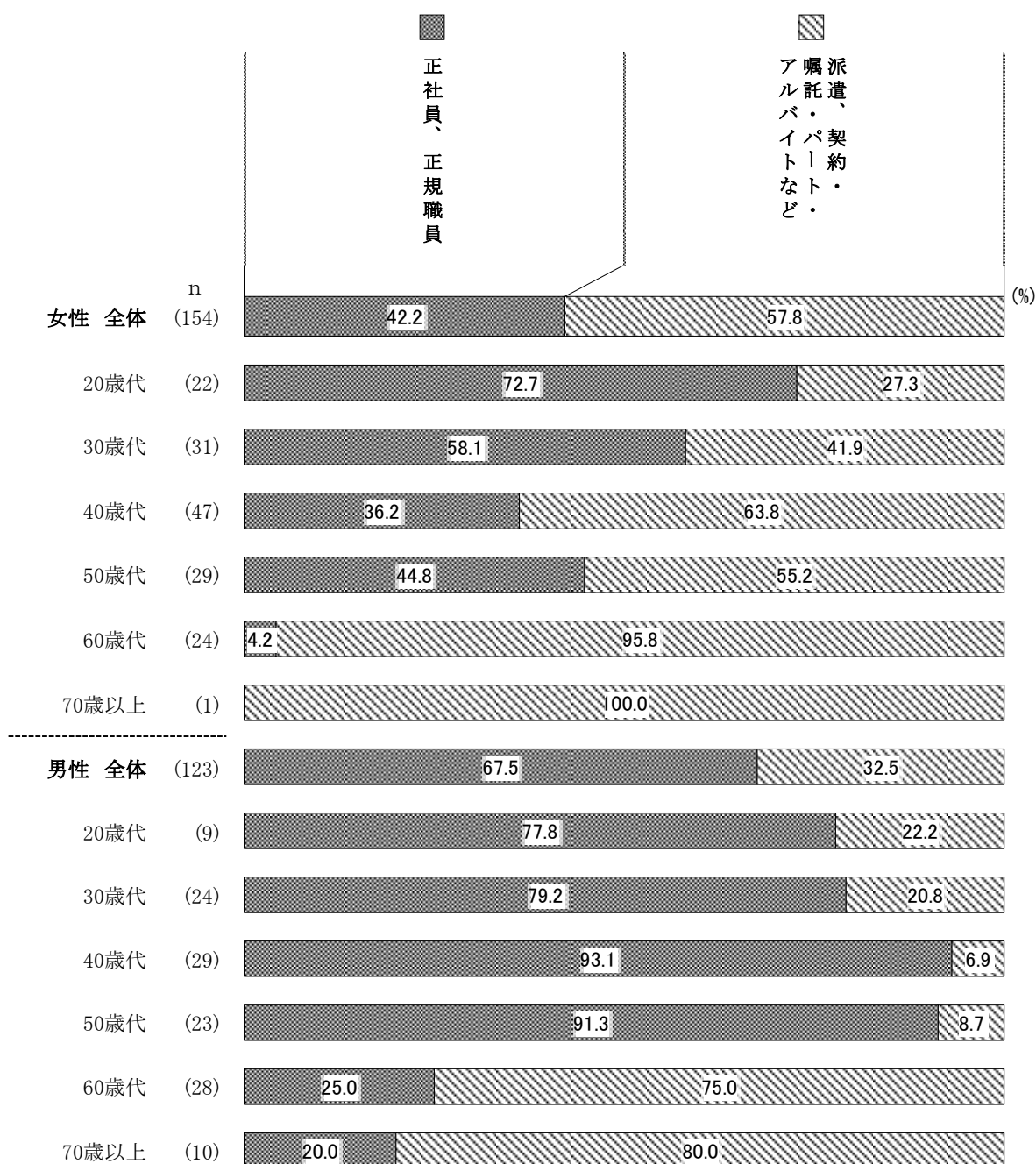


主な職業における雇用形態について、全体では、「正社員、正規職員」が53.7%と半数以上を占めています。一方、「派遣、契約・嘱託・パート・アルバイトなど」が46.3%となっています。

性別でみると、女性では「派遣、契約・嘱託・パート・アルバイトなど」が57.8%、男性では「正社員、正規職員」が67.5%と高くなっています。

＜性・年代別／主な職業における雇用形態＞

性・年代別にみると、回答者数が少ないため参考程度となりますが、「正社員、正規職員」は男女とも50歳代までで多く、男性でより多くなっています。「派遣、契約・嘱託・パート・アルバイトなど」は女性の40歳代以上、男性の60歳代以上で多くみられます。

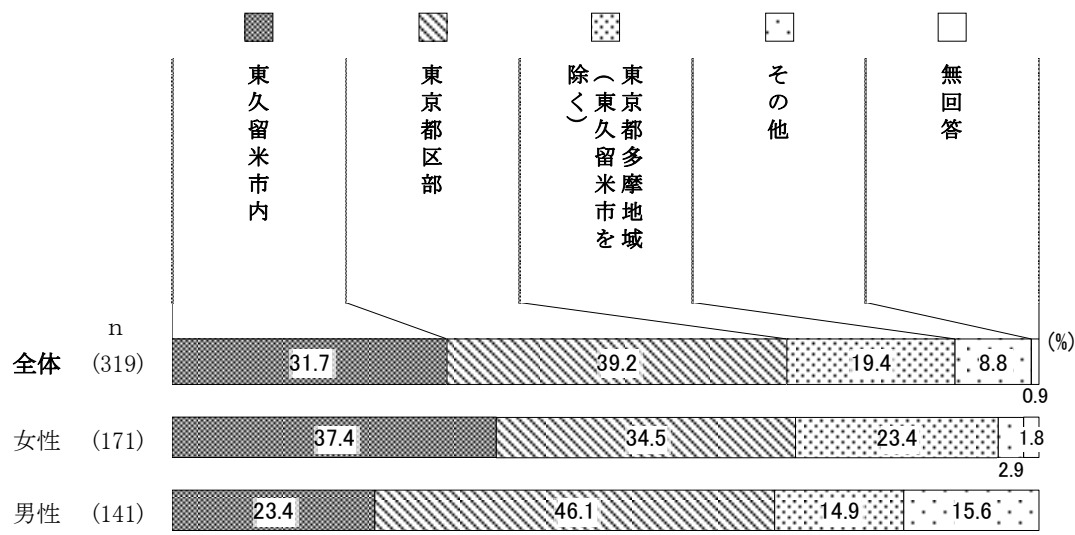




(5) 主な職業の職場の場所

(問5で「自営業主」、「家族従業（家業手伝い）」、「勤め（全日）」、「勤め（短時間）」とお答えの方)

問5-2 あなたの職場は、どこにありますか。

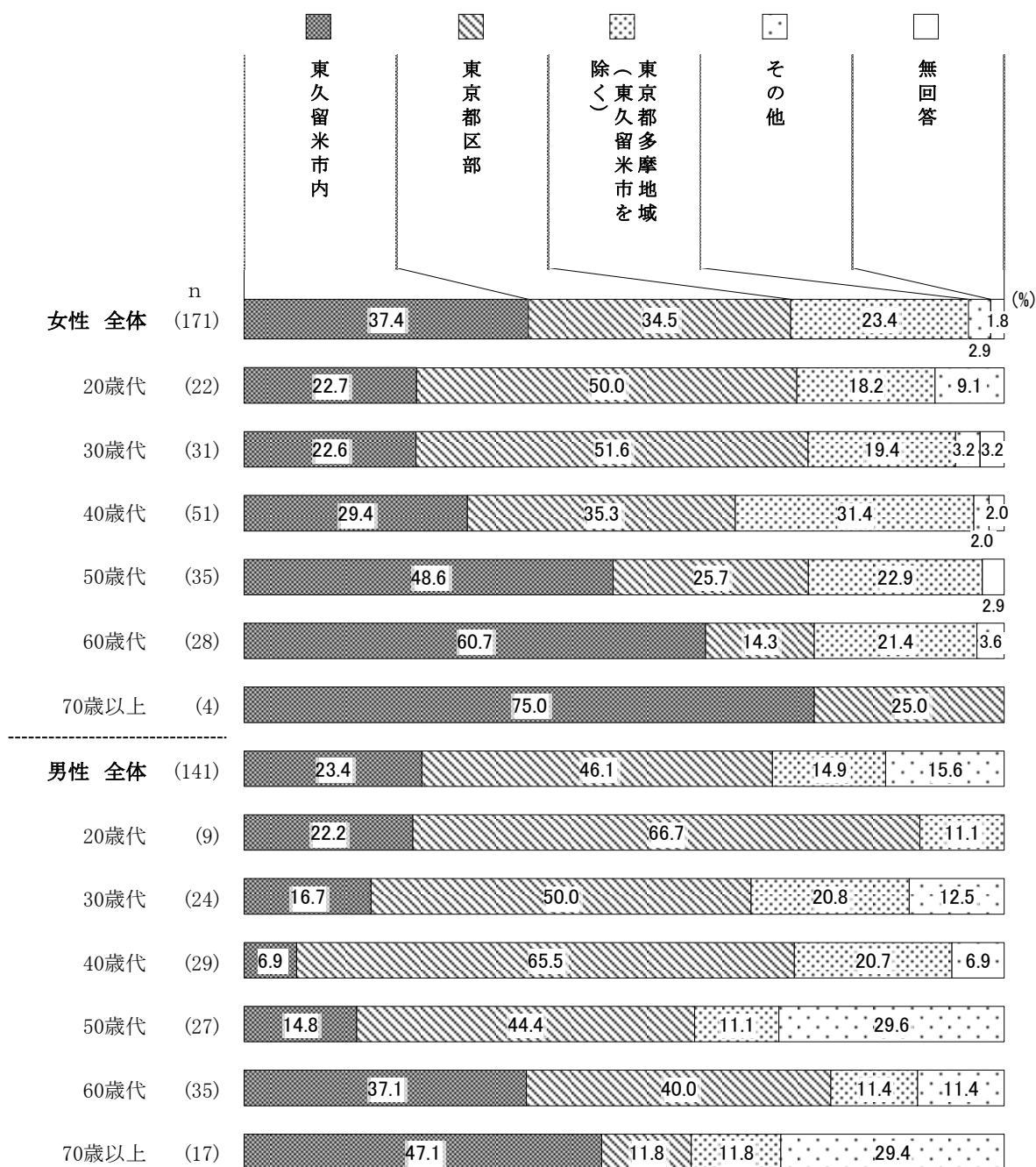


主な職業の職場について、全体では、「東京都区部」が39.2%と最も高く、次いで「東久留米市内」が31.7%となっています。

性別でみると、女性では「東久留米市内」が37.4%、「東京都区部」が34.5%で、ともに3割台となっています。男性では「東京都区部」が46.1%と最も高くなっています。

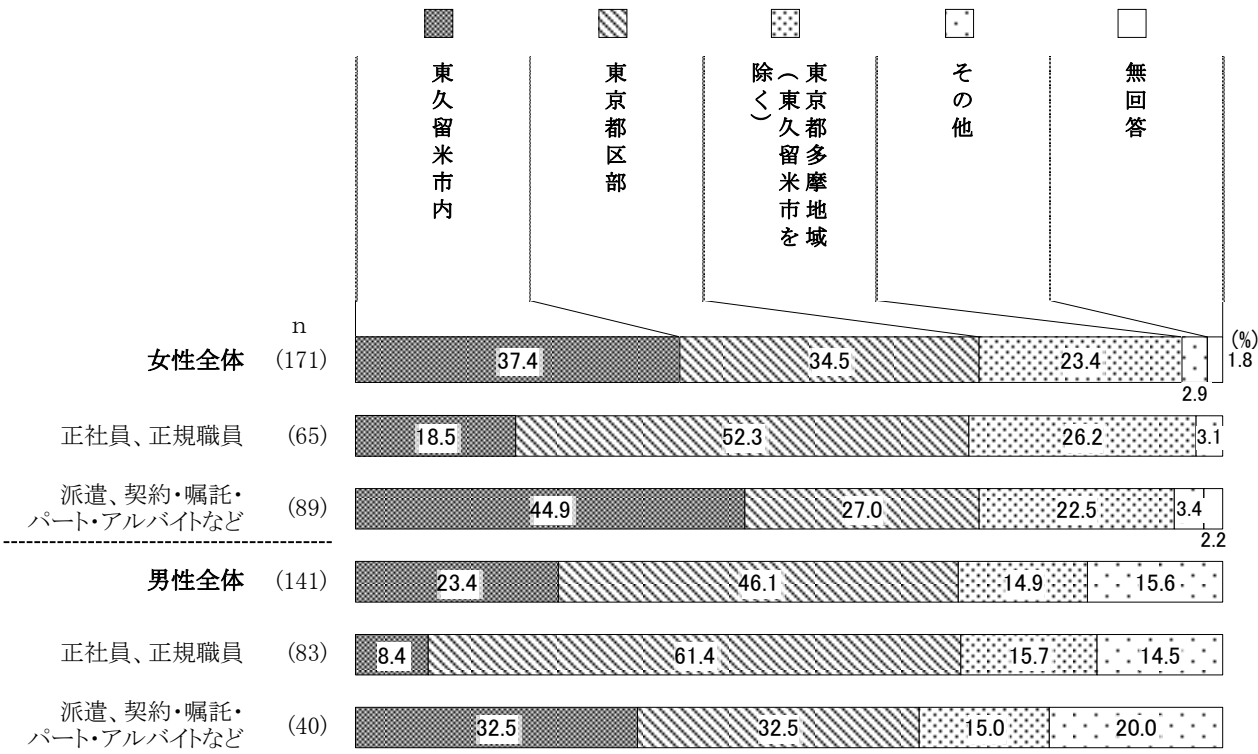
＜性・年代別／主な職業の職場の場所＞

性・年代別にみると、回答者数が少ないため参考程度となりますが、女性では40歳代以下、男性では60歳代以下で「東京都区部」が他のエリアより多くみられます。



＜性・働き方別／主な職業の職場の場所＞

性・働き方別にみると、「東京都区部」は男女ともに正社員、正規職員で高く、男性が6割台、女性が5割台となっています。「東久留米市内」は女性の派遣、契約・嘱託・パート・アルバイトなどで4割台となっています。

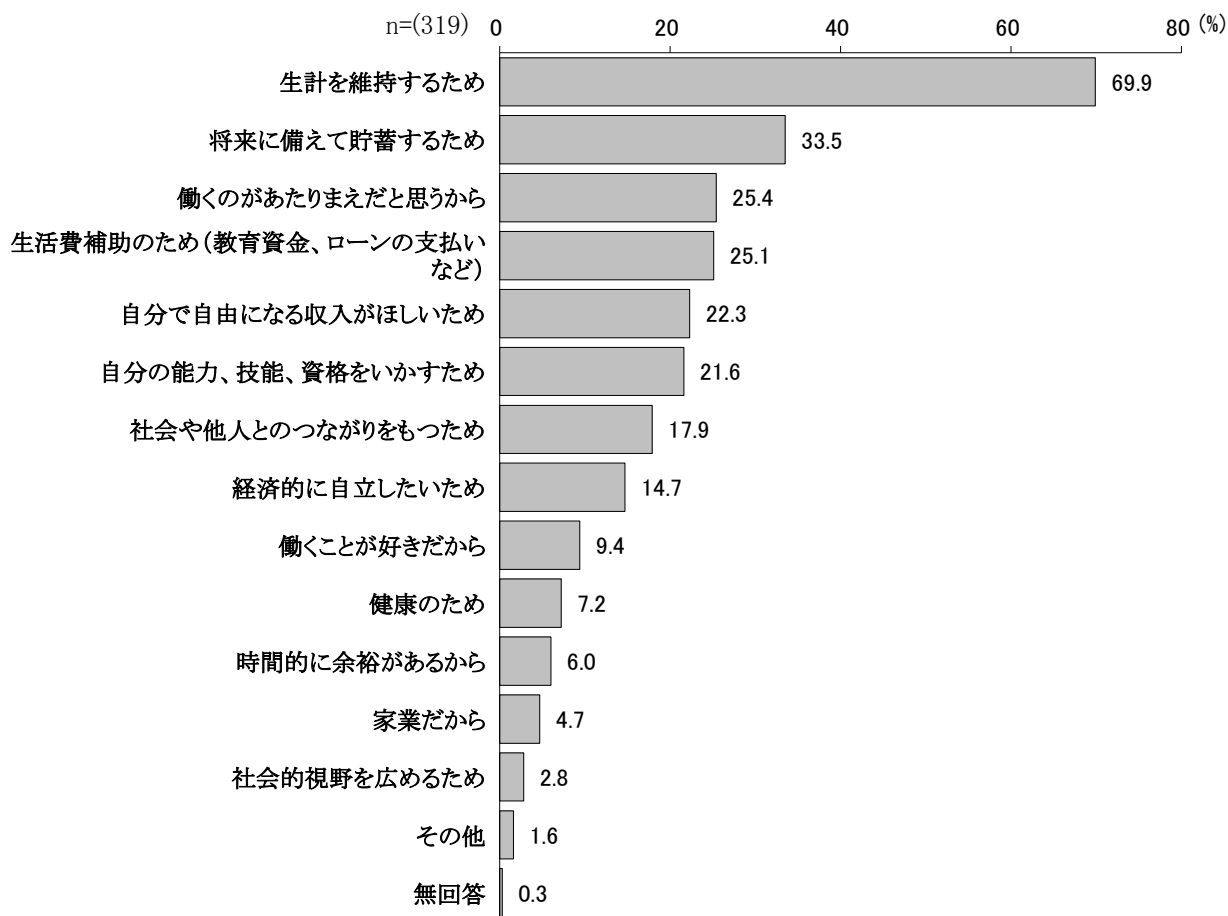


## （6）働いている理由

（問5で「自営業主」、「家族従業（家業手伝い）」、「勤め（全日）」、「勤め（短時間）」とお答えの方）

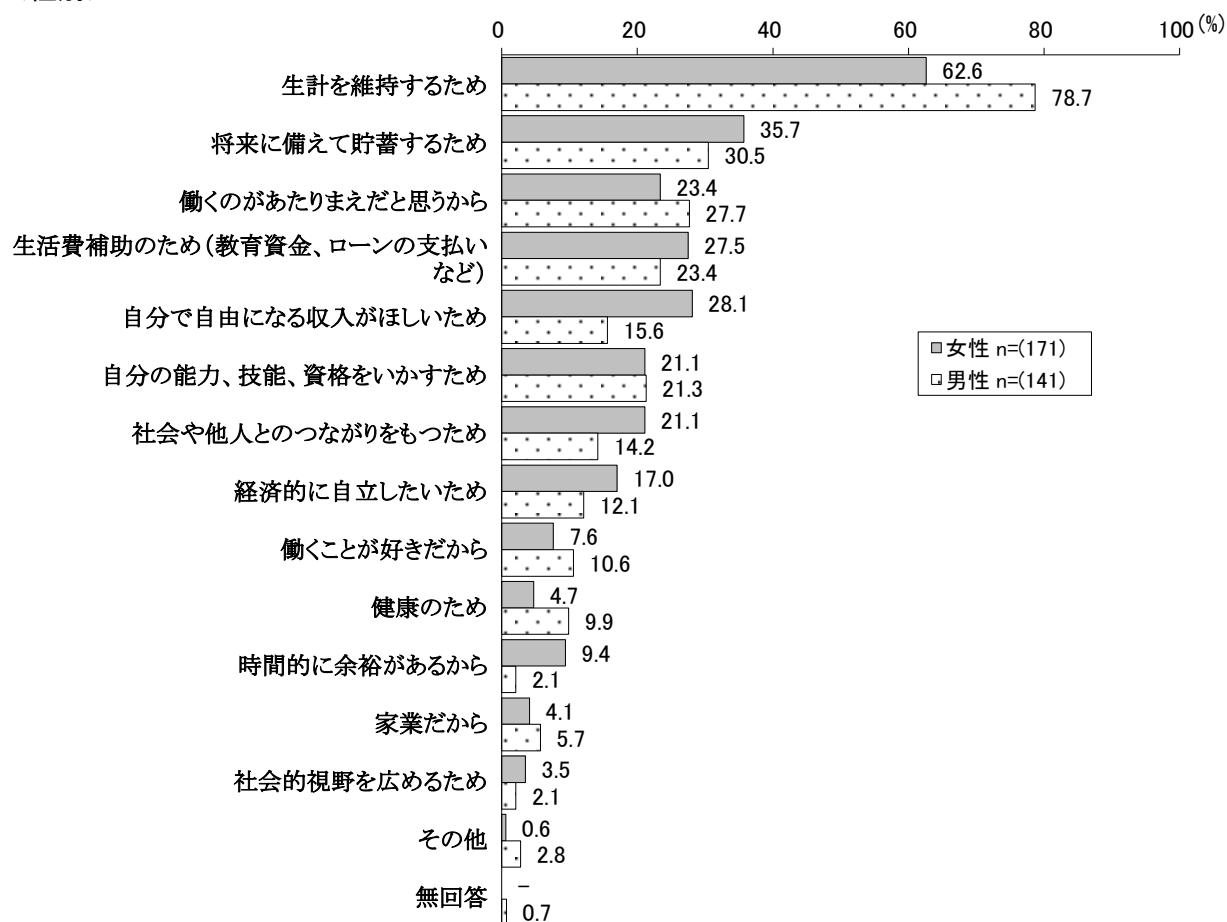
問5－3 あなたが、働いている理由はどのようなことでしょうか。3つまでお答えください。

<全体>



働いている理由としては、「生計を維持するため」が69.9%で最も高く、以下「将来に備えて貯蓄するため」(33.5%)、「働くのがあたりまえだと思うから」(25.4%)、「生活費補助のため（教育資金、ローンの支払いなど）」(25.1%)の順で続いています。

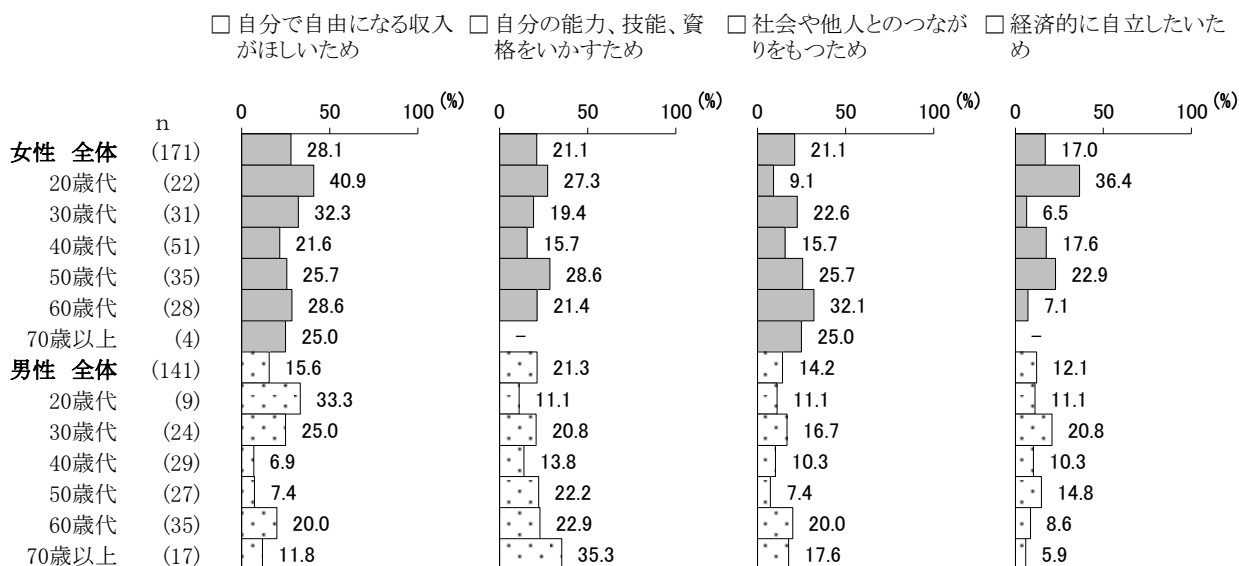
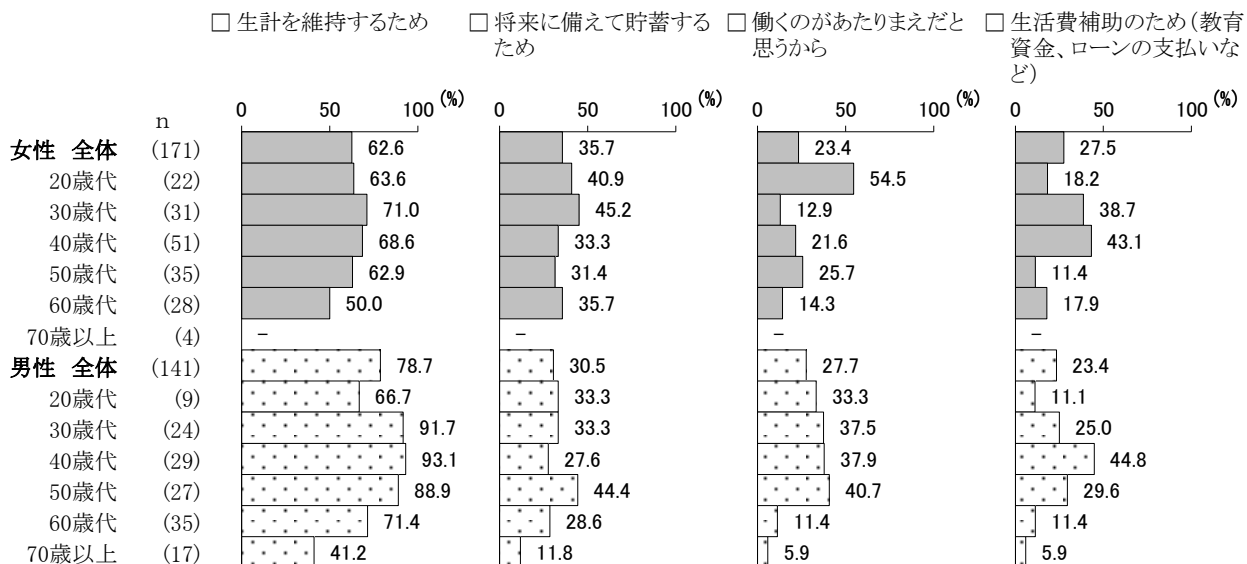
## &lt;性別&gt;



性別でみると、女性では「自分で自由になる収入がほしいため」が28.1%と、男性（15.6%）より高くなっています。一方、男性では「生計を維持するため」が78.7%と、女性（62.6%）より高くなっています。

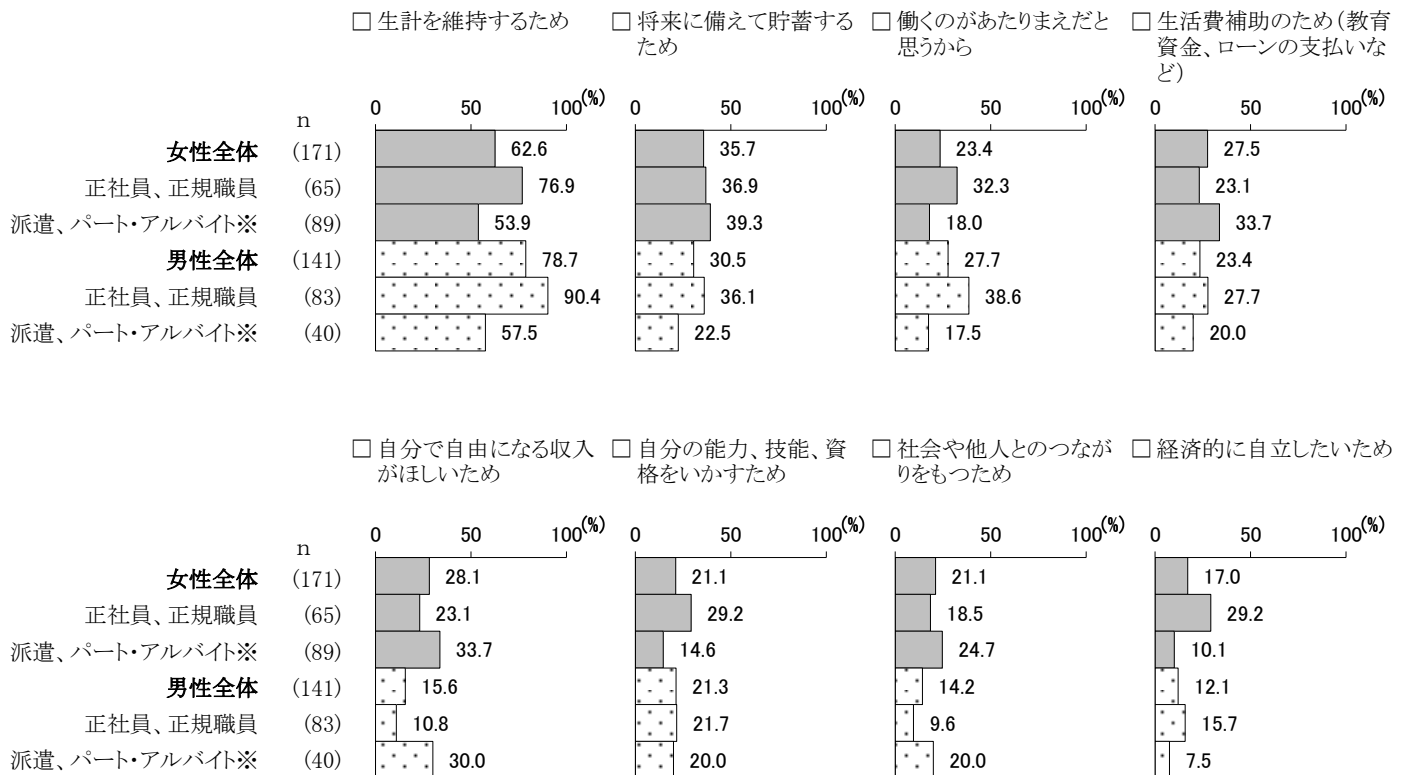
## ＜性・年代別＞

性・年代別にみると、回答者数が少ないため参考程度となりますが、「生活費補助のため（教育資金、ローンの支払いなど）」は女性の30歳代と40歳代、男性の40歳代で、「自分で自由になる収入がほしいため」は女性の20歳代と30歳代で3割から4割台と他の年代より高くなっています。



## ＜性・働き方別＞

性・働き方別にみると、「生計を維持するため」は男女ともに正社員、正規職員で高く、男性が9割台、女性が7割台となっています。「働くのがあたりまえだと思うから」は男女ともに正社員、正規職員で3割台と、派遣、契約・嘱託・パート・アルバイトなどよりも高くなっています。「経済的に自立したいため」は女性の正社員、正規職員で約3割と高くなっています。

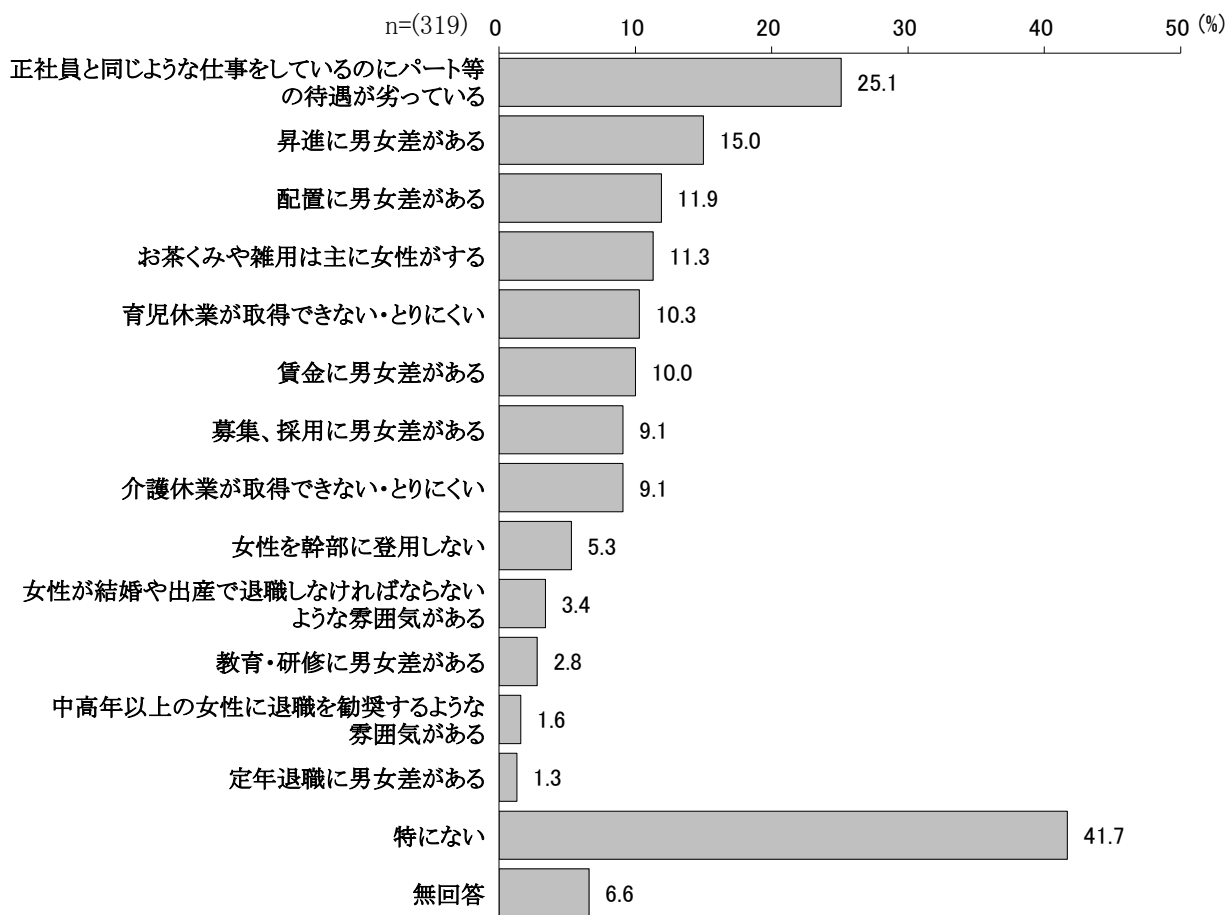


### （7）職場における仕事内容や待遇の問題点

（問5で「自営業主」、「家族従業（家業手伝い）」、「勤め（全日）」、「勤め（短時間）」とお答えの方）

問5－4 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で次のようなことがありますか。あてはまるものをすべてお答えください。

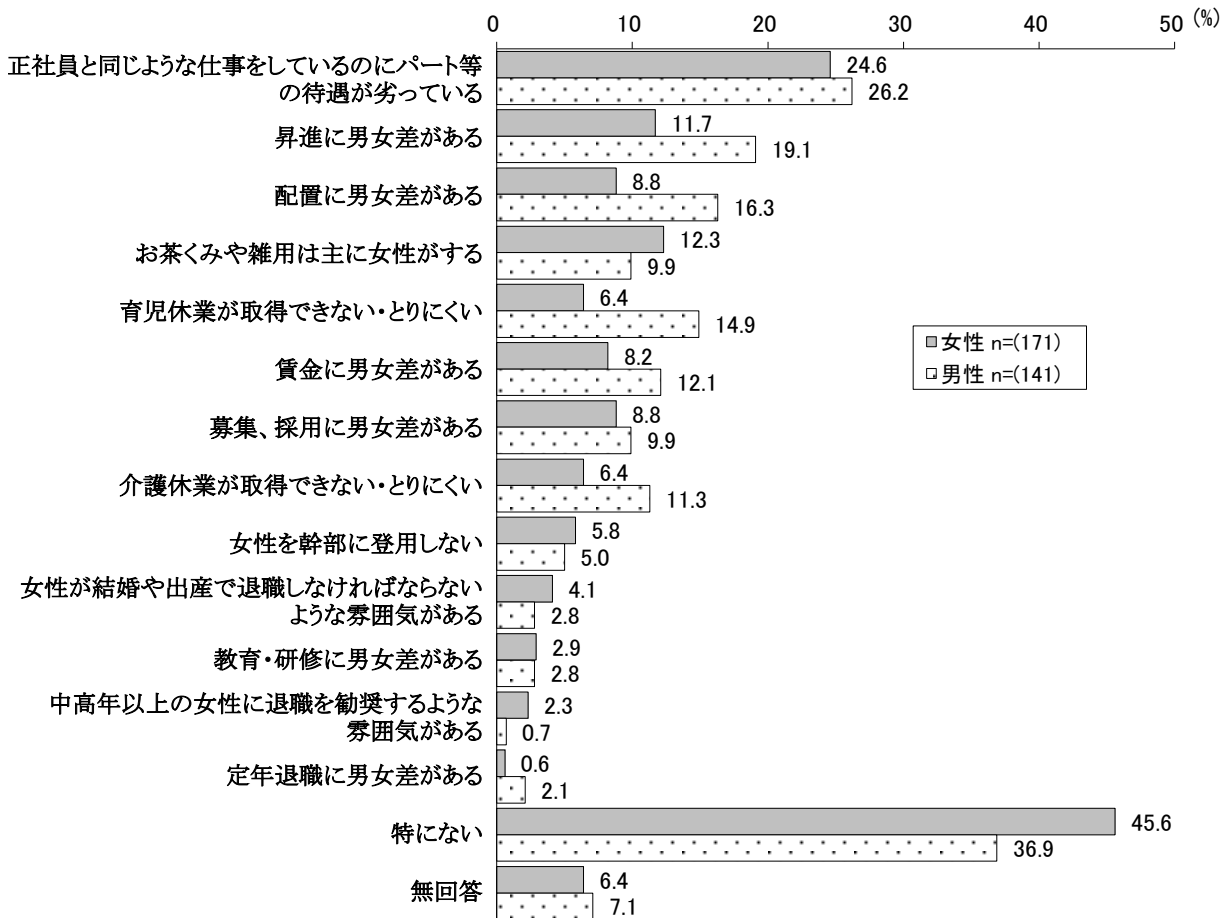
<全体>



職場における仕事内容や待遇の問題点としては、「正社員と同じような仕事をしているのにパート等の待遇が劣っている」が25.1%で最も高く、以下「昇進に男女差がある」（15.0%）、「配置に男女差がある」（11.9%）、「お茶くみや雑用は主に女性がする」（11.3%）の順で続いています。また、「特にない」が41.7%となっています。



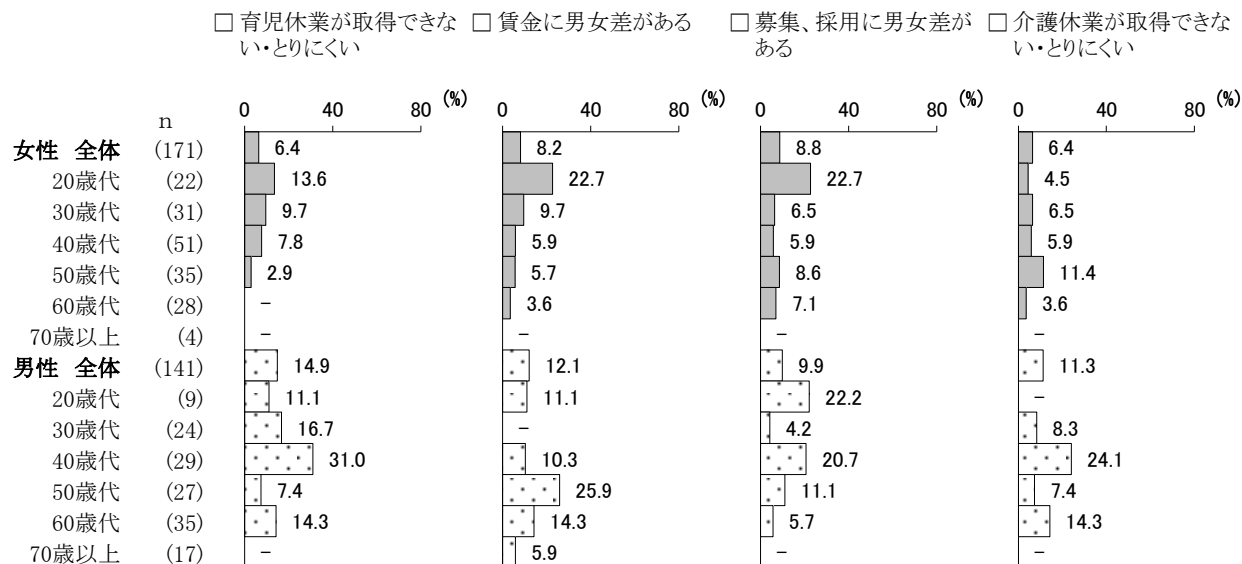
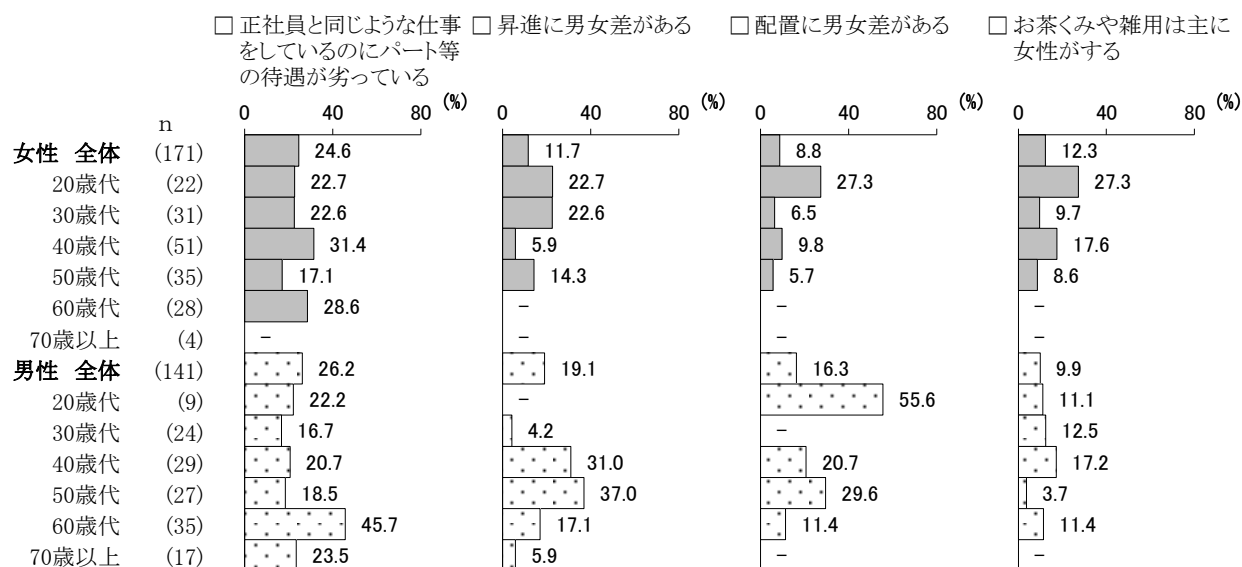
## &lt;性別&gt;



性別でみると、男性では「昇進に男女差がある」が19.1%と、女性（11.7%）より高くなっています。また、「育児休業が取得できない・とりにくい」が14.9%と、女性（6.4%）より高くなっています。

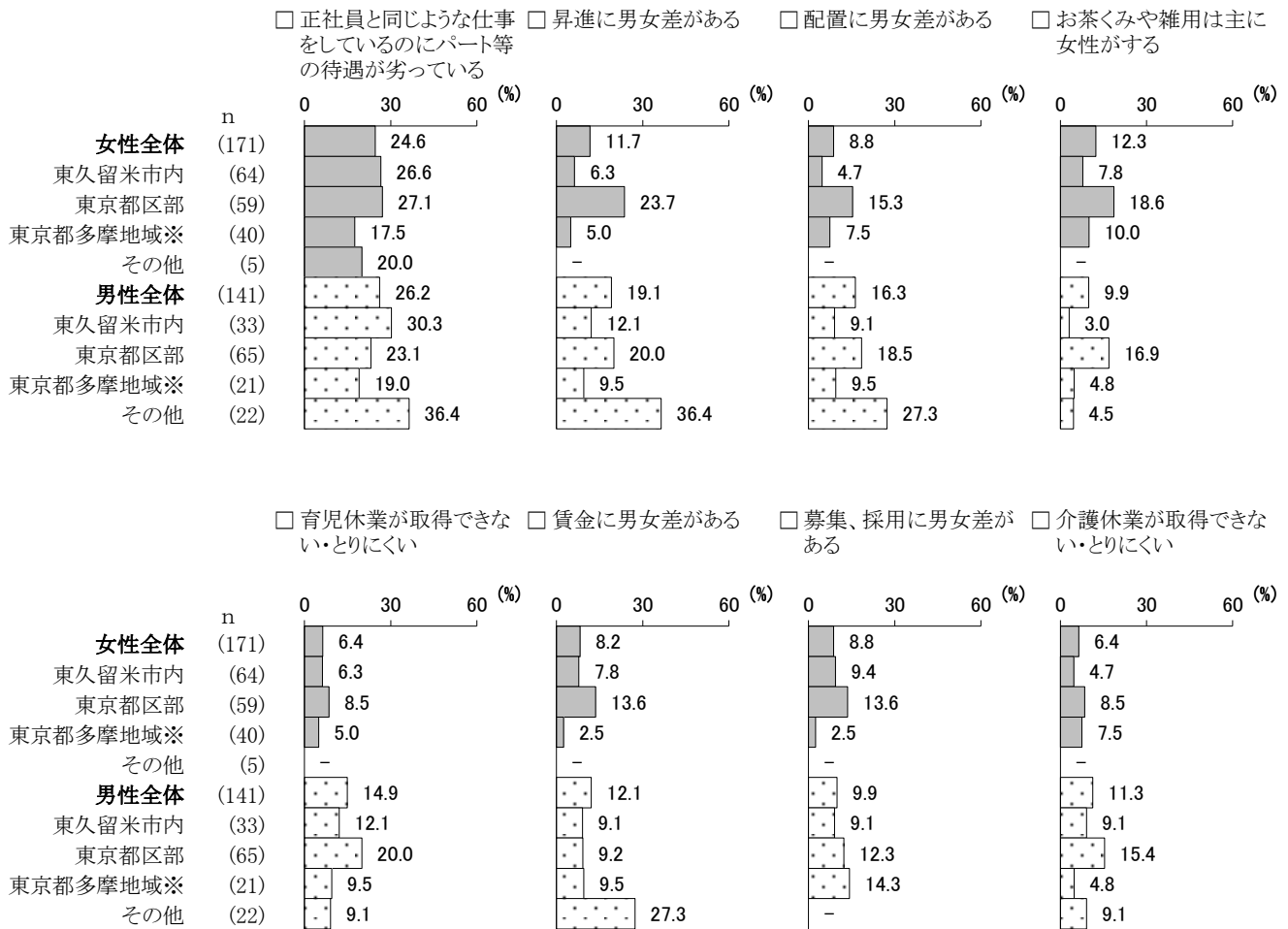
## ＜性・年代別＞

性・年代別にみると、回答者数が少ないため参考程度となりますが、「正社員と同じような仕事をしているのにパート等の待遇が劣っている」は女性の40歳代、男性の60歳代で3割から4割台、「昇進に男女差がある」は男性の40歳代と50歳代で3割台と他の年代より高くなっています。



## ＜性・職場別＞

性・職場別にみると、「正社員と同じような仕事をしているのにパート等の待遇が劣っている」は男性の東久留米市内で3割台、「昇進に男女差がある」は男女ともに東京都区部で2割台と他の職場より高くなっています。「育児休業が取得できない・とりにくい」は男性の東京都区部で2割と高くなっています。

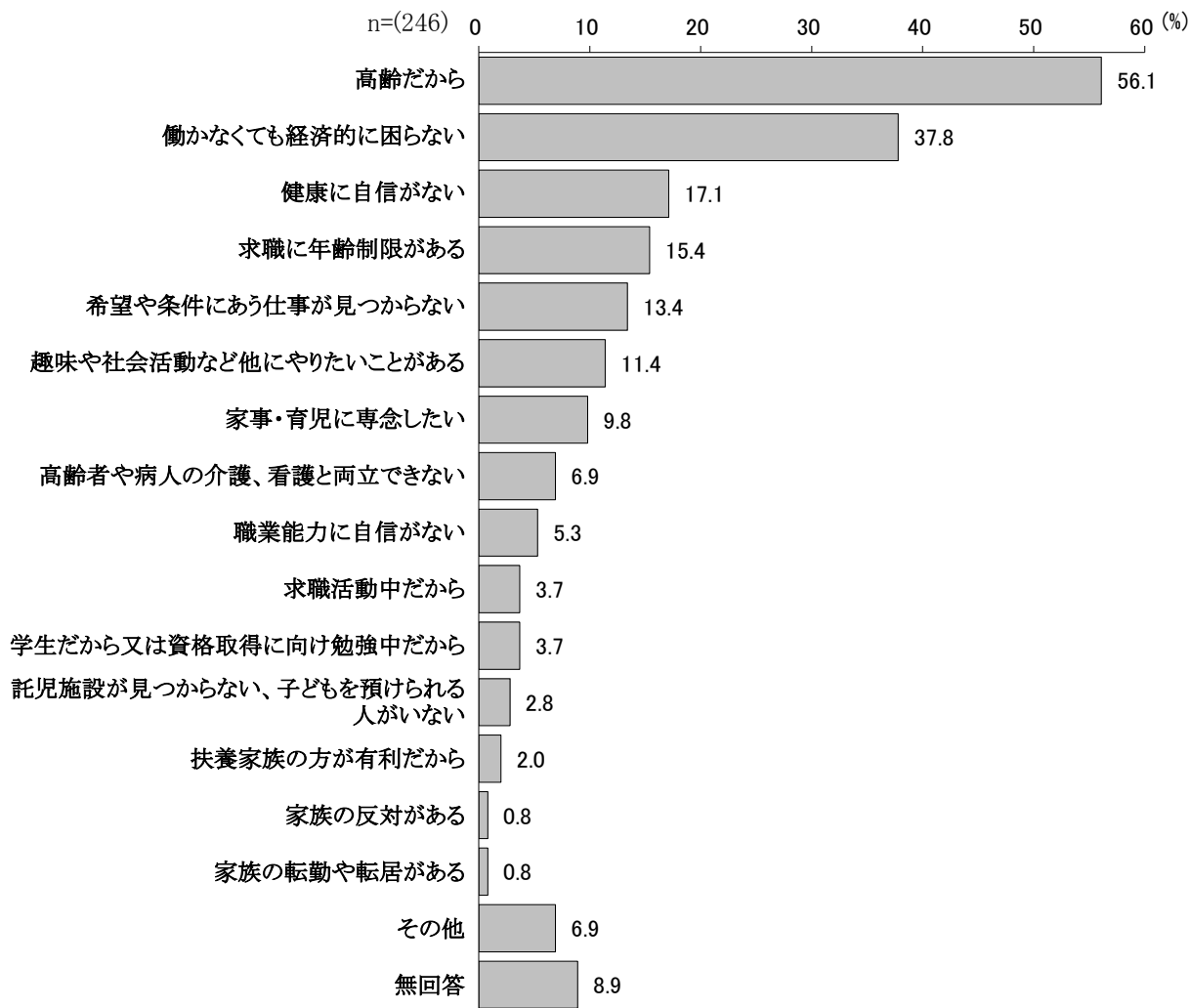


(8) 現在働いていない理由

(問5で「家事専業」、「学生」、「無職」とお答えの方に)

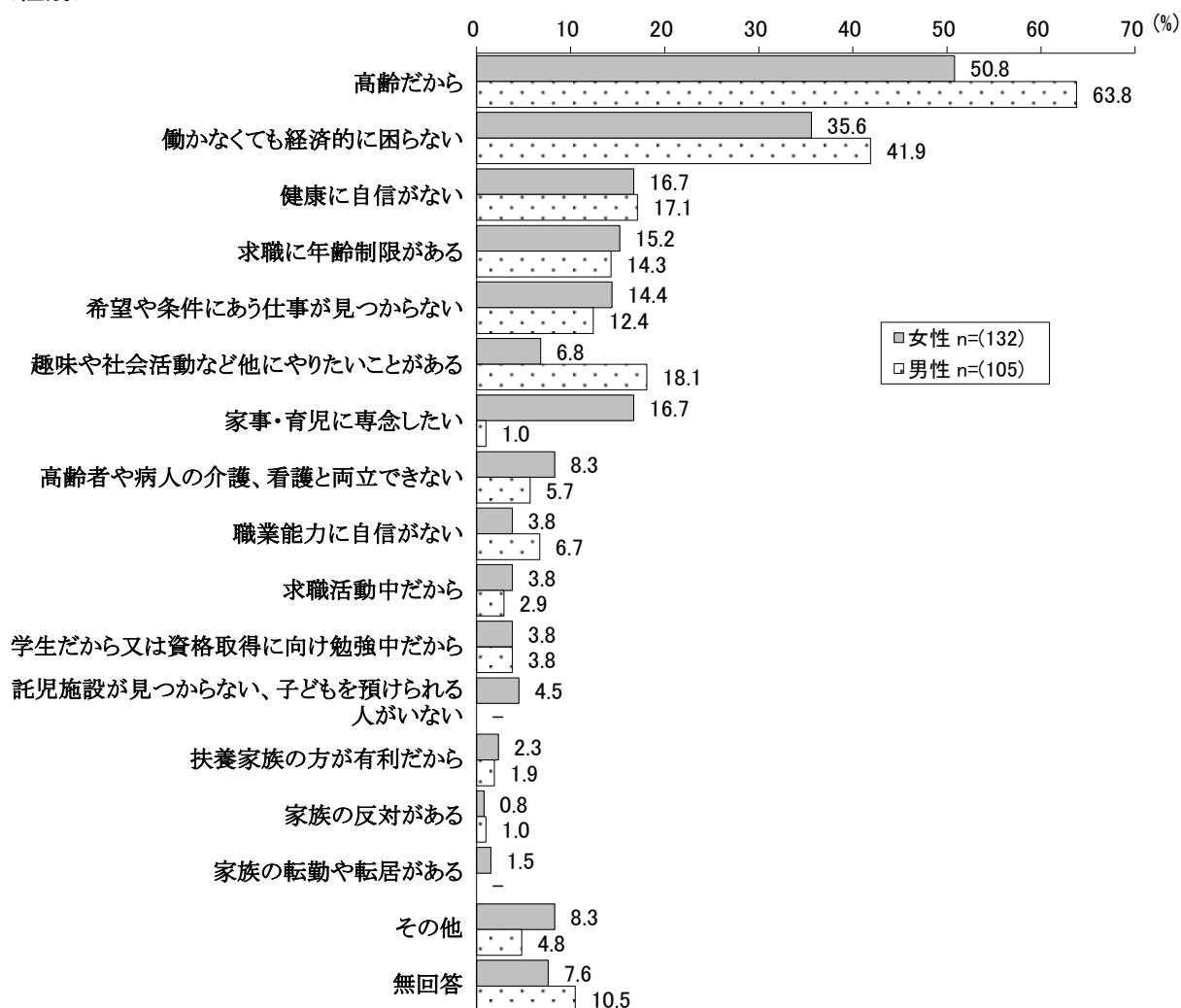
問5-5 あなたが現在働いていない理由はどのようなことでしょうか。3つまでお答えください。

<全体>



現在働いていない理由としては、「高齢だから」が56.1%で最も高く、以下「働かなくても経済的に困らない」(37.8%)、「健康に自信がない」(17.1%)、「求職に年齢制限がある」(15.4%)の順で続いています。

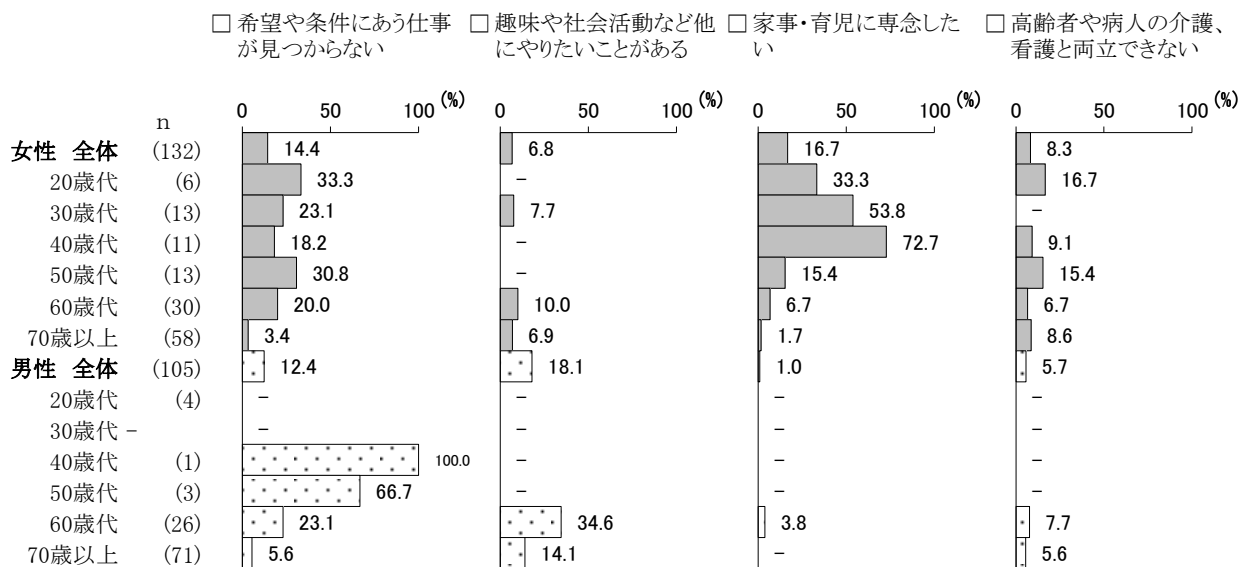
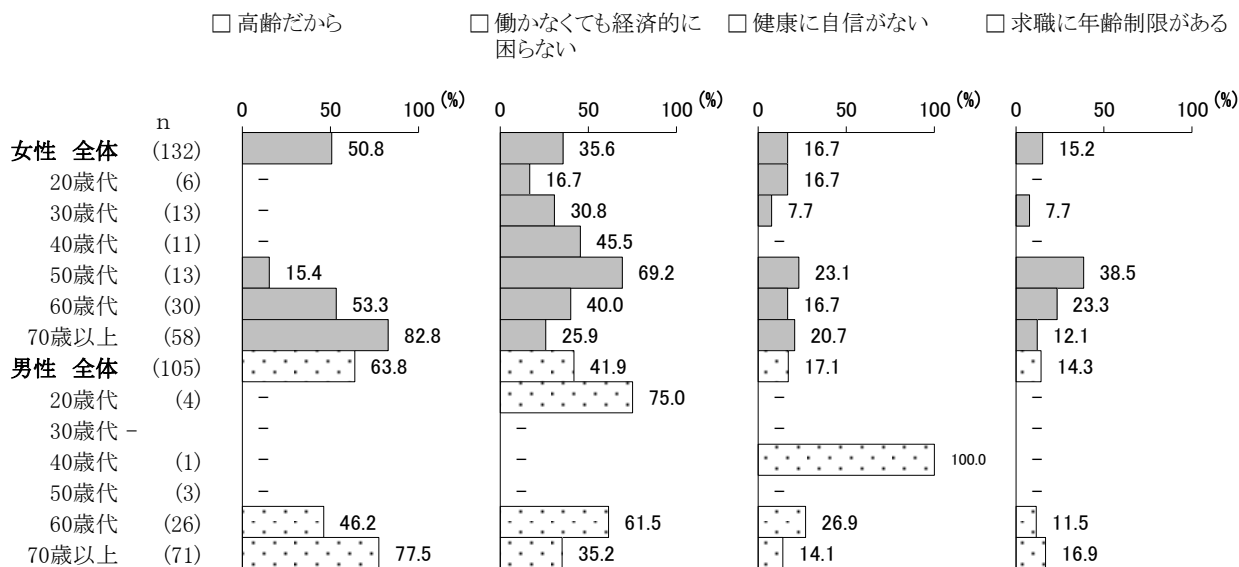
## &lt;性別&gt;



性別でみると、女性では「家事・育児に専念したい」が16.7%と、男性（1.0%）より高くなっています。一方、男性では「高齢だから」が63.8%と、女性（50.8%）より高くなっています。

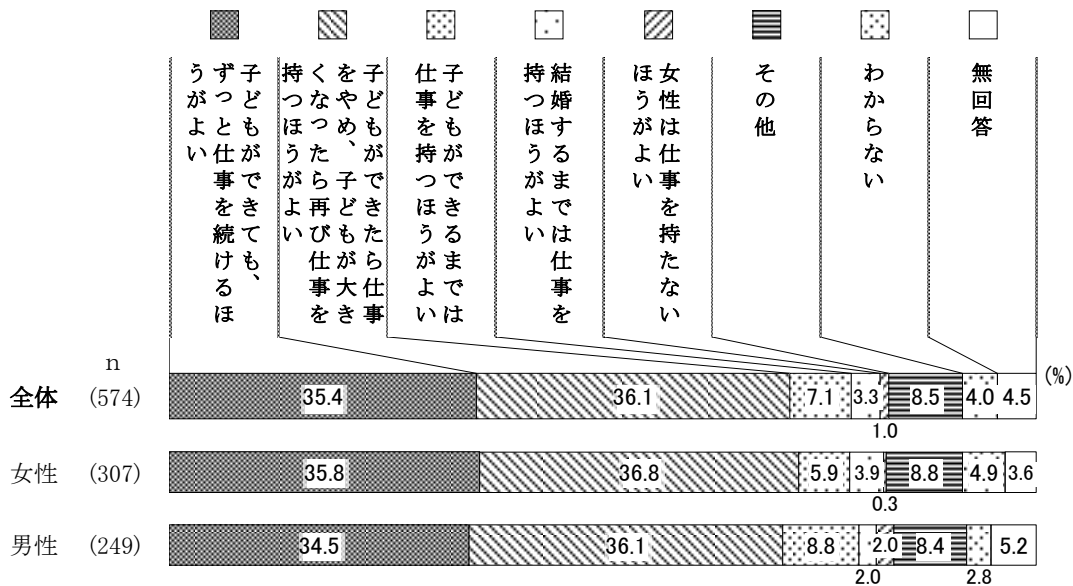
<性・年代別>

性・年代別にみると、回答者数が少ないため参考程度となりますが、働いていない方は60歳以上で多く、「高齢だから」という理由の他に、「働かなくても経済的に困らない」が比較的高くなっています。



(9) 女性が仕事を持つことについて

問6 一般的に女性が仕事を持つことについて、あなたはどうお考えですか。

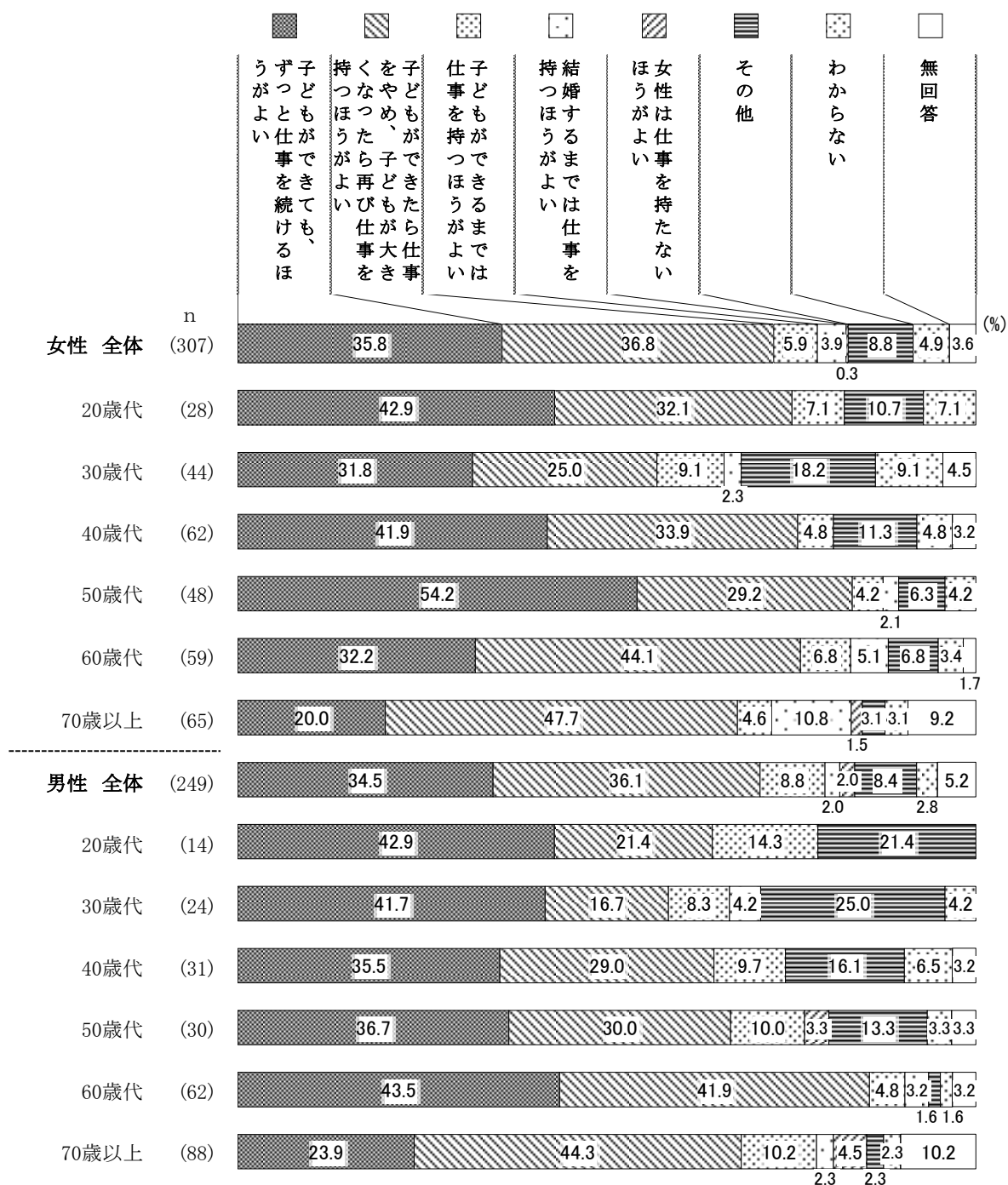


女性が仕事を持つことについて、全体では、「子どもができたらかつた仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を」が36.1%、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が35.4%でともに3割台となっています。

性別でみると、全体と同じく「子どもができたらかつた仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を」が男女ともに3割台となっており、大きな差はみられません。

## ＜性・年代別／女性が仕事を持つことについて＞

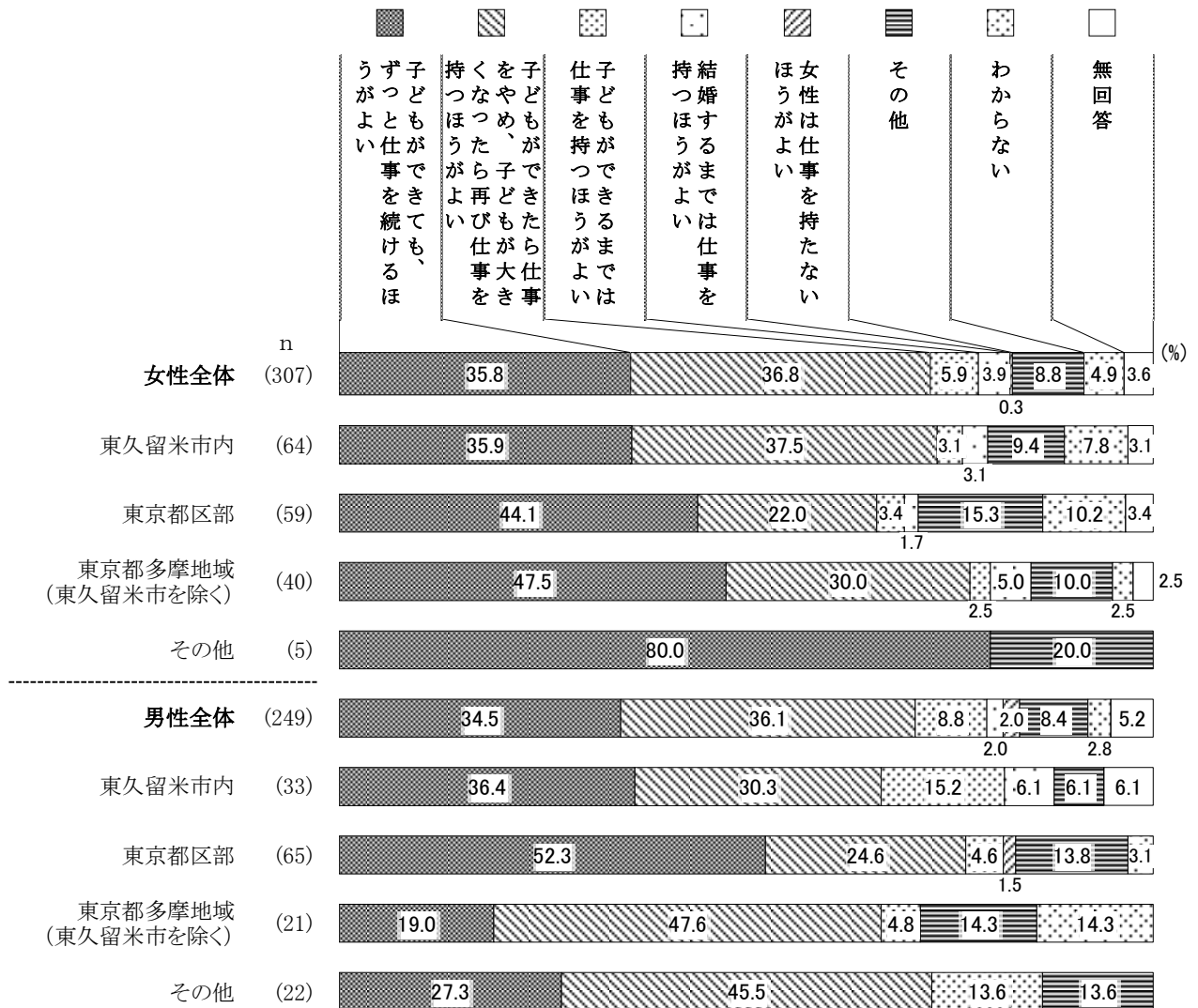
性・年代別にみると、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」は女性の50歳代以下、男性の60歳代以下で3割から5割台となっています。「子どもができたらか仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」は年代が上がるほど高くなる傾向があり、男女とも60歳代以上で4割台となっています。





### ＜性・職場別／女性が仕事を持つことについて＞

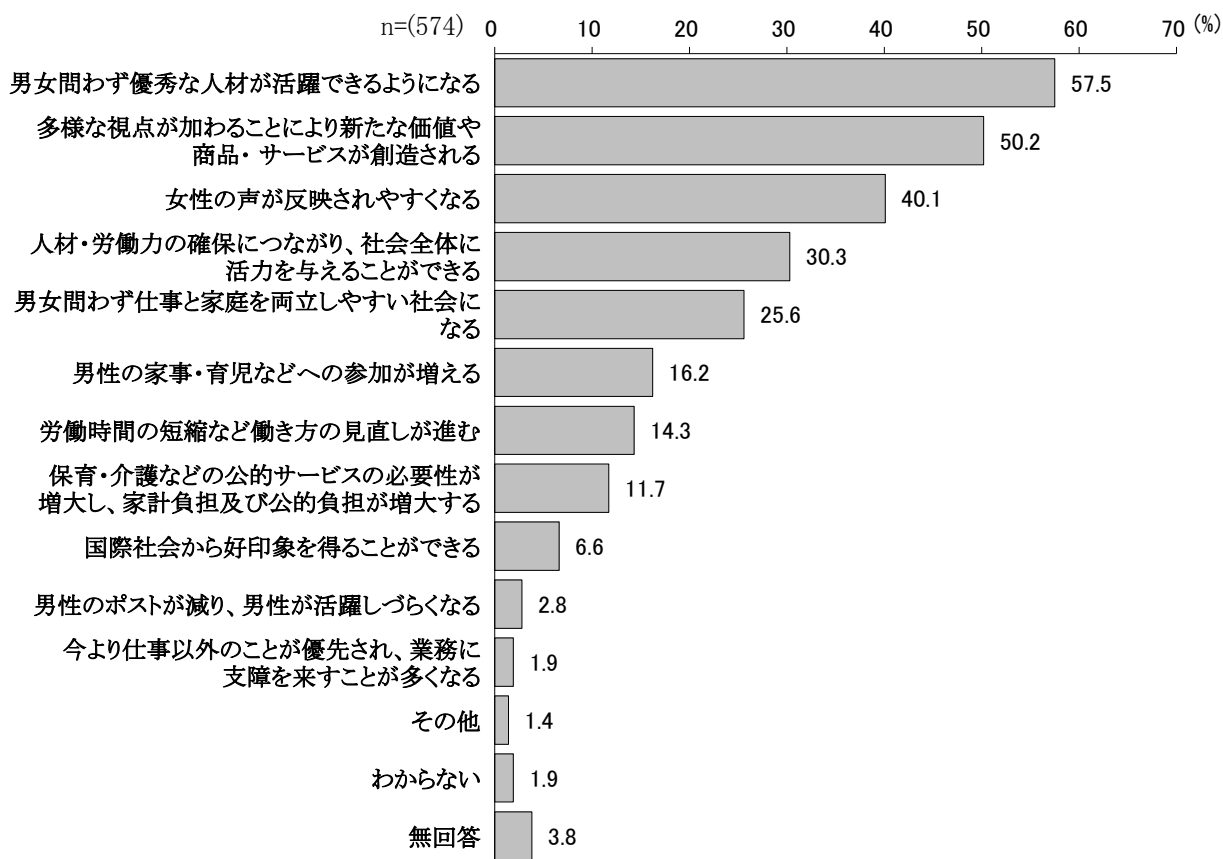
性・職場別にみると、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」は男性の東京都区部で5割台、女性の東京都区部、東京都多摩地域（東久留米市を除く）で4割台となっています。「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」は男女ともに東久留米市内、女性の東京都多摩地域（東久留米市を除く）で3割台となっています。



(10) 各分野で女性のリーダーが増える効果と影響

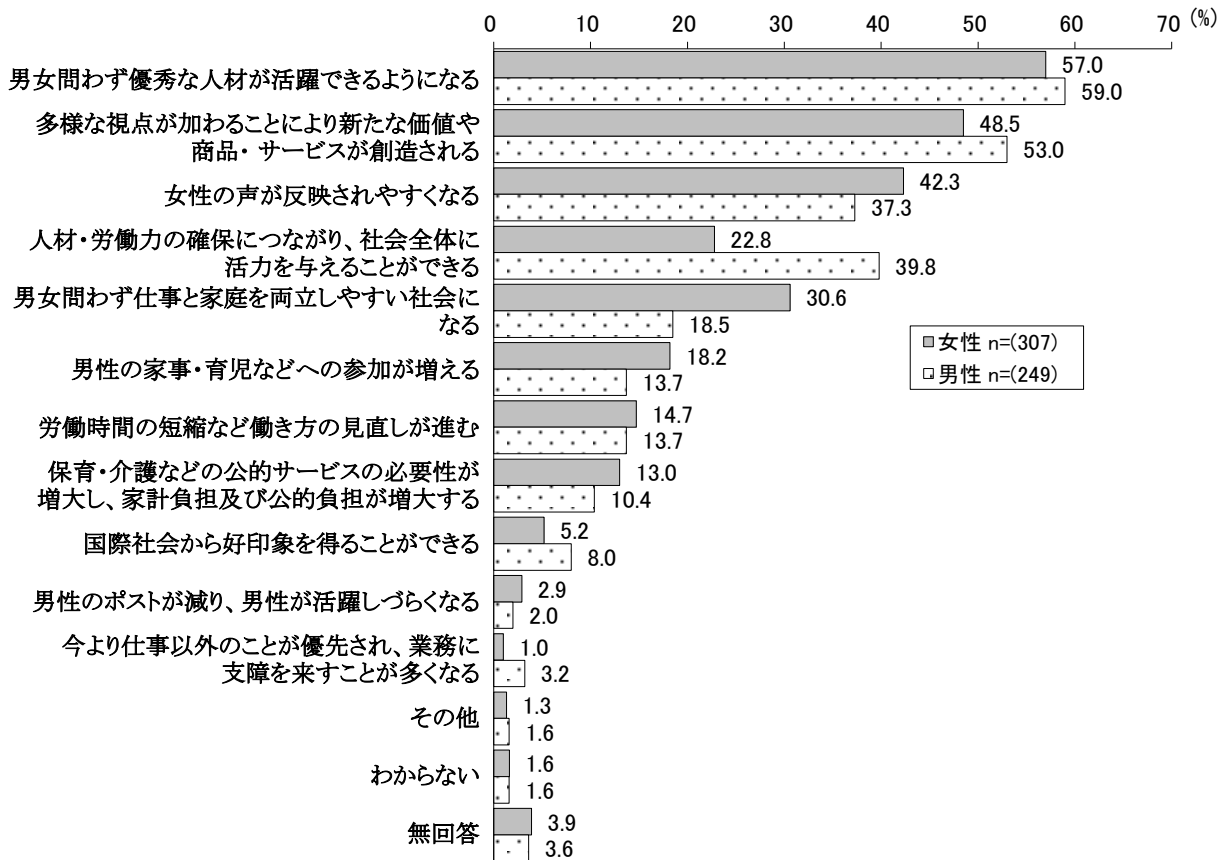
問7 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような効果と影響があると思いますか。3つまでお答えください。

<全体>



各分野で女性のリーダーが増える効果と影響としては、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が57.5%で最も高く、以下「多様な視点が加わるにより新たな価値や商品・サービスが創造される」(50.2%)、「女性の声が反映されやすくなる」(40.1%)、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」(30.3%)の順で続いています。

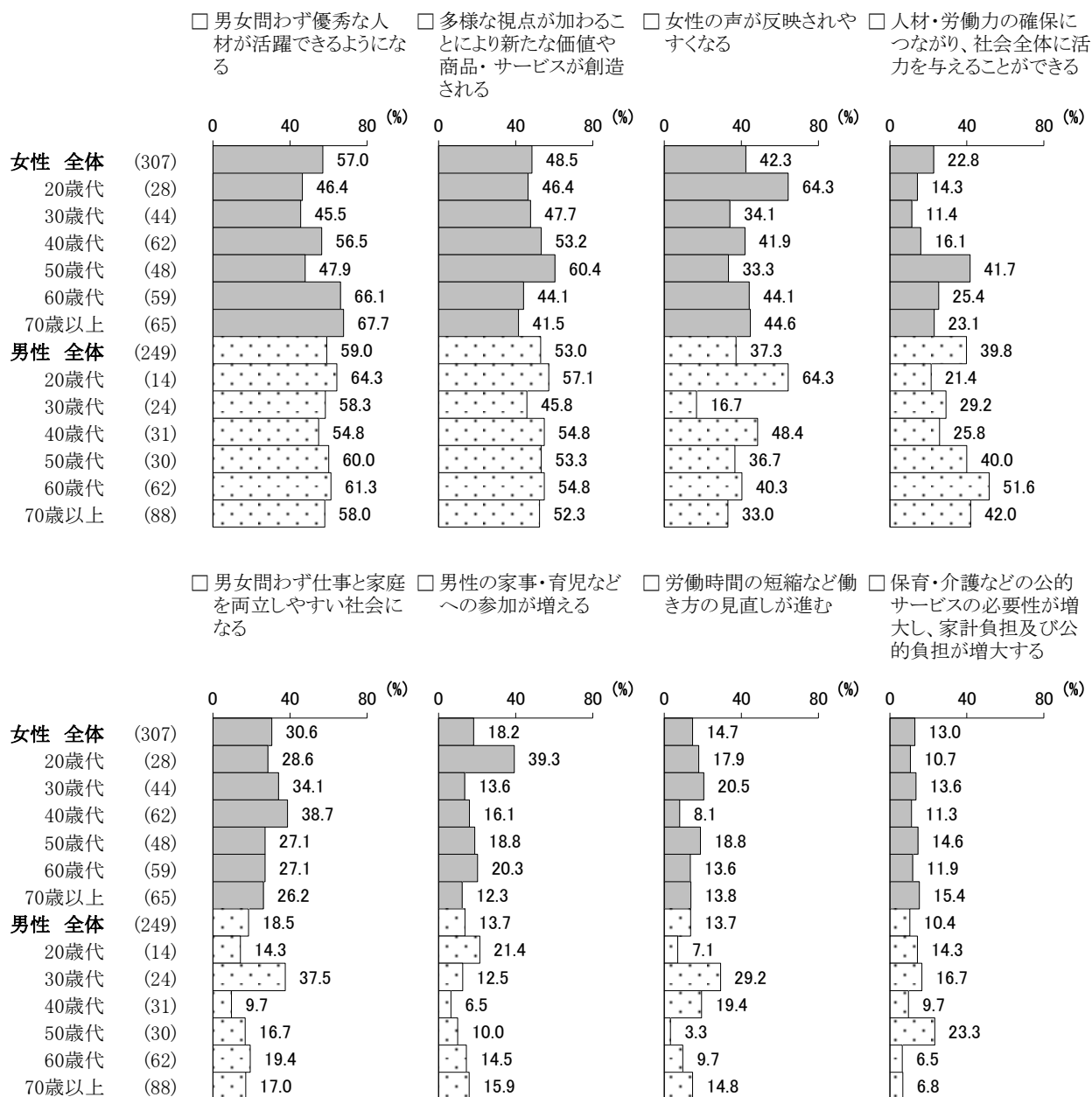
## &lt;性別&gt;



性別でみると、女性では「男女問わず仕事と家庭を両立しやすい社会になる」が30.6%と、男性（18.5%）より高くなっています。一方、男性では「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」が39.8%と、女性（22.8%）より高くなっています。

＜性・年代別＞

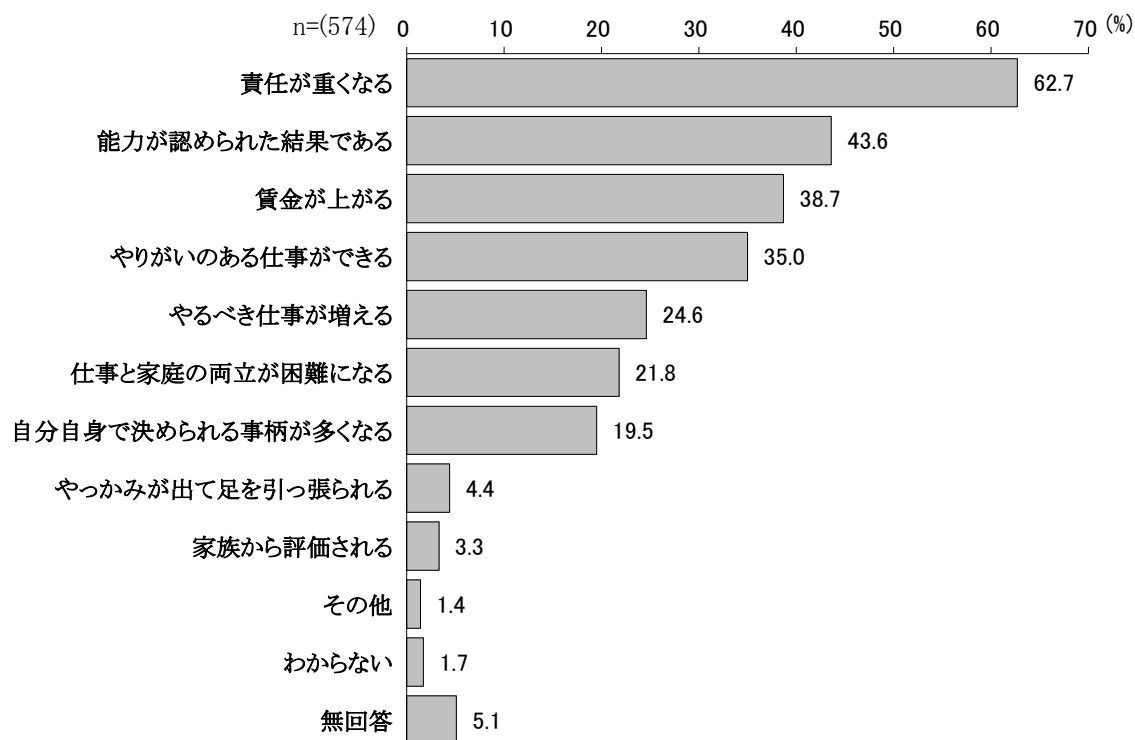
性・年代別にみると、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」は女性の50歳代、男性の50歳代以上で4割以上、「男女問わず仕事と家庭を両立しやすい社会になる」は女性30歳代と40歳代、男性の30歳代で3割台と他の年代より高くなっています。



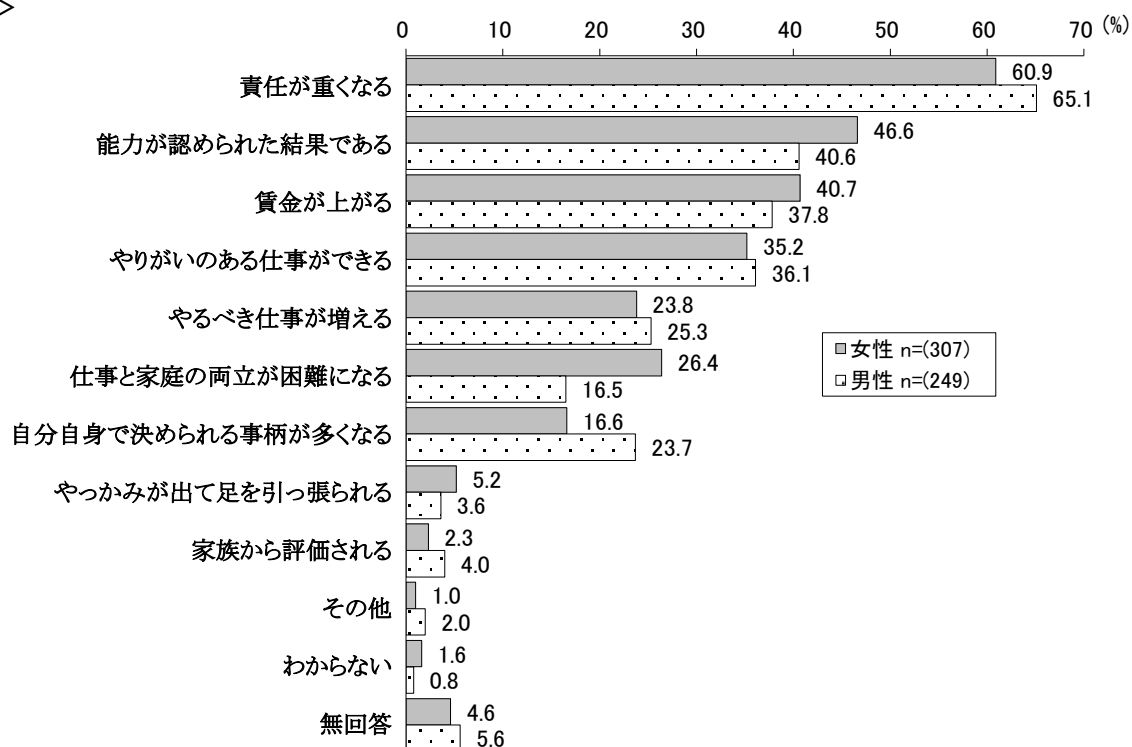
## (11) 管理職以上に昇進することについてのイメージ

問8 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。  
3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;



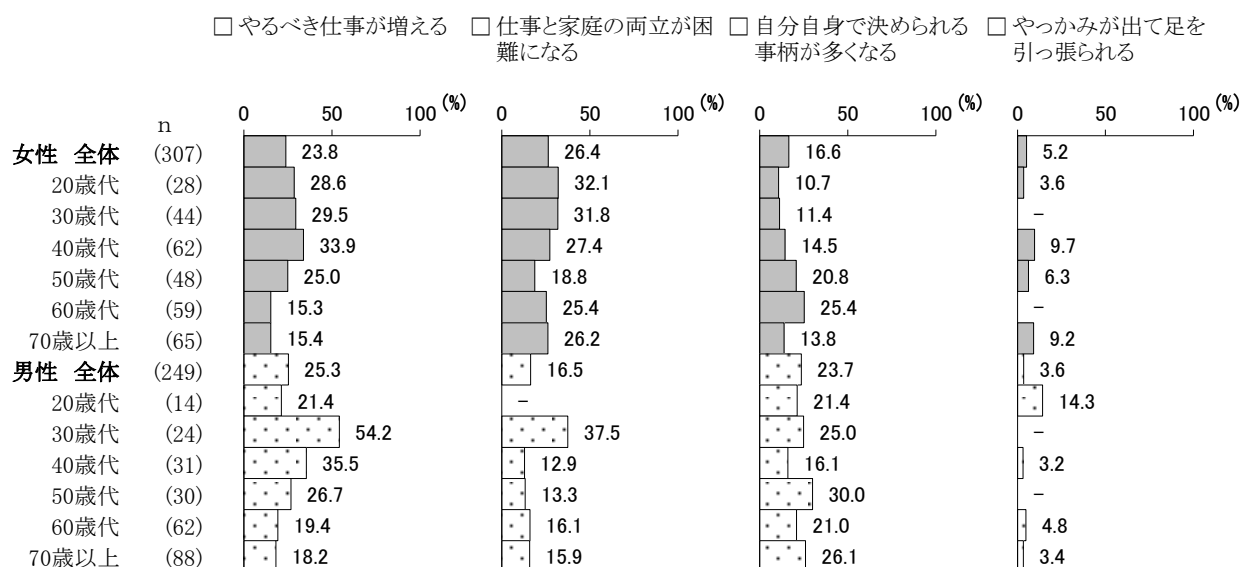
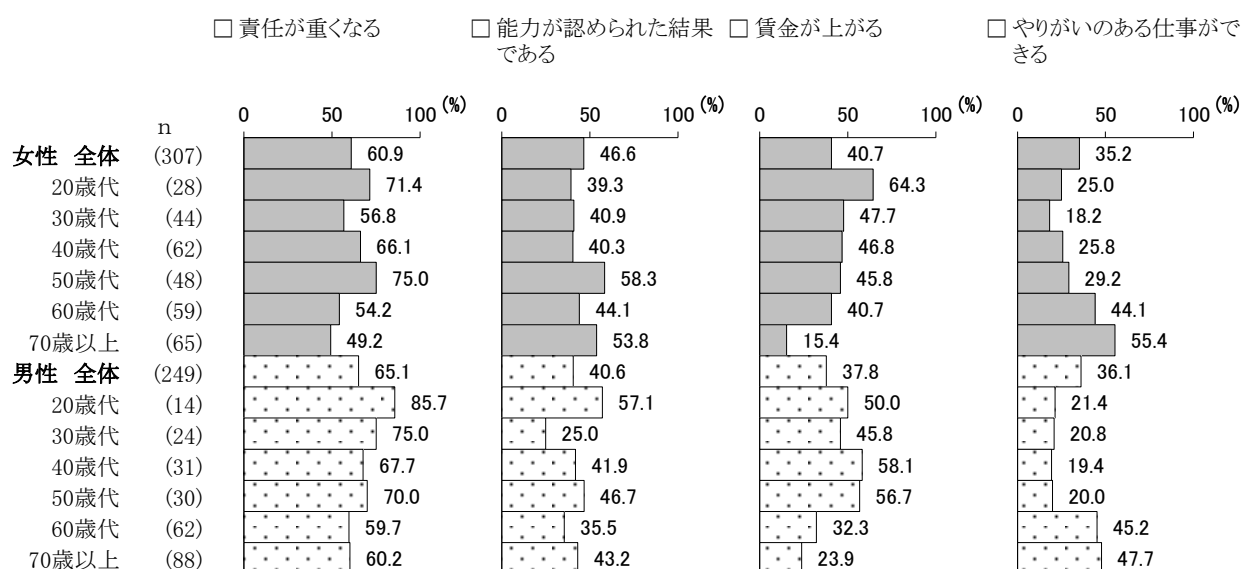
## 第2章 調査結果の詳細

管理職以上に昇進することについてのイメージとしては、「責任が重くなる」が62.7%で最も高く、以下「能力が認められた結果である」(43.6%)、「賃金が上がる」(38.7%)、「やりがいのある仕事ができる」(35.0%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」が26.4%と、男性(16.5%)より高くなっています。一方、男性では「自分自身で決められる事柄が多くなる」が23.7%と、女性(16.6%)より高くなっています。

### <性・年代別>

性・年代別にみると、「能力が認められた結果である」は女性の50歳代と70歳以上で、「賃金が上がる」は男性の40歳代と50歳代で、「やりがいのある仕事ができる」は女性の70歳以上で5割台、「仕事と家庭の両立が困難になる」は女性の30歳代以下、男性の30歳代で、「自分自身で決められる事柄が多くなる」は男性の50歳代で3割台と他の年代より高くなっています。

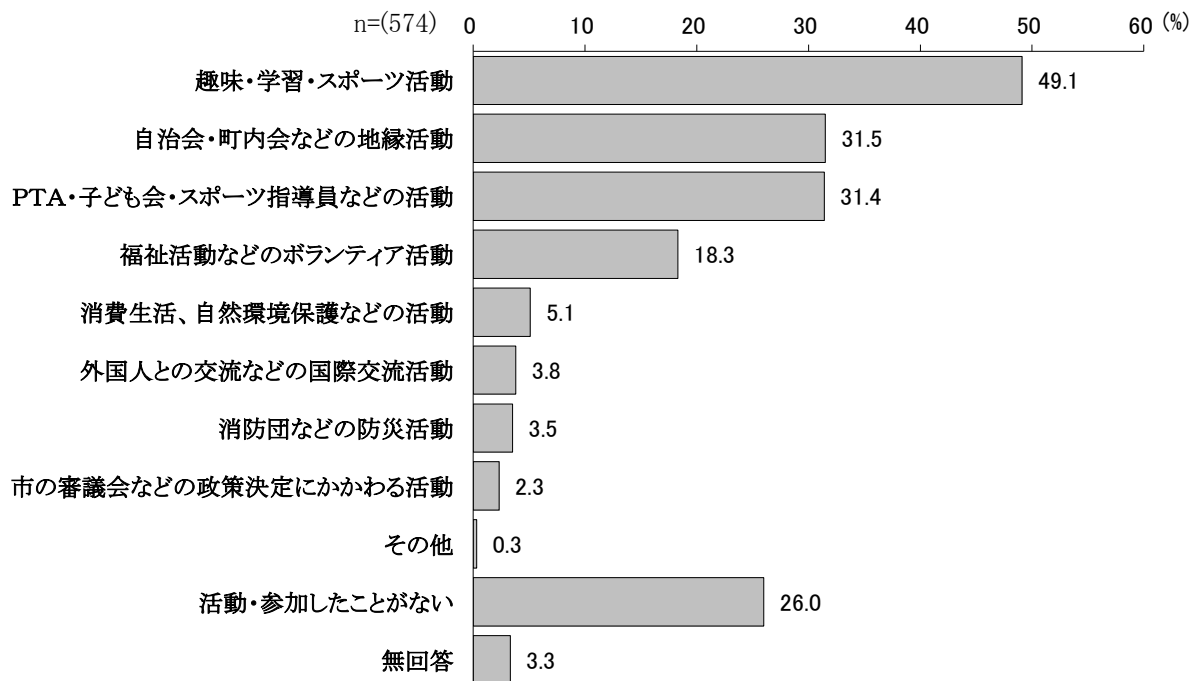


## 5. 地域活動

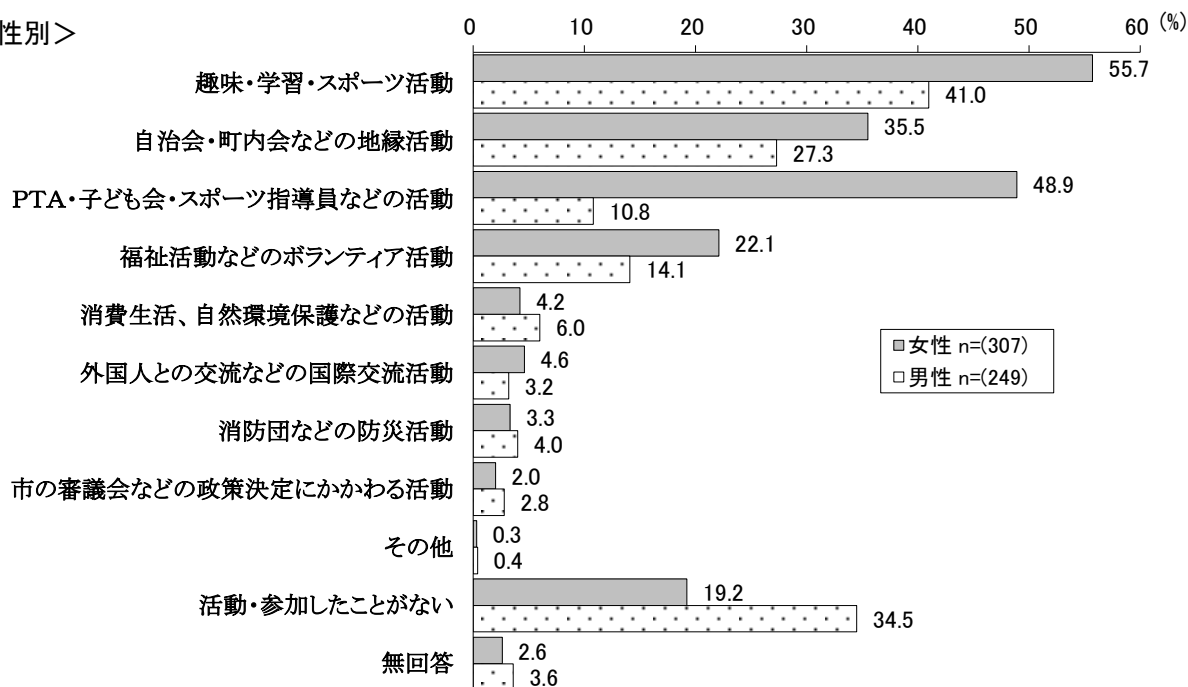
### (1) 地域活動への参加状況

問9 あなたは次にあげる活動に参加したことがありますか。あてはまるものをすべてお答えください。

#### <全体>



#### <性別>



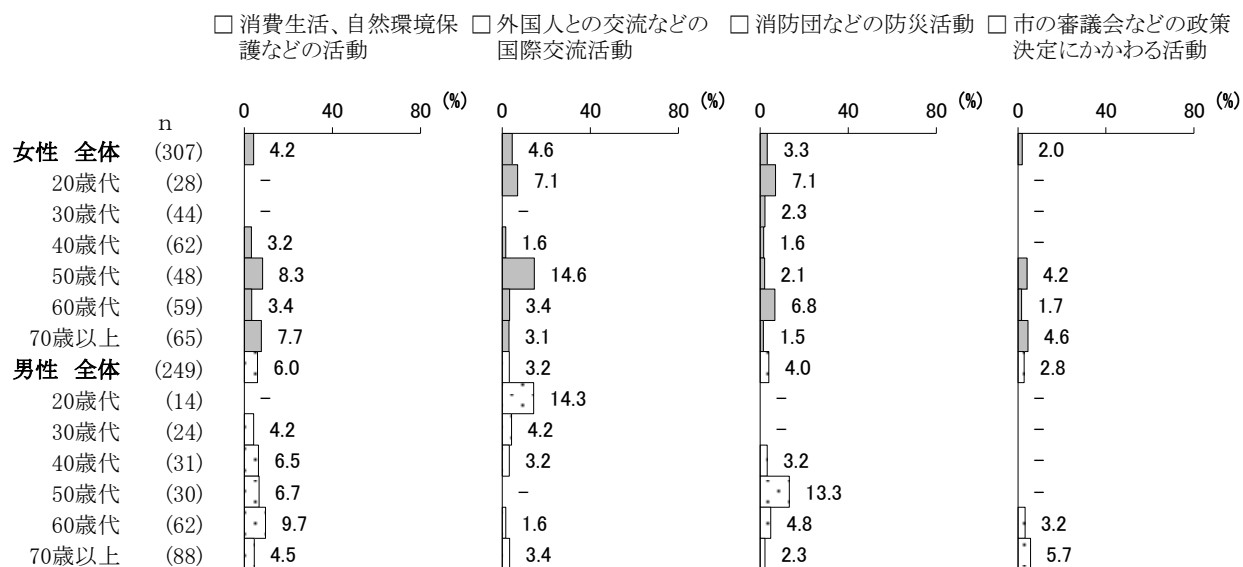
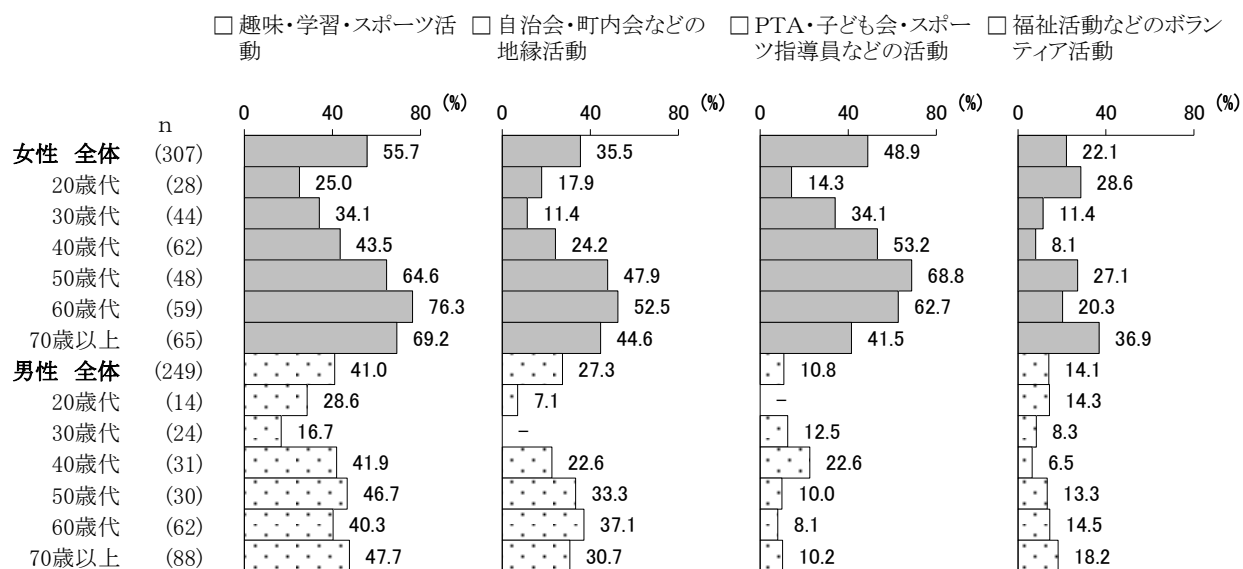
## 第2章 調査結果の詳細

地域活動への参加状況としては、「趣味・学習・スポーツ活動」が49.1%で最も高く、以下「自治会・町内会などの地縁活動」(31.5%)、「PTA・子ども会・スポーツ指導員などの活動」(31.4%)、「福祉活動などのボランティア活動」(18.3%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「PTA・子ども会・スポーツ指導員などの活動」が48.9%と、男性(10.8%)より高くなっています。一方、男性では「活動・参加したことがない」が34.5%と、女性(19.2%)より高くなっています。

### <性・年代別>

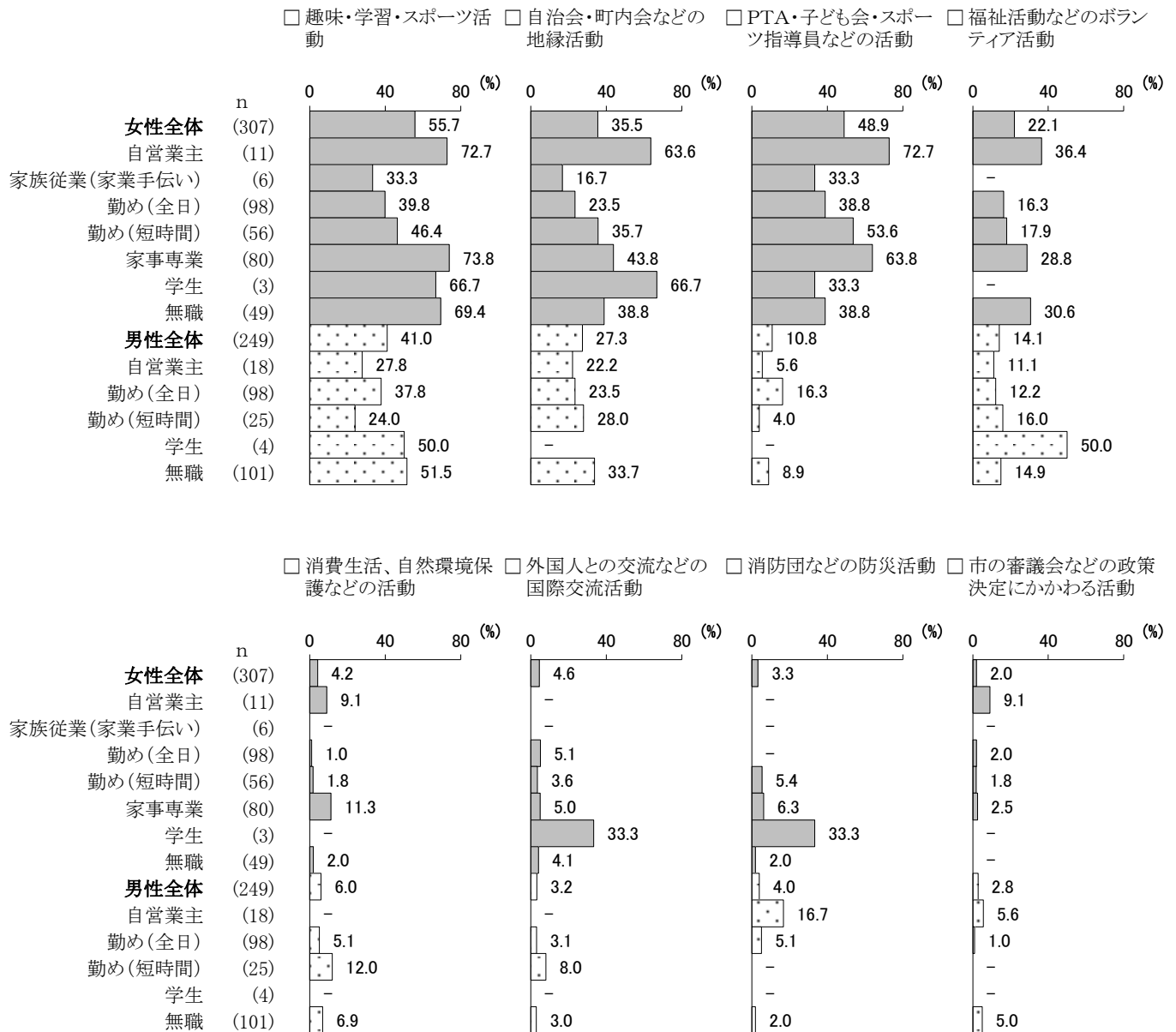
性・年代別にみると、「自治会・町内会などの地縁活動」は女性の60歳代で、「PTA・子ども会・スポーツ指導員などの活動」は女性の40歳代から60歳代で5割から6割台と他の年代より高くなっています。





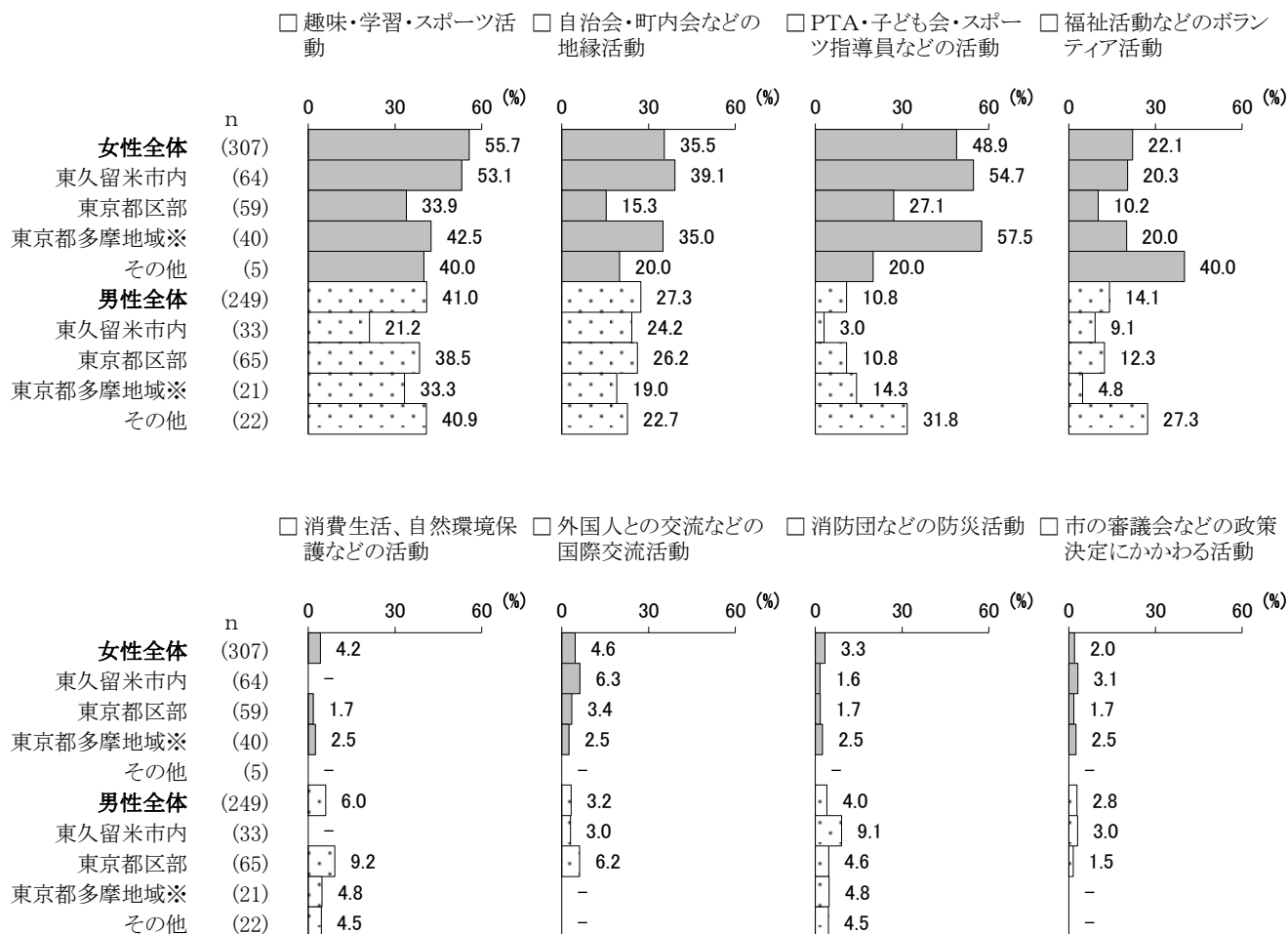
## ＜性・職業別＞

性・職業別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」は女性の家事専業で7割台、「PTA・子ども会・スポーツ指導員などの活動」は女性の家事専業で6割台、勤め（短時間）で5割台と、他の職業より高くなっています。



<性・職場別>

性・職場別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」は女性の東久留米市内で5割台、「PTA・子ども会・スポーツ指導員などの活動」は女性の東久留米市内、東京都多摩地域（東久留米市を除く）で5割台と、他の職場より高くなっています。

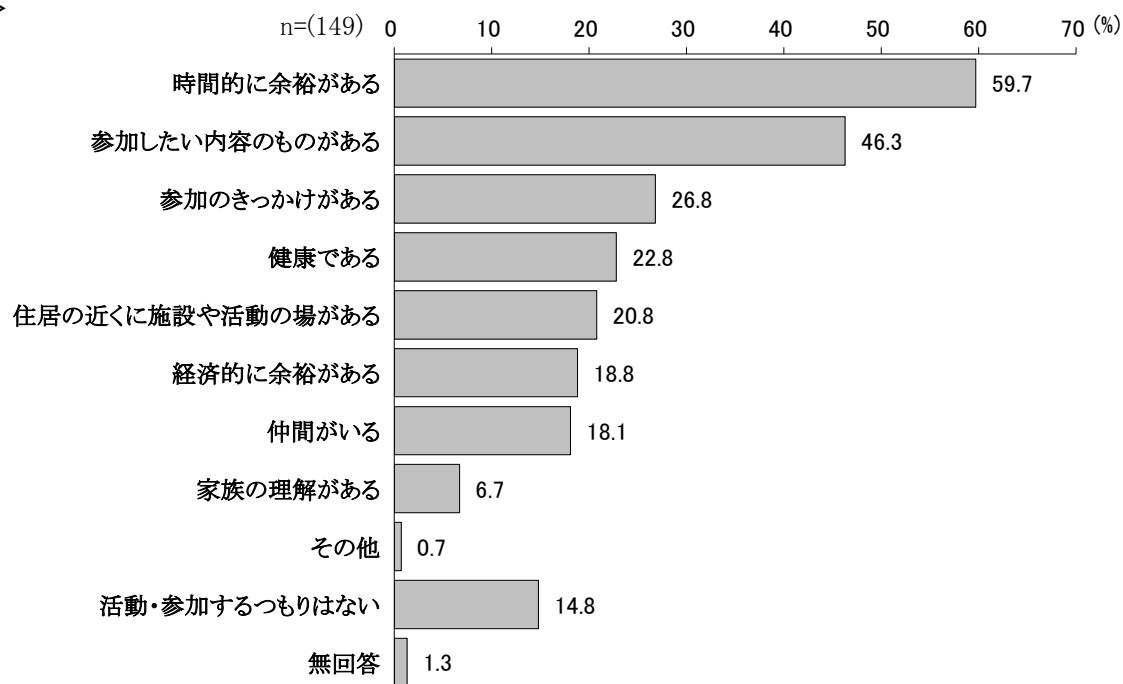


## (2) 地域の活動や行事に参加しようとする場合に必要なこと

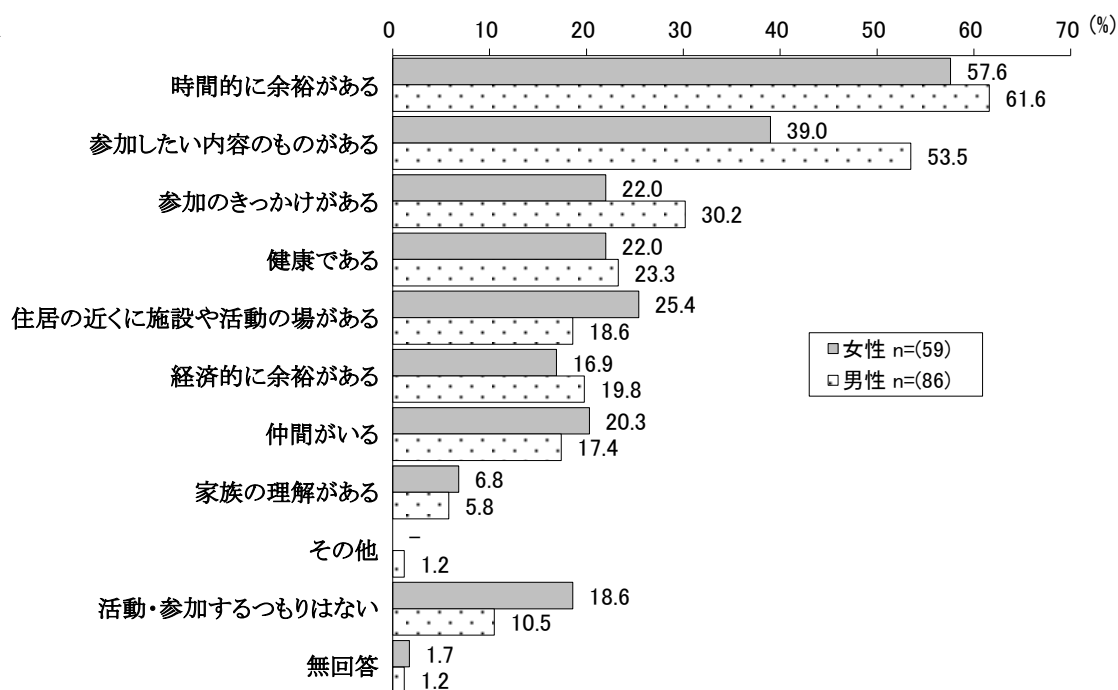
(問9で「活動・参加したことがない」とお答えの方)

問10 今後、あなたが地域の活動や行事に参加しようとする場合に、必要なことを3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;



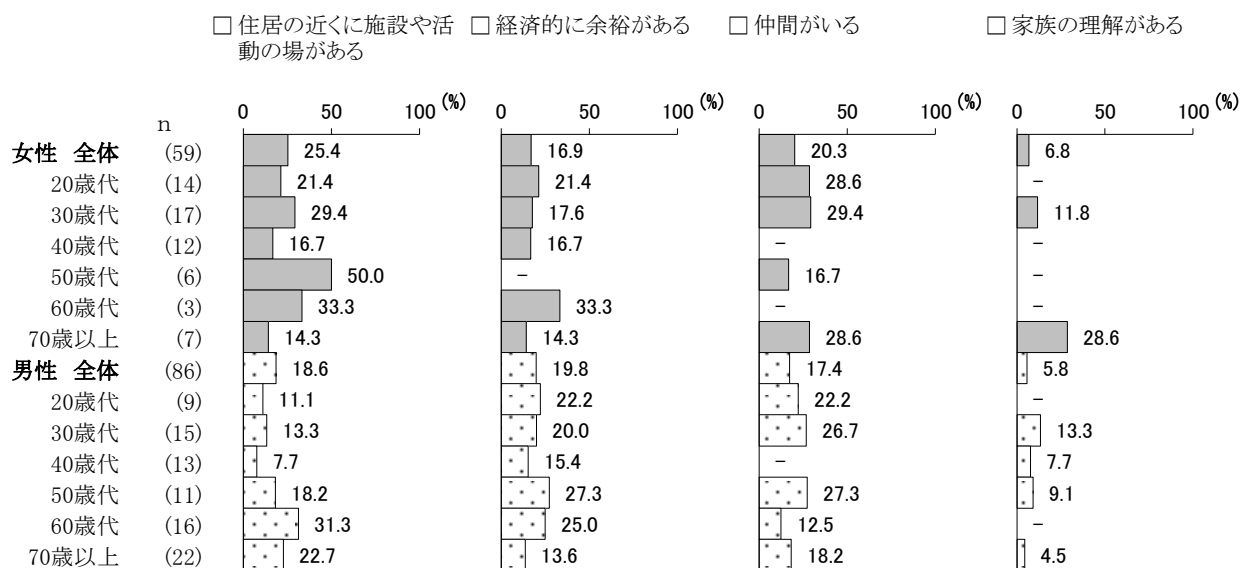
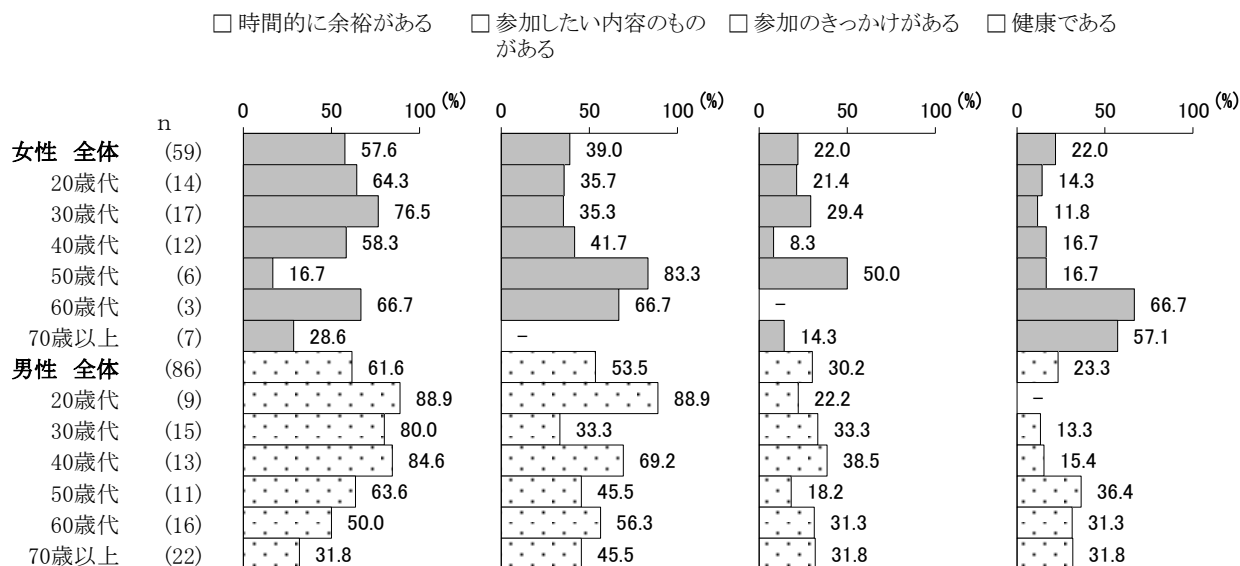
## 第2章 調査結果の詳細

地域の活動や行事に参加しようとする場合に必要なのは、「時間的に余裕がある」が59.7%で最も高く、以下「参加したい内容のものがある」(46.3%)、「参加のきっかけがある」(26.8%)、「健康である」(22.8%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「住居の近くに施設や活動の場がある」が25.4%と、男性(18.6%)より高くなっています。一方、男性では「参加したい内容のものがある」が53.5%と、女性(39.0%)より高くなっています。

### <性・年代別>

性・年代別にみると、回答者数が少ないため参考程度となりますが、「時間的に余裕がある」、「参加したい内容のものがある」は多くの年代からあげられています。

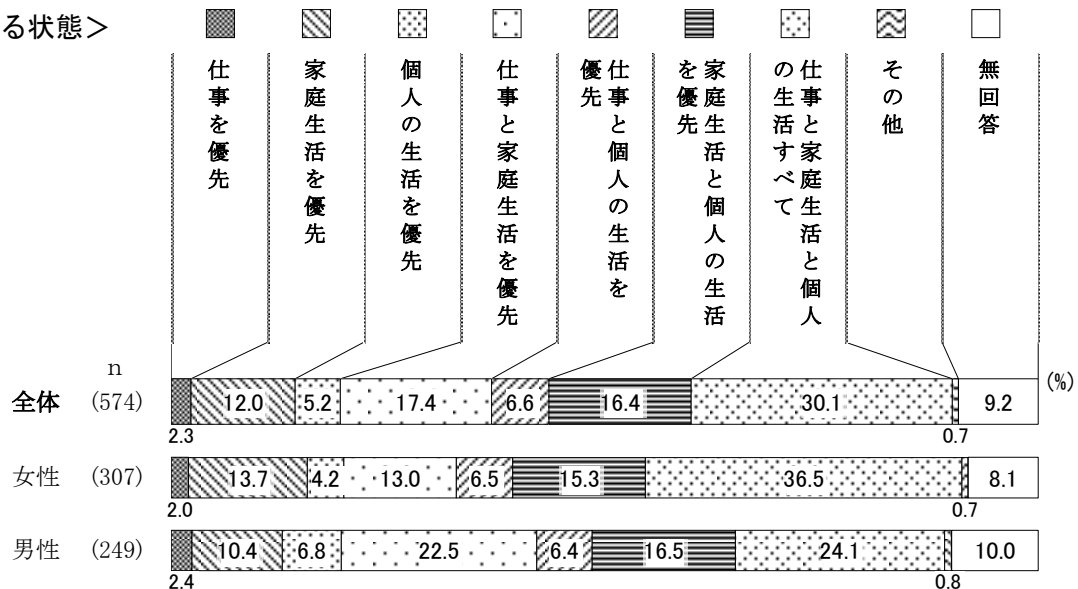


## 6. ワーク・ライフ・バランス

### (1) ワーク・ライフ・バランスにおける希望と現実

問11 ワーク・ライフ・バランスは、仕事、家庭生活、個人の生活など、様々な活動を自分が望ましいと考える割合で実現できている状態です。あなたの希望と現実について、それぞれ近いものをお答えください。

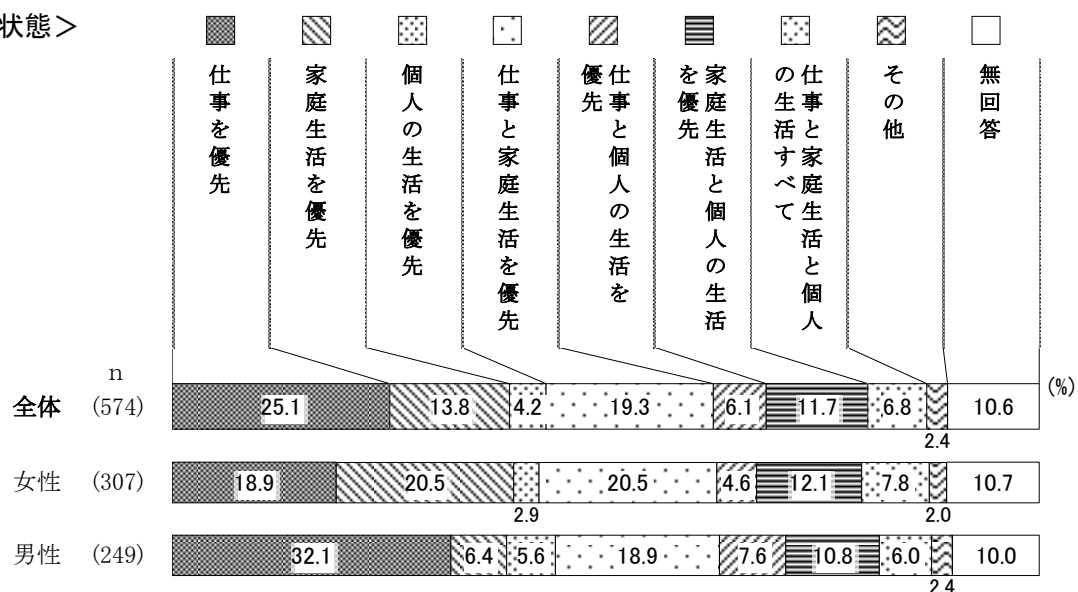
#### <希望する状態>



ワーク・ライフ・バランスにおいて『希望する状態』について、全体では、「仕事と家庭生活と個人の生活すべて」が30.1%で最も高くなっています。

性別でみると、「仕事と家庭生活と個人の生活すべて」は女性で36.5%と、男性の24.1%よりもやや高くなっています。また、男性では「仕事と家庭生活を優先」が22.5%と、女性の13.0%よりもやや高くなっています。

#### <現実の状態>



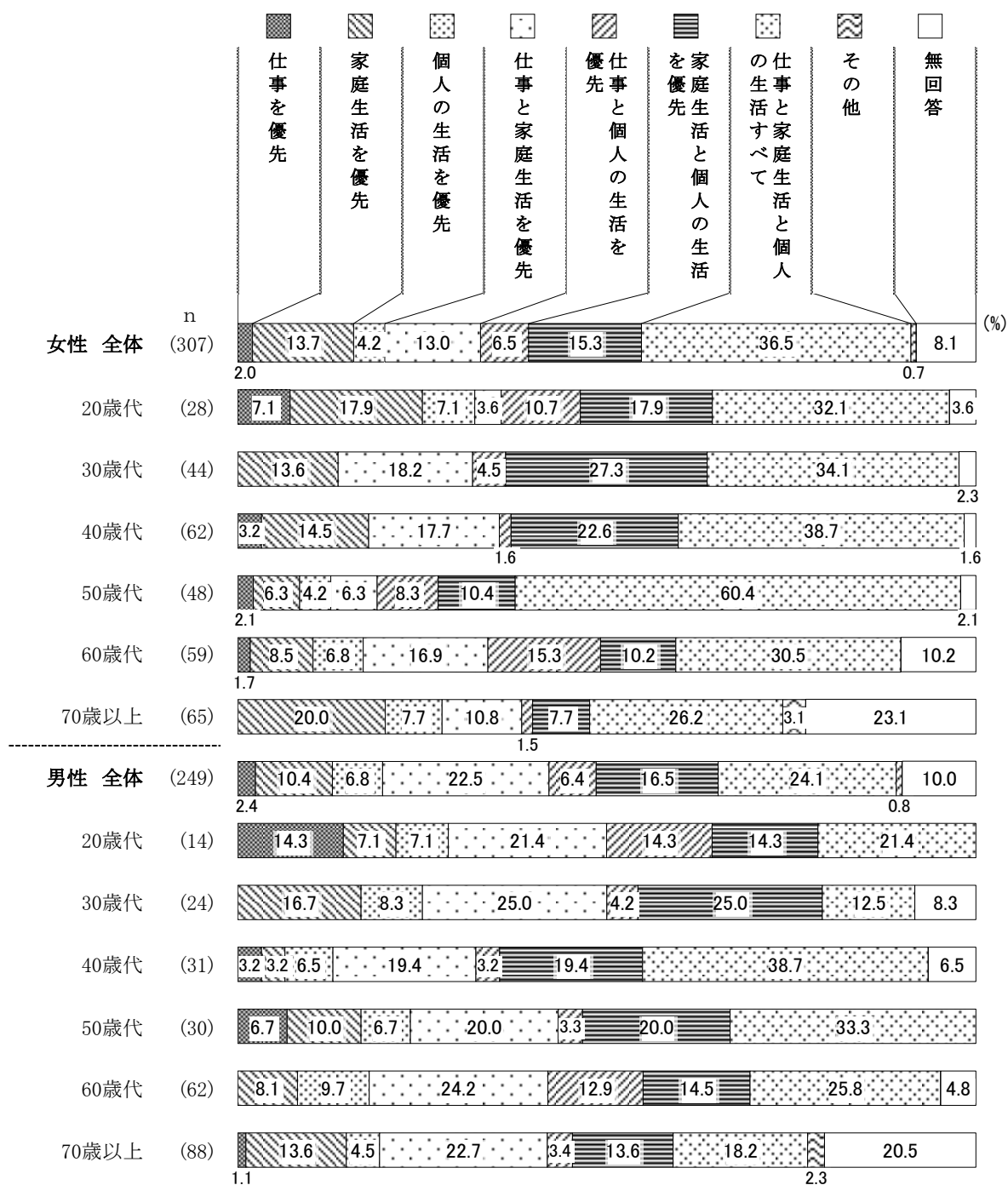
## 第2章 調査結果の詳細

ワーク・ライフ・バランスにおいて『現実の状態』について、全体では、「仕事を優先」が25.1%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活を優先」が19.3%となっています。

性別でみると、「仕事と家庭生活を優先」は女性で20.5%、男性で18.9%と大きな差はみられません。一方、「家庭生活を優先」は女性で20.5%と、男性の6.4%よりも高く、「仕事を優先」は男性で32.1%と、女性の18.9%よりも高くなっています。

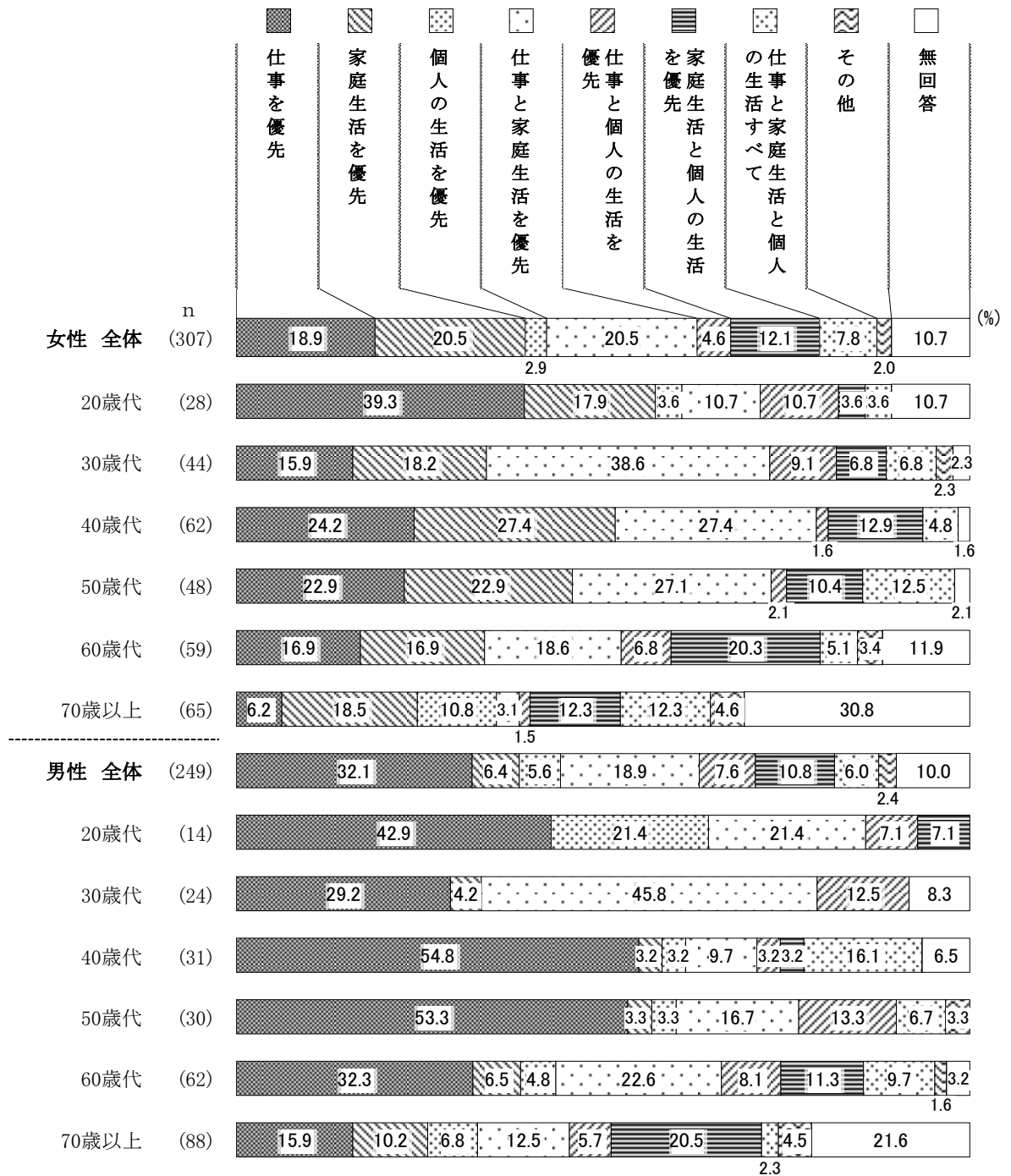
### <性・年代別／希望する状態>

性・年代別にみると、希望する状態では「仕事と家庭生活と個人の生活すべて」は多くの年代で高く、共通した希望となっています。



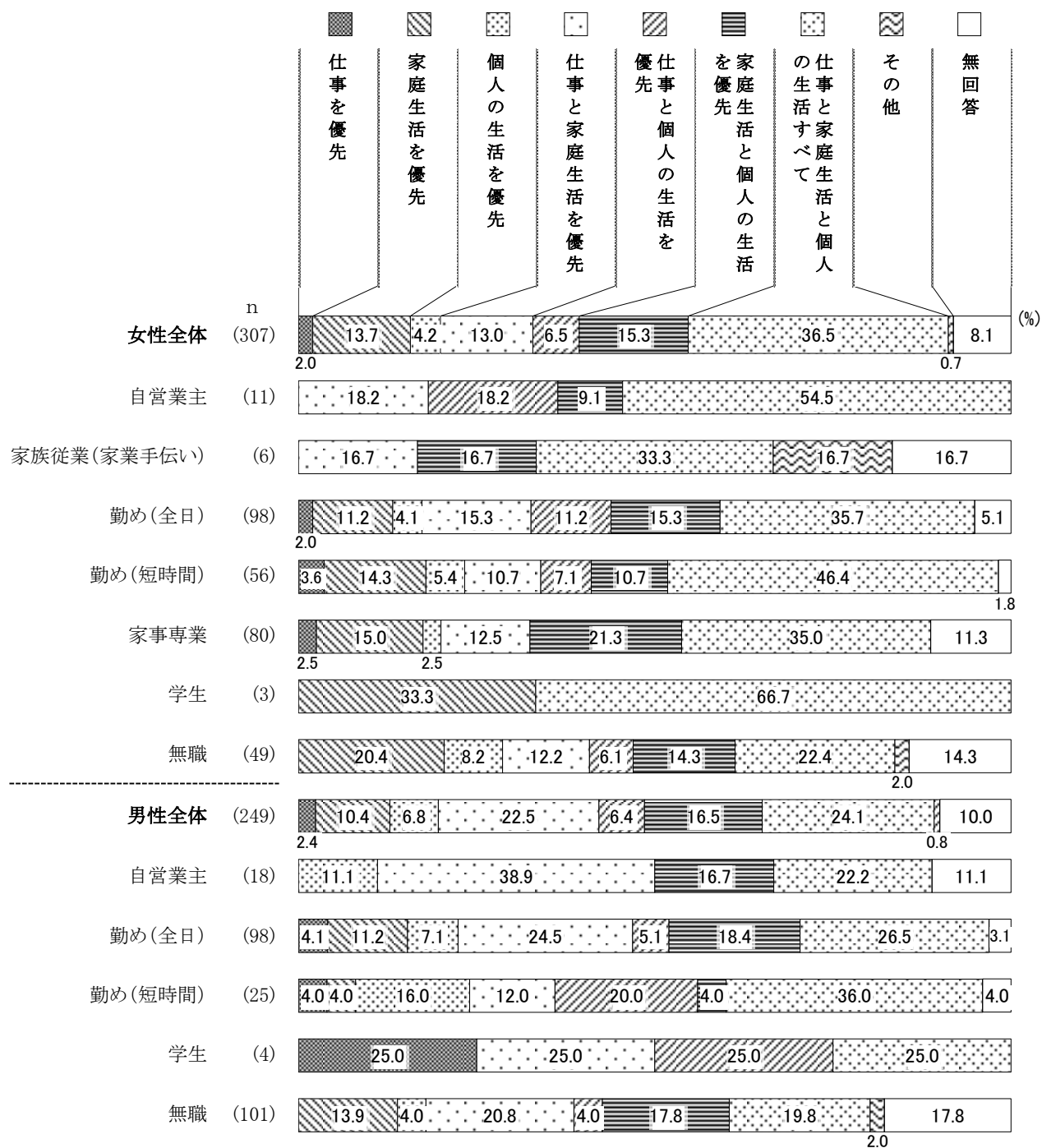
## ＜性・年代別／現実の状態＞

性・年代別にみると、現実の状態では「仕事を優先」は男性の40歳代と50歳代で5割台、「仕事と家庭生活を優先」は男女30歳代で3割から4割台と他の年代より高くなっています。



<性・職業別／希望する状態>

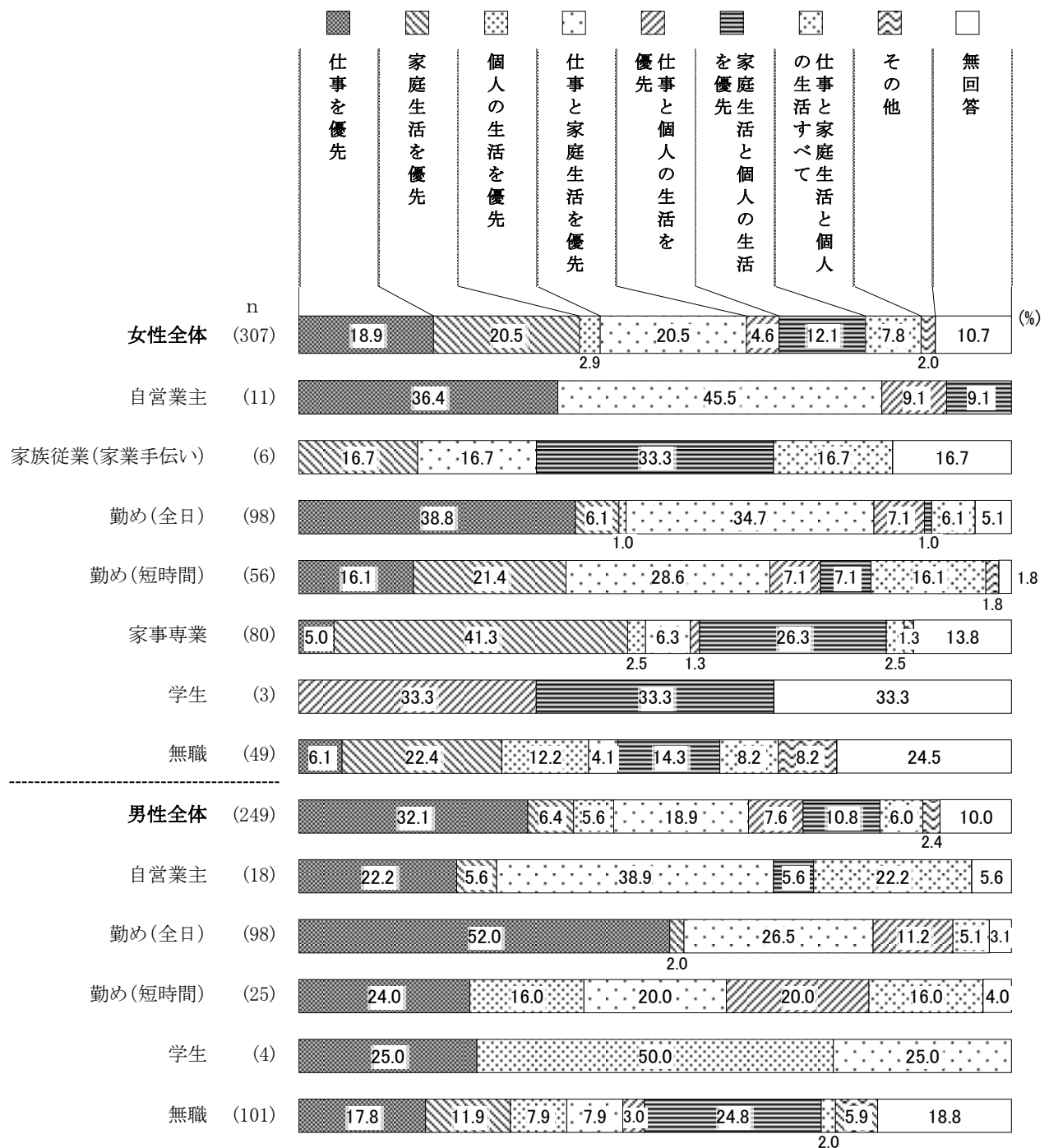
性・職業別にみると、希望する状態では「仕事と家庭生活と個人の生活すべて」は女性の勤め（短時間）で4割台、勤め（全日）と家事専業で3割台と高くなっています。





## ＜性・職業別／現実の状態＞

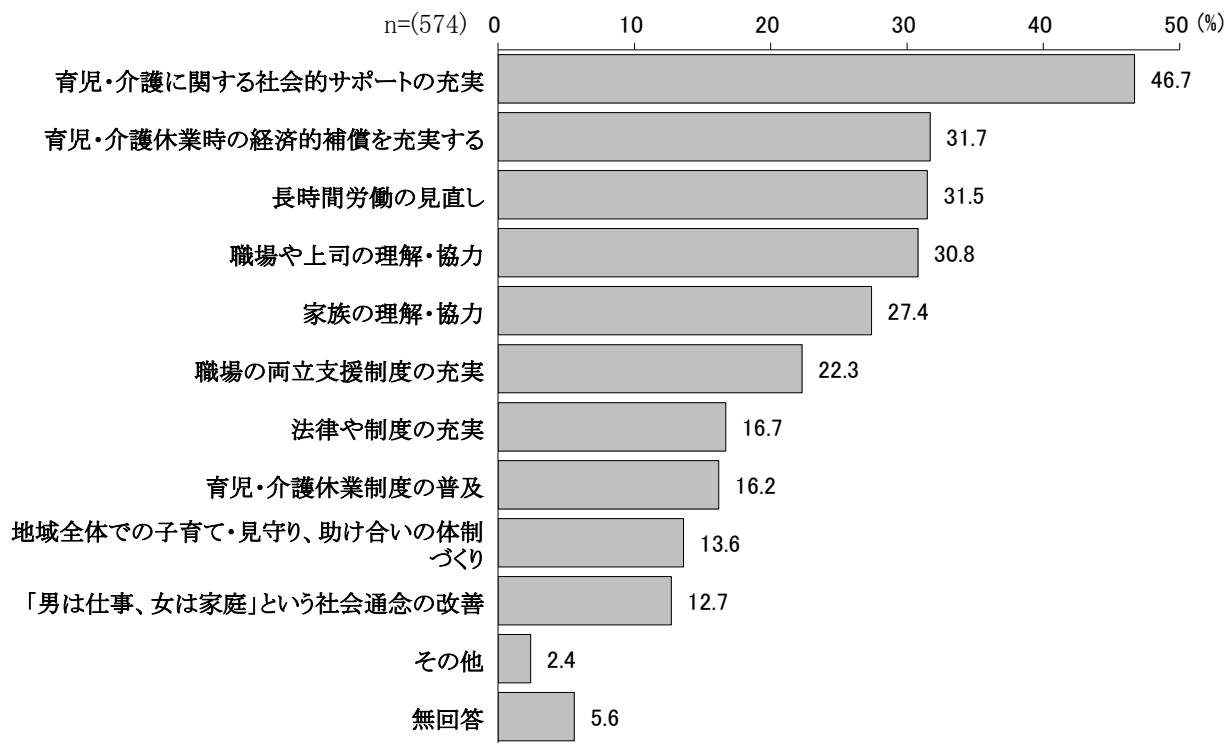
性・職業別にみると、現実の状態では「仕事を優先」は男女ともに勤め（全日）で高く、男性が5割台、女性が3割台となっています。女性の勤め（全日）では「仕事と家庭生活を優先」も3割台となっています。「家庭生活を優先」は女性の家事専業で4割台と、他の職業より高くなっています。



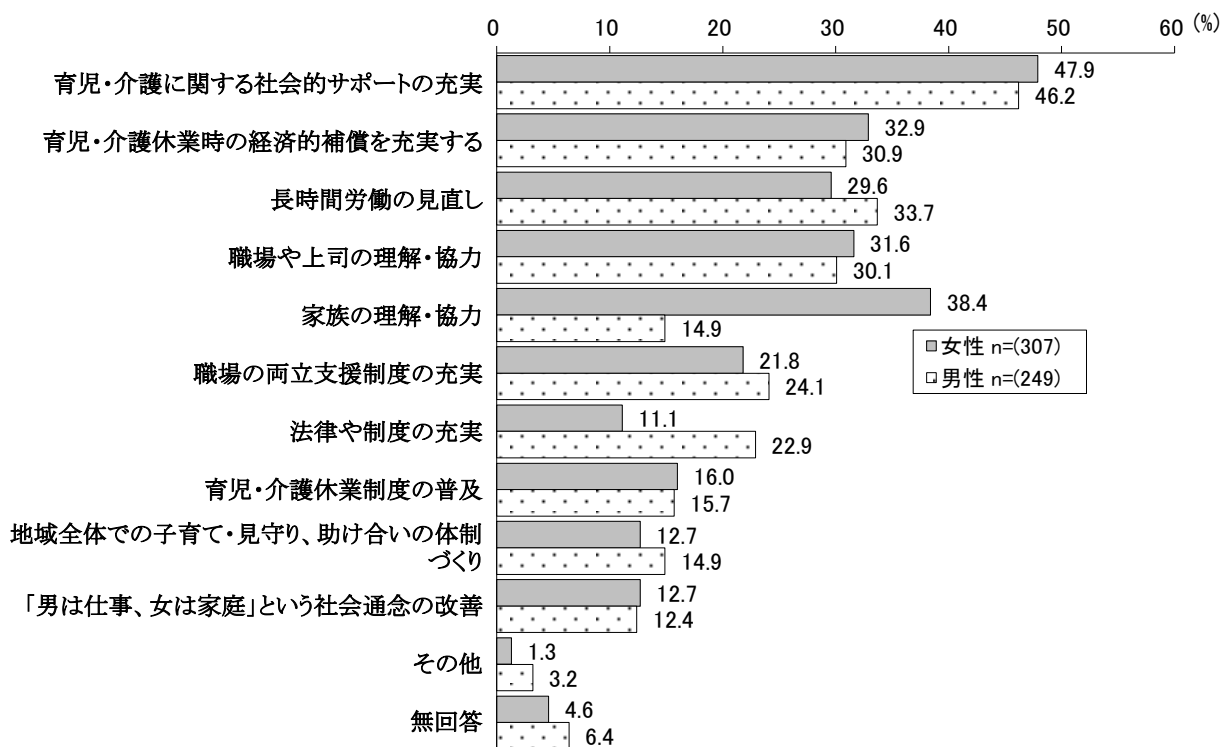
(2) ワーク・ライフ・バランスの推進のために必要なこと

問12 ワーク・ライフ・バランスの推進のために必要なことは何だと思いますか。3つまでお答えください。

<全体>



<性別>

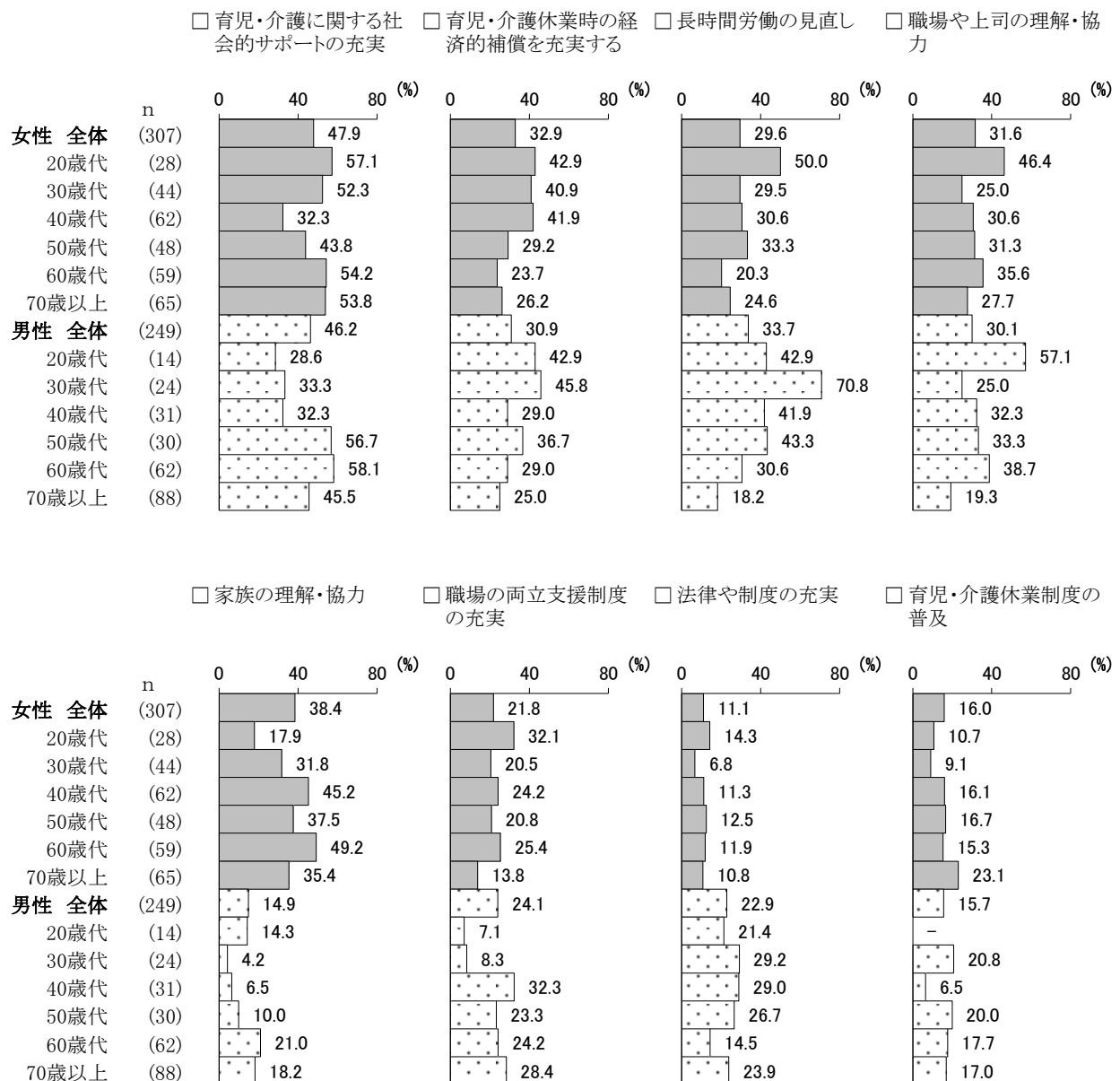


ワーク・ライフ・バランスの推進のために必要なことは、「育児・介護に関する社会的サポートの充実」が46.7%で最も高く、以下「育児・介護休業時の経済的補償を充実する」(31.7%)、「長時間労働の見直し」(31.5%)、「職場や上司の理解・協力」(30.8%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「家族の理解・協力」が38.4%と、男性(14.9%)より高くなっています。一方、男性では「法律や制度の充実」が22.9%と、女性(11.1%)より高くなっています。

### <性・年代別>

性・年代別にみると、「家族の理解・協力」は女性の40歳代と60歳代で4割台と他の年代より高くなっています。

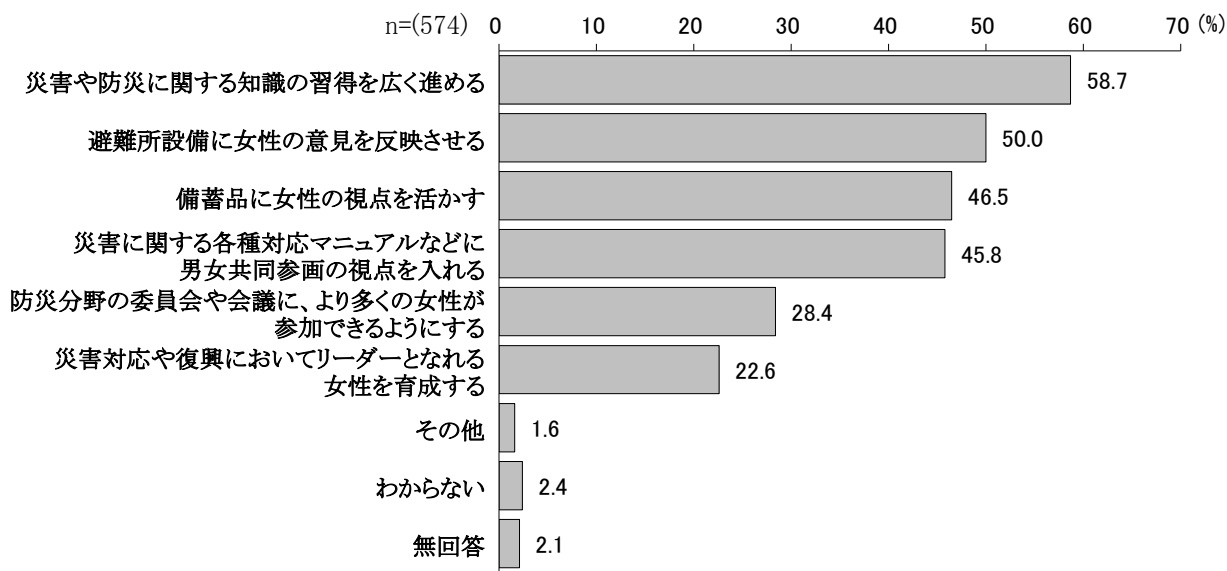


## 7. 防災

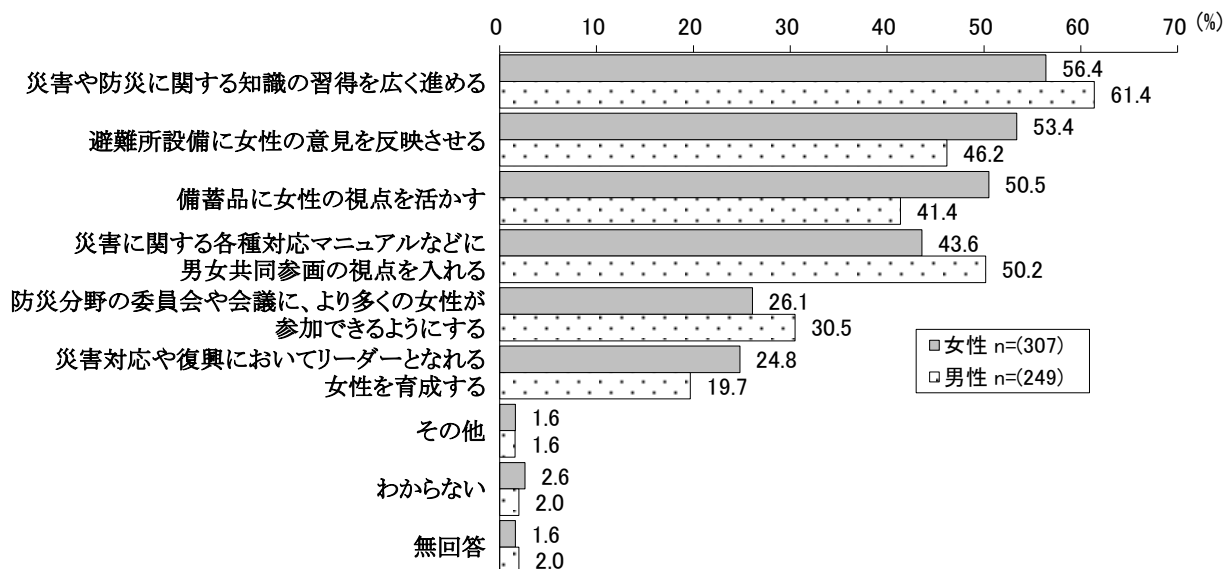
### (1) 防災分野で男女共同参画の視点をいかすために必要なこと

問13 防災分野で男女共同参画の視点をいかすためには、どのようなことが必要だと思いますか。3つまでお答えください。

#### <全体>



#### <性別>

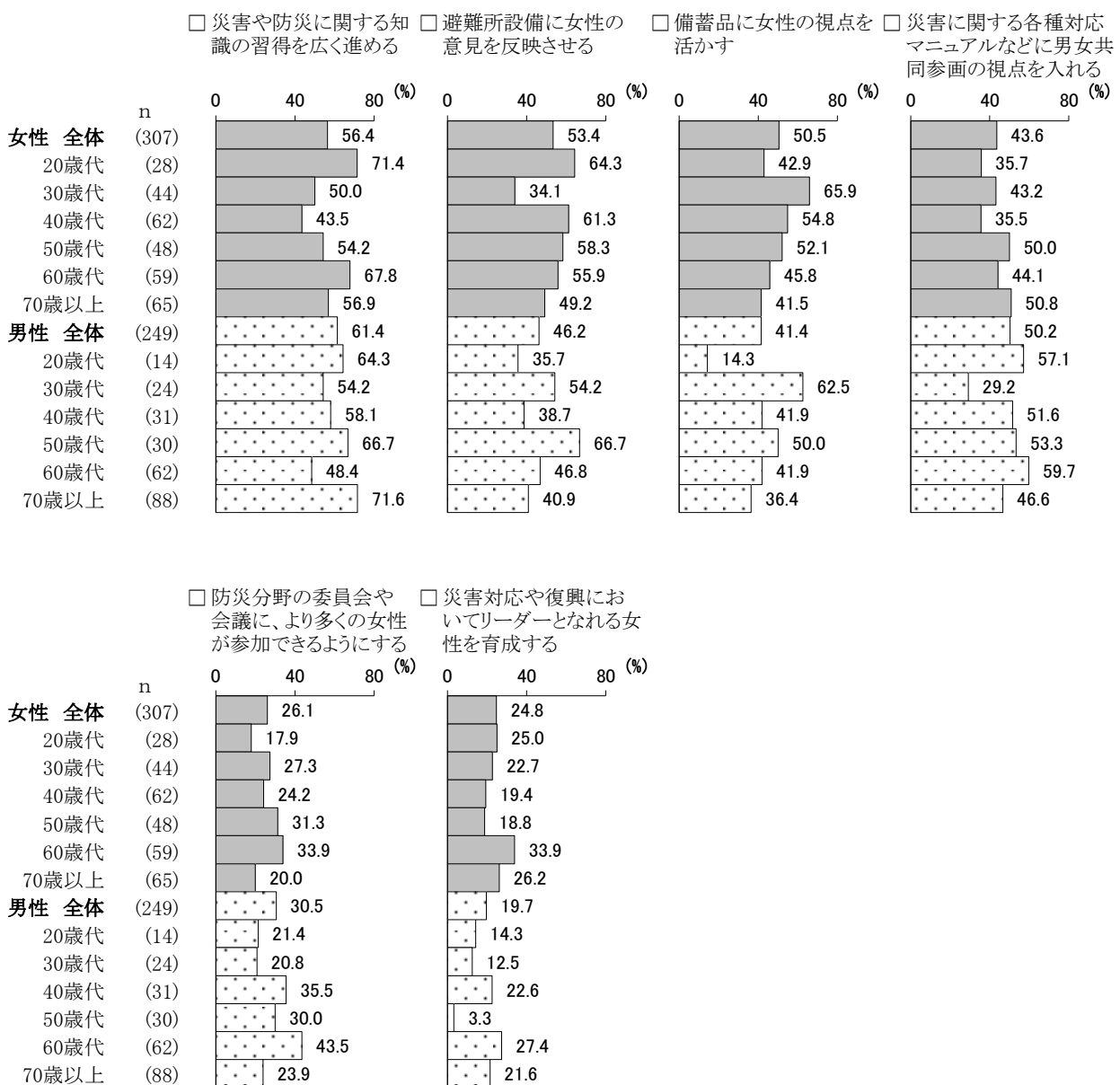


防災分野で男女共同参画の視点をいかすために必要なことは、「災害や防災に関する知識の習得を広く進める」が58.7%で最も高く、以下「避難所設備に女性の意見を反映させる」(50.0%)、「備蓄品に女性の視点を活かす」(46.5%)、「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる」(45.8%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「備蓄品に女性の視点を活かす」が50.5%と、男性（41.4%）より高くなっています。一方、男性では「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる」が50.2%と、女性（43.6%）より高くなっています。

### ＜性・年代別＞

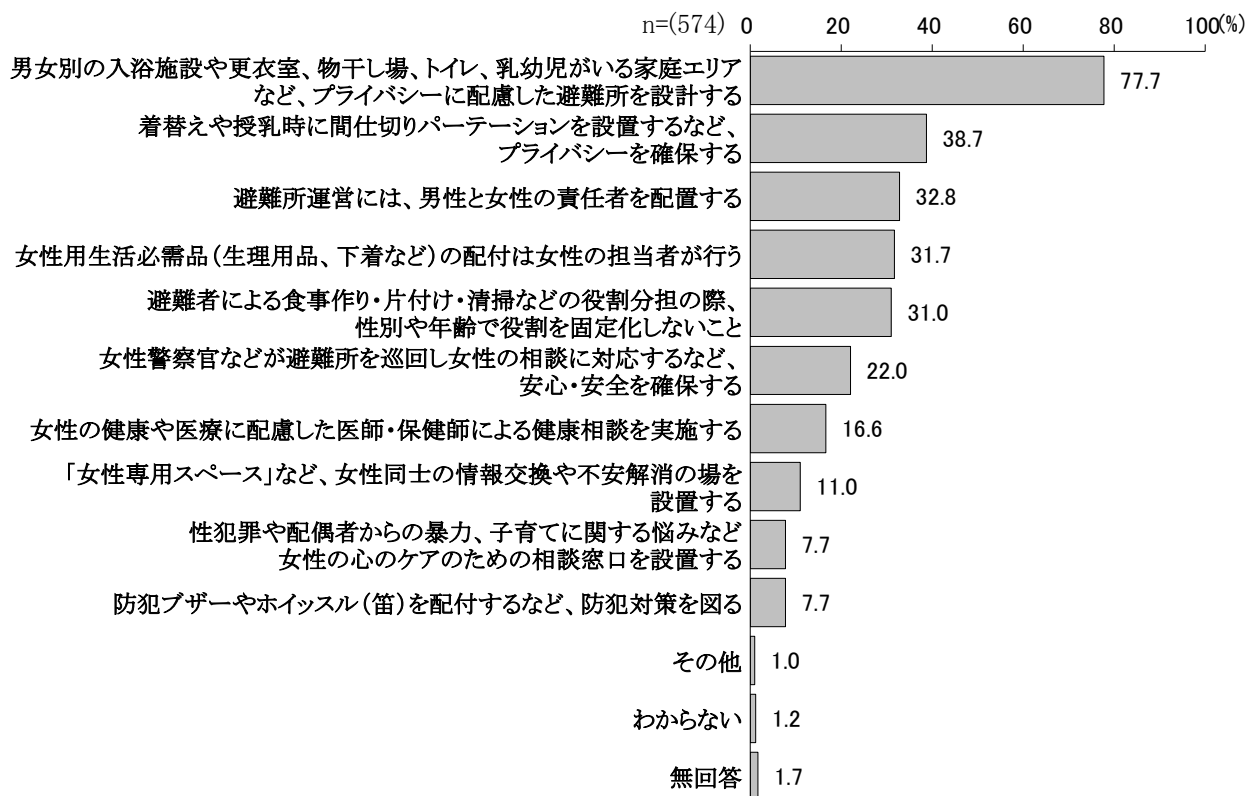
性・年代別にみると、「避難所設備に女性の意見を反映させる」は女性の40歳代、男性の50歳代で、「備蓄品に女性の視点を活かす」は男女30歳代で6割台、「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする」は男性の60歳代で4割台、「災害対応や復興においてリーダーとなれる女性を育成する」は女性の60歳代で3割台と他の年代より高くなっています。



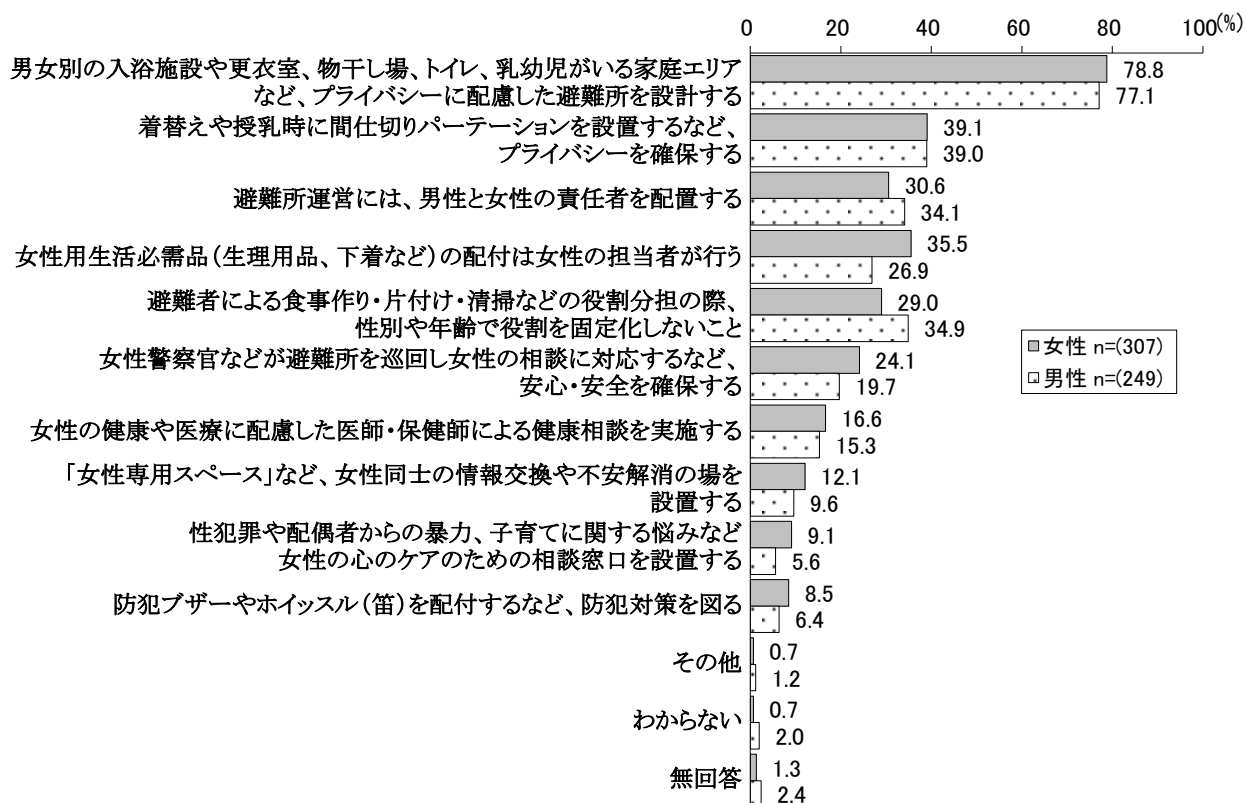
(2) 男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営で必要なこと

問14 男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営で、どのようなことが必要だと思いますか。3つまでお答えください。

<全体>



<性別>

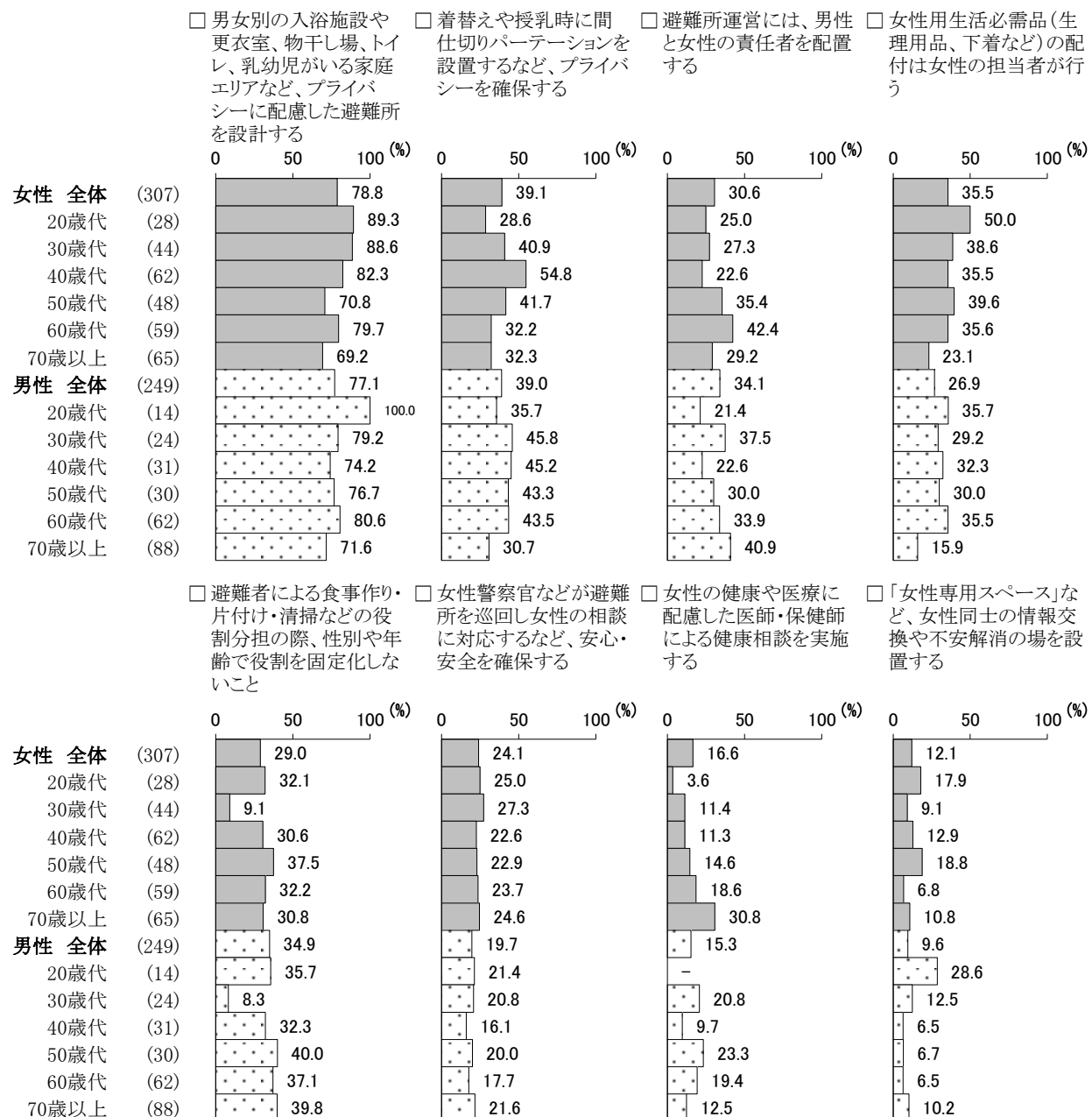


男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営に必要なことは、「男女別の入浴施設や更衣室、物干し場、トイレ、乳幼児がいる家庭エリアなど、プライバシーに配慮した避難所を設計する」が77.7%で最も高く、以下「着替えや授乳時に間仕切りパーテーションを設置するなど、プライバシーを確保する」(38.7%)、「避難所運営には、男性と女性の責任者を配置する」(32.8%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「女性用生活必需品(生理用品、下着など)の配付は女性の担当者が行う」が35.5%と、男性(26.9%)より高くなっています。一方、男性では「避難者による食事作り・片付け・清掃などの役割分担の際、性別や年齢で役割を固定化しないこと」が34.9%と、女性(29.0%)より高くなっています。

### <性・年代別>

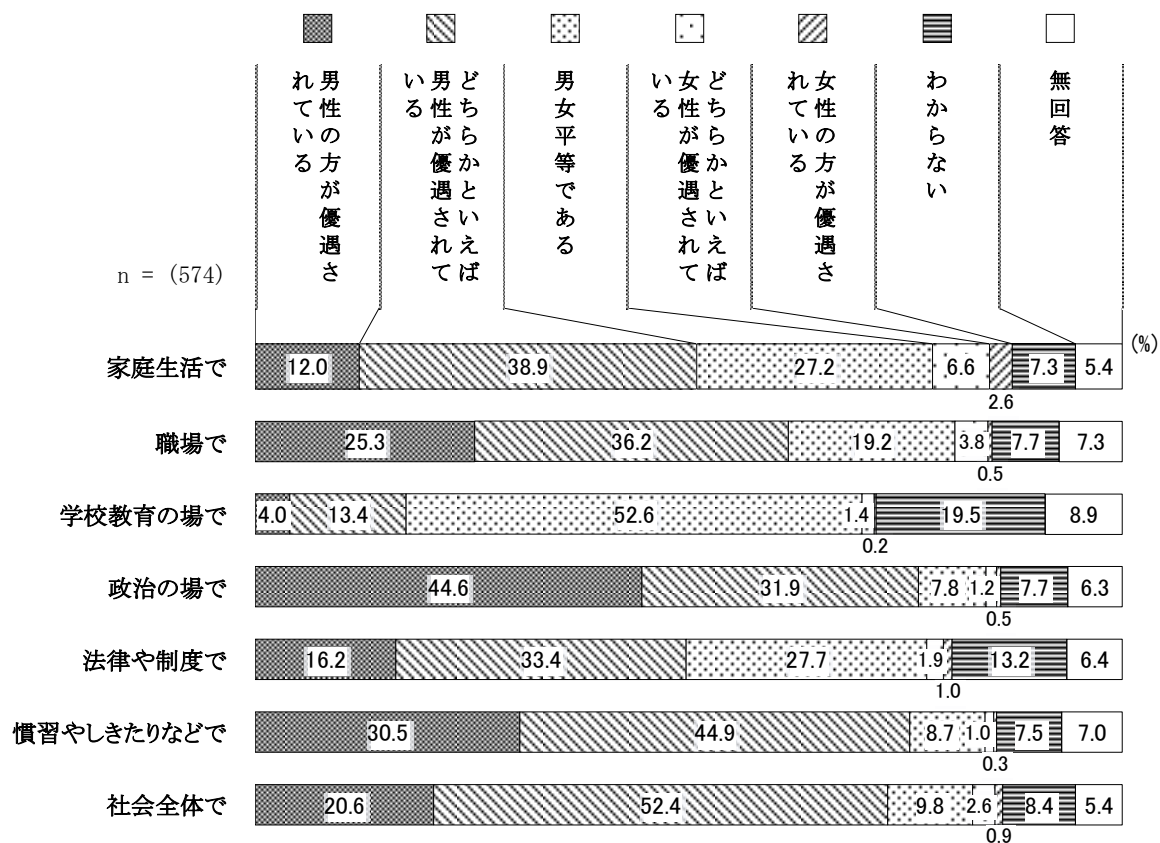
性・年代別にみると、「着替えや授乳時に間仕切りパーテーションを設置するなど、プライバシーを確保する」は女性の40歳代で5割台、「避難所運営には、男性と女性の責任者を配置する」は女性の60歳代、男性の70歳以上で4割台、「女性の健康や医療に配慮した医師・保健師による健康相談を実施する」は女性の70歳以上で3割台と他の年代より高くなっています。



## 8. 男女平等

## (1) 男女の地位の平等観

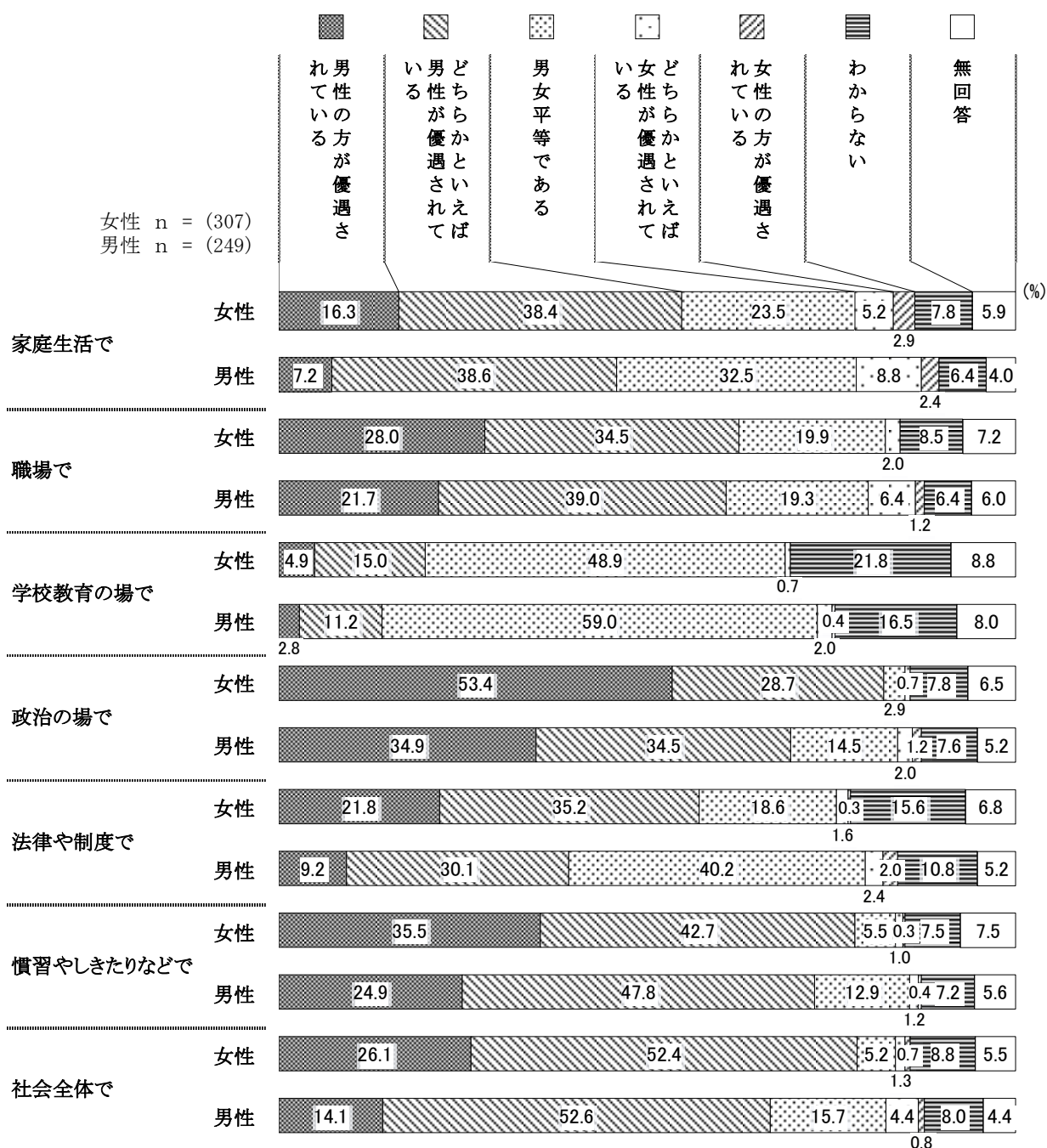
問15 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。それぞれの分野ごとに、当てはまると思うところに○をつけてください。



男女の地位の平等観をみると、“学校教育の場で”で「男女平等である」が52.6%と最も高くなっています。それ以外の項目では男性優遇（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）が高く、特に“政治の場で”、“慣習やしきたりなどで”、“社会全体で”ではいずれも7割台となっています。



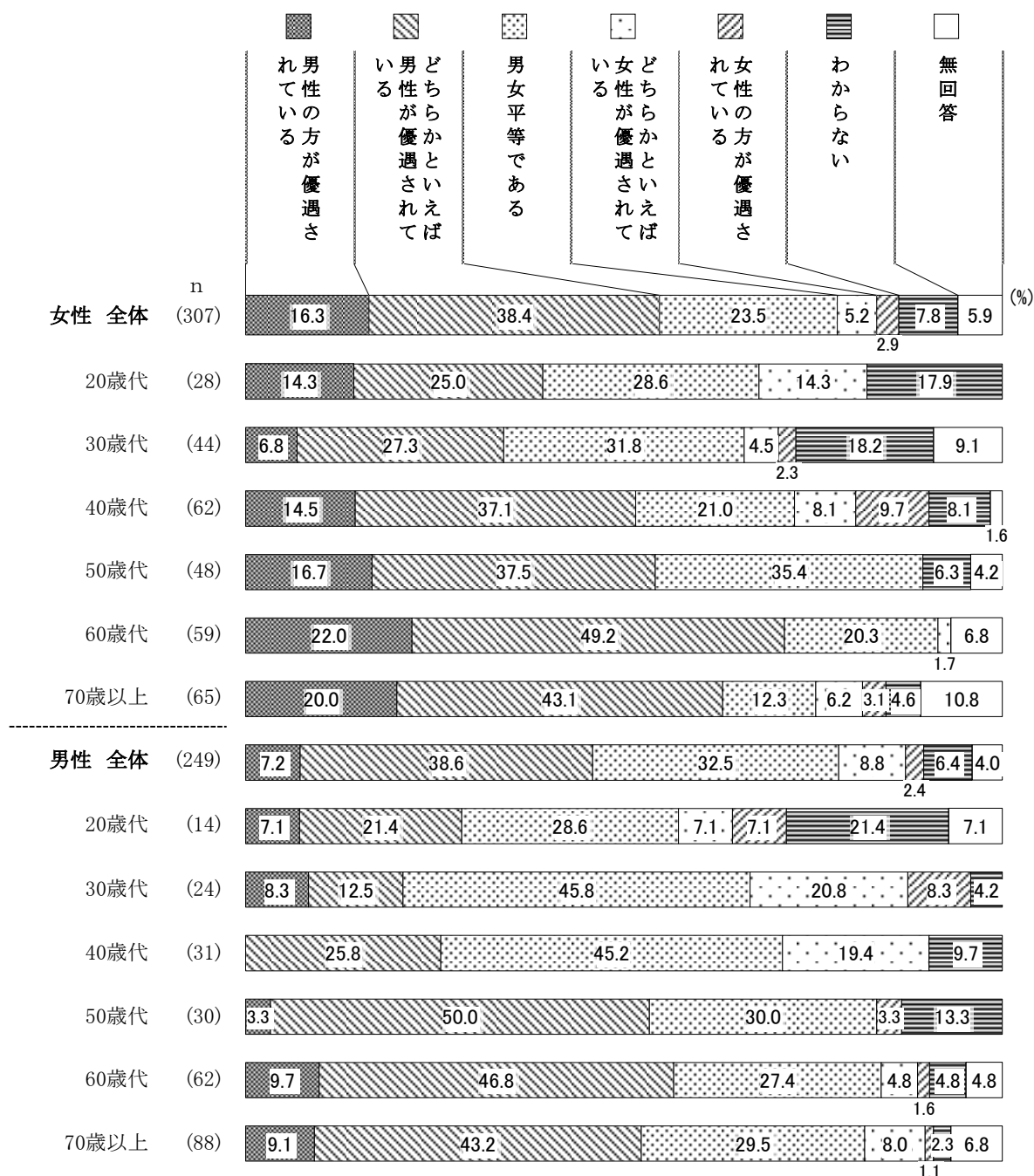
## ＜性別／男女の地位の平等観＞



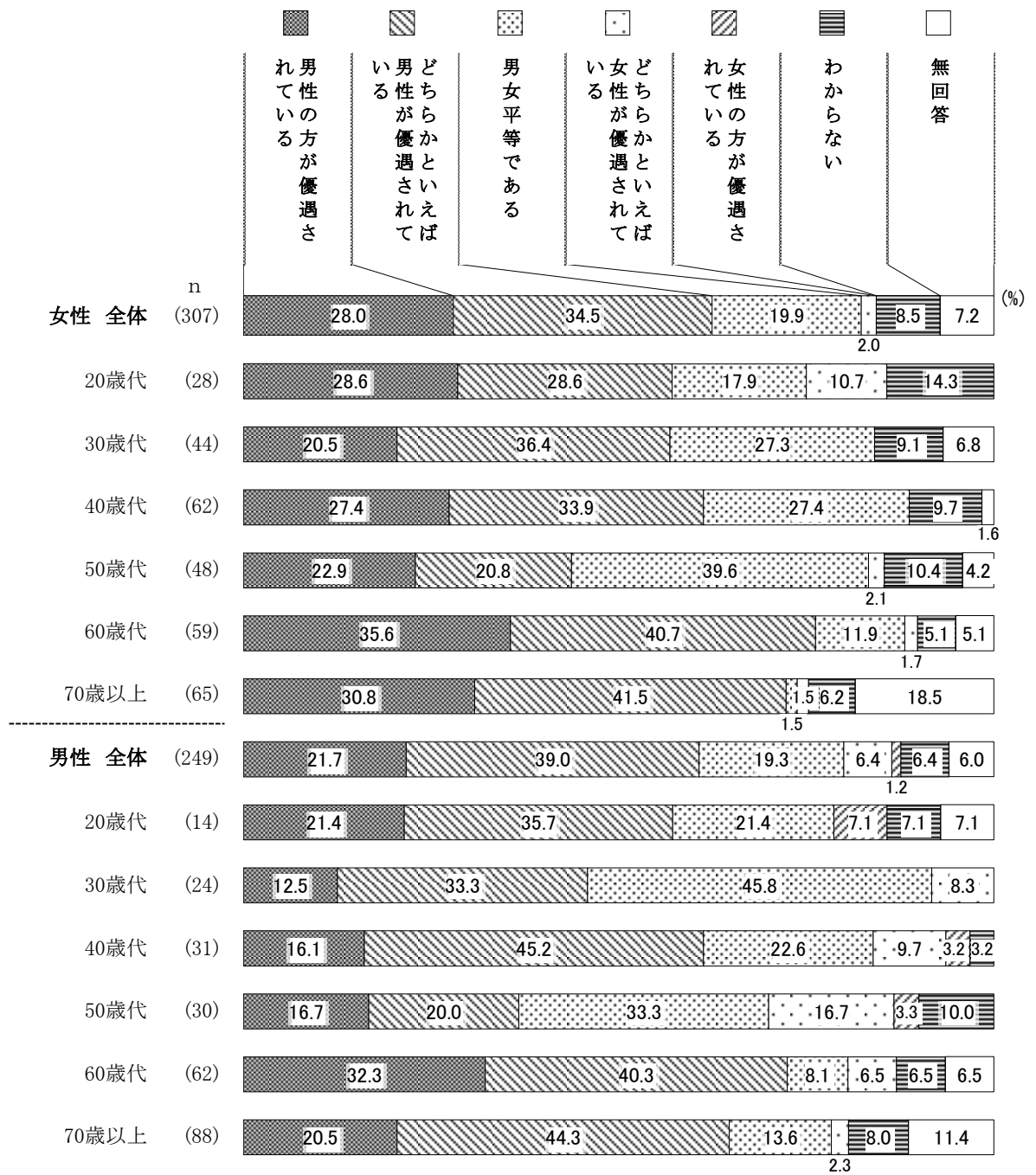
性別でみると、「男女平等である」は男性が“学校教育の場で”で59.0%、“法律や制度で”で40.2%、“家庭生活で”で32.5%と高く、“職場で”以外の項目で女性を上回っています。一方、男性優遇（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）は女性が“政治の場で”で82.1%、“社会全体で”で78.5%と高く、すべての項目で男性を上回っています。

<性・年代別／男女の地位の平等観／家庭生活で>

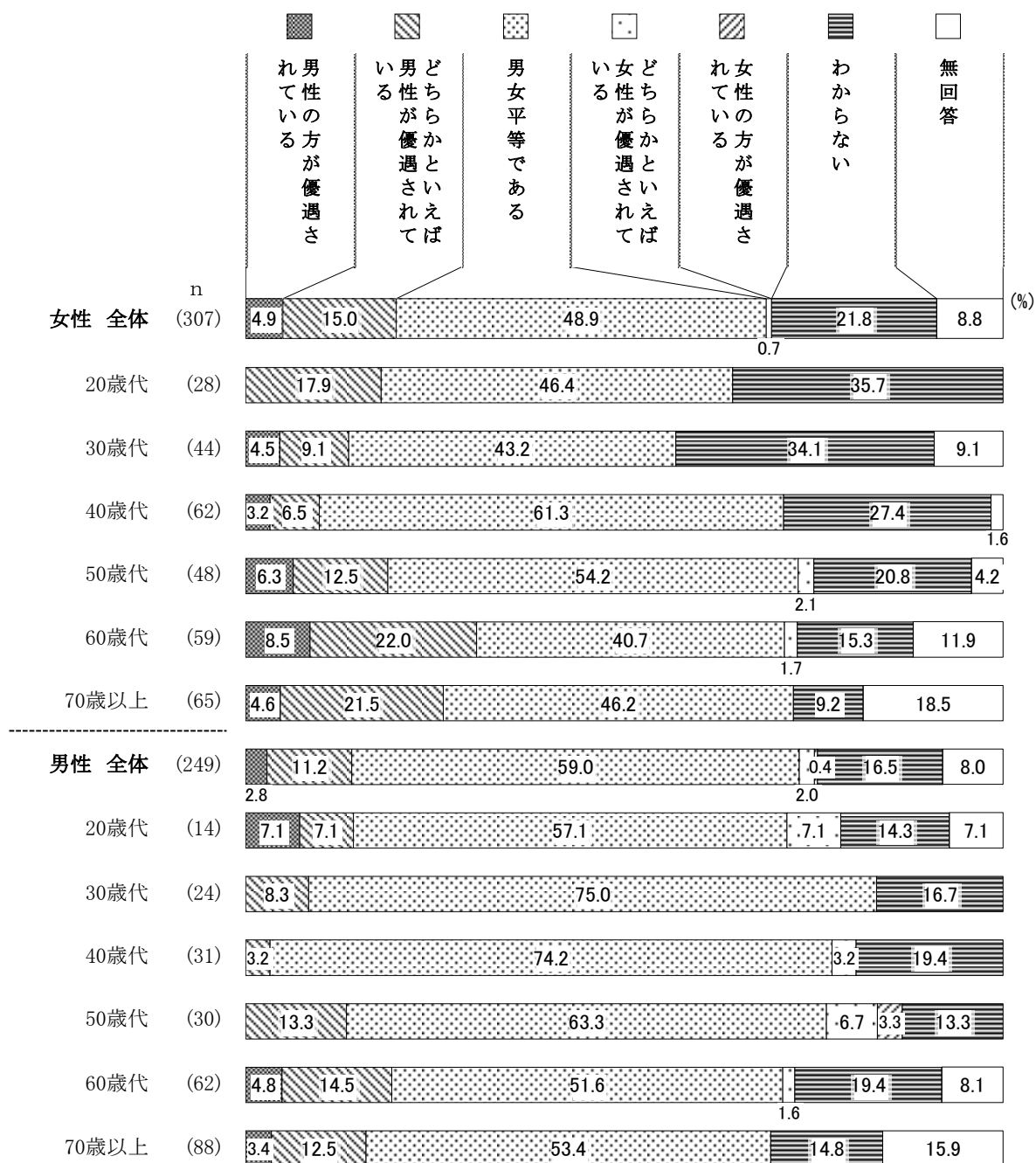
性・年代別にみると、いずれの分野においてもほとんどの年代で男性優遇が女性優遇よりも高くなっており、特に“職場で”、“慣習やしきたりなどで”、“社会全体で”では6割以上となっている年代が多くなっています。



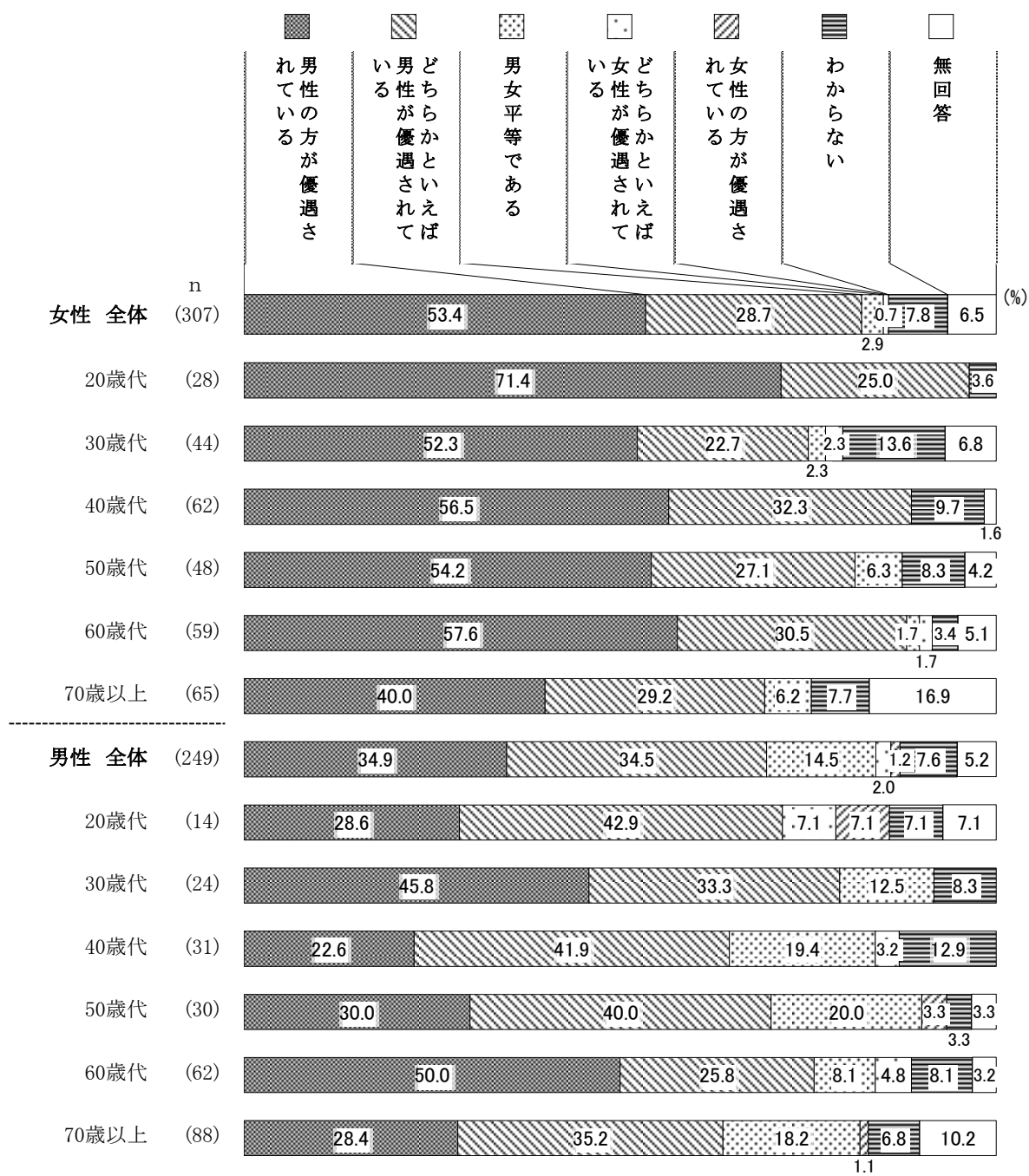
## ＜性・年代別／男女の地位の平等観／職場で＞



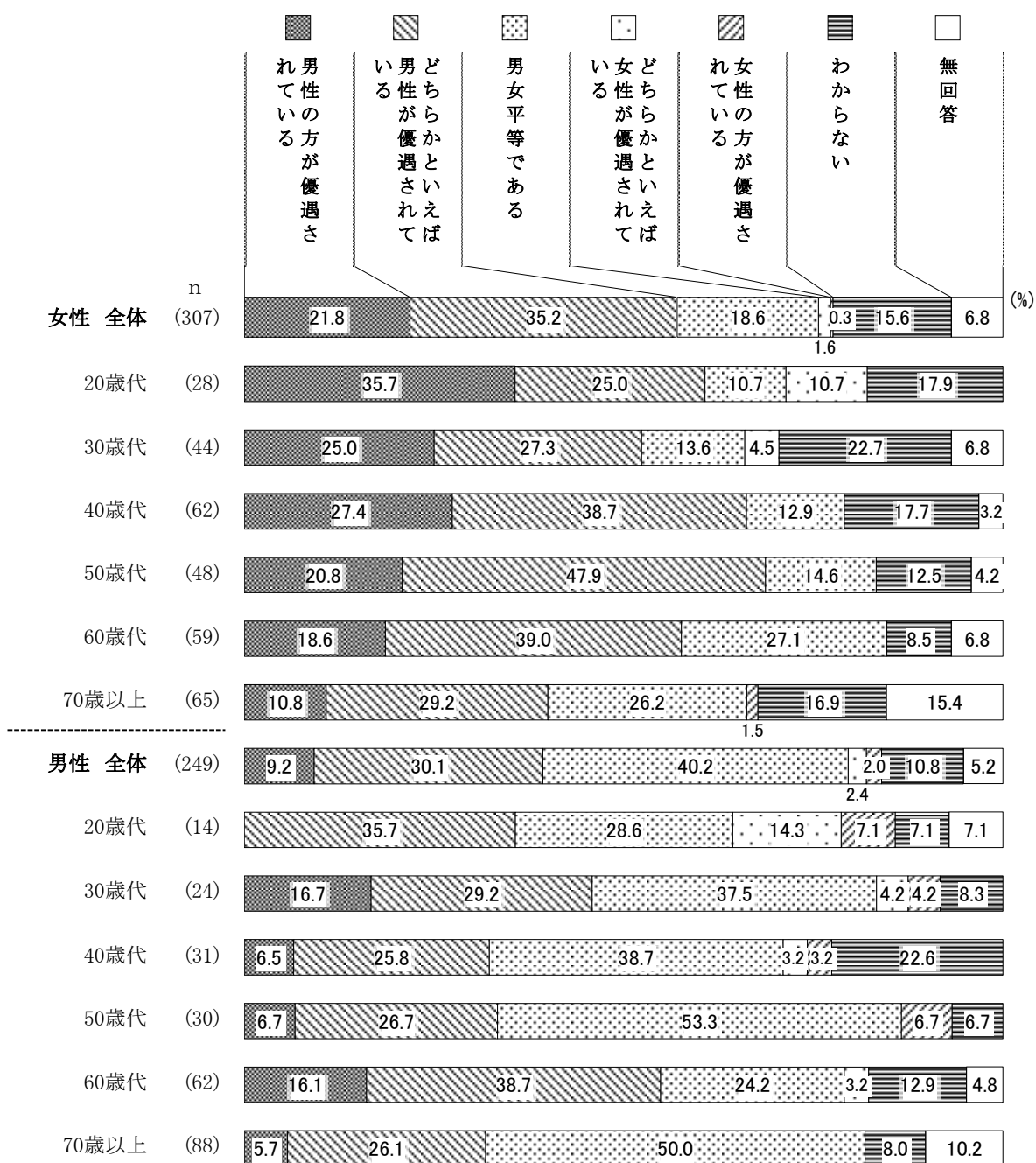
＜性・年代別／男女の地位の平等観／学校教育の場で＞



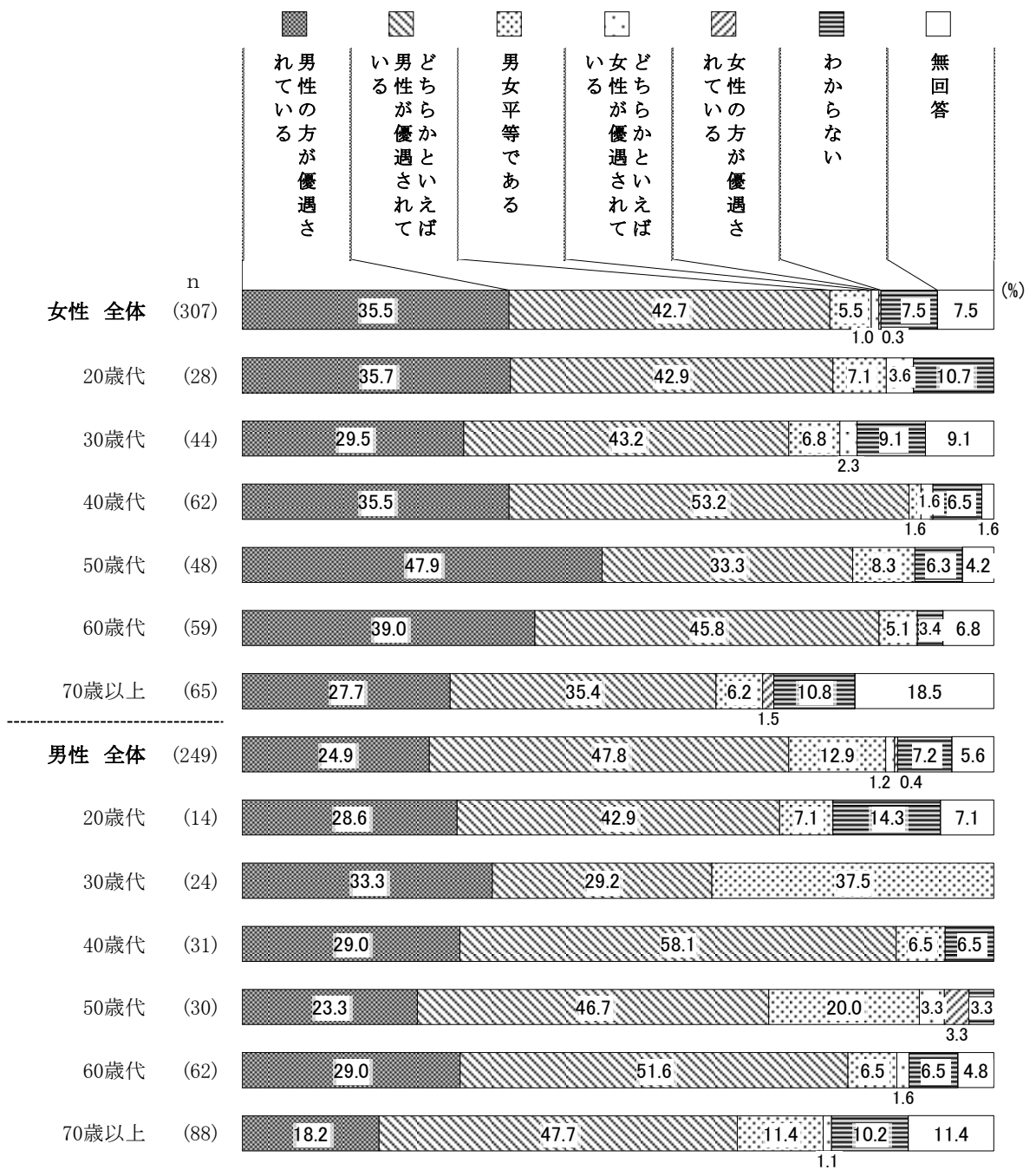
## ＜性・年代別／男女の地位の平等観／政治の場で＞



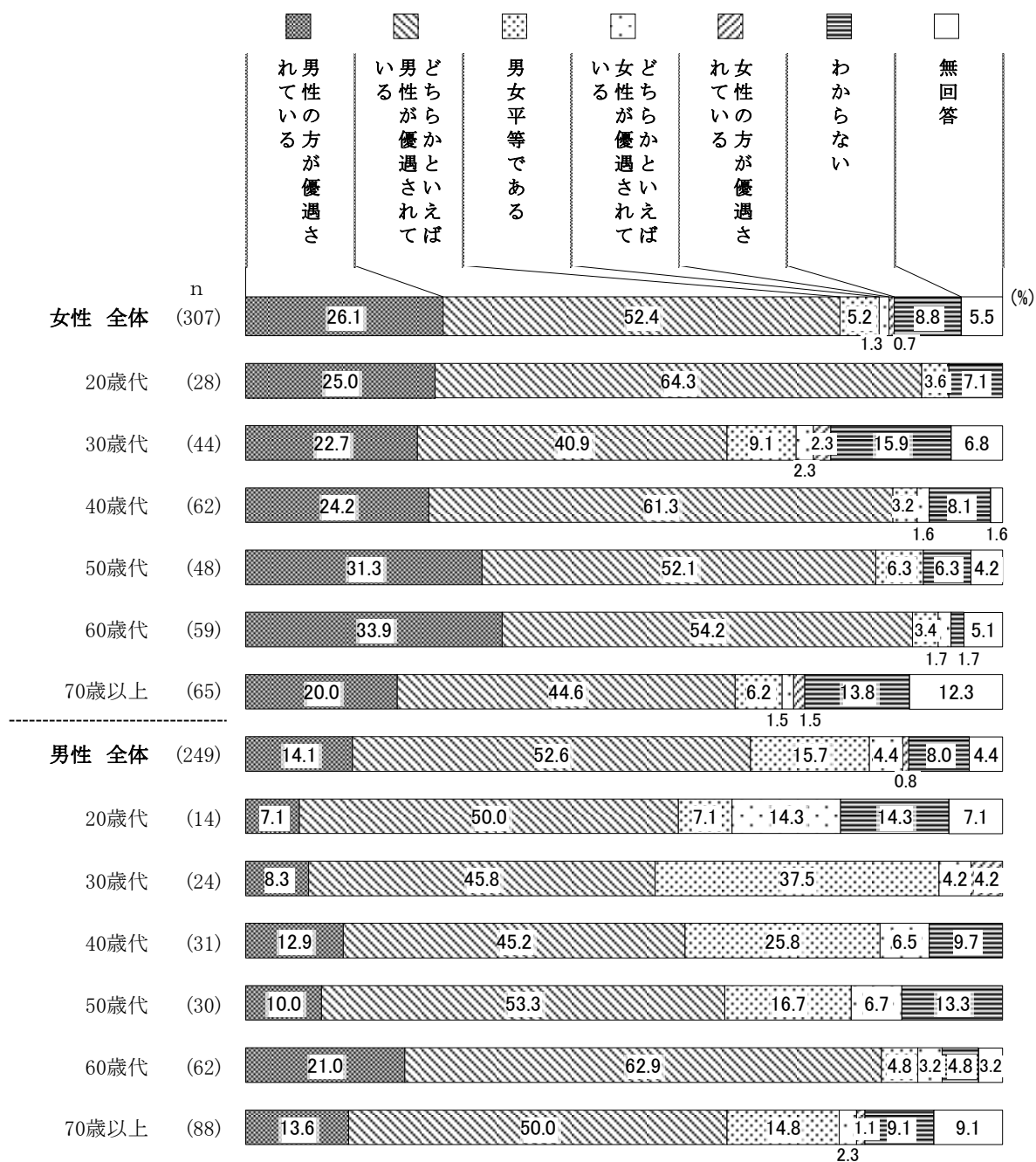
<性・年代別／男女の地位の平等観／法律や制度で>



## ＜性・年代別／男女の地位の平等観／慣習やしきたりなどで＞



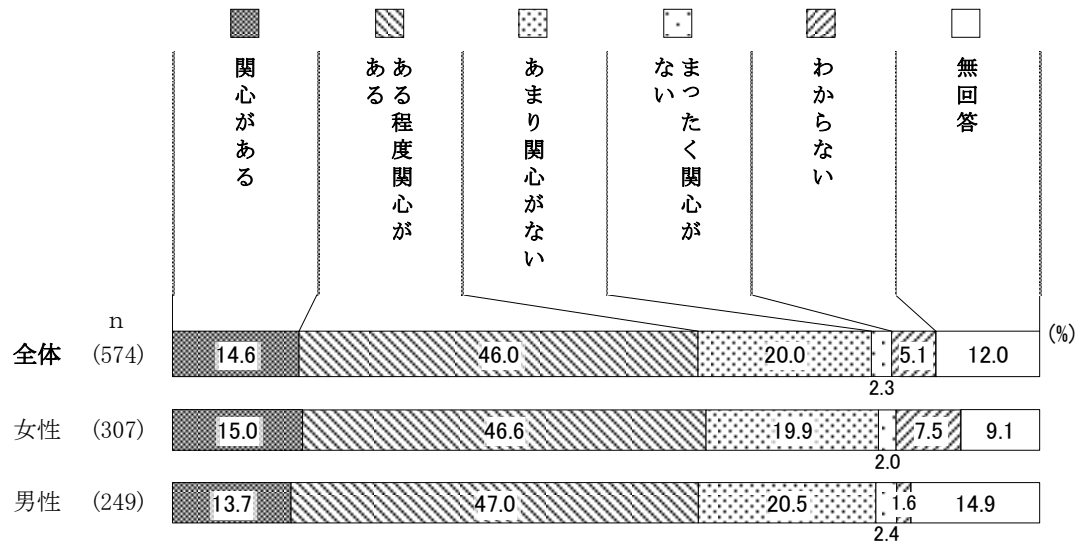
<性・年代別／男女の地位の平等観／社会全体で>





(2) 男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心

問16 あなたは、男女の平等に関わる国や市の施策などに関心がありますか。

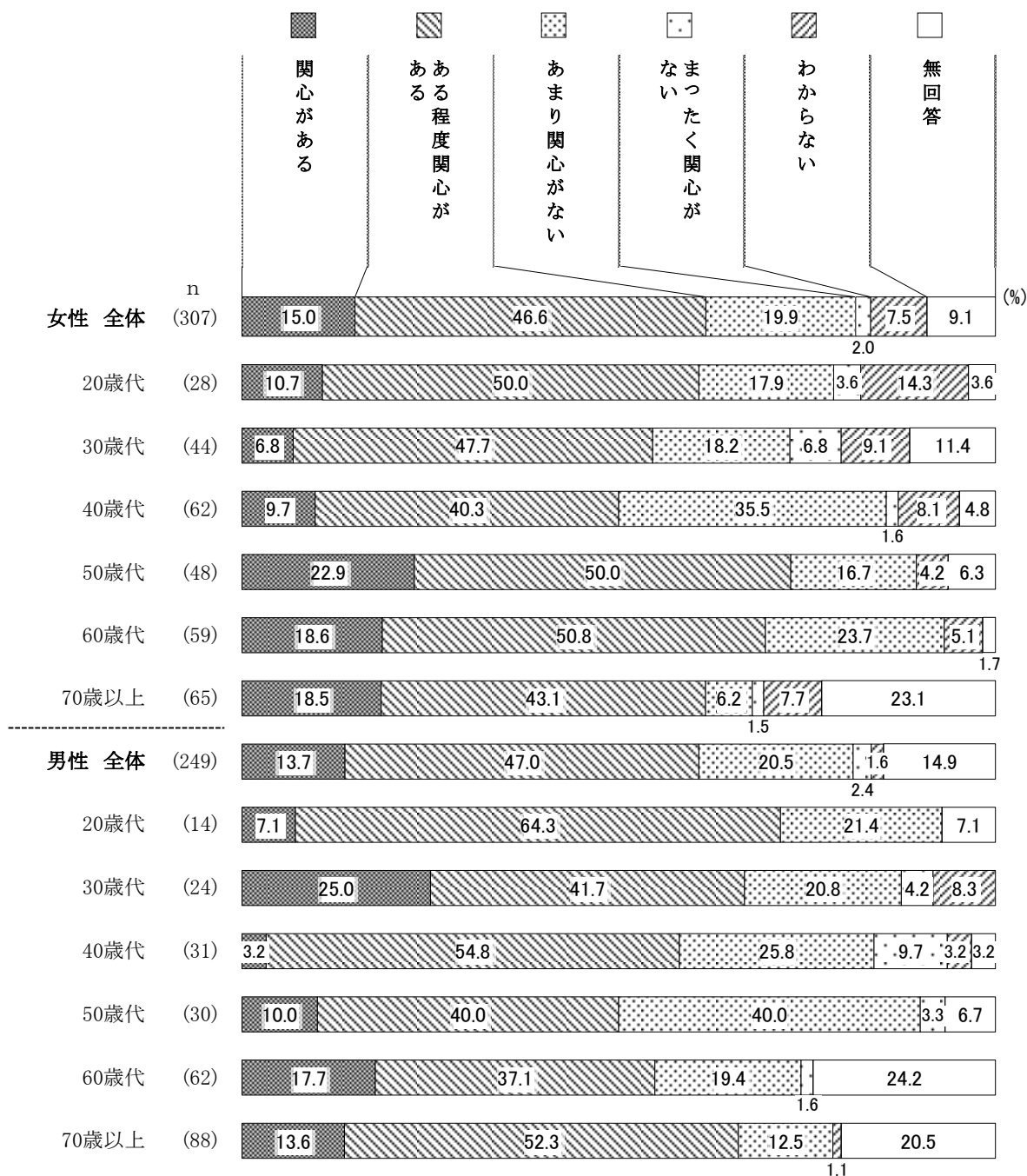


男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心について、全体では、「ある程度関心がある」が46.0%と最も高く、関心がある人（「関心がある」と「ある程度関心がある」の合計）が60.6%、関心がない人（「まったく関心がない」と「あまり関心がない」の合計）が22.3%となっています。

性別でみると、男女ともに「ある程度関心がある」が最も高く、関心がある人は6割を超えています。

＜性・年代別／男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心＞

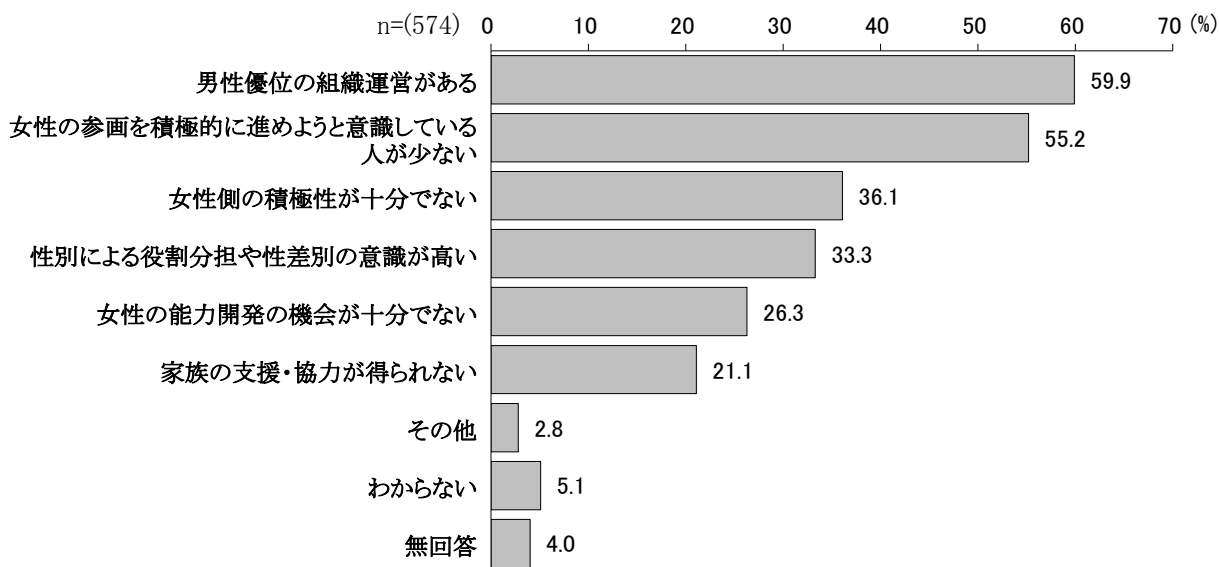
性・年代別にみると、関心がある人はすべての年代で5割以上となっており、うち女性の50歳代と60歳代では7割前後と高くなっています。一方、関心のない人は女性の40歳代、男性の40歳代と50歳代で3割台から4割台と比較的多くなっています。



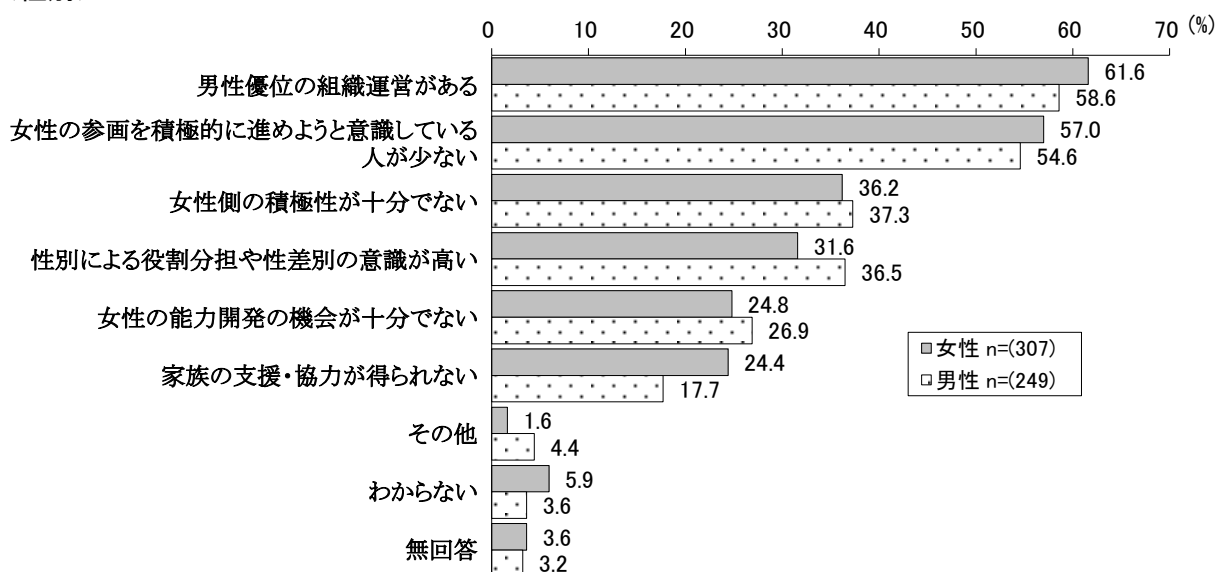
## (3) 政策の企画や方針決定過程で女性の参画が少ない理由

問17 あなたは、政治や企業活動、地域活動において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;

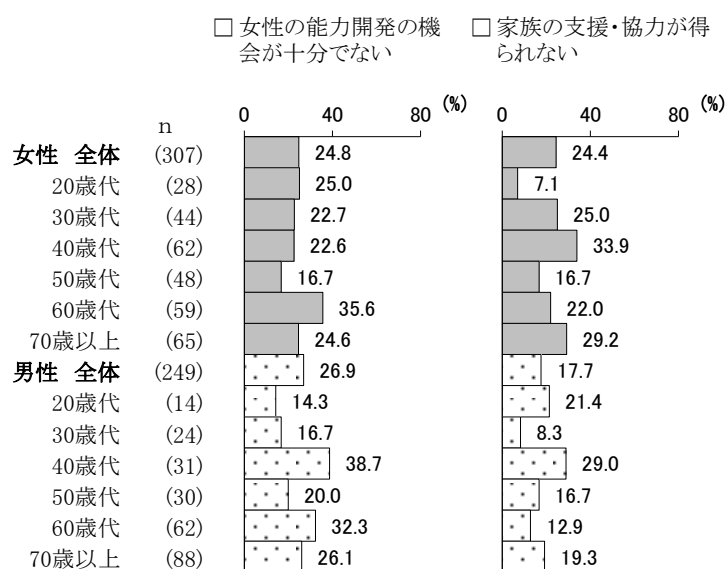
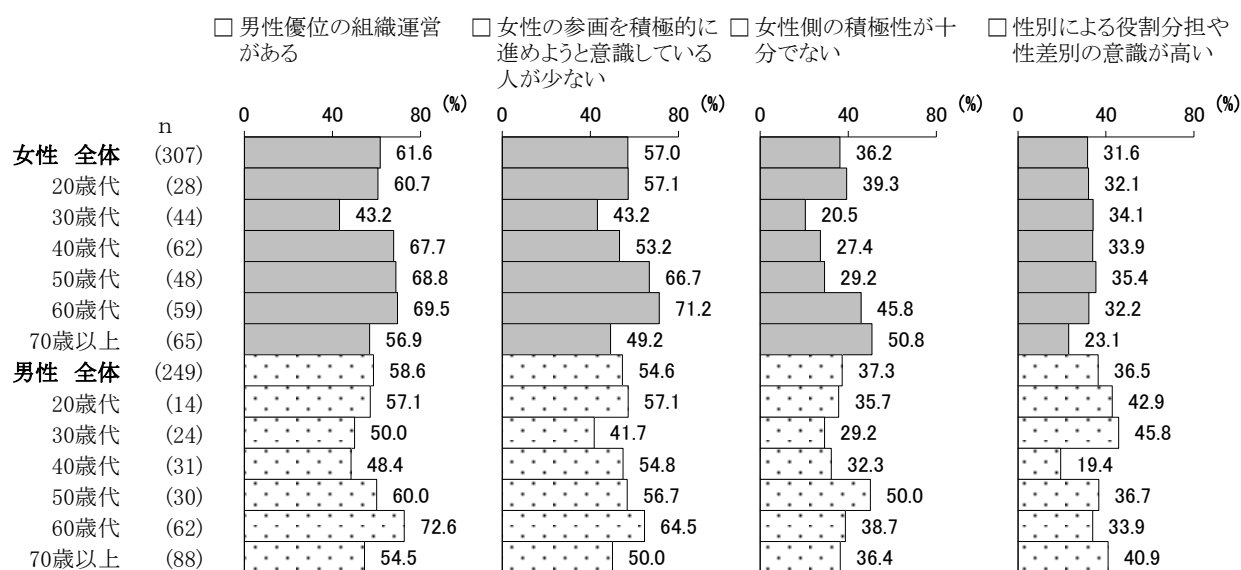


政策の企画や方針決定過程で女性の参画が少ない理由としては、「男性優位の組織運営がある」が59.9%で最も高く、以下「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」(55.2%)、「女性側の積極性が十分でない」(36.1%)、「性別による役割分担や性差別の意識が高い」(33.3%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「家族の支援・協力が得られない」が24.4%と、男性(17.7%)より高くなっています。一方、男性では「性別による役割分担や性差別の意識が高い」が36.5%と、女性(31.6%)より高くなっています。

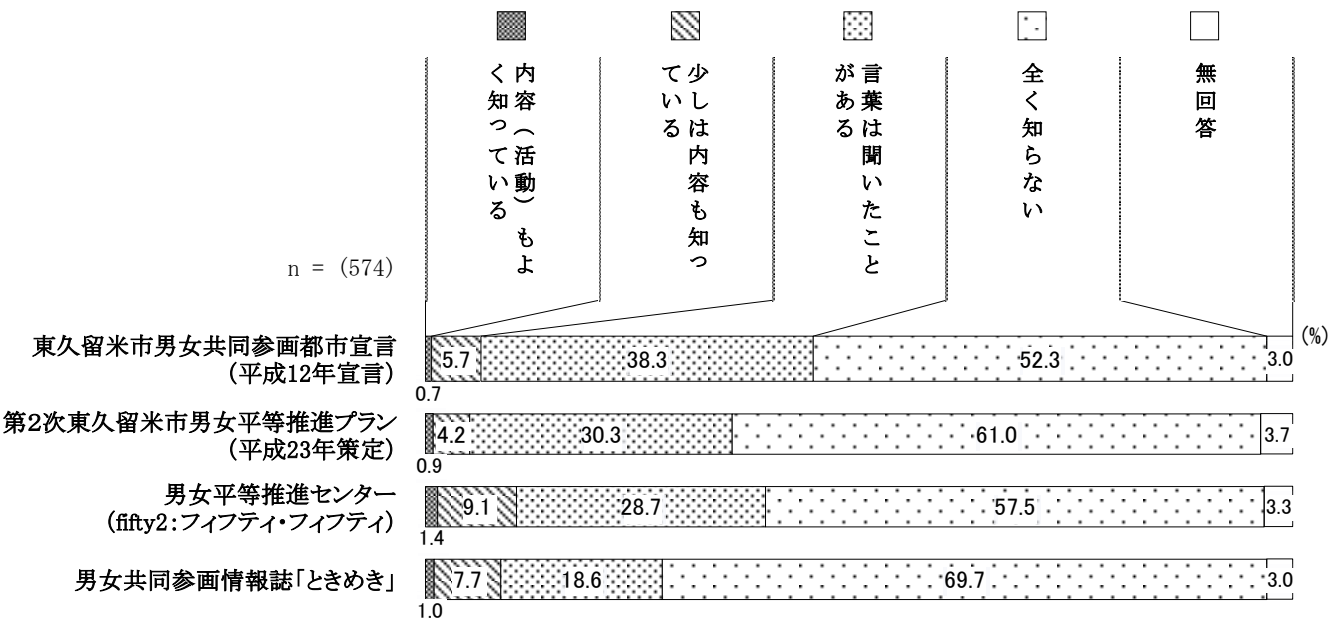
<性・年代別>

性・年代別にみると、女性の50歳代と60歳代、男性の60歳代では「男性優位の組織運営がある」が7割前後、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が6割から7割台と高く、女性ではどちらも年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられます。「女性側の積極性が十分でない」は女性の60歳代以上、男性の50歳代で5割前後となっており、女性では年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられます。また、「家族の支援・協力が得られない」は女性の40歳代で3割台と他の年代より高くなっています。



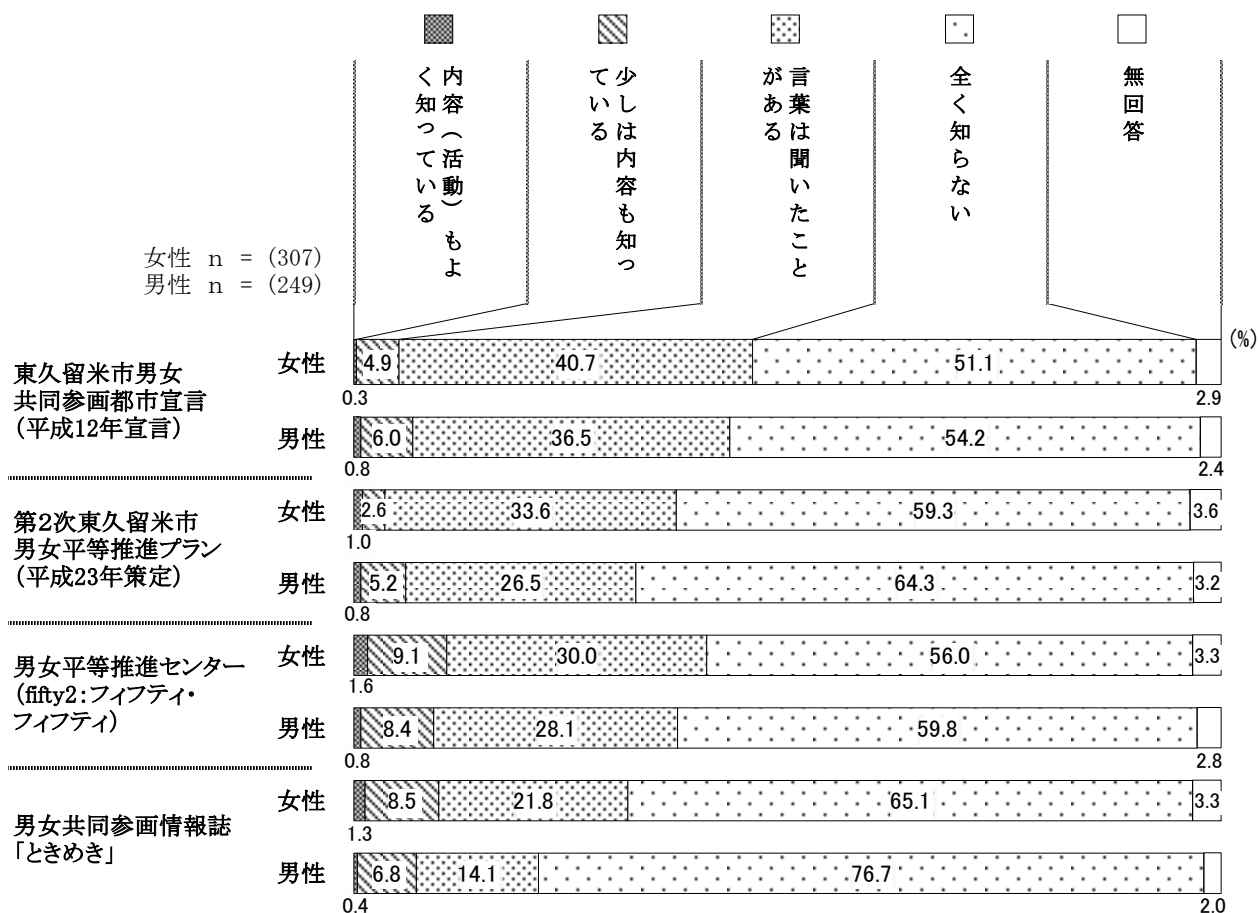
(4) 男女共同参画に関することばや取り組みの認識

問18 あなたは、次のことばや取り組みをご存じですか。



男女共同参画に関することばや取り組みの認識をみると、全ての項目で「全く知らない」が最も高くなっています。認知度（「内容（活動）もよく知っている」、「少しは内容も知っている」、「言葉は聞いたことがある」の合計）は“東久留米市男女共同参画都市宣言”が44.7%と最も高く、次いで“男女平等推進センター（fifty2：フィフティ・フィフティ）”が39.2%となっています。

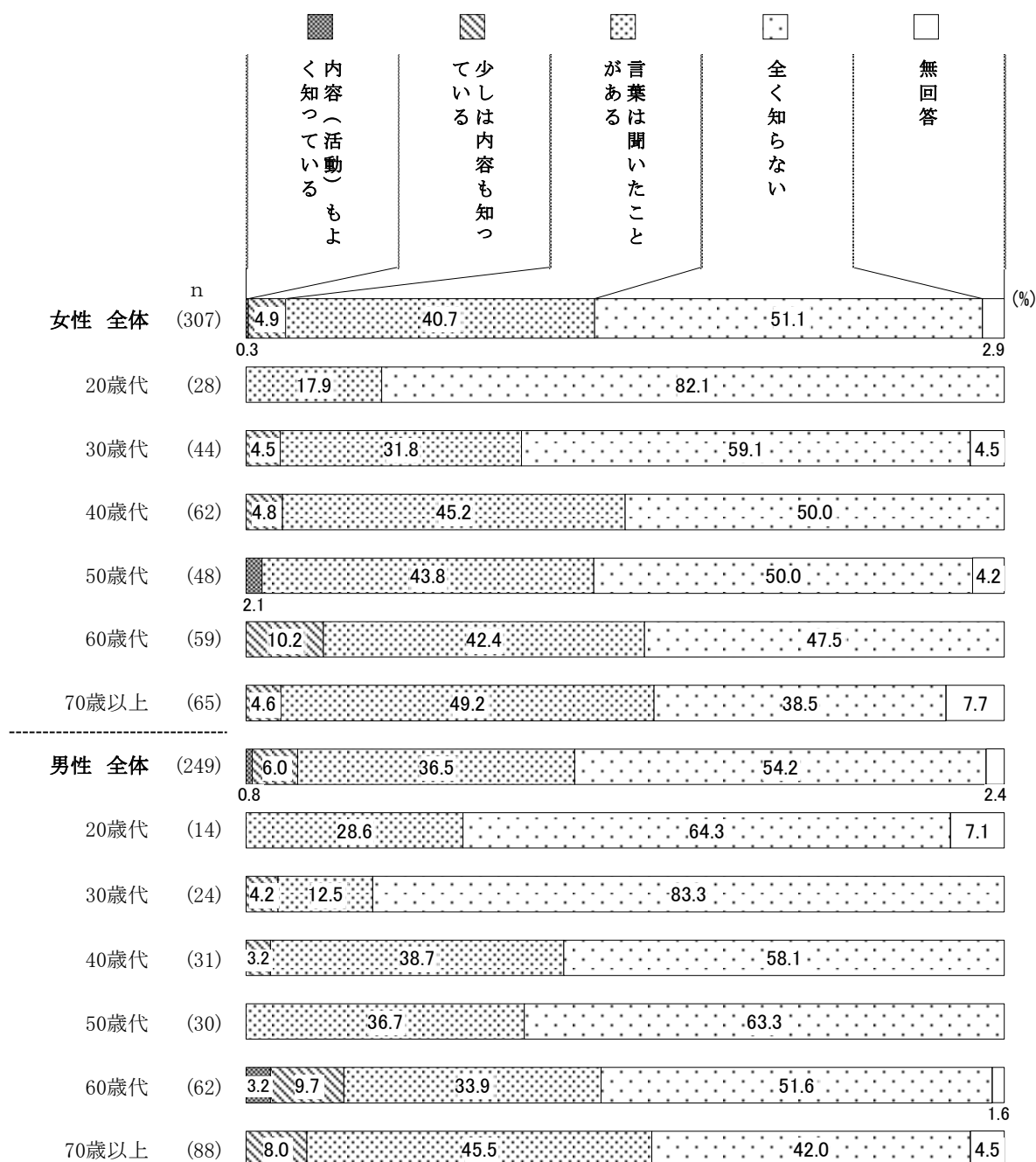
＜性別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識＞



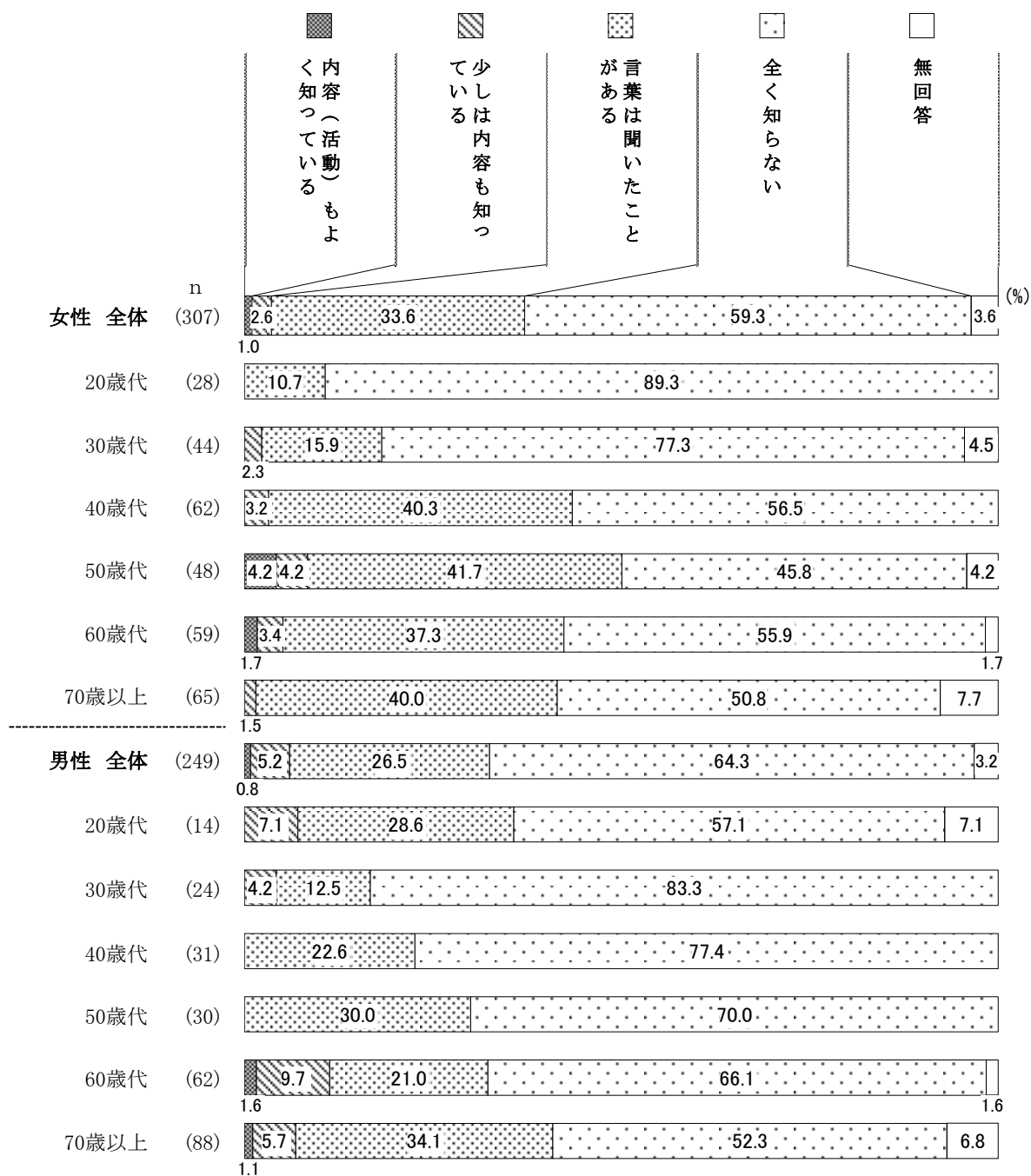
性別でみると、「全く知らない」は男性が“男女共同参画情報誌「ときめき」”で76.7%、“第2次東久留米市男女平等推進プラン”で64.3%と高く、すべての項目で女性を上回っています。一方、認知度（「内容（活動）もよく知っている」、「少しは内容も知っている」、「言葉は聞いたことがある」の合計）は女性が“東久留米市男女共同参画都市宣言”で45.9%、“男女平等推進センター（fifty2：フィフティ・フィフティ）”で40.7%と高く、すべての項目で男性を上回っています。

### ＜性・年代別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／東久留米市男女共同参画都市宣言＞

性・年代別にみると、認知度は“東久留米市男女共同参画都市宣言（平成12年宣言）”は女性40歳代と60歳代以上、男性70歳以上で5割台となっています。“第2次東久留米市男女平等推進プラン（平成23年策定）”、“男女平等推進センター（fifty2：フィフティ・フィフティ）”は女性の40歳代以上で4割台となっており、うち50歳代で5割台となっています。“男女共同参画情報誌「ときめき」”は女性の60歳代以上で4割台となっています。



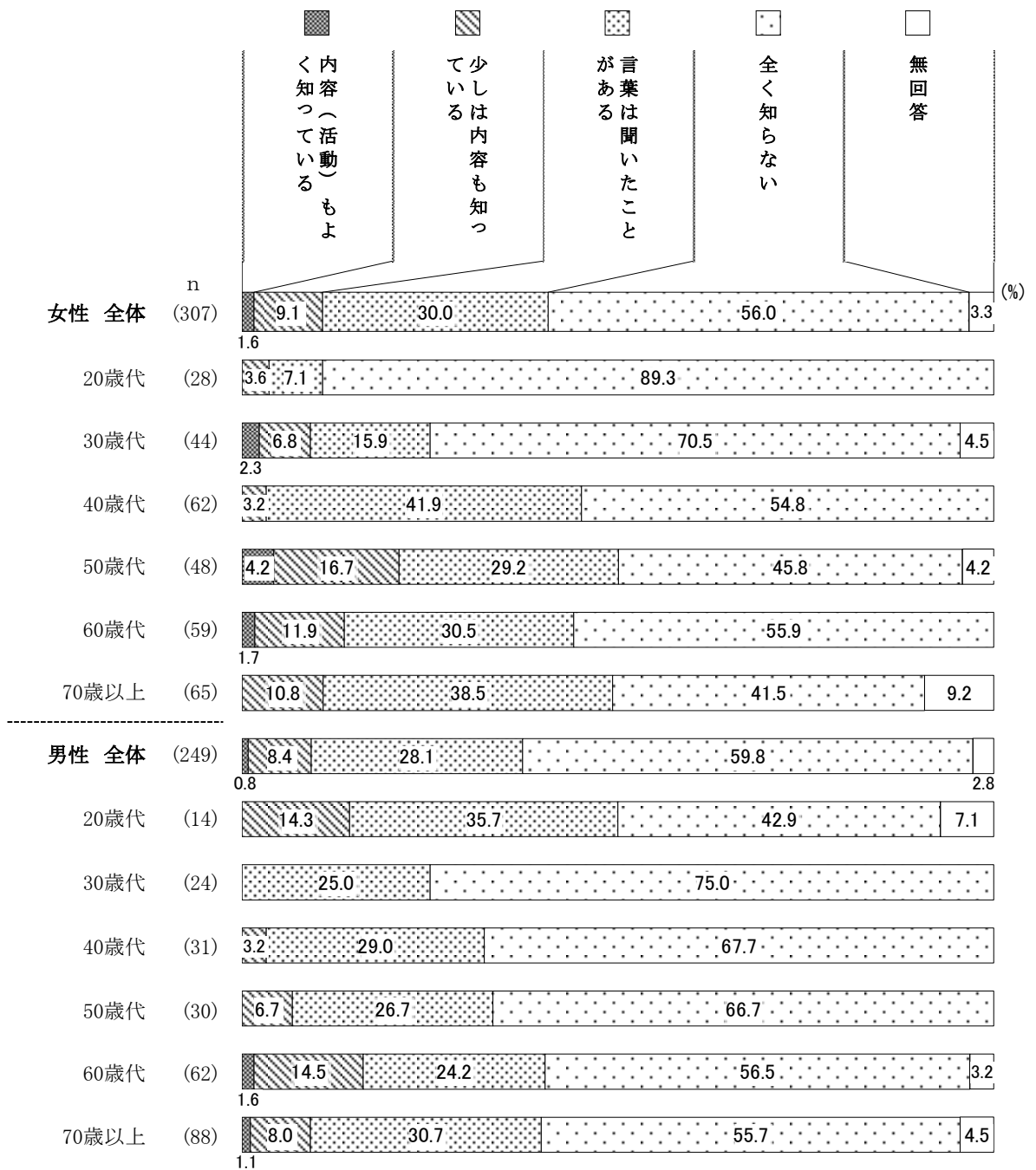
＜性・年代別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／第2次東久留米市男女平等推進プラン＞



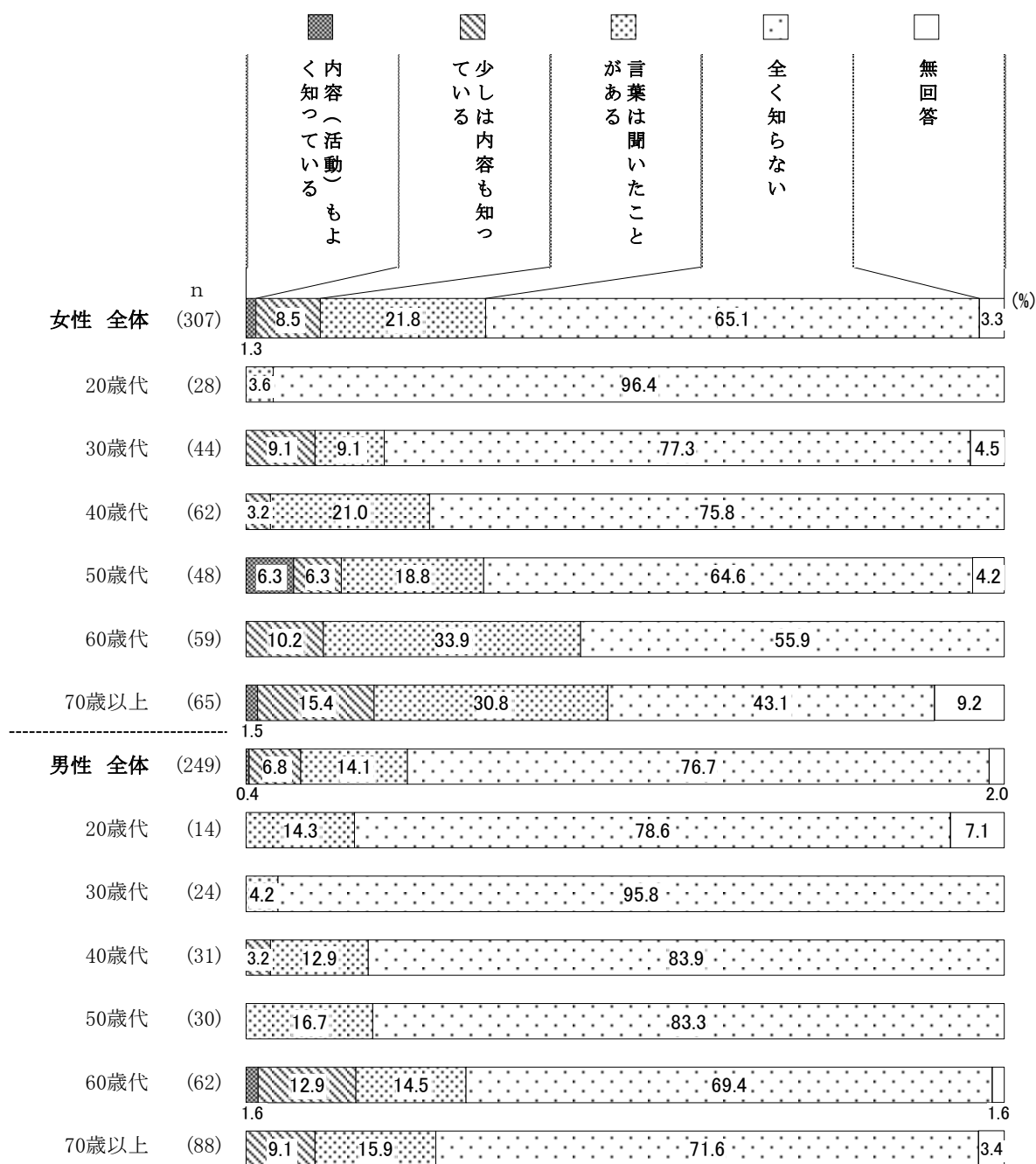


＜性・年代別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／男女平等推進センター

(fifty2 : フィフティ・フィフティ) ＞

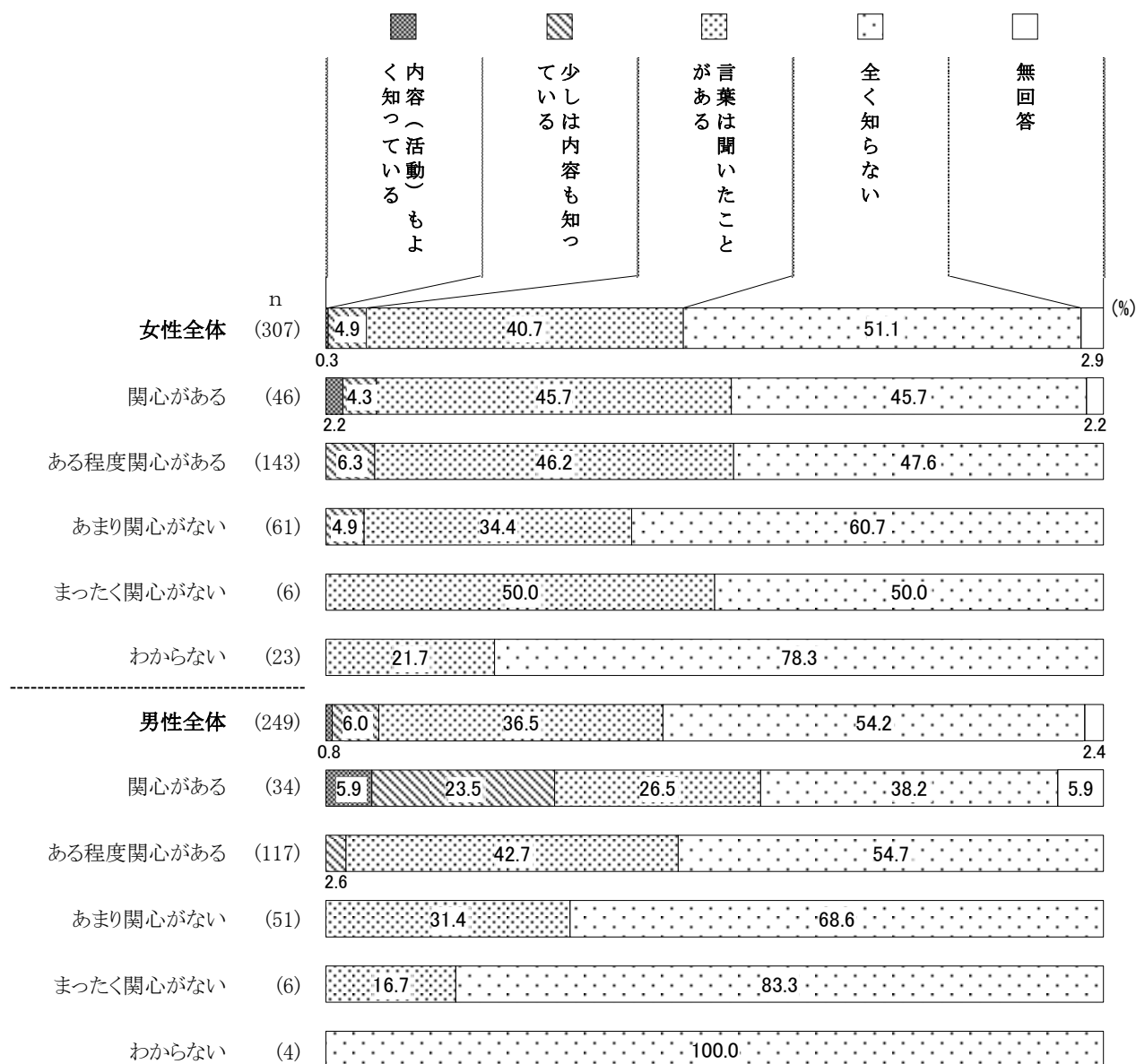


<性・年代別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／男女共同参画情報誌「ときめき」>

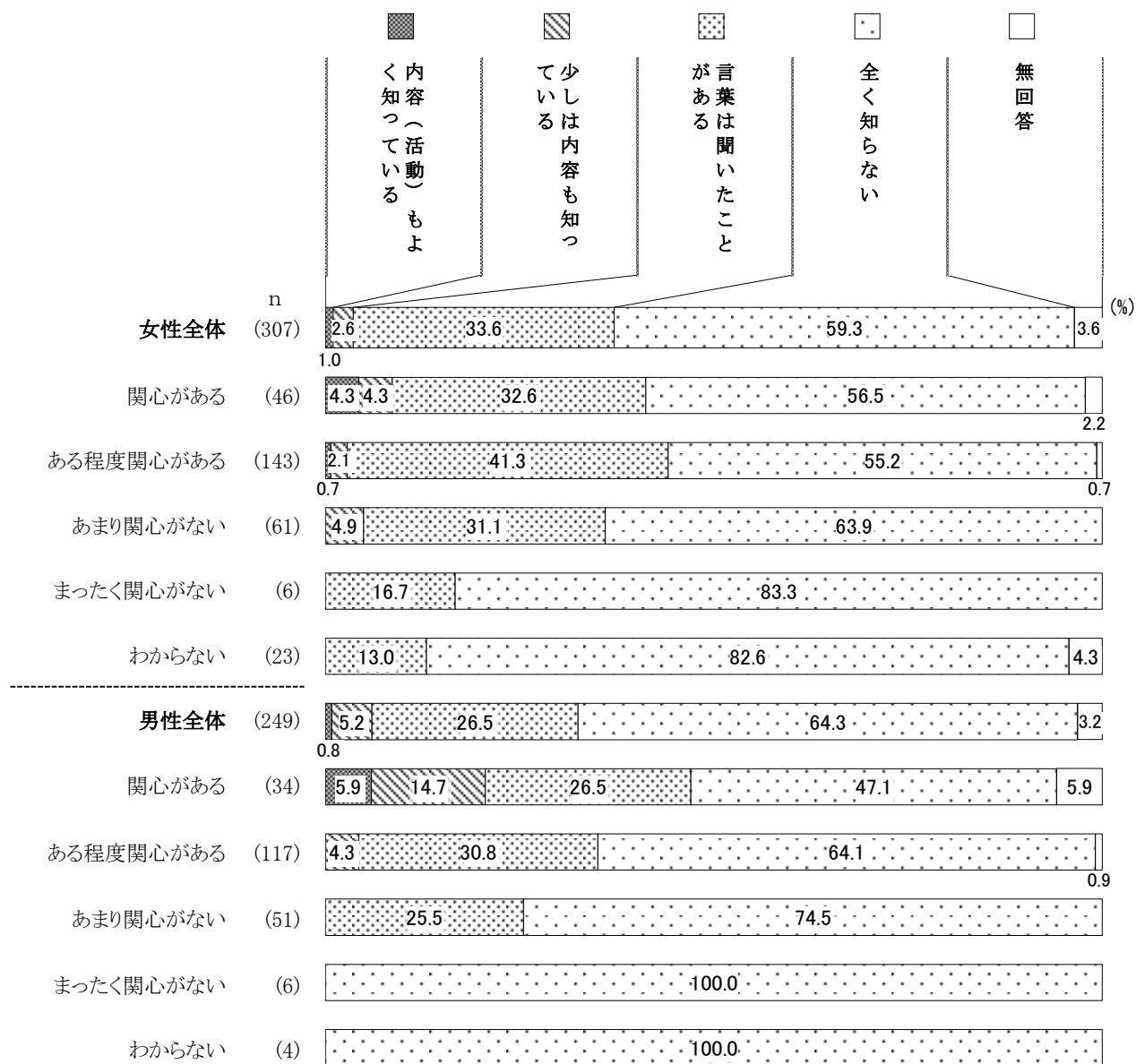


性・男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／  
東久留米市男女共同参画都市宣言＞

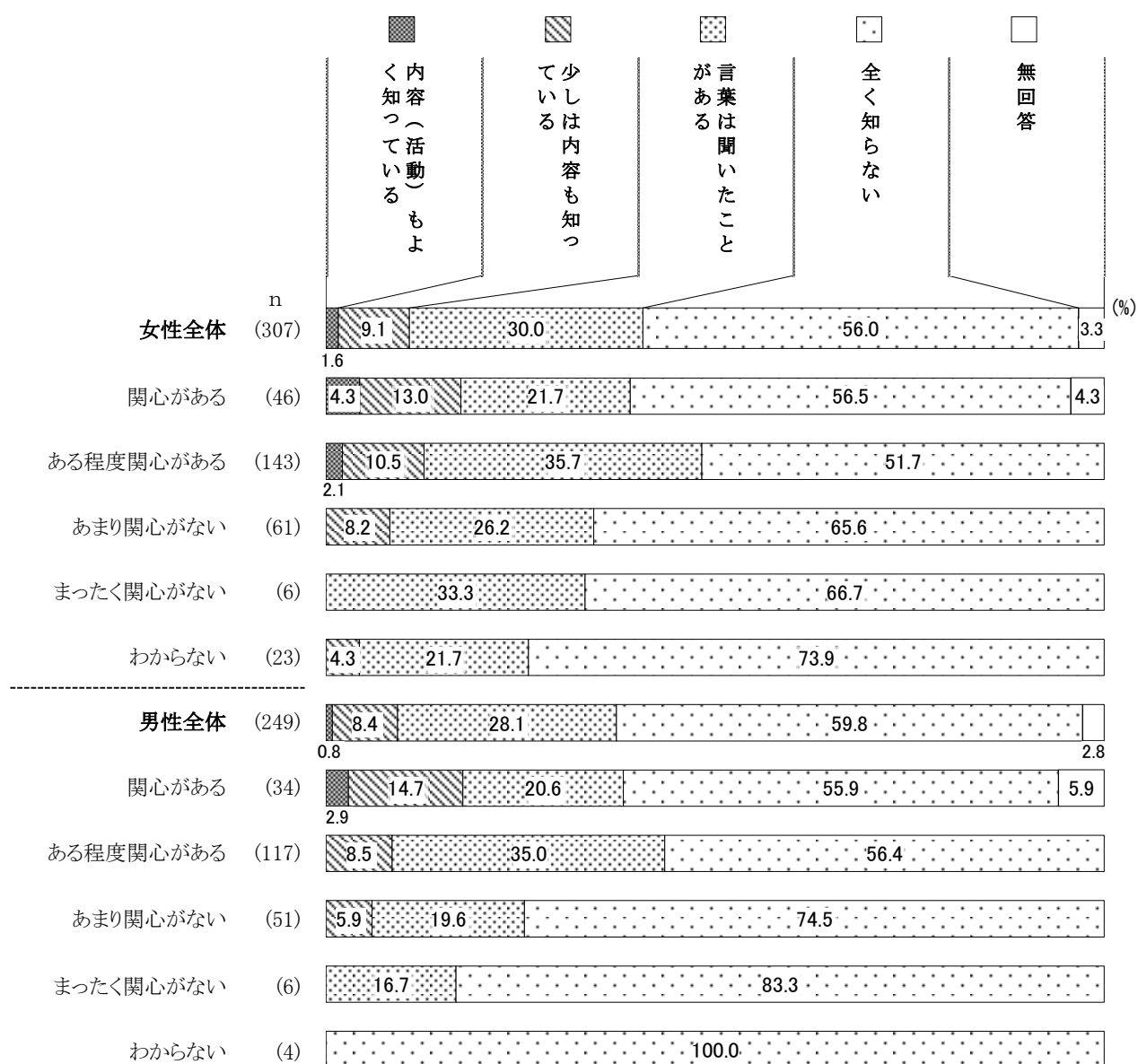
性・男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心別にみると、すべてのことばや取り組みについての関心が高い方ほど、おおむね認知度が高くなっています。特に“東久留米市男女共同参画都市宣言（平成12年宣言）”は女性の関心がある方、ある程度関心がある方、男性の関心がある方で5割台と認知度が高くなっています。



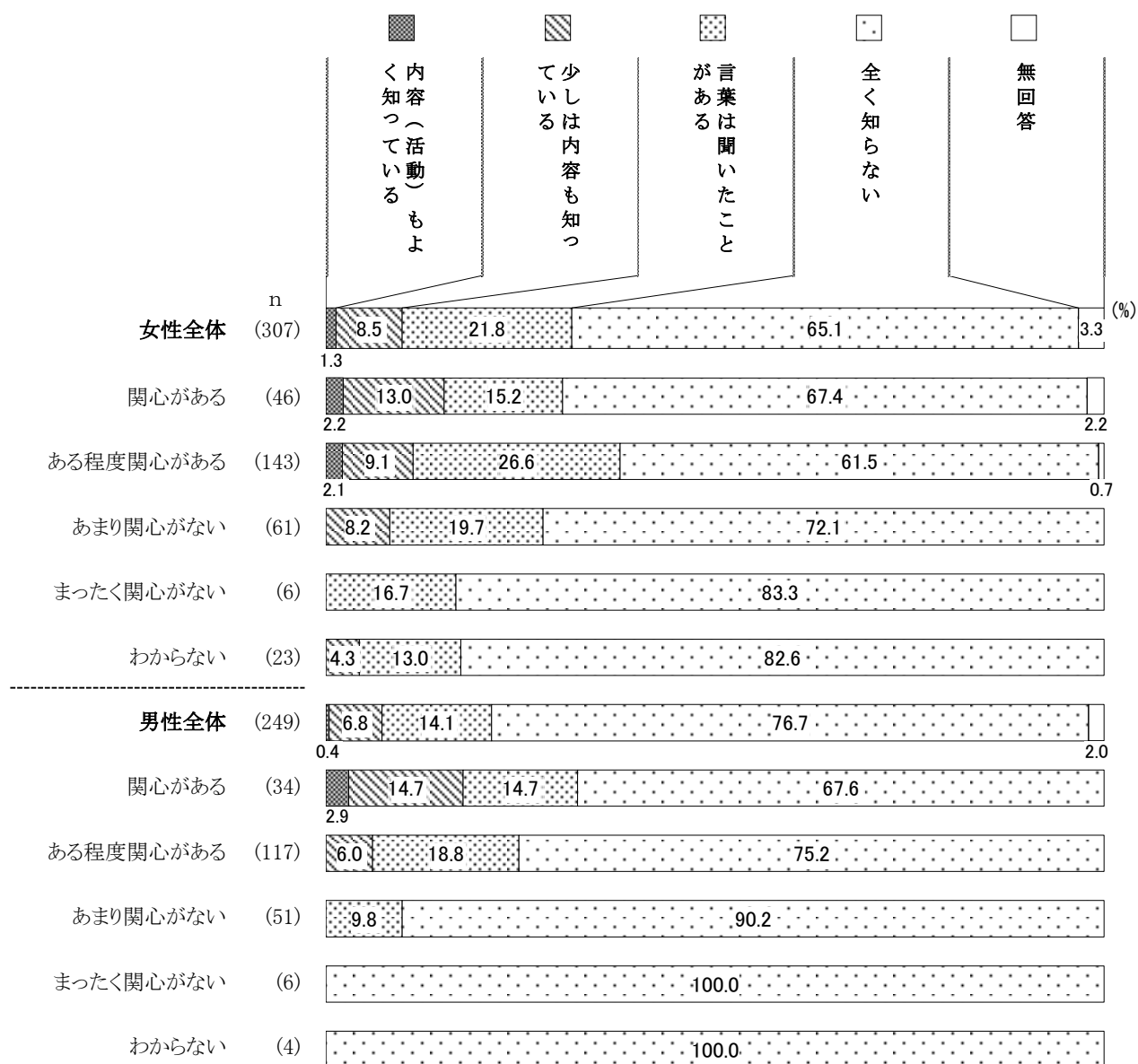
＜性・男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／  
第2次東久留米市男女平等推進プラン＞



＜性・男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／  
男女平等推進センター（fifty2：フィフティ・フィフティ）＞



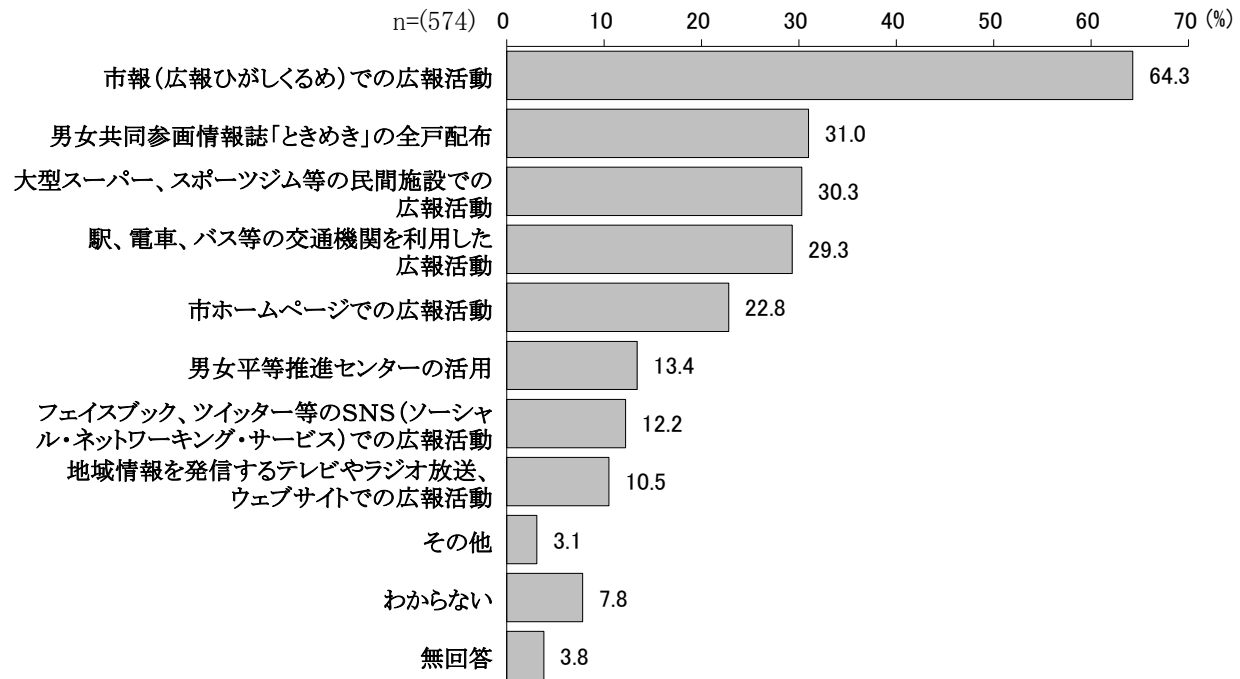
＜性・男女の平等に関わる国や市の施策などへの関心別／男女共同参画に関することばや取り組みの認識／  
男女共同参画情報誌「ときめき」＞



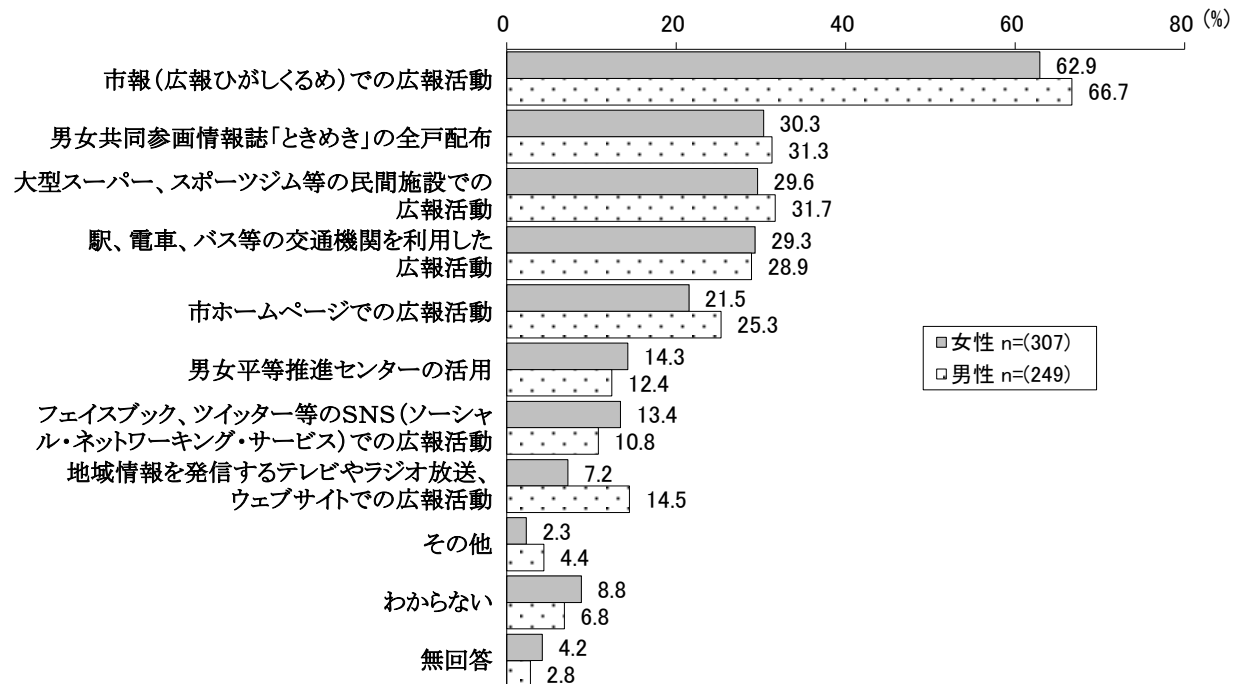
## (5) 男女共同参画施策の推進のための取り組みを周知するための有効な手段

問19 市における男女共同参画施策の推進のための取り組みを広く周知するため、どのような手段が有効だと思いますか。3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;



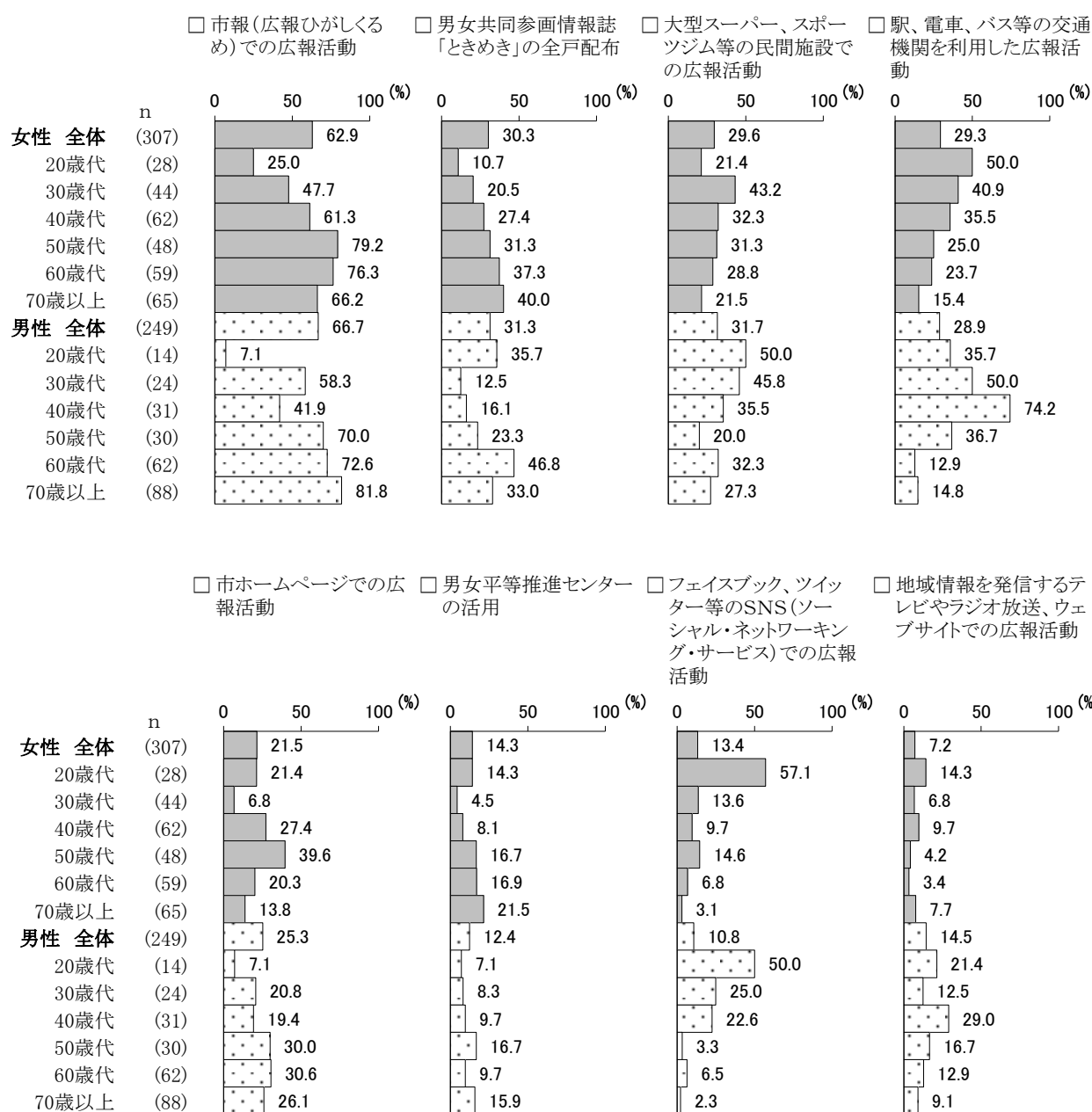
## 第2章 調査結果の詳細

男女共同参画施策の推進のための取り組みを周知するための有効な手段としては、「市報（広報ひがしくるめ）での広報活動」が64.3%で最も高く、以下「男女共同参画情報誌『ときめき』の全戸配布」（31.0%）、「大型スーパー、スポーツジム等の民間施設での広報活動」（30.3%）、「駅、電車、バス等の交通機関を利用した広報活動」（29.3%）の順で続いています。

性別でみると、男性では「地域情報を発信するテレビやラジオ放送、ウェブサイトでの広報活動」が14.5%と、女性（7.2%）より高くなっています。

### <性・年代別>

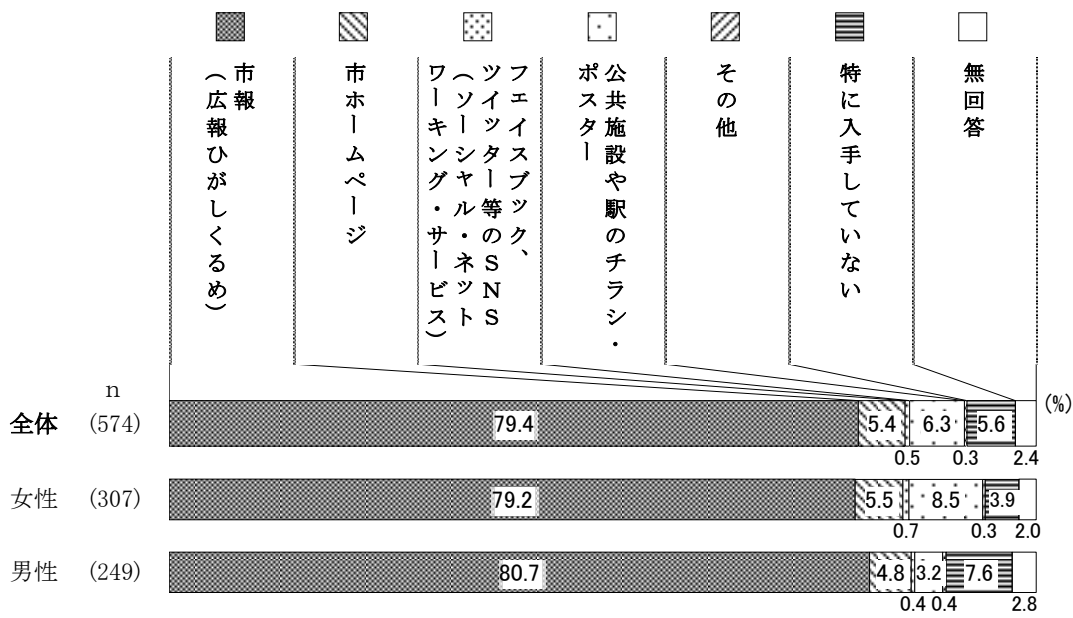
性・年代別にみると、「市報（広報ひがしくるめ）での広報活動」は女性の50歳代、男性の70歳以上で8割前後と高くなっています。「男女共同参画情報誌『ときめき』の全戸配布」は女性では年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、女性70歳代以上、男性60歳代で4割台となっています。また、「駅、電車、バス等の交通機関を利用した広報活動」は男性の40歳代で7割台と他の年代より高くなっています。





(6) 市発信の情報を入手する主な媒体

問19-1 あなたは、市が発信する情報をどのような媒体を通じて入手することが、もっとも多いですか。

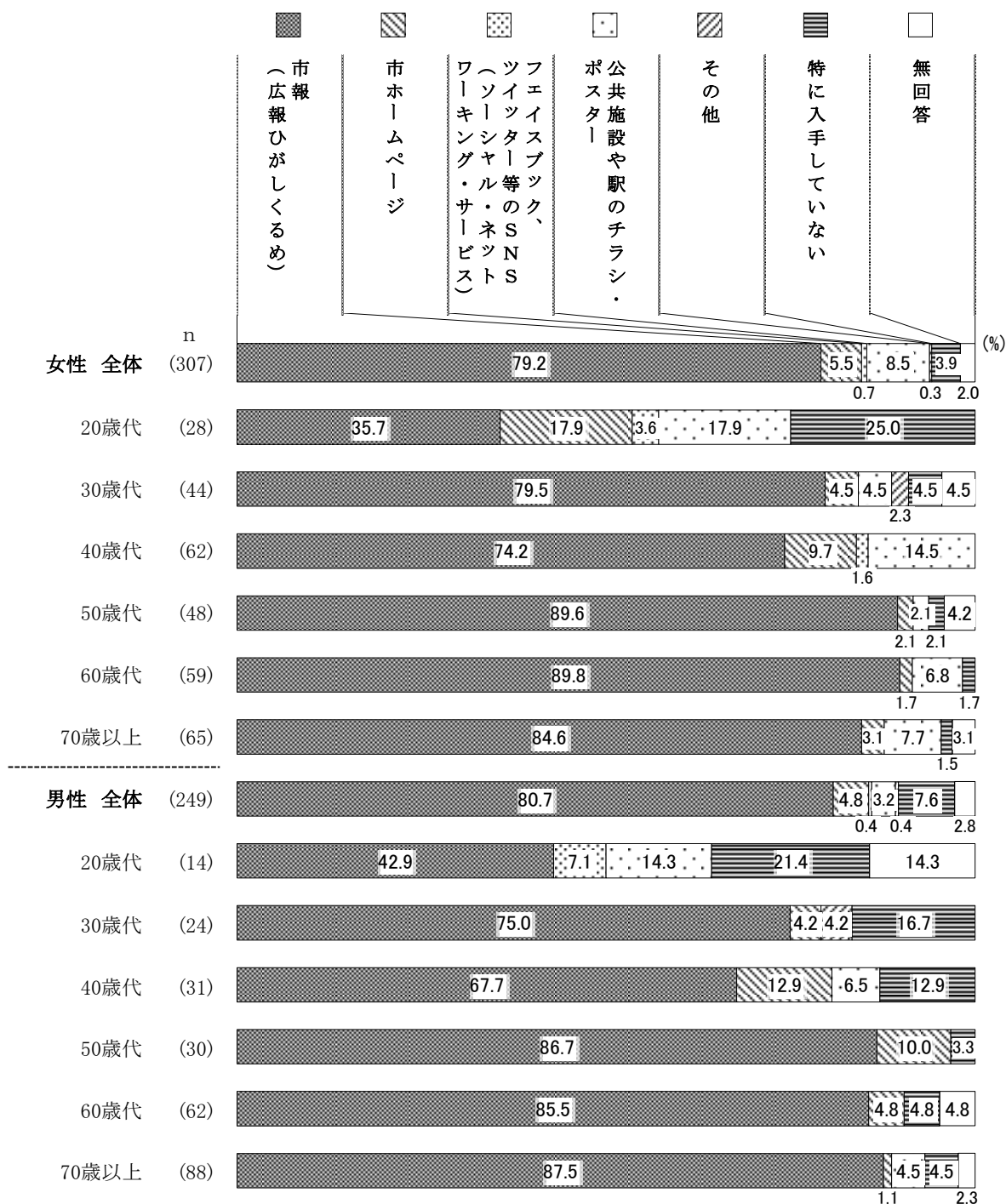


市発信の情報を入手する主な媒体について、全体では、「市報（広報ひがしくるめ）」が79.4%と約8割を占めています。

性別でみると、「市報（広報ひがしくるめ）」が女性で79.2%、男性で80.7%を占めています。

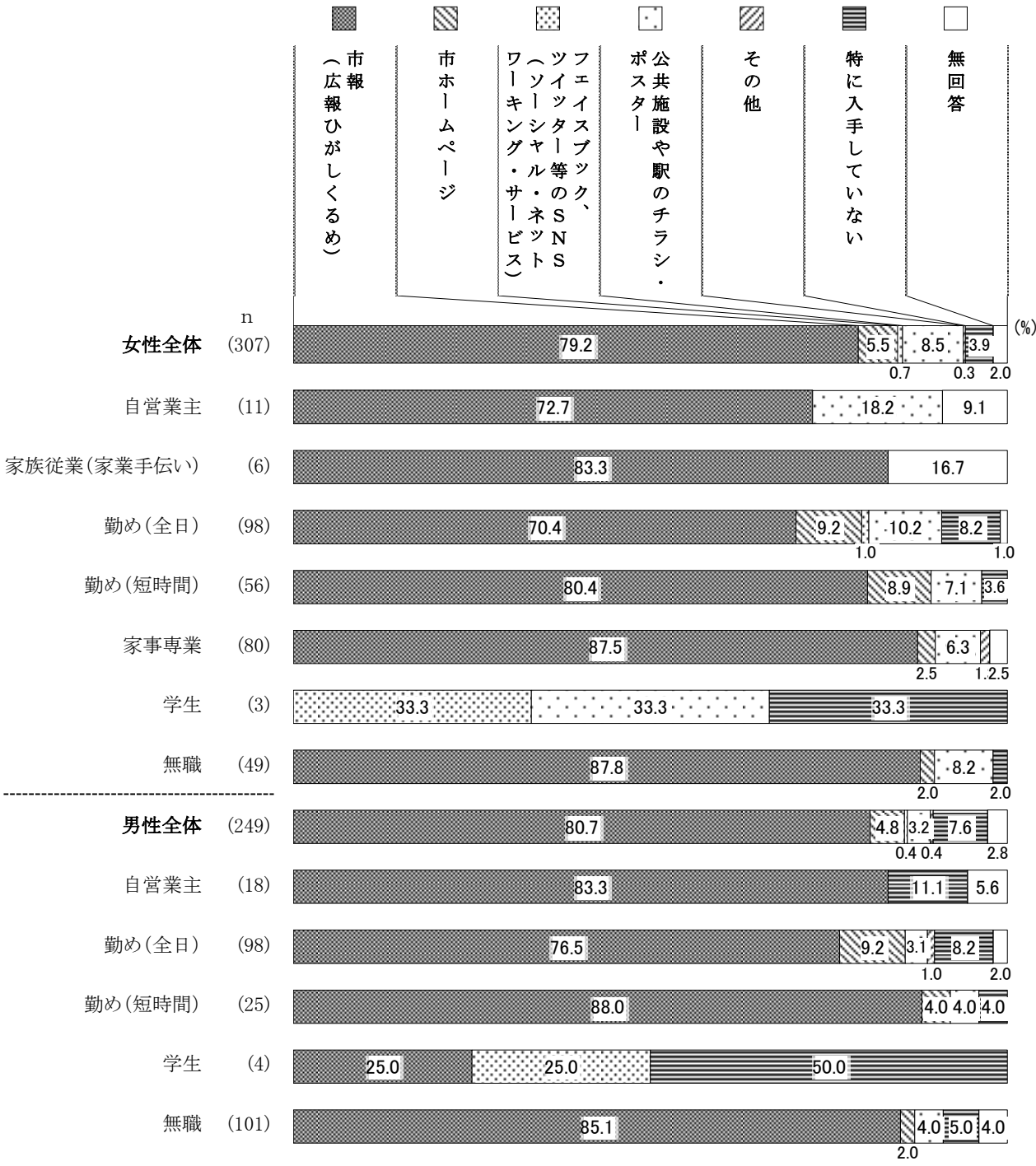
＜性・年代別／市発信の情報を入手する主な媒体＞

性・年代別にみると、「市報（広報ひがしくるめ）」はすべての年代で最も高く、男女とも50歳代以上で8割台となっています。また、「特に入手していない」は若年層で比較的高くなっています。



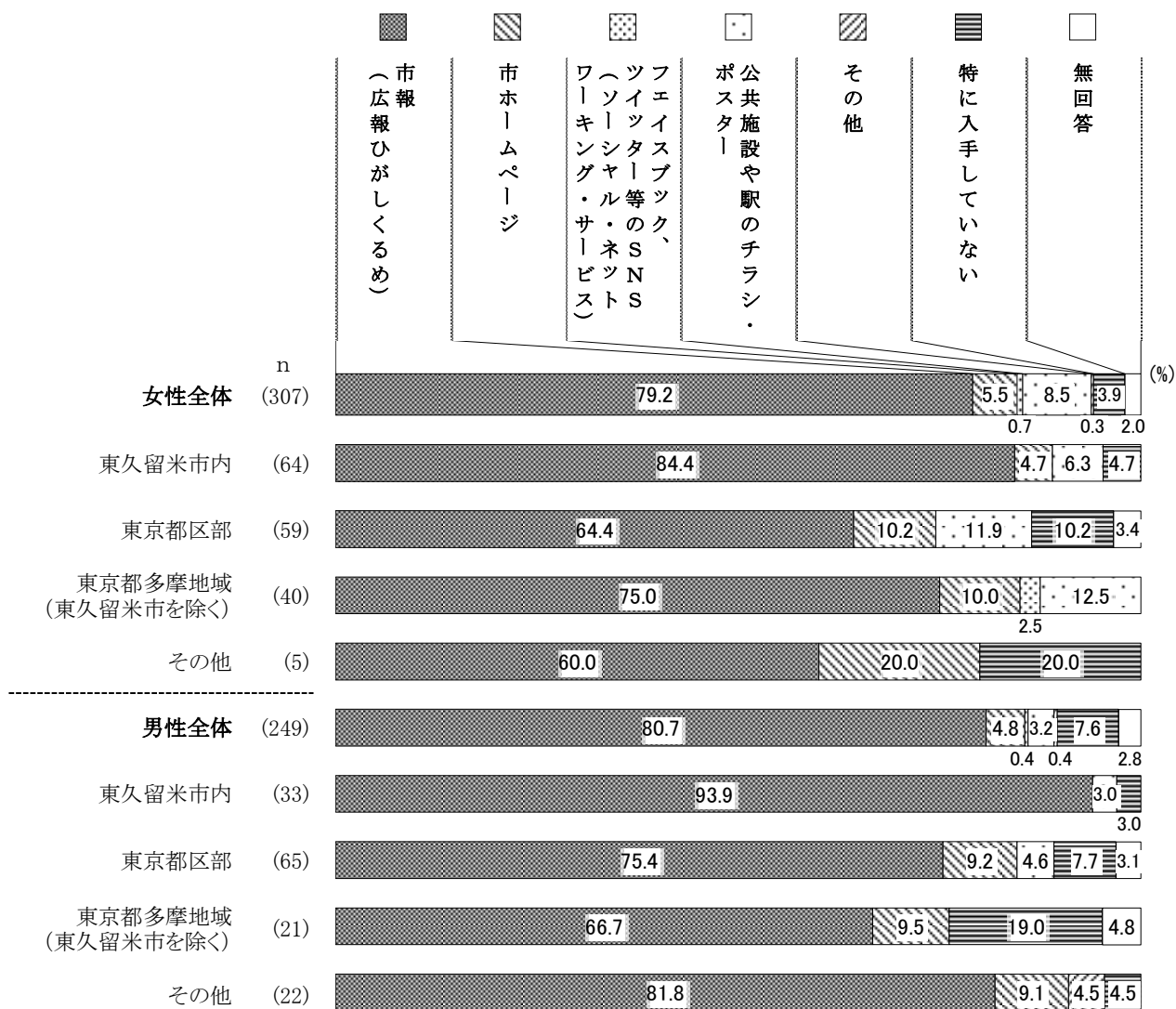
＜性・職業別／市発信の情報を入手する主な媒体＞

性・職業別にみると、「市報（広報ひがしくるめ）」は女性の勤め（短時間）、家事専業、男女の無職で8割台、男女の勤め（全日）で7割台と高くなっています。



＜性・職場別／市発信の情報を入手する主な媒体＞

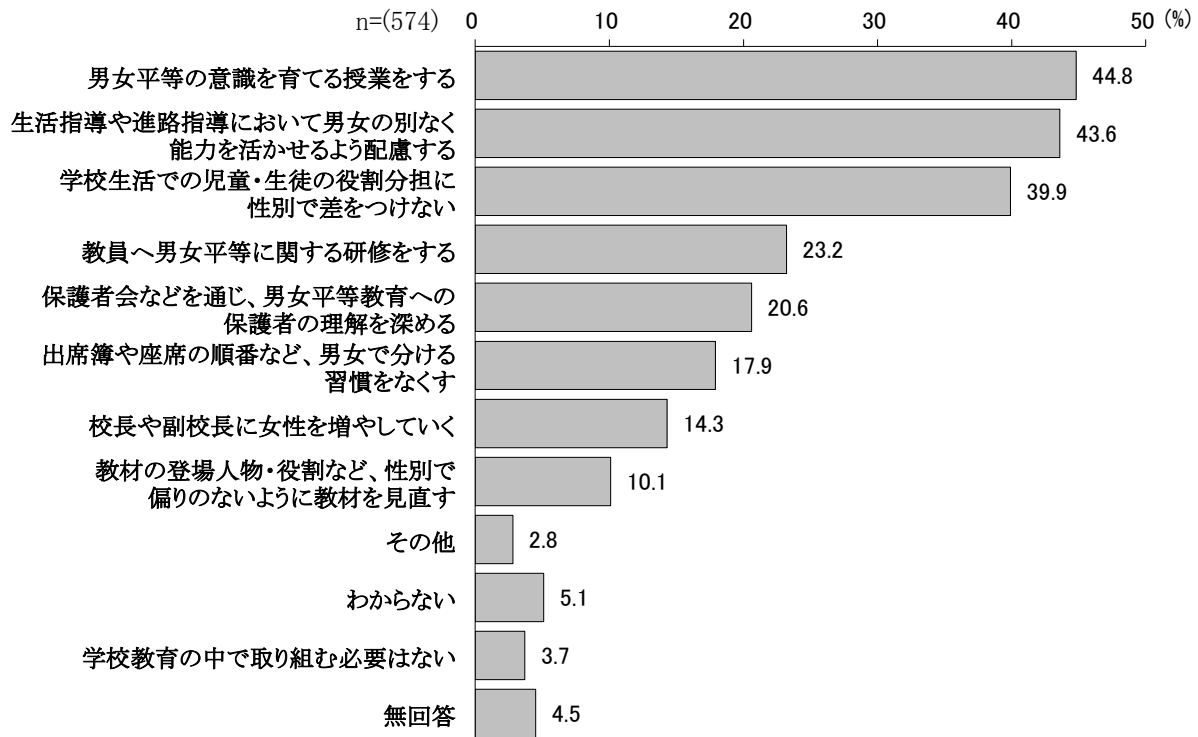
性・職場別にみると、「市報（広報ひがしくるめ）」は男性の東久留米市内で9割台、女性の東久留米市内で8割台、女性の東京都多摩地域（東久留米市を除く）と男性の東京都区部で7割台と高くなっています。



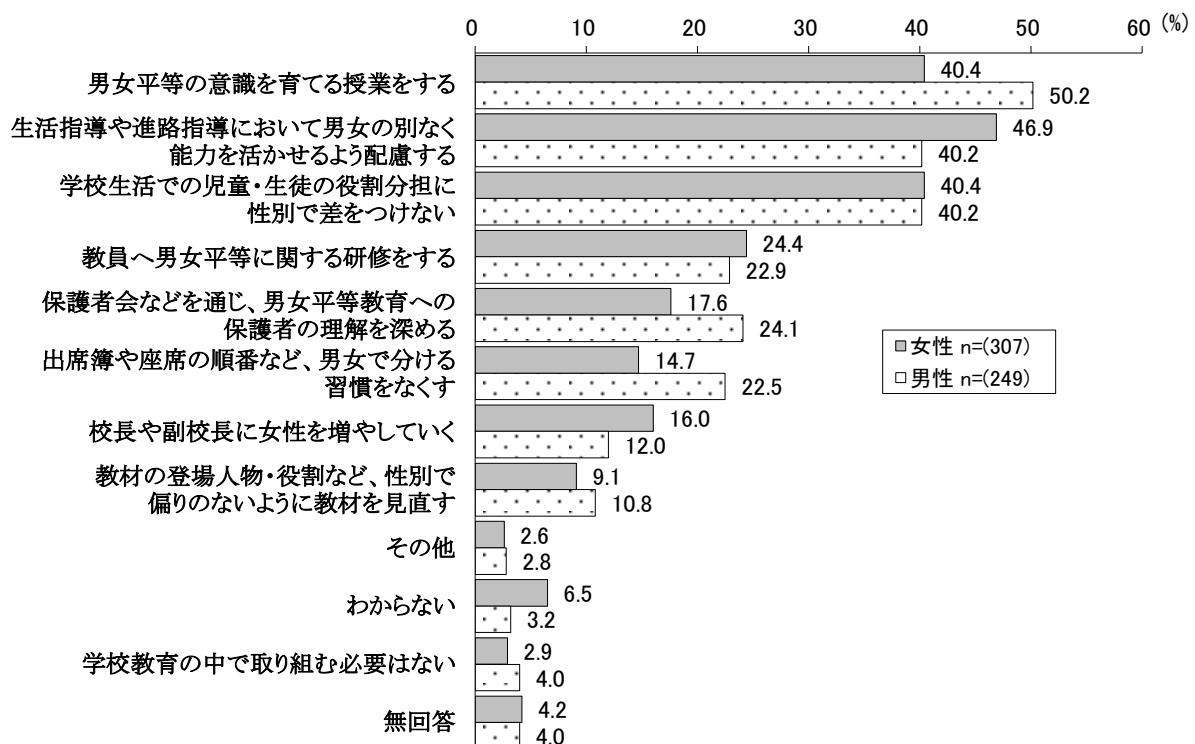
## (7) 男女平等を推進していくために小・中学校で取り組むとよいもの

問20 男女平等を推進していくために、小・中学校で取り組むとよいと思うものは何ですか。3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;



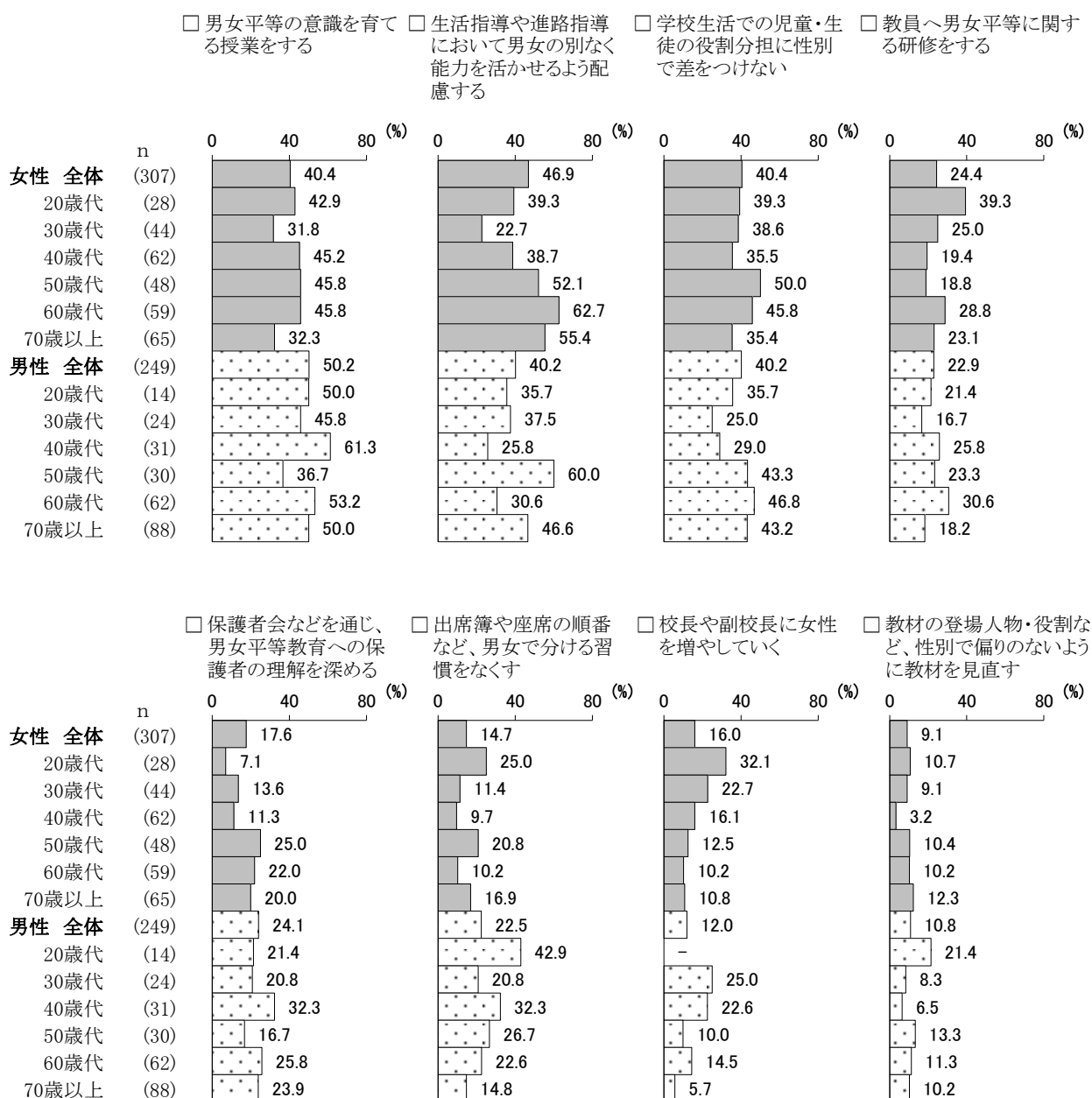
## 第2章 調査結果の詳細

男女平等を推進していくために小・中学校で取り組むとよいものは、「男女平等の意識を育てる授業をする」が44.8%で最も高く、以下「生活指導や進路指導において男女の別なく能力を活かせるよう配慮する」(43.6%)、「学校生活での児童・生徒の役割分担に性別で差をつけない」(39.9%)、「教員へ男女平等に関する研修をする」(23.2%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「生活指導や進路指導において男女の別なく能力を活かせるよう配慮する」が46.9%と、男性(40.2%)より高くなっています。一方、男性では「男女平等の意識を育てる授業をする」が50.2%と、女性(40.4%)より高くなっています。

### <性・年代別>

性・年代別にみると、「生活指導や進路指導において男女の別なく能力を活かせるよう配慮する」は女性の50歳代以上、男性の50歳代で5割以上となっています。「学校生活での児童・生徒の役割分担に性別で差をつけない」は女性の50歳代で5割、「教員へ男女平等に関する研修をする」は男性の60歳代で、「保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める」は男性の40歳代で3割台と他の年代より高くなっています。

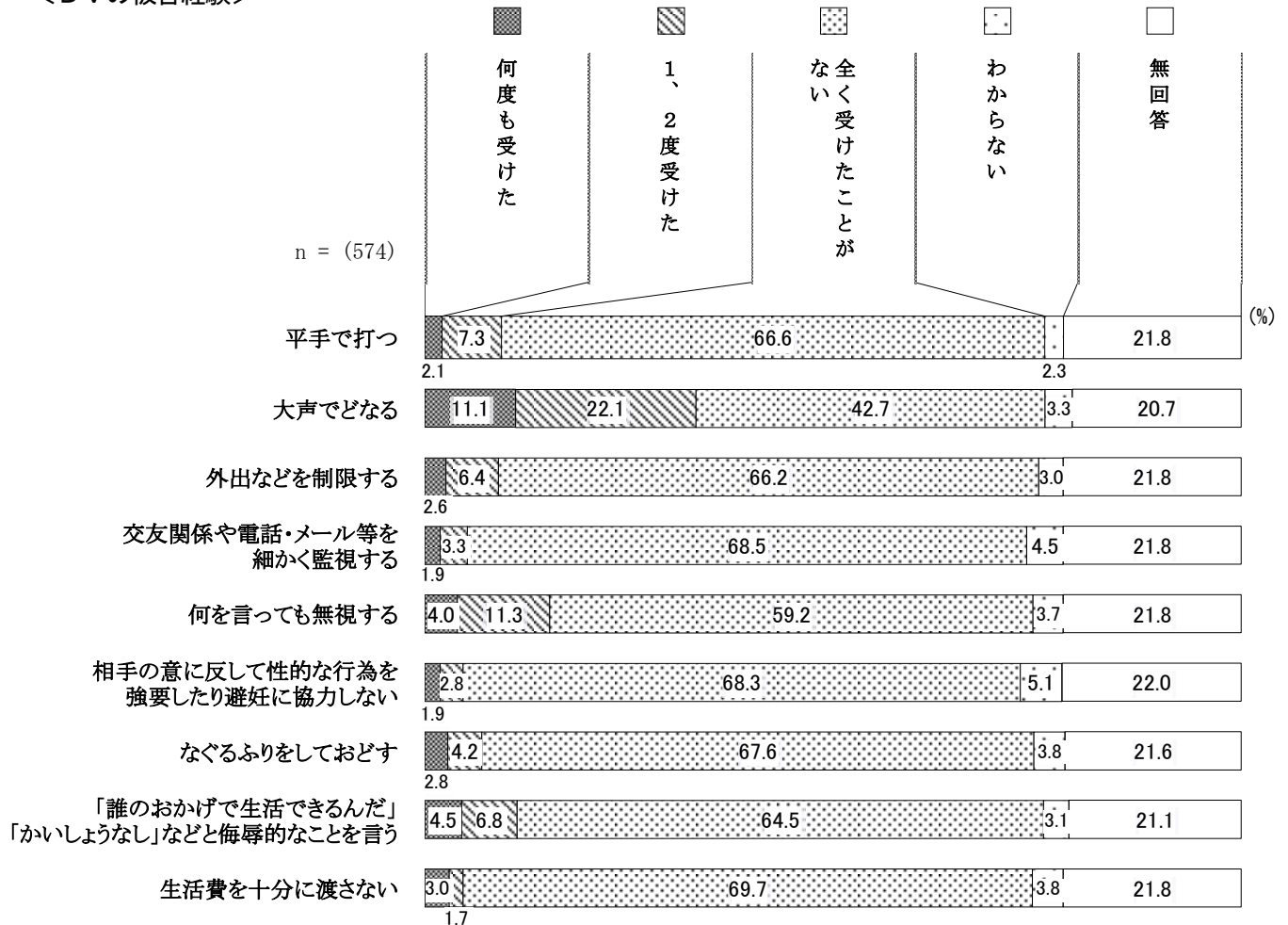


## 9. 配偶者等からの暴力

### (1) DVの被害・加害経験

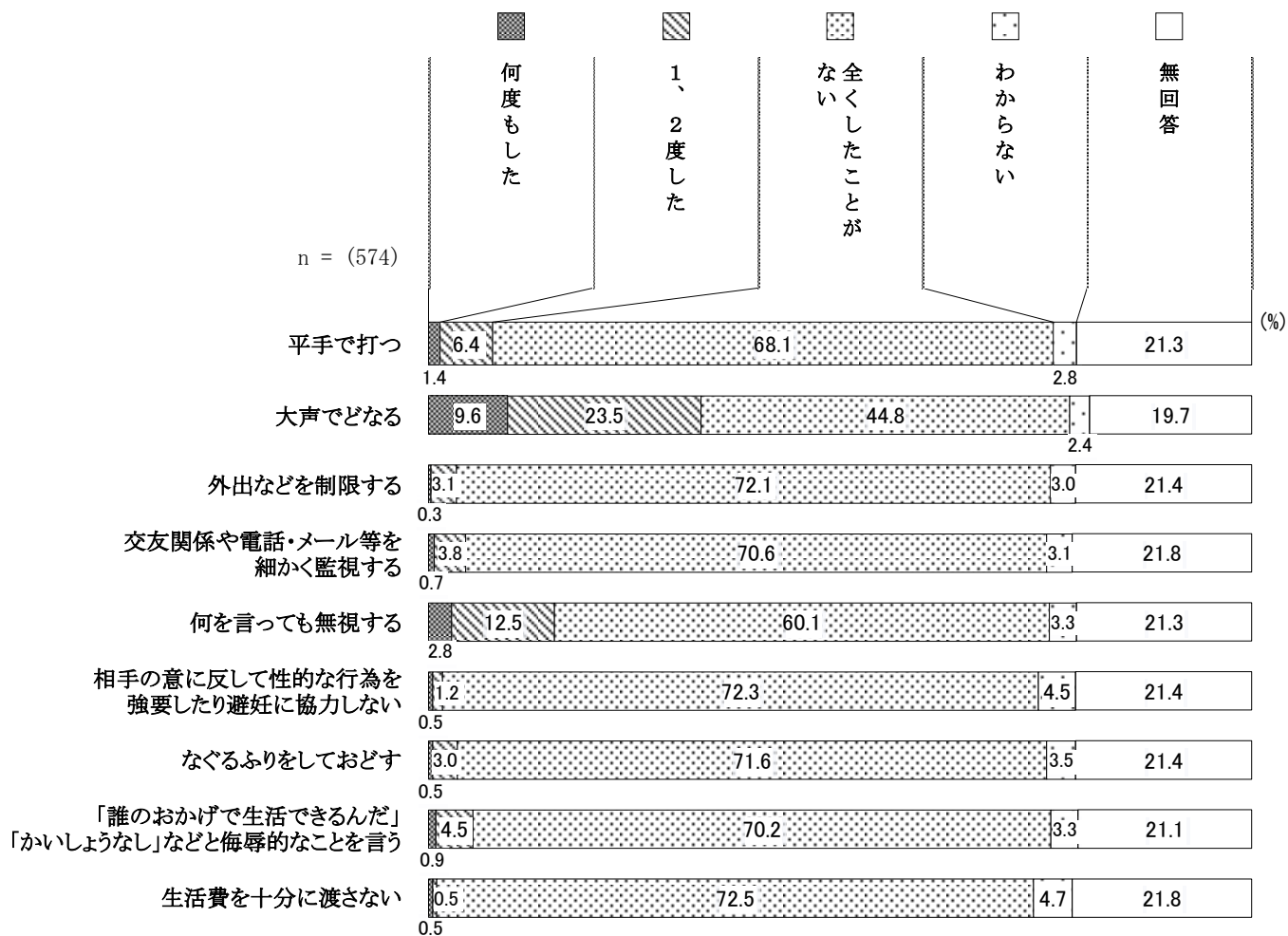
問21 今までに、配偶者等から次のような行為を受けたこと、または、配偶者等に次のような行為をしたことがありますか。

#### <DVの被害経験>



DVの被害経験をみると、すべての項目で「全く受けたことがない」が最も高くなっています。一方、“大声でどなる”では被害経験（「何度も受けた」と「1、2度受けた」の合計）が33.2%と3割台で最も高く、次いで“何を言っても無視する”で15.3%、“「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことを言う”で11.3%と1割台となっています。

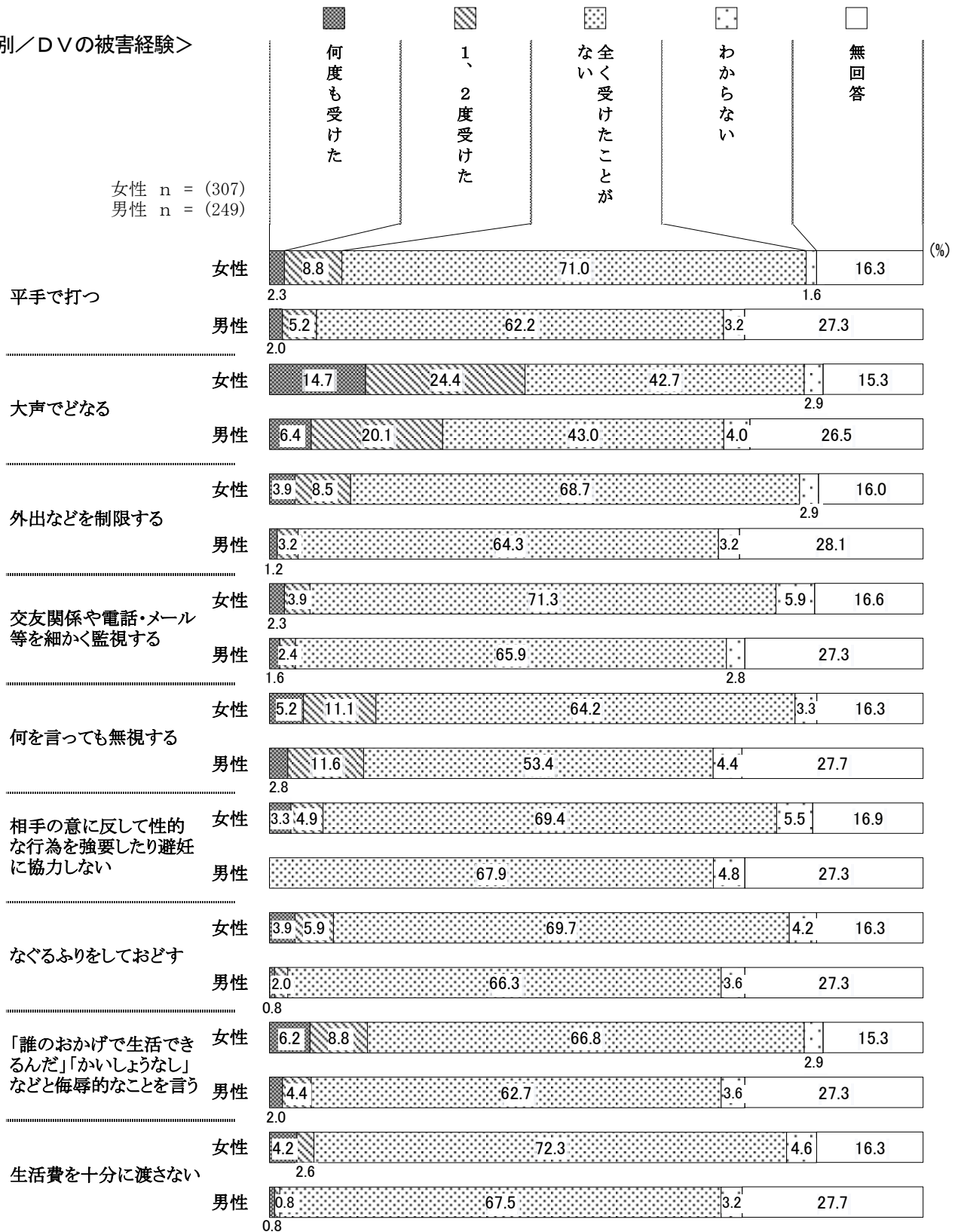
<DVの加害経験>



DVの加害経験をみると、すべての項目で「全くしたことがない」が最も高くなっています。一方、“大声でどなる”では加害経験（「何度もした」と「1、2度した」の合計）が33.1%と3割台で最も高く、次いで“何を言っても無視する”で15.3%と1割台となっています。

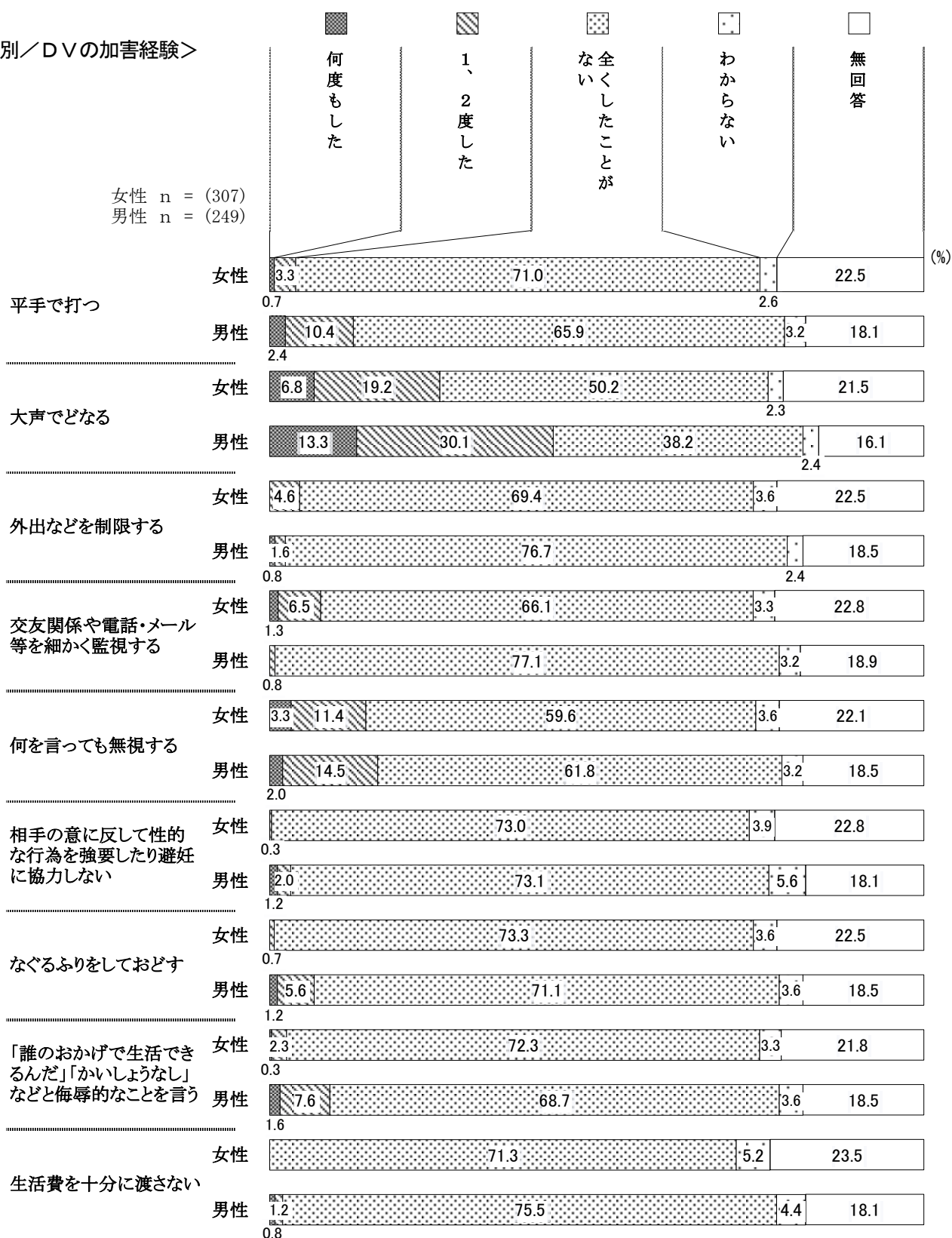


## ＜性別／DVの被害経験＞



性別でみると、被害経験（「何度も受けた」と「1、2度受けた」の合計）は女性が“大声でどなる”で39.1%、“何を言っても無視する”で16.3%、“「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことを言う”で15.0%と高く、すべての項目で男性を上回っています。

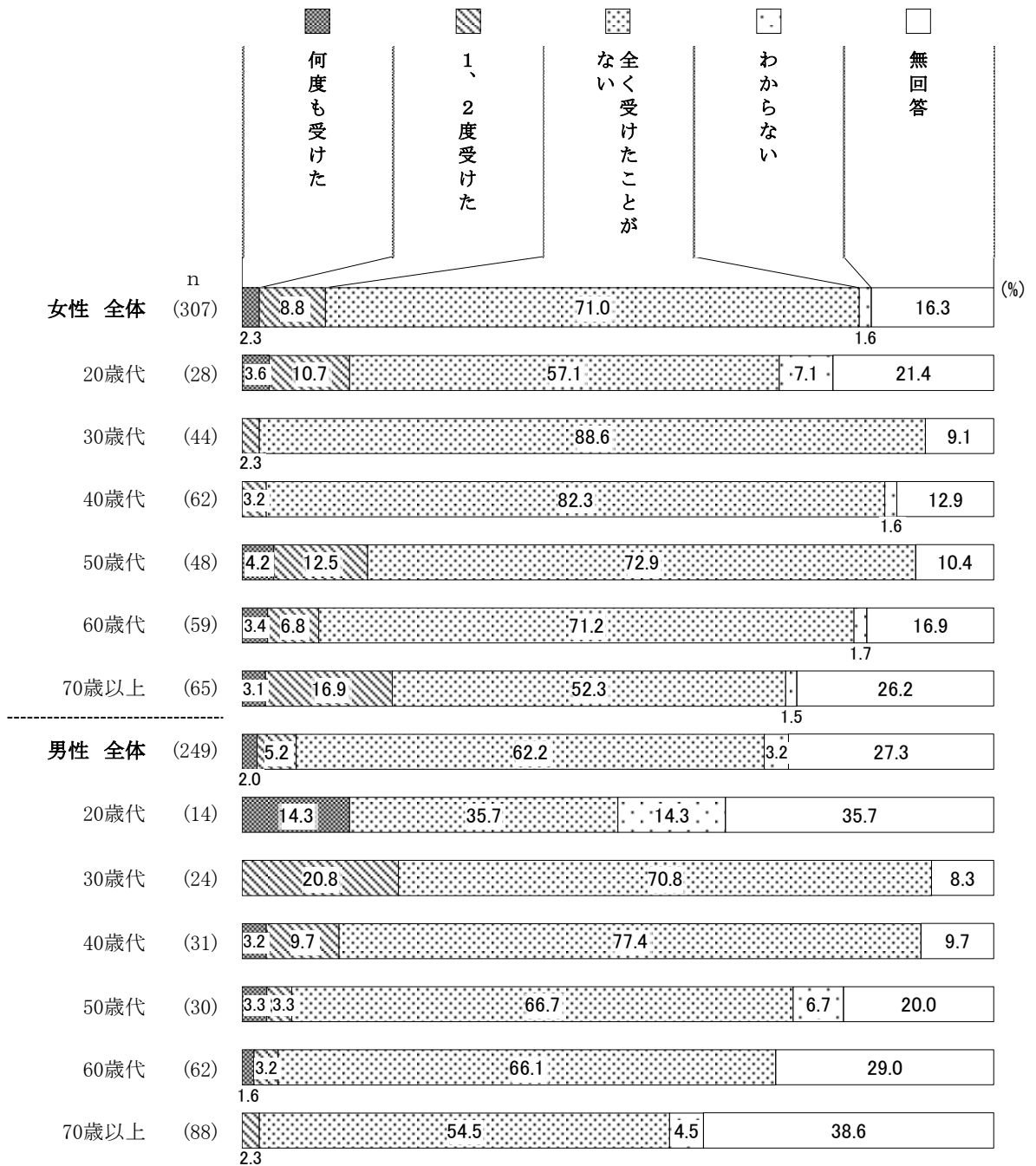
＜性別／DVの加害経験＞



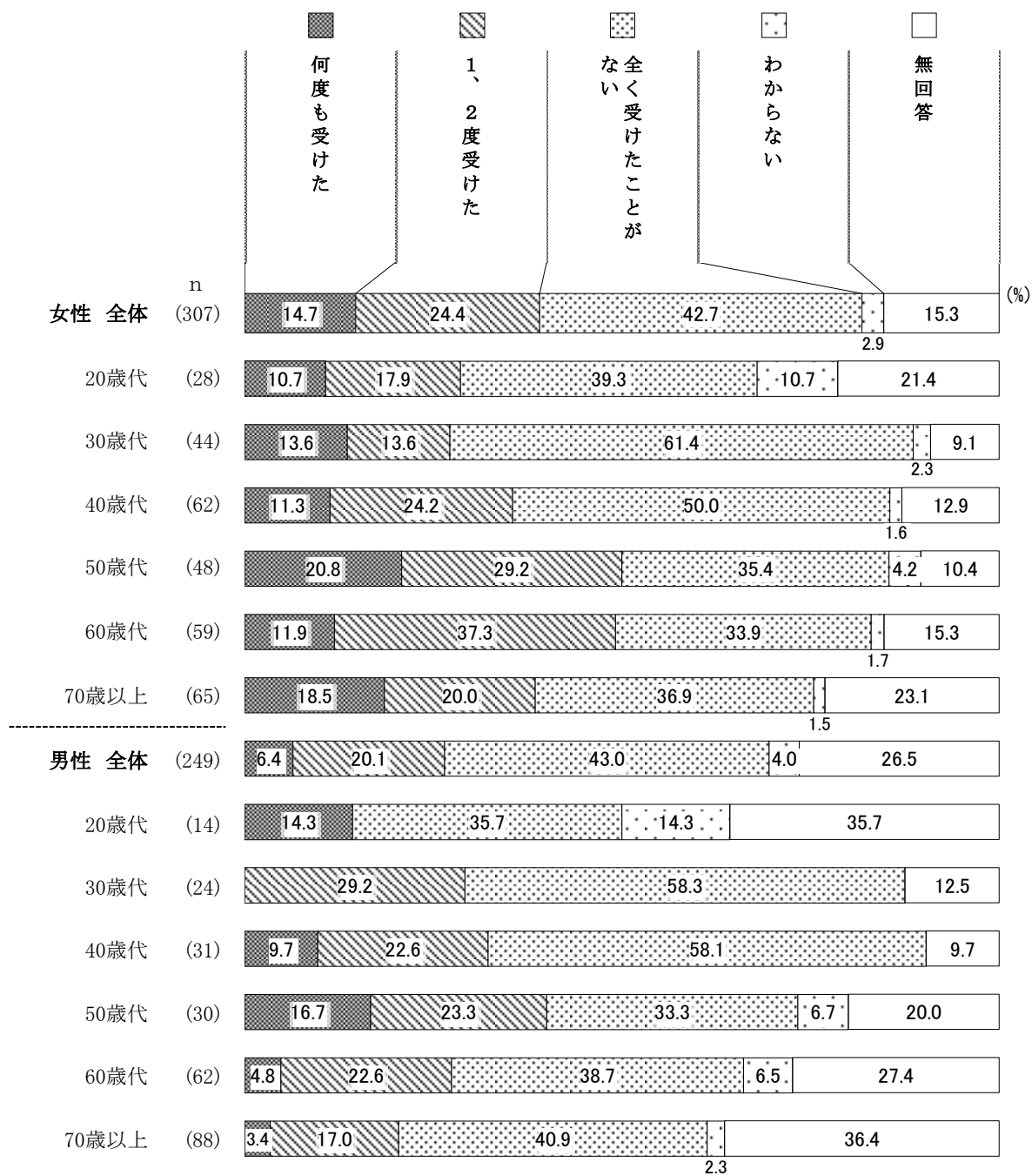
性別でみると、加害経験（「何度もした」と「1、2度した」の合計）は男性が“大声でどなる”で43.4%、“何を言っても無視する”で16.5%、“平手で打つ”で12.8%と高く、女性でも“大声でどなる”で26.0%、“何を言っても無視する”で14.7%とやや高くなっています。

## ＜性・年代別／被害経験／平手で打つ＞

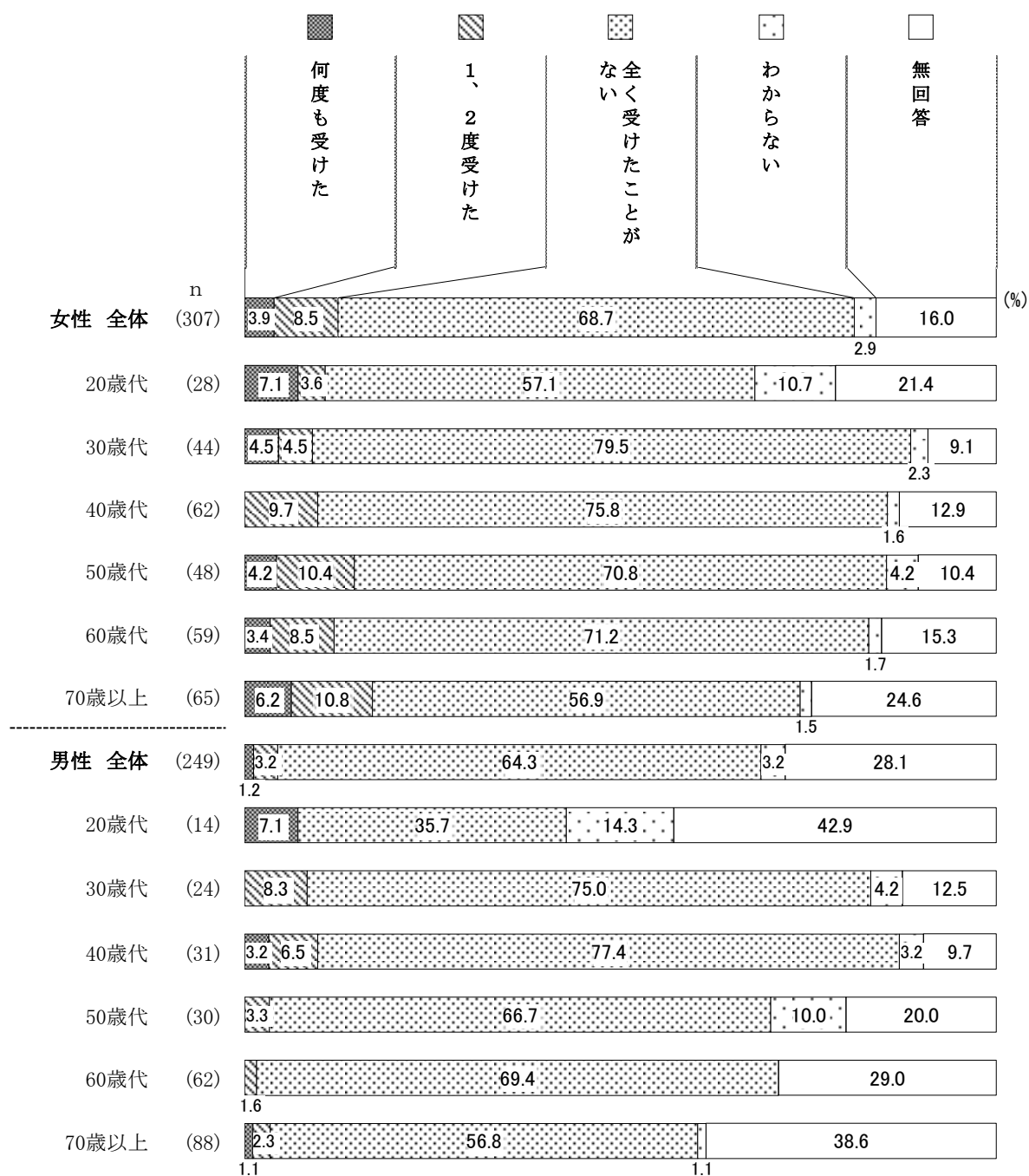
性・年代別にみると、被害経験のある行為では“大声でどなる”は女性の40歳代以上、男性の40歳代、50歳代で3割以上となっており、うち女性の50歳代、60歳代では5割前後となっています。“何を言っても無視する”は女性の50歳代、男性の40歳代、50歳代で2割台と比較的高くなっています。また、“平手で打つ”は女性の50歳代以上、男性の40歳代で1割台から2割台となっています。



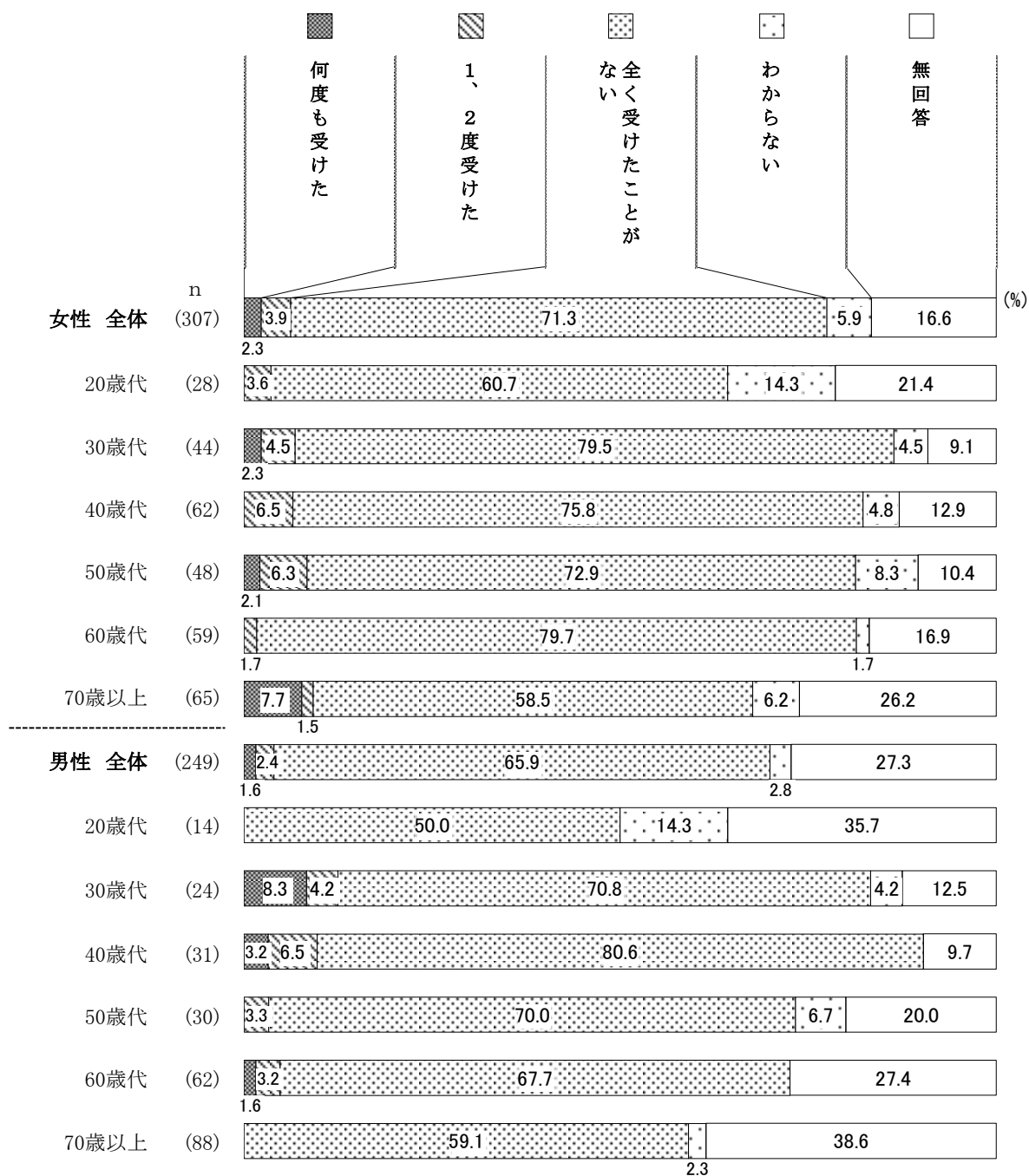
<性・年代別／被害経験／大声でどなる>



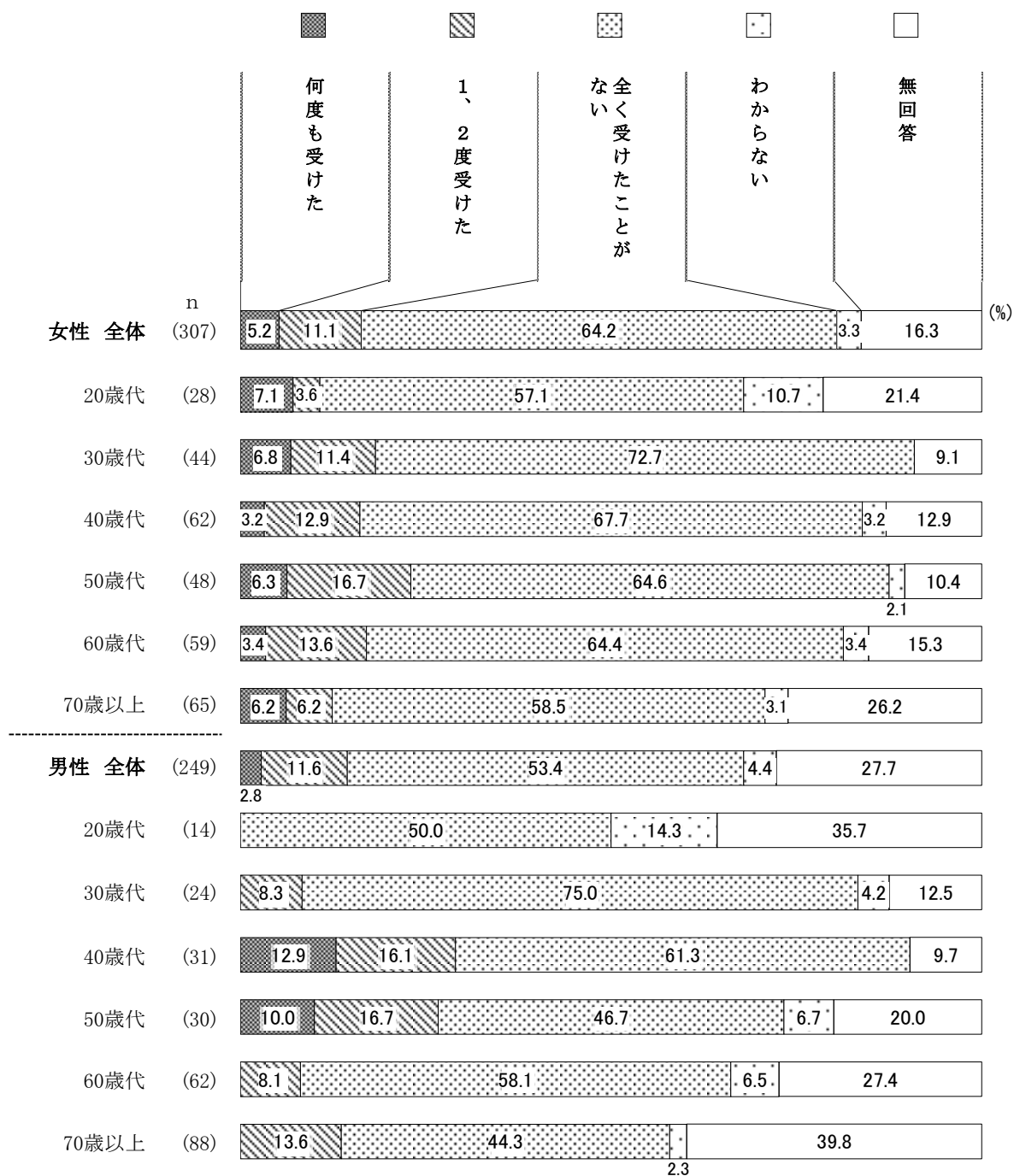
## ＜性・年代別／被害経験／外出などを制限する＞



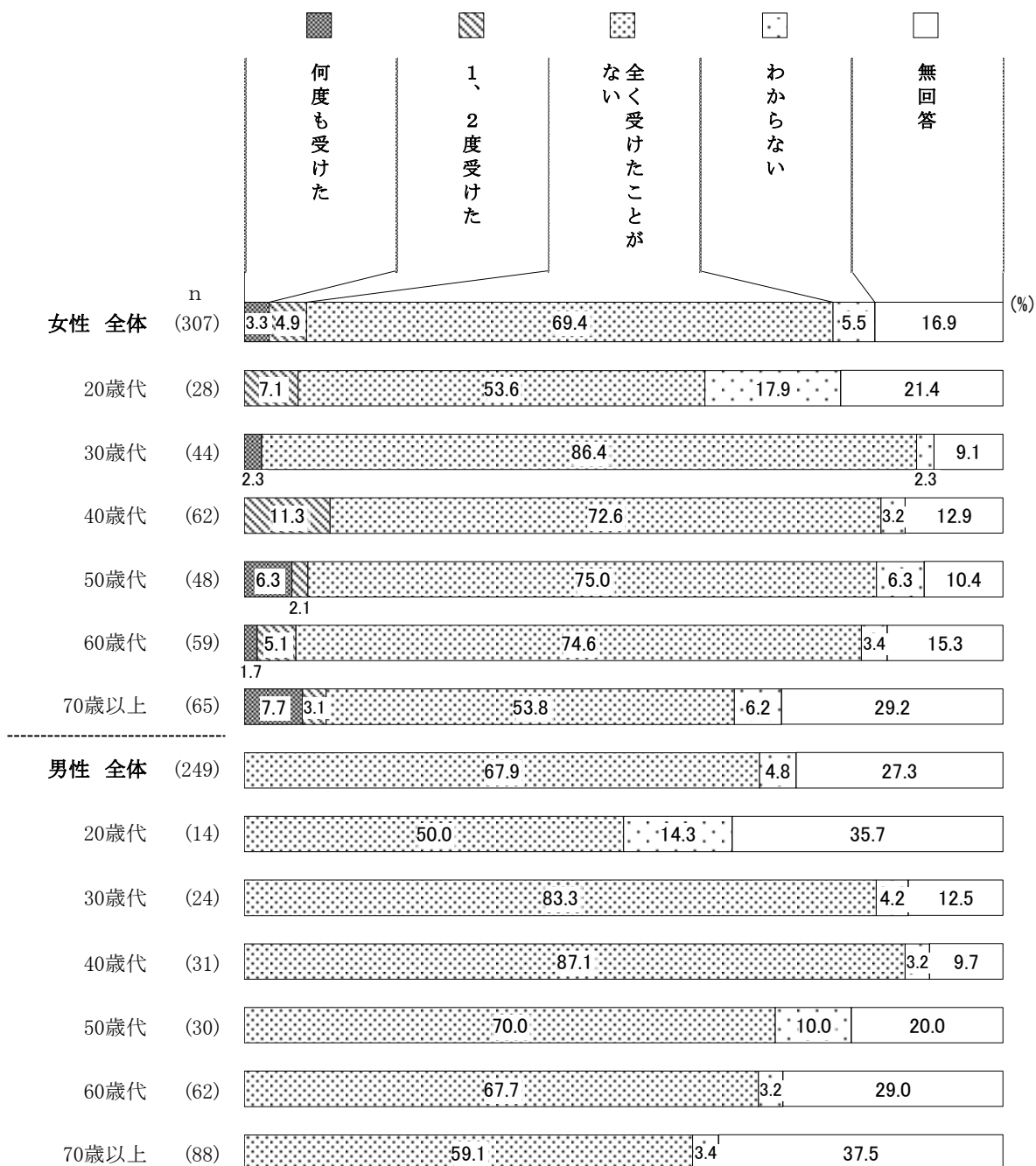
＜性・年代別／被害経験／交友関係や電話・メール等を細かく監視する＞



## ＜性・年代別／被害経験／何を言っても無視する＞

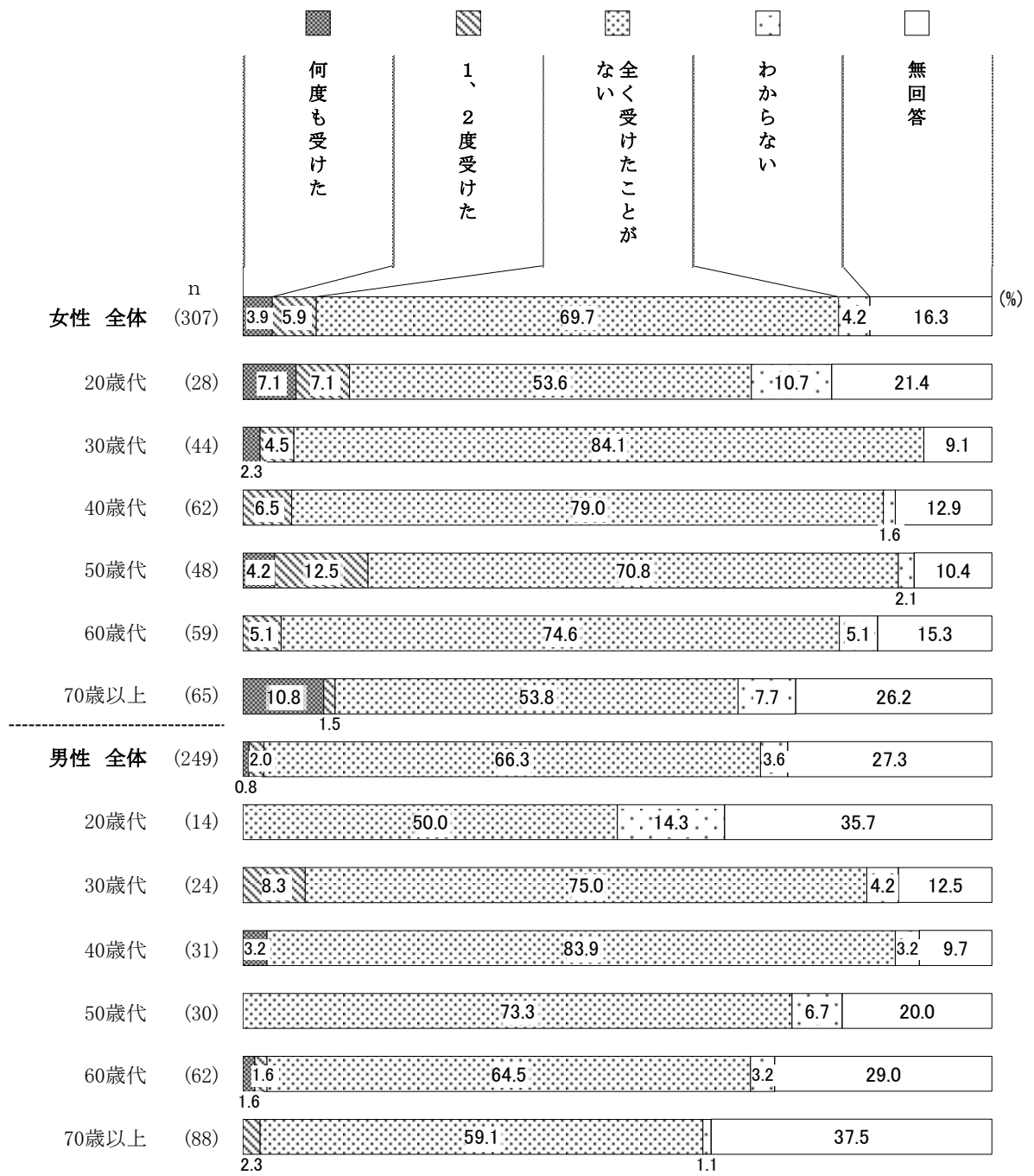


<性・年代別／被害経験／相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない>



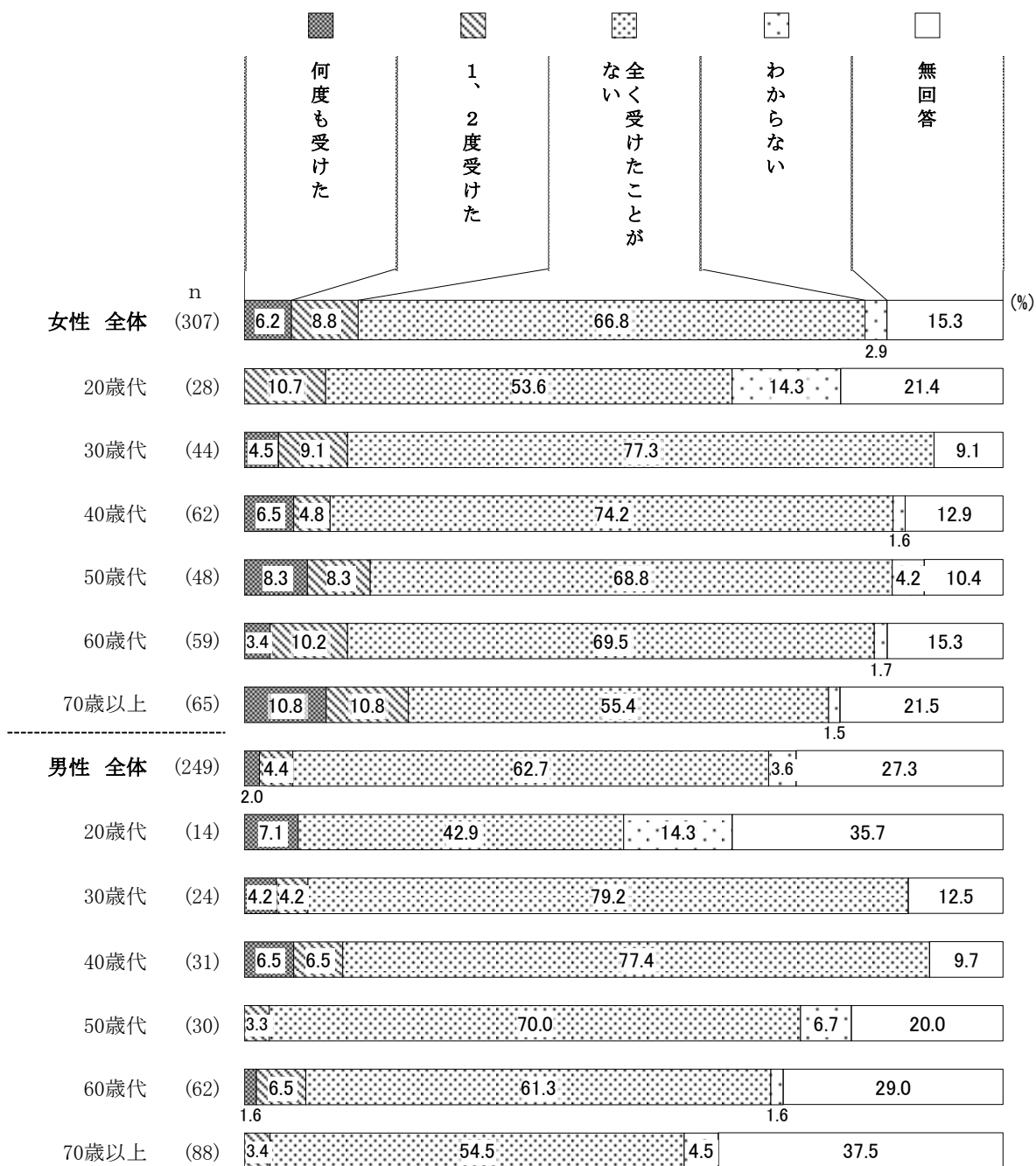


## ＜性・年代別／被害経験／なぐるふりをしておどす＞

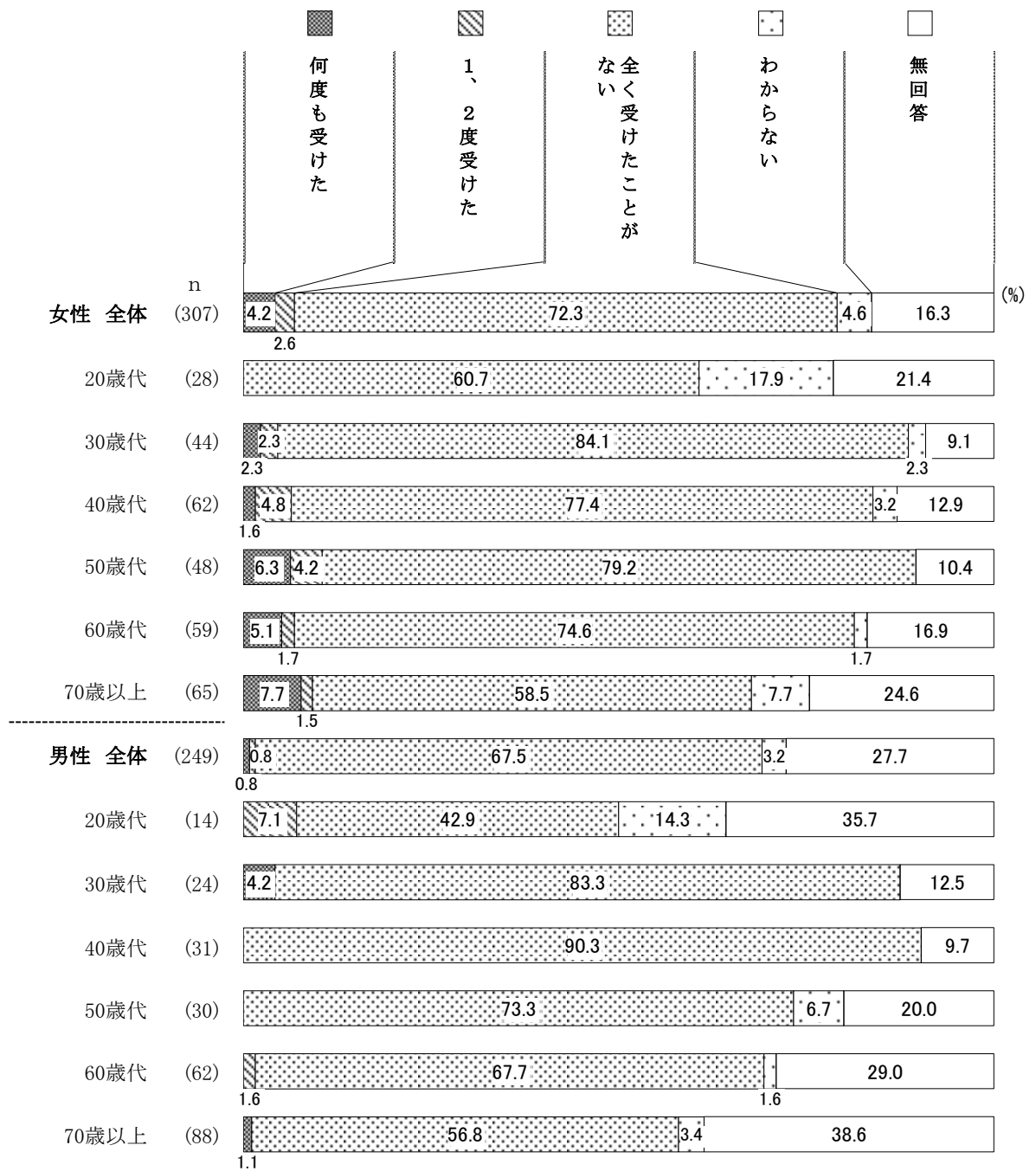


＜性・年代別／被害経験／「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと

侮辱的なことを言う＞

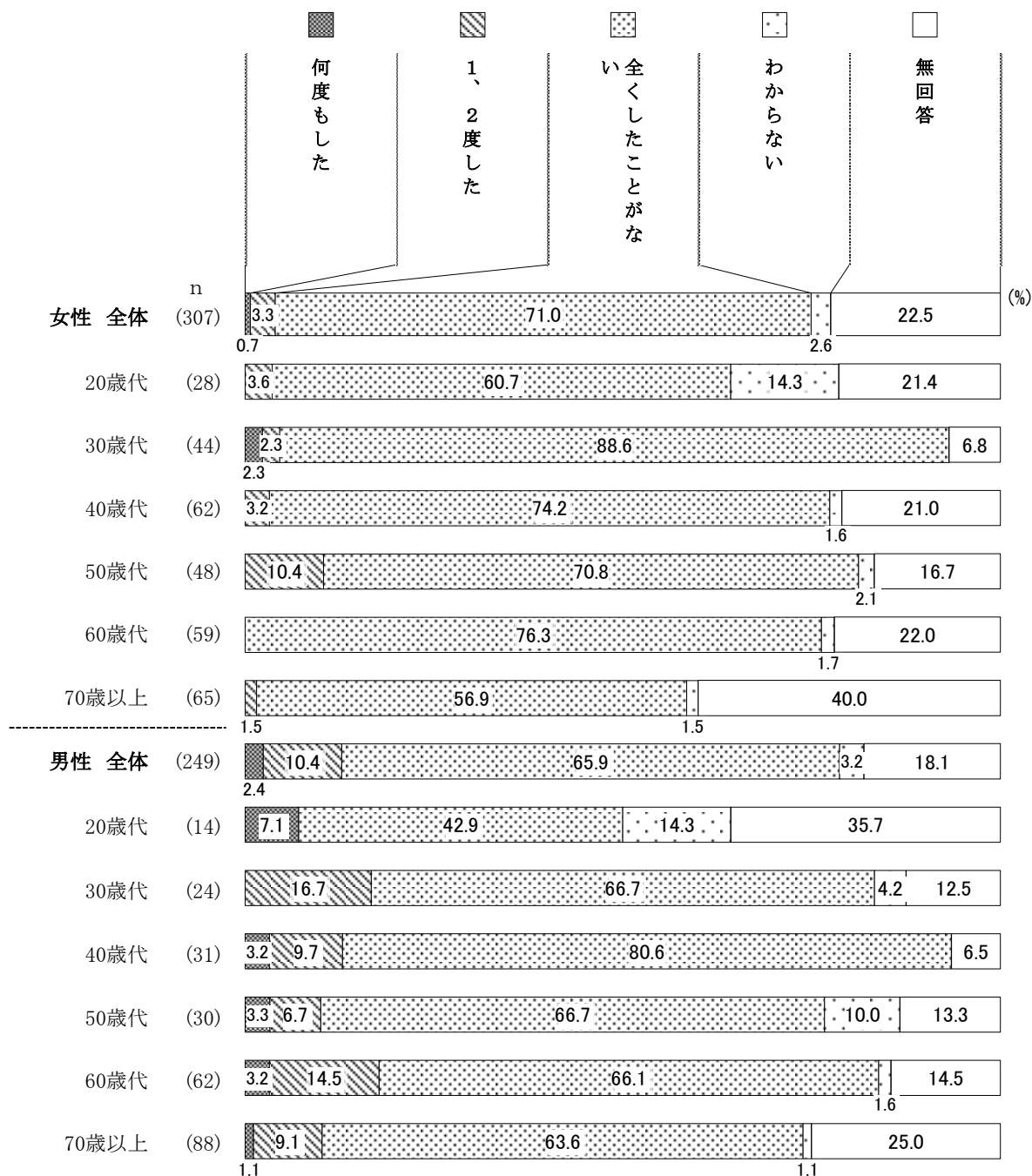


## ＜性・年代別／被害経験／生活費を十分に渡さない＞

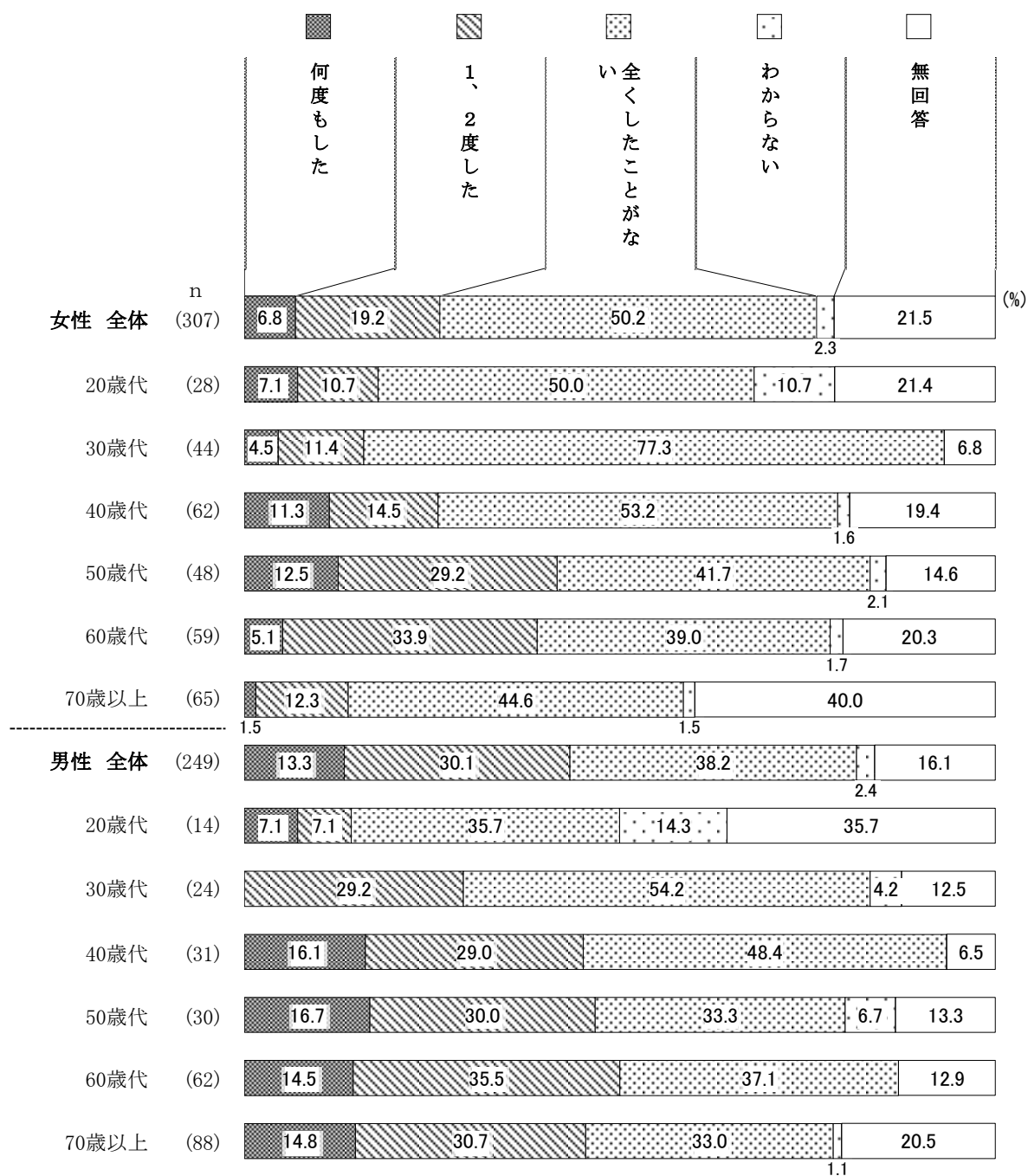


## ＜性・年代別／加害経験／平手で打つ＞

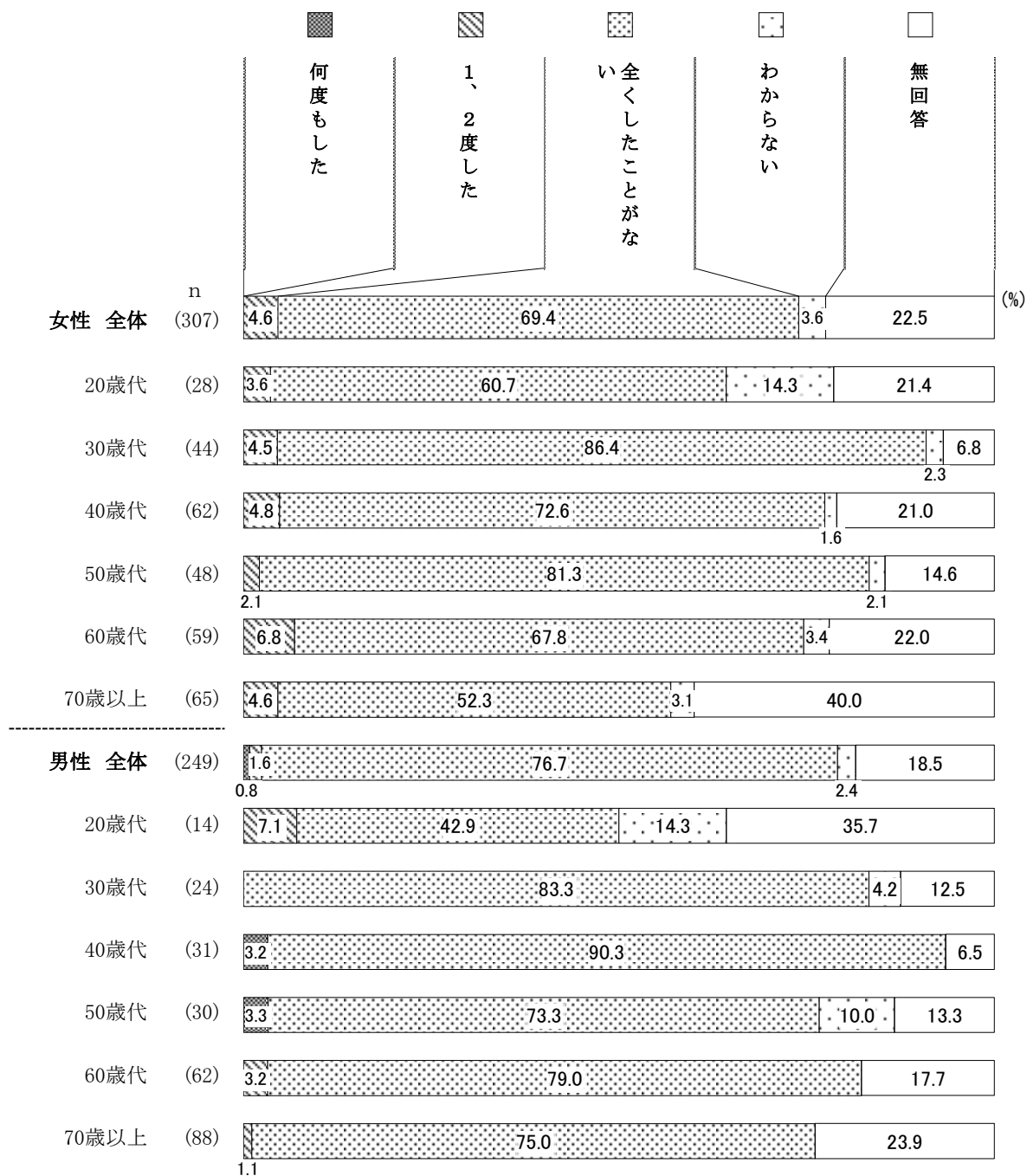
性・年代別にみると、加害経験のある行為では“大声でどなる”は女性の50歳代、男性の40歳代以上で4割以上となっており、うち男性の60歳代では5割となっています。“何を言っても無視する”は女性の30歳代、50歳代、60歳代、男性の40歳代、50歳代、70歳以上で2割前後と比較的高くなっています。また、“平手で打つ”は女性の50歳代、男性の30歳代以上で1割前後となっています。



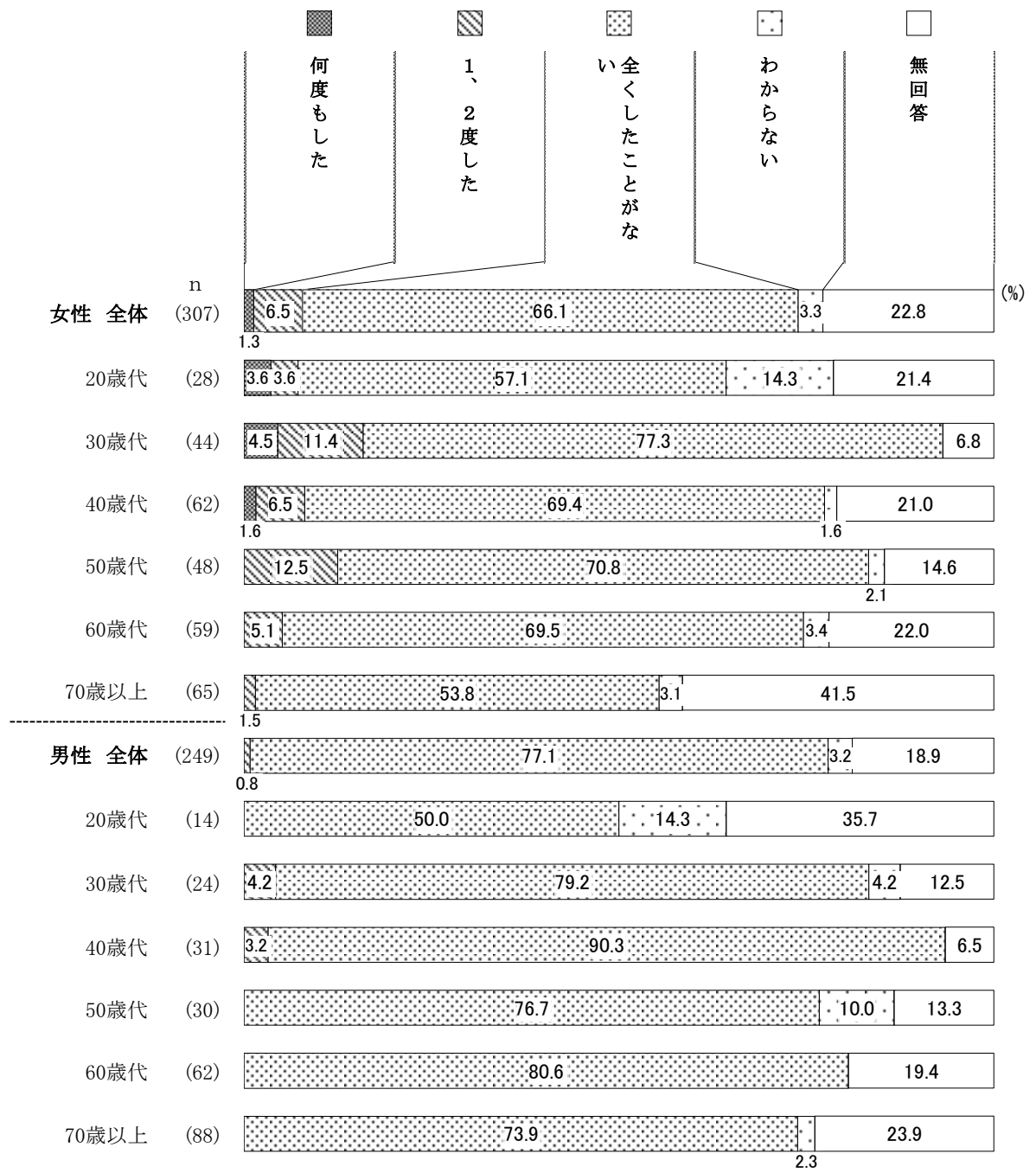
## ＜性・年代別／加害経験／大声でどなる＞



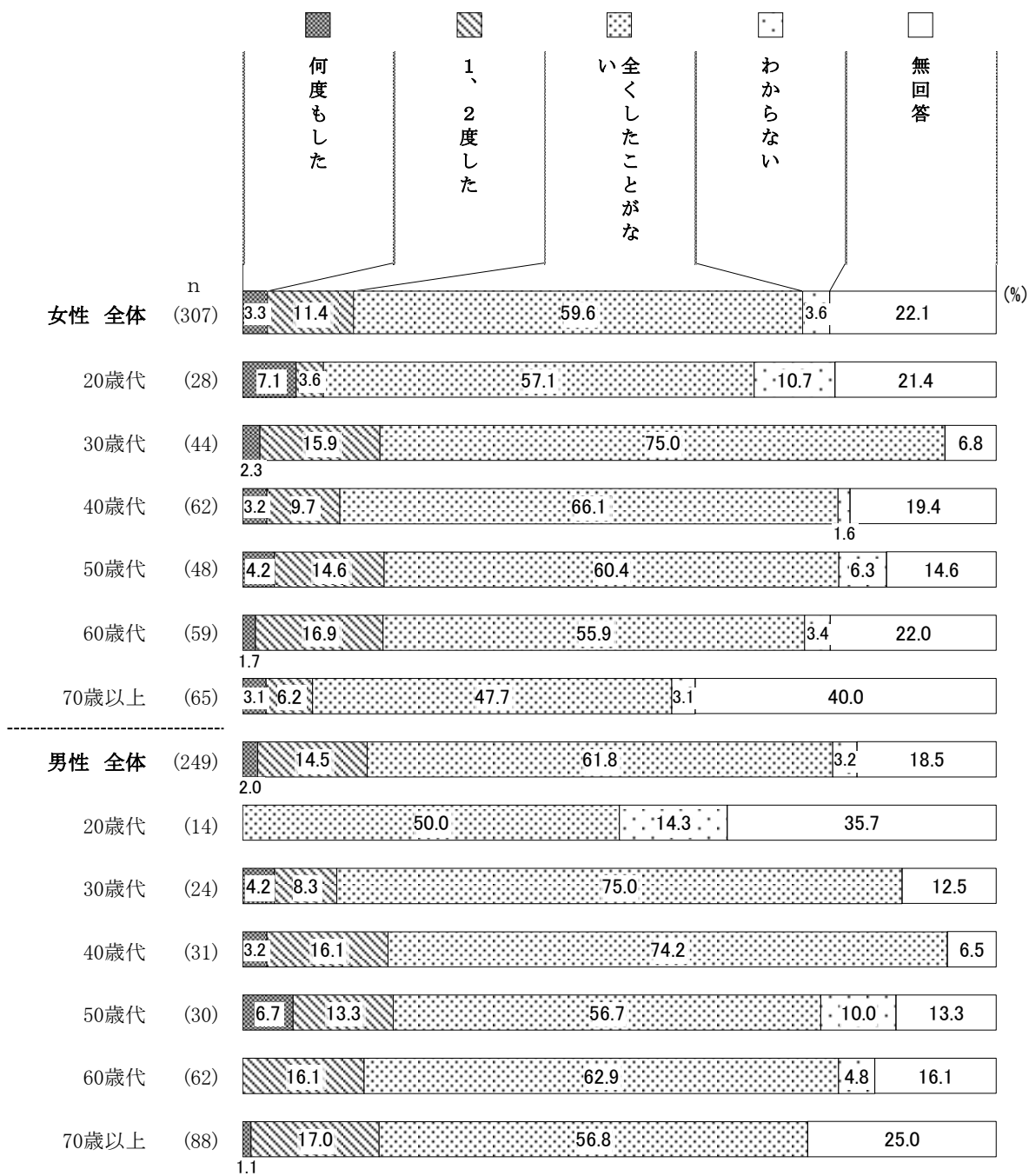
<性・年代別／加害経験／外出などを制限する>



## ＜性・年代別／加害経験／交友関係や電話・メール等を細かく監視する＞

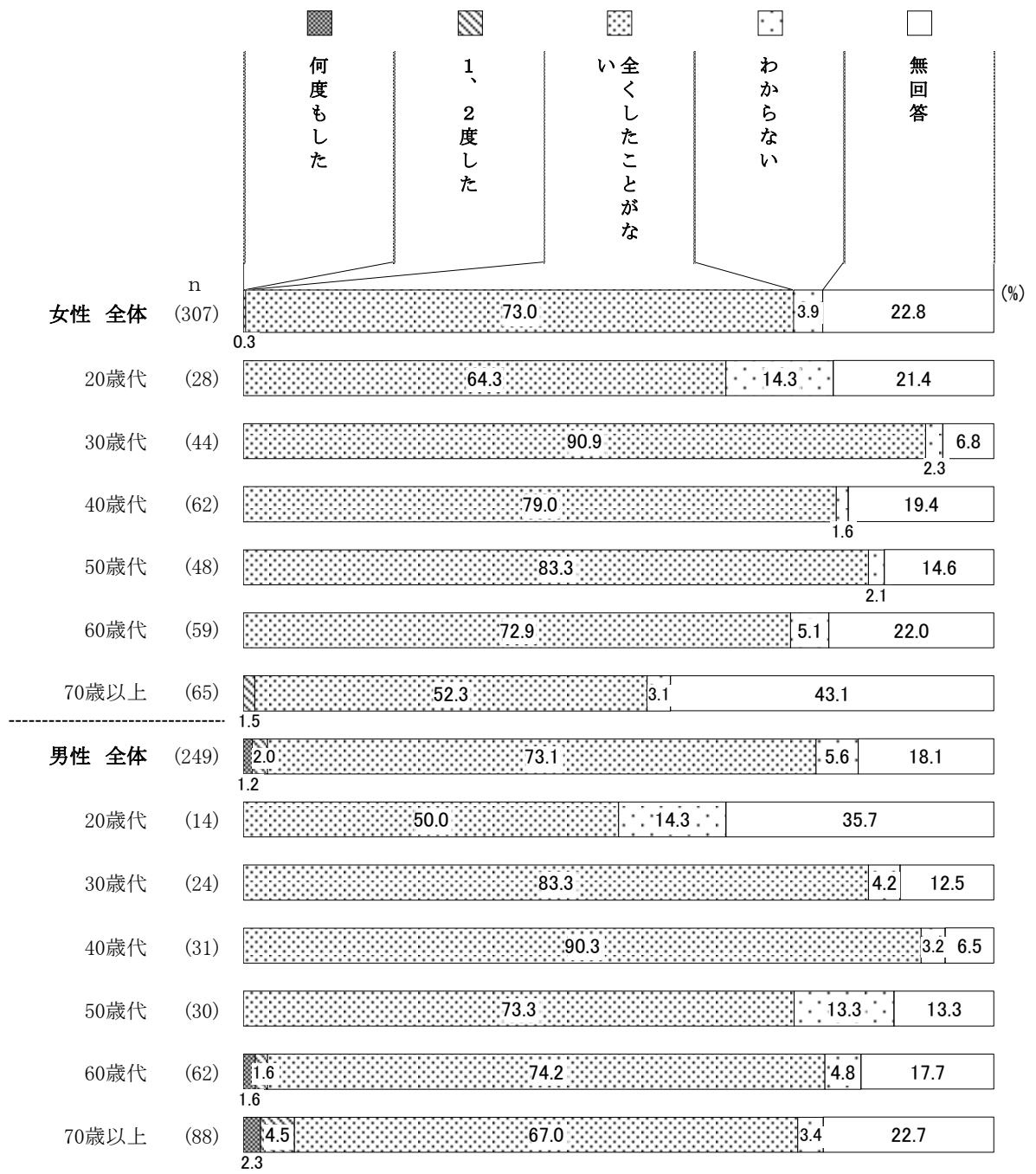


＜性・年代別／加害経験／何を言っても無視する＞

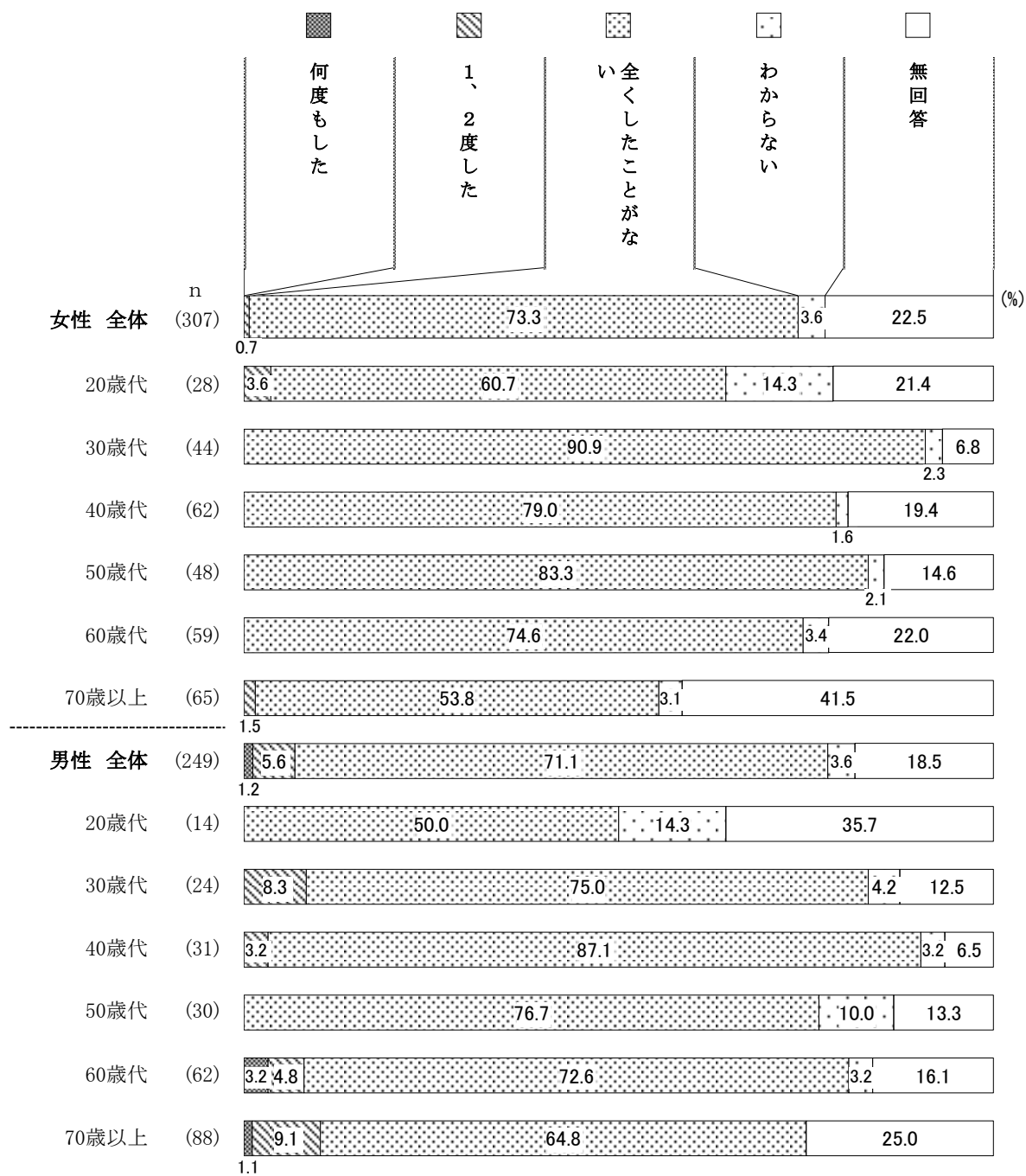




## &lt;性・年代別／加害経験／相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない&gt;

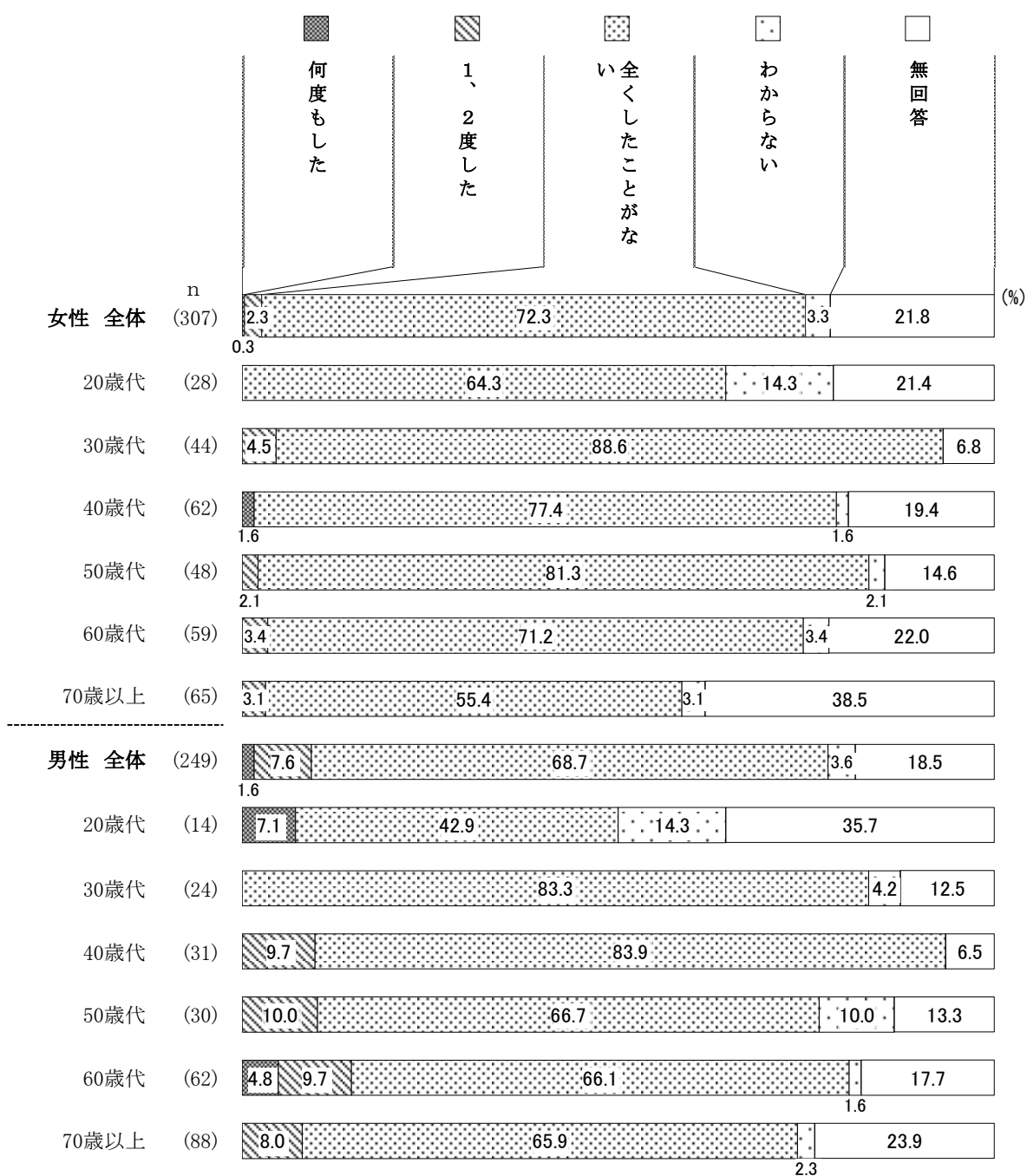


<性・年代別／加害経験／なぐるふりをしておどす>

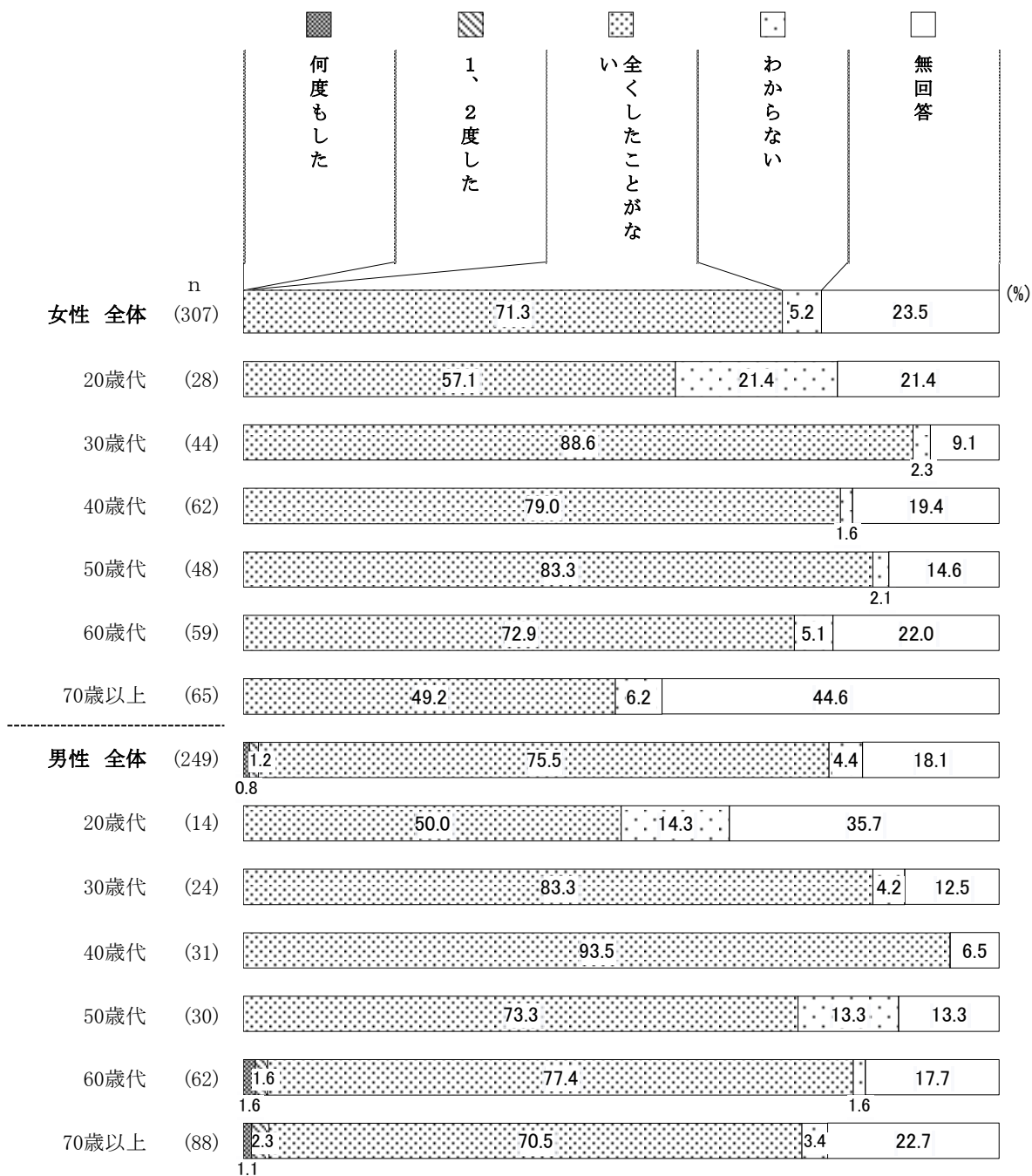


<性・年代別／加害経験／「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと

侮辱的なことを言う>



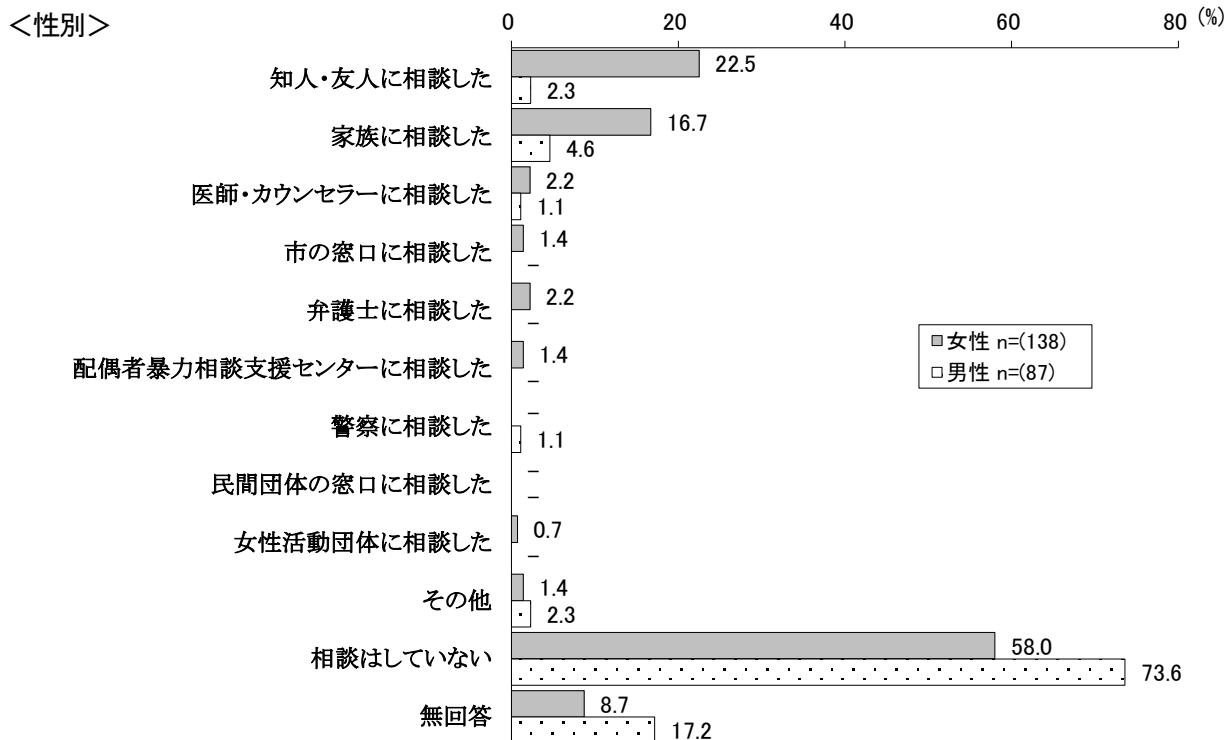
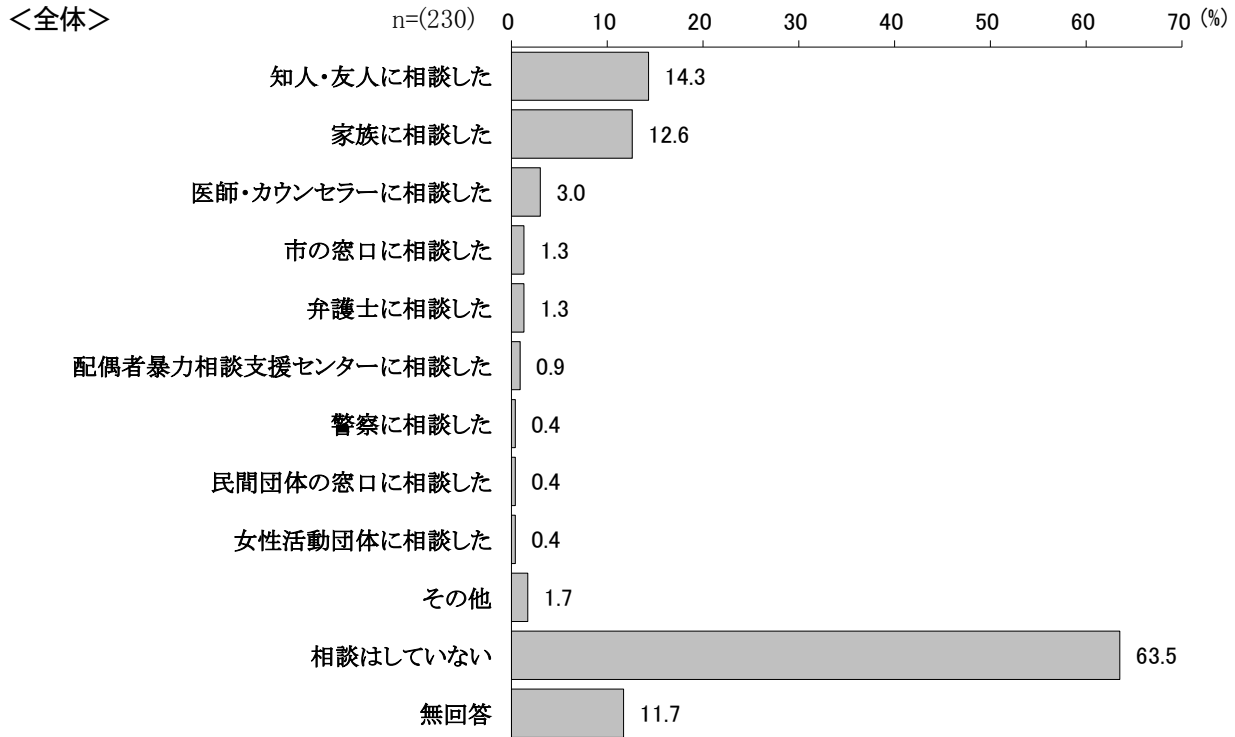
<性・年代別／加害経験／生活費を十分に渡さない>



## (2) DVの相談経験

(問21で、1つでも「何度も受けた」、「1、2度受けた」とお答えの方)

問21-1 自分が受けた行為について、誰かに相談されましたか。あてはまるものをすべてお答えください。



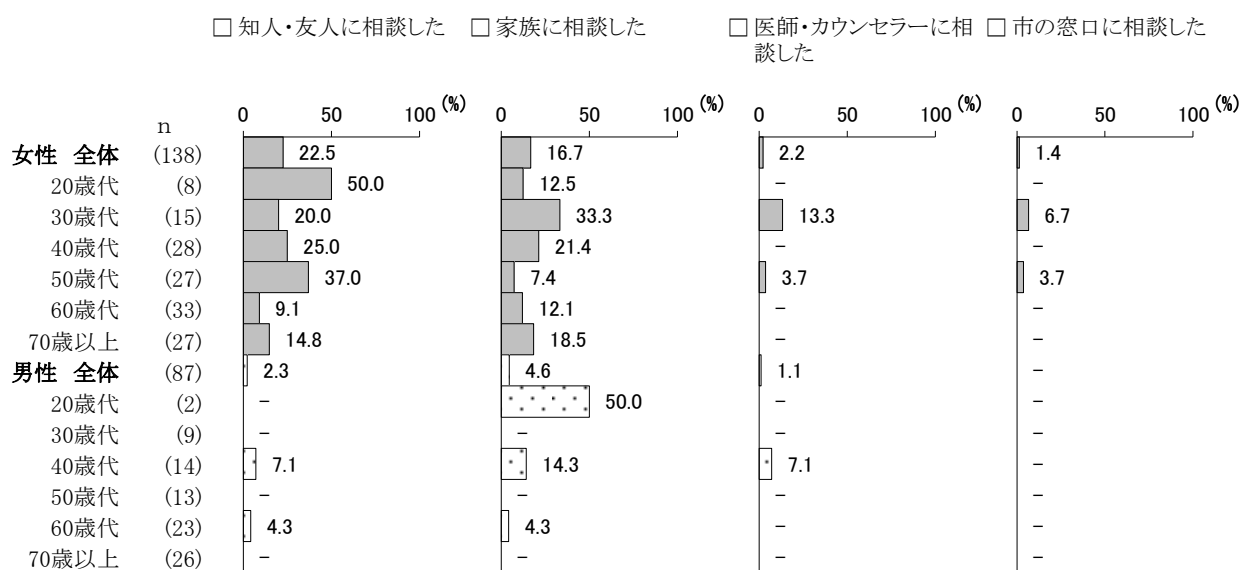
## 第2章 調査結果の詳細

DVの相談経験としては、「知人・友人に相談した」が14.3%で最も高く、以下「家族に相談した」(12.6%)の順で続いています。また、「相談はしていない」が63.5%となっています。

性別でみると、女性では「知人・友人に相談した」が22.5%と、男性(2.3%)より高くなっています。一方、男性では「相談はしていない」が73.6%と、女性(58.0%)より高くなっています。

### <性・年代別>

性・年代別では、各年代の回答者数が少ないため、参考程度となりますが、「知人・友人に相談した」は女性の50歳代以下、「家族に相談した」は女性の30歳代、40歳代で比較的多くなっています。

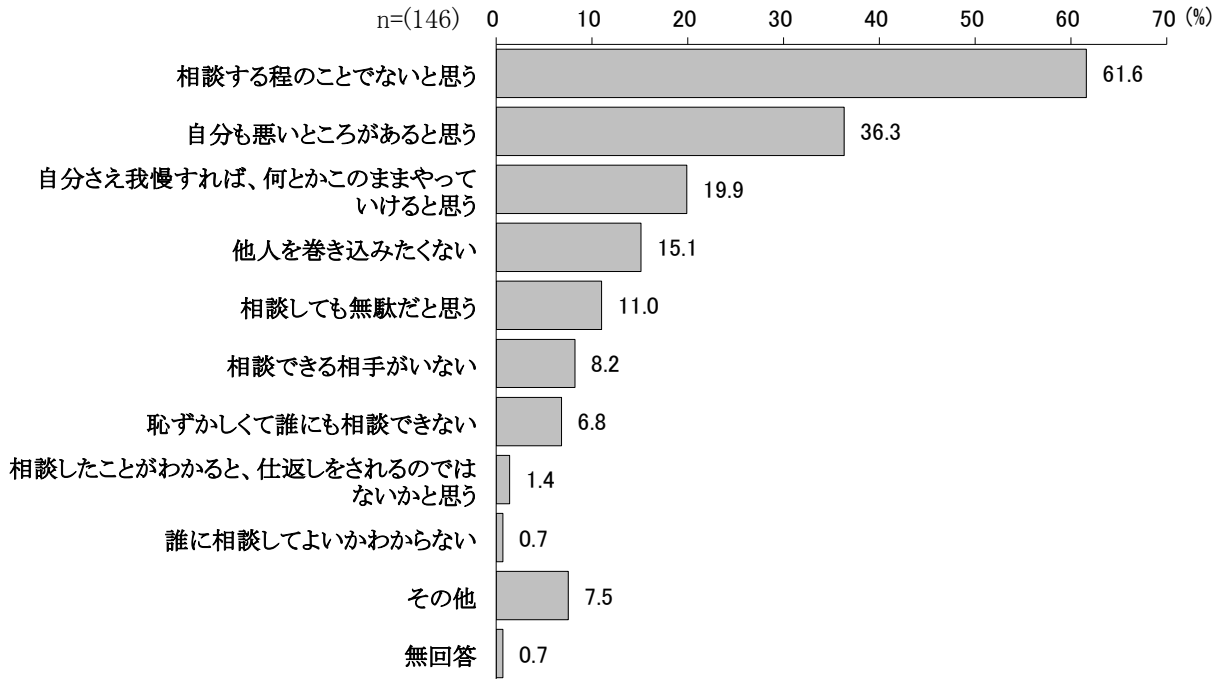


## (3) 相談していない理由

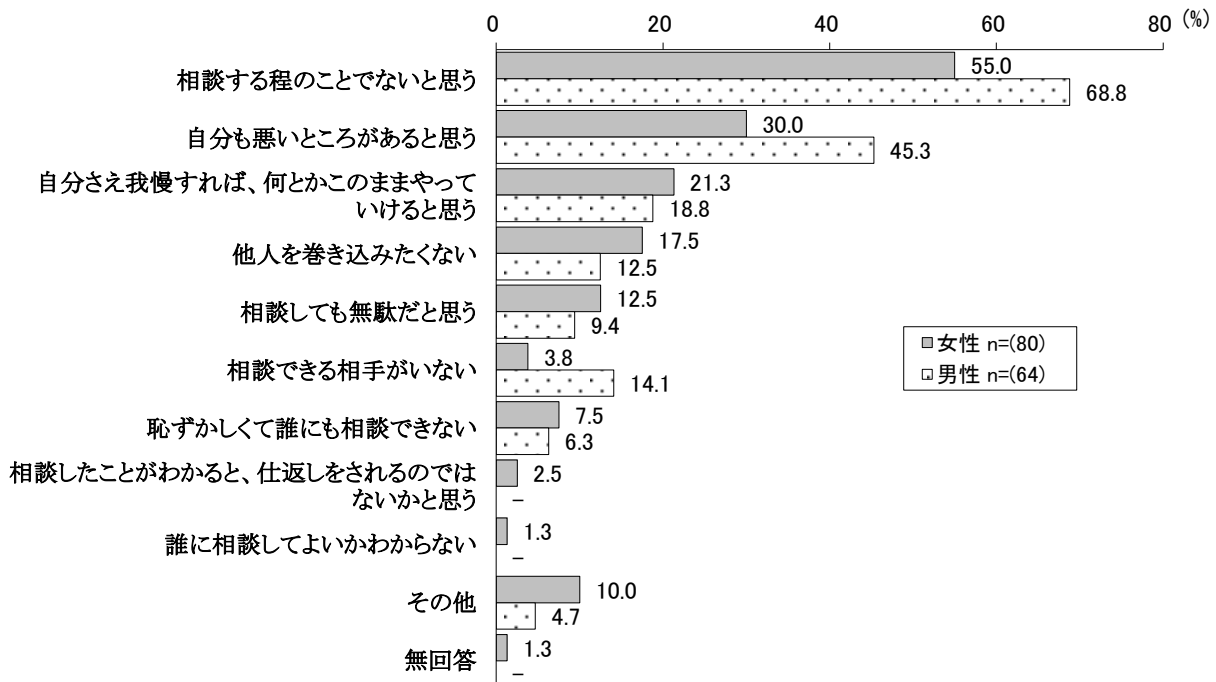
(問21-1で「相談はしていない」とお答えの方)

問21-2 相談をしていない理由を教えてください。3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;



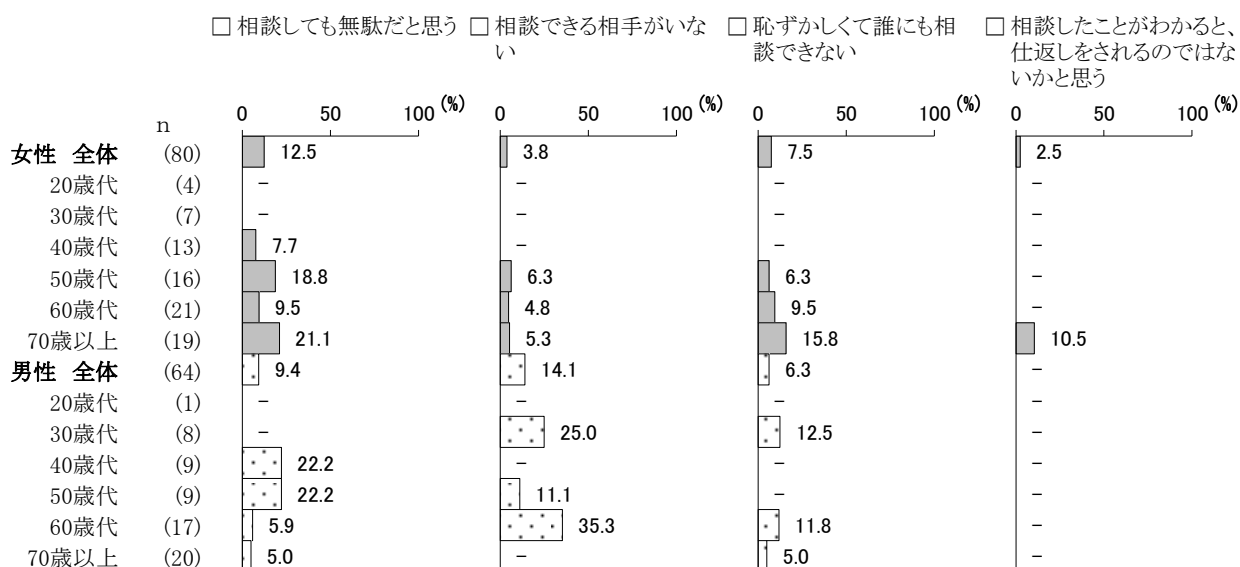
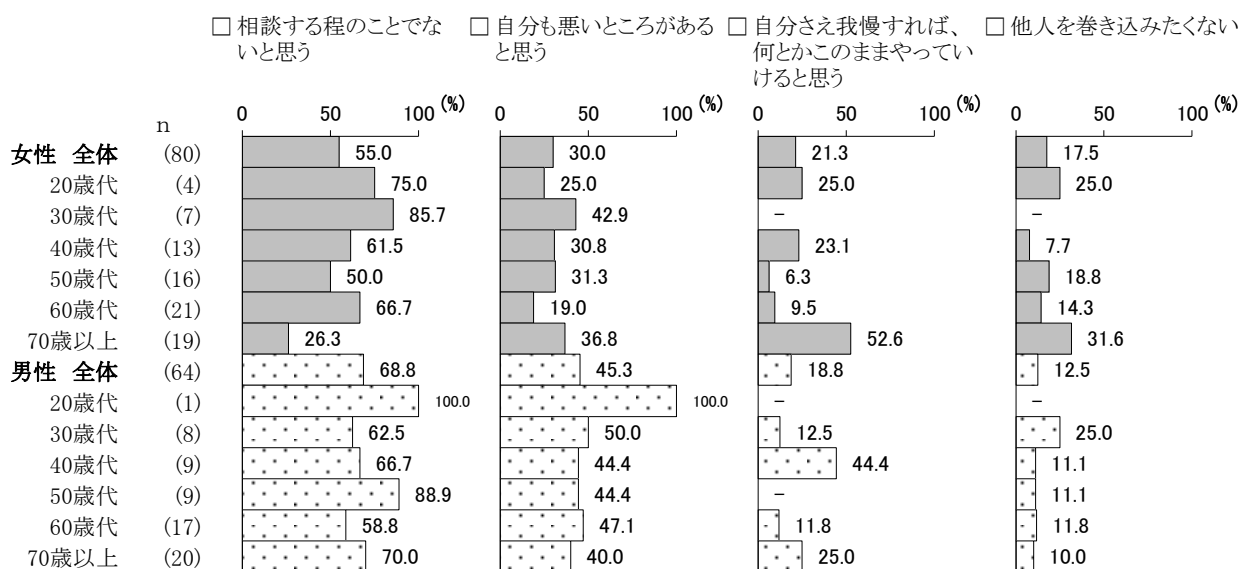
## 第2章 調査結果の詳細

相談していない理由としては、「相談する程のことではないと思う」が61.6%で最も高く、以下「自分も悪いところがあると思う」(36.3%)、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思う」(19.9%)、「他人を巻き込みたくない」(15.1%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「他人を巻き込みたくない」が17.5%と、男性(12.5%)より高くなっています。一方、男性では「自分も悪いところがあると思う」が45.3%と、女性(30.0%)より高くなっています。

### <性・年代別>

性・年代別にみると回答者数が少ないため、ここでは図表を掲示するにとどめます。

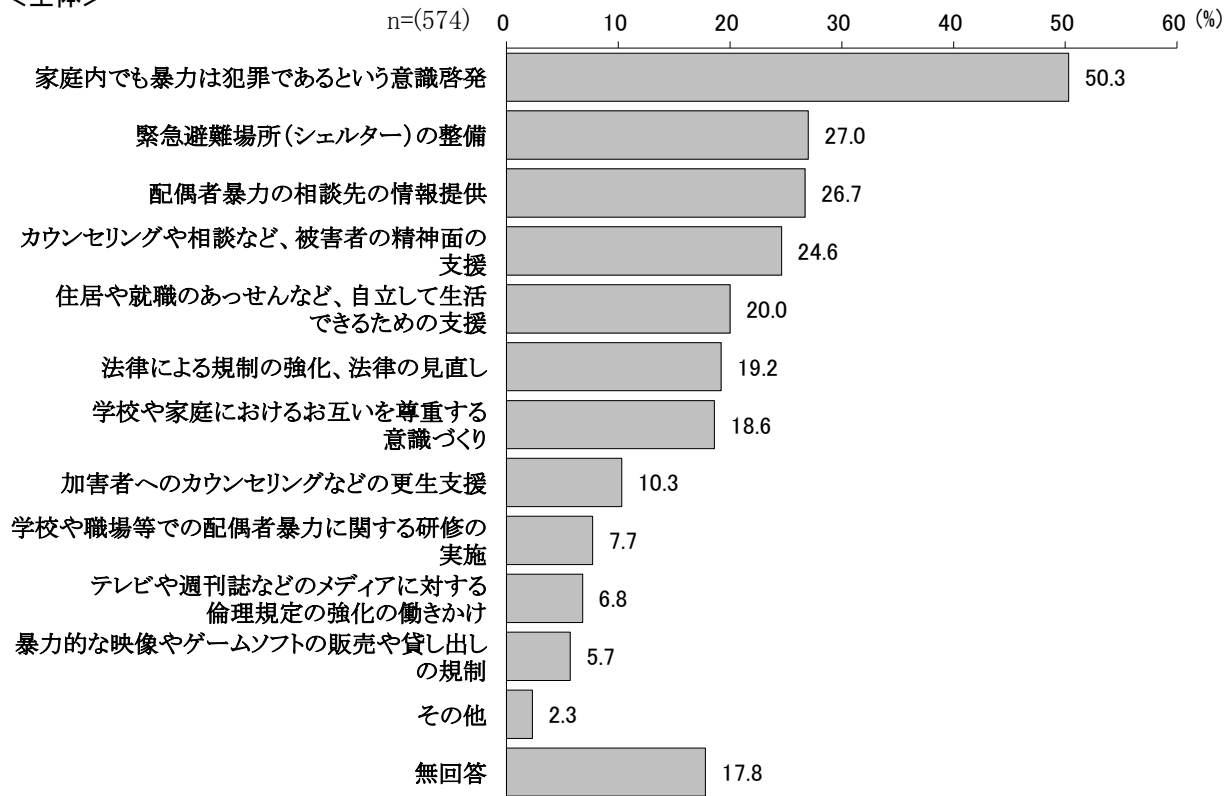




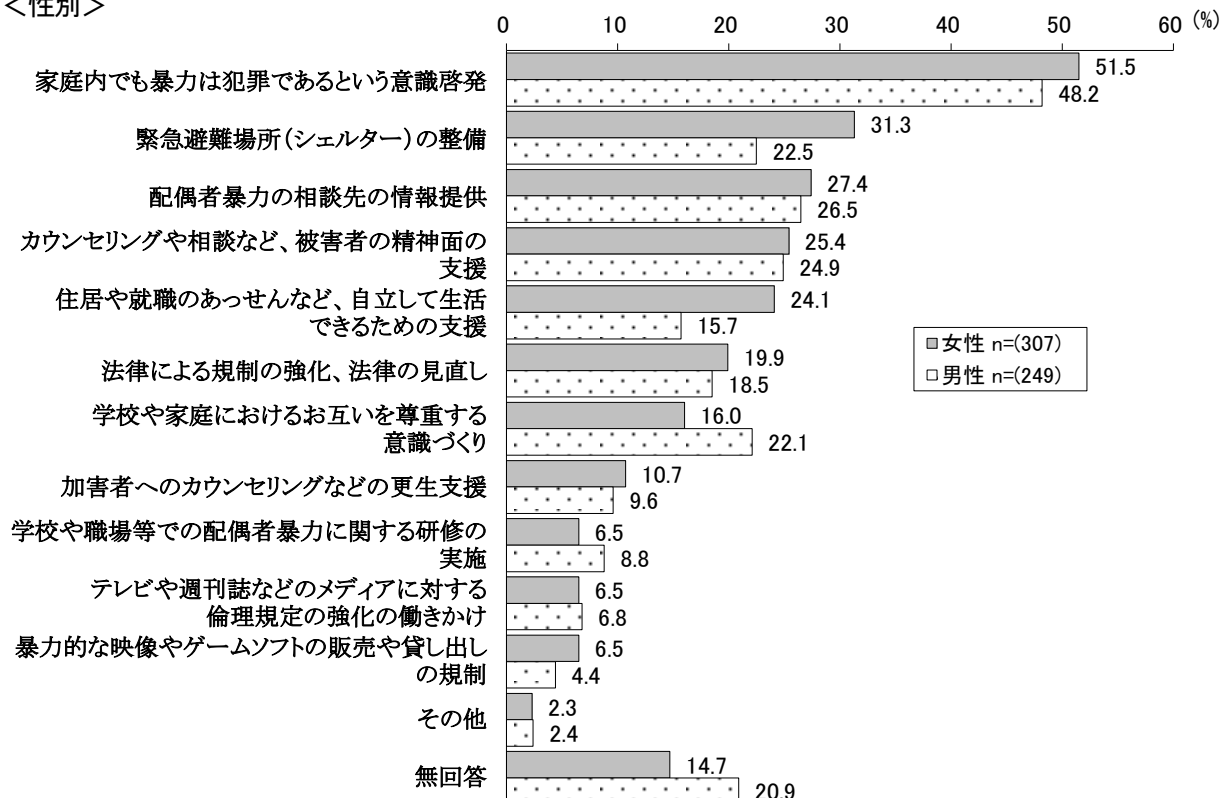
## (4) DV防止や被害者支援のために必要な対策

問22 配偶者等からの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;



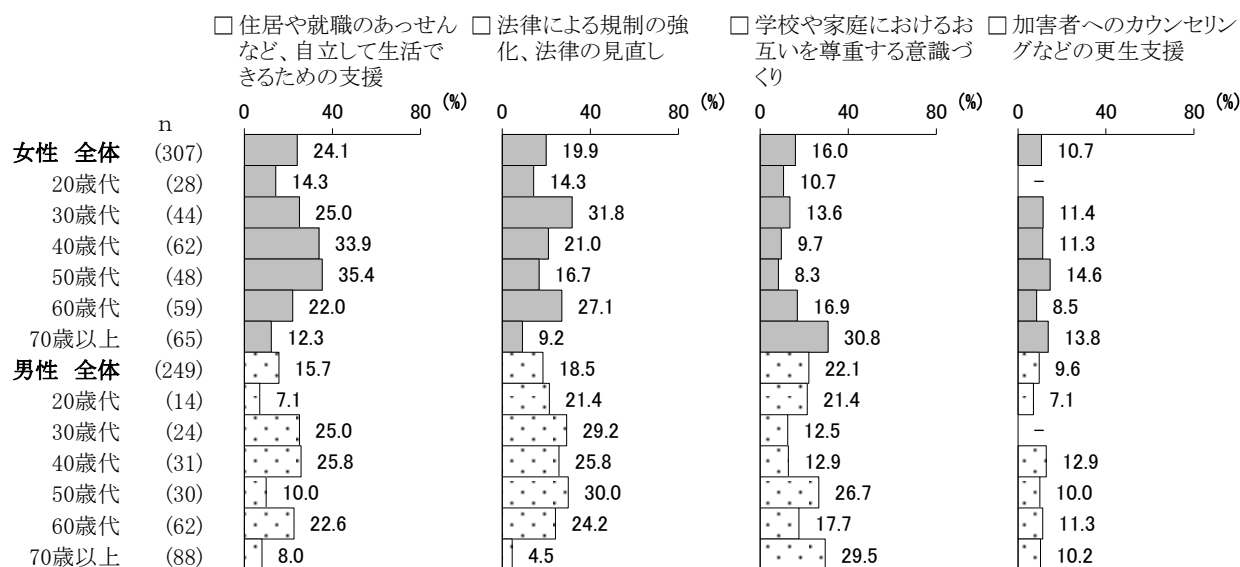
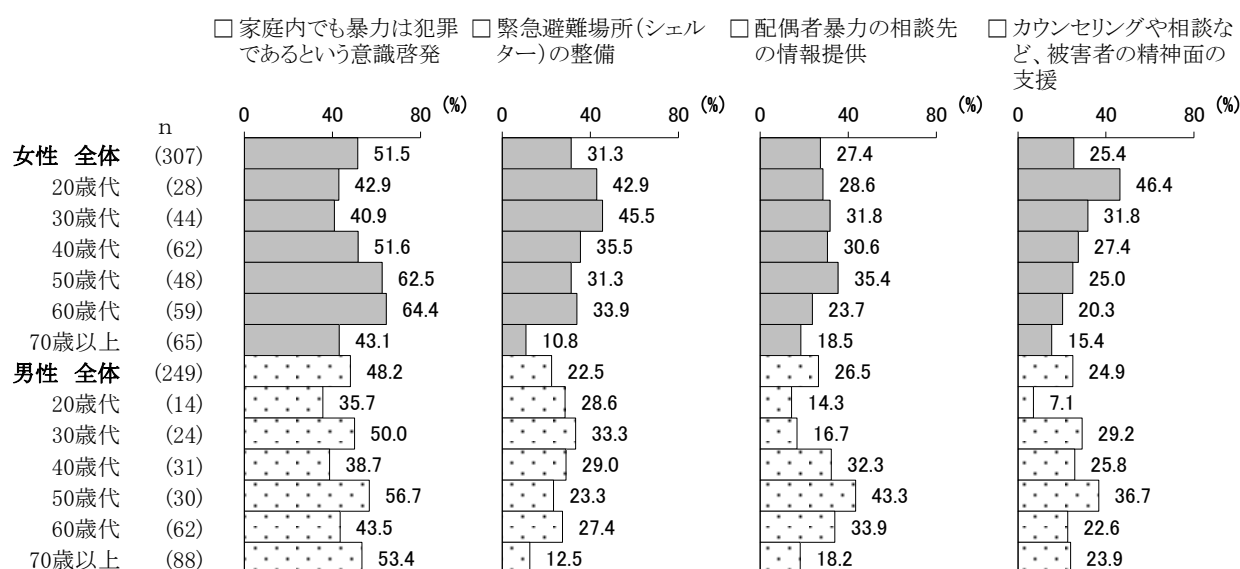
## 第2章 調査結果の詳細

DV防止や被害者支援のために必要な対策としては、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識啓発」が50.3%で最も高く、以下「緊急避難場所（シェルター）の整備」（27.0%）、「配偶者暴力の相談先の情報提供」（26.7%）、「カウンセリングや相談など、被害者の精神面の支援」（24.6%）の順で続いています。

性別でみると、女性では「緊急避難場所（シェルター）の整備」が31.3%と、男性（22.5%）より高くなっています。一方、男性では「学校や家庭におけるお互いを尊重する意識づくり」が22.1%と、女性（16.0%）より高くなっています。

### <性・年代別>

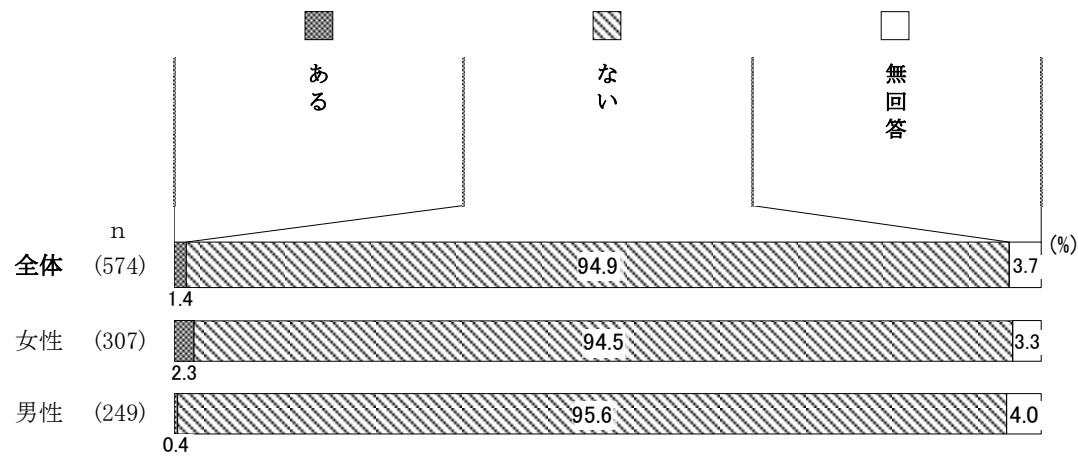
性・年代別にみると、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識啓発」は女性の40歳代から60歳代、男性の50歳代と70歳以上で5割以上となっています。「緊急避難場所（シェルター）の整備」は女性の30歳代で、「配偶者暴力の相談先の情報提供」は男性の50歳代で4割台、「住居や就職のあっせんなど、自立して生活できるための支援」は女性の40歳代、50歳代で、「法律による規制の強化、法律の見直し」は女性の30歳代、男性の50歳代で、「学校や家庭におけるお互いを尊重する意識づくり」は女性の70歳以上で3割台と他の年代より高くなっています。



10. 性的マイノリティ（性的少数者）

（1）性別に悩んだ経験

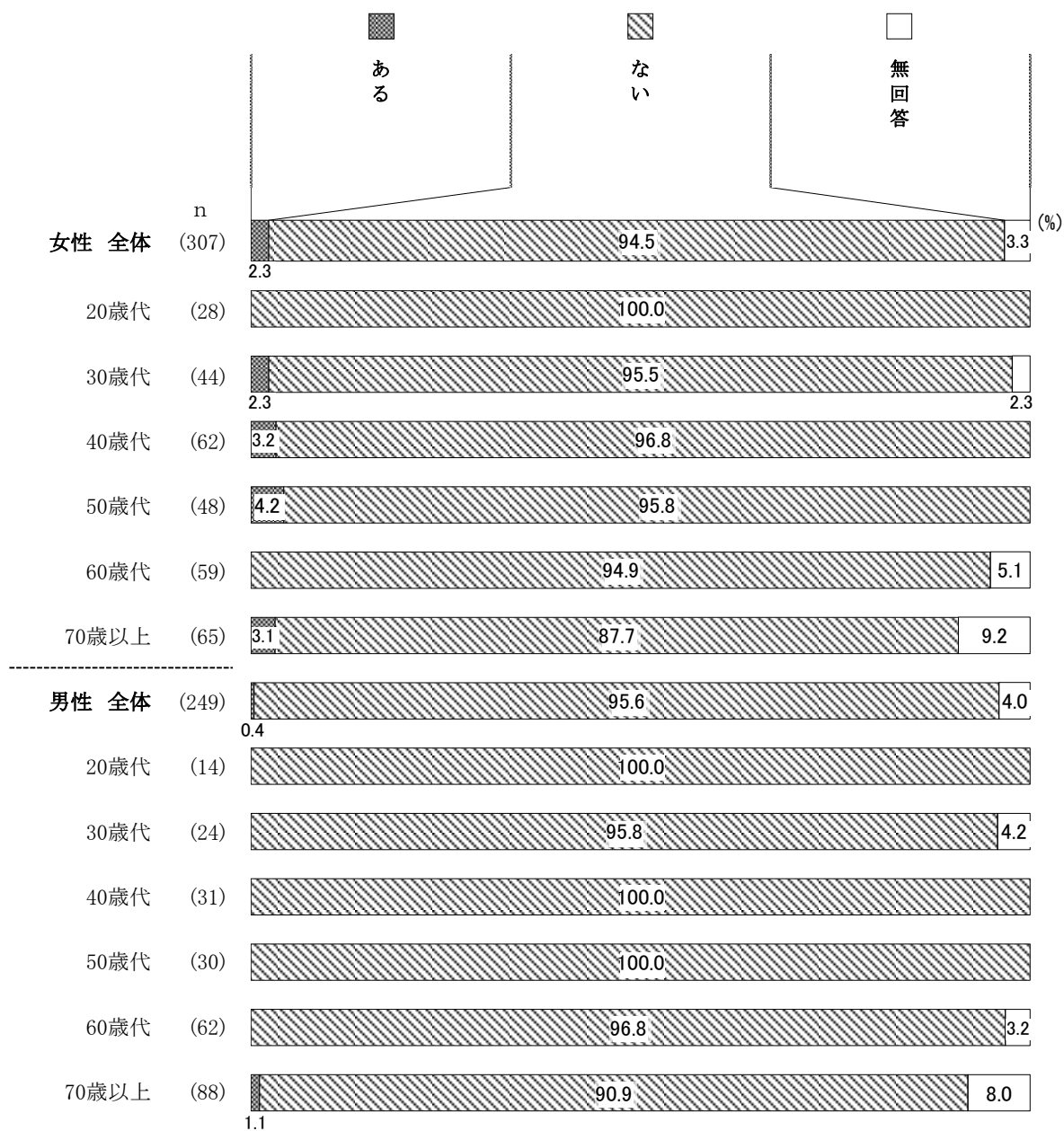
問23 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。



性別に悩んだ経験について、全体では「ある」が1.4%となっています。  
性別でみると、「ある」が女性で2.3%、男性で0.4%となっています。

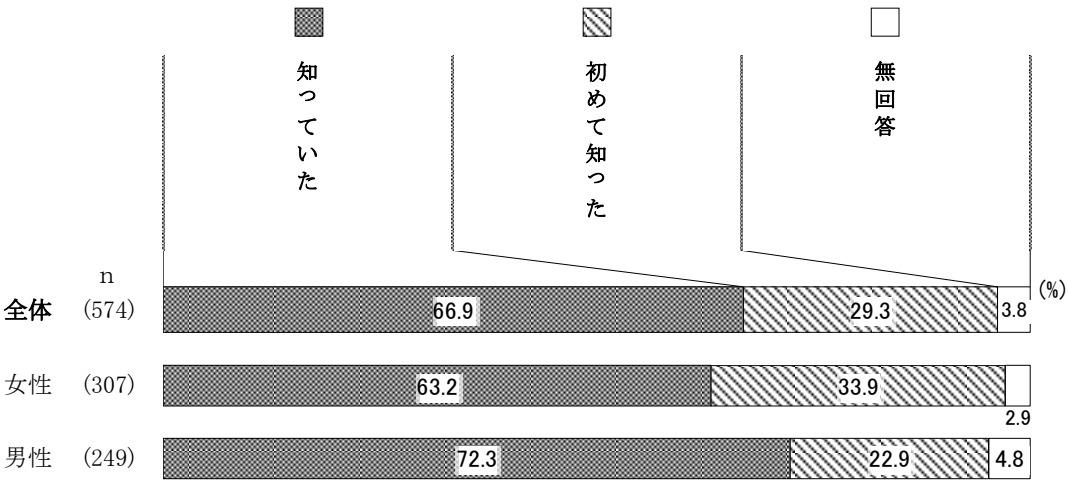
<性・年代別／性別に悩んだ経験>

性・年代別にみると、「ある」は女性の50歳代で4.2%、40歳代で3.2%、70歳以上で3.1%、30歳代で2.3%となっています。また、男性では70歳以上で1.1%となっています。



(2) 性的マイノリティという言葉の認識

問24 あなたは、性的マイノリティという言葉をご存じですか。

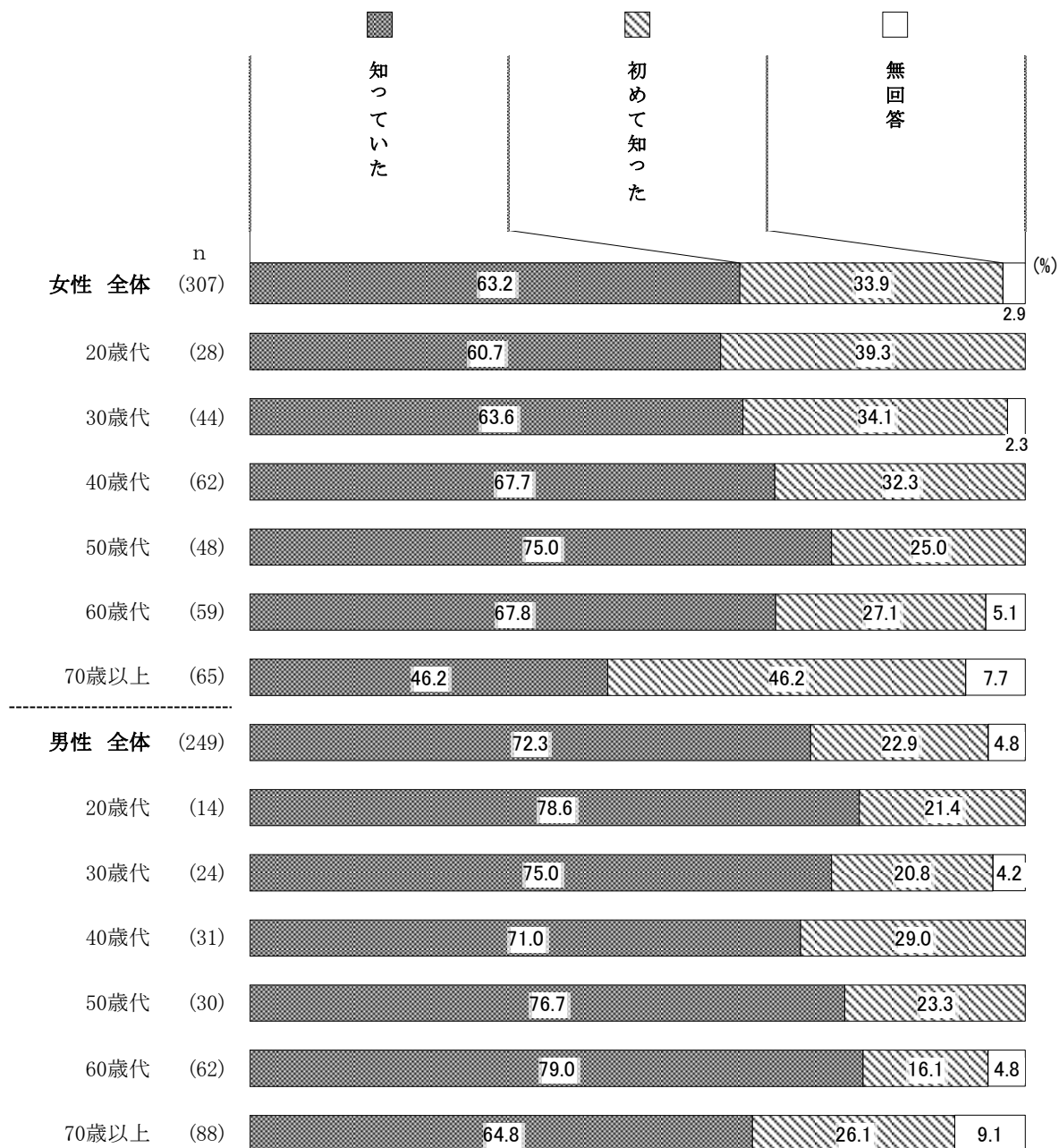


性的マイノリティという言葉について、全体では、「知っていた」が66.9%と6割台なっています。

性別でみると、「知っていた」は男性で72.3%と7割を超えており、女性の63.2%よりもやや高くなっています。

<性・年代別／性的マイノリティという言葉の認識>

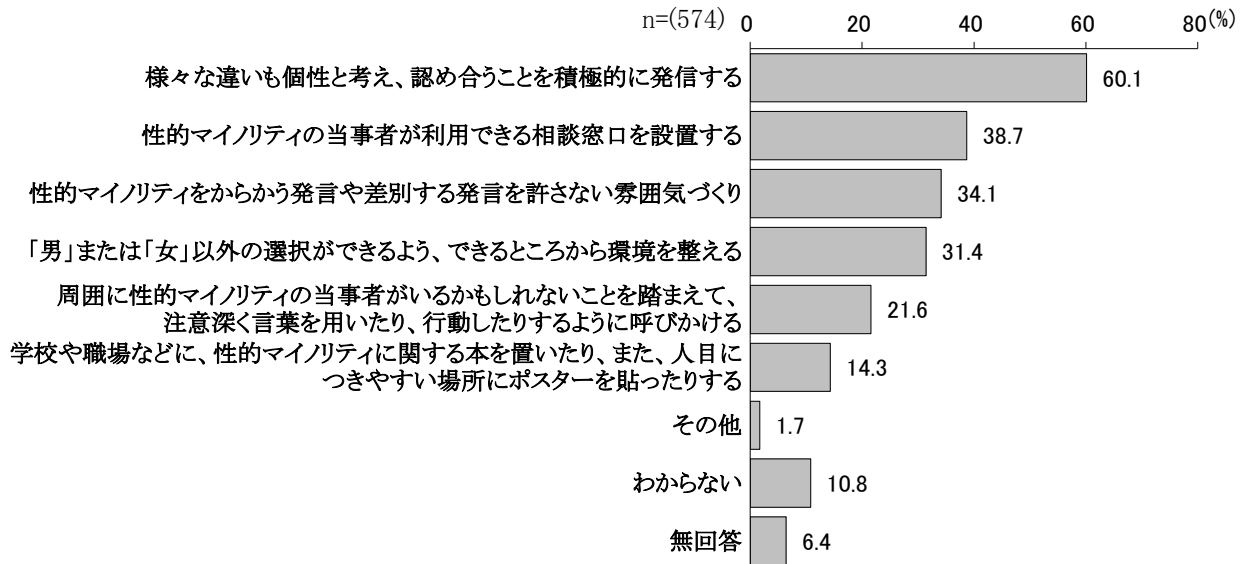
性・年代別にみると、すべての年代で「知っていた」は6割以上となっていますが、女性の40歳代以下と女性の70歳以上では「初めて知った」が3割以上と比較的高くなっています。



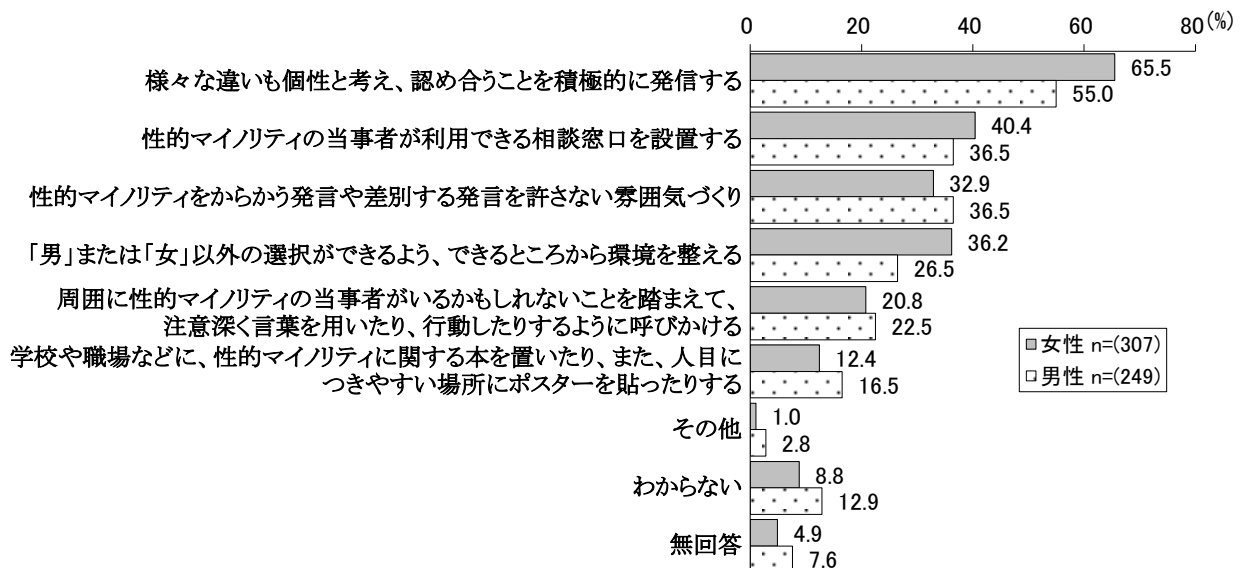
## (3) 性的マイノリティが安心して過ごせる環境整備のための有効な取組み

問25 あなたは、性的マイノリティの方々が安心して過ごせる環境整備のため、どのような取組みが有効だと思いますか。3つまでお答えください。

## &lt;全体&gt;



## &lt;性別&gt;

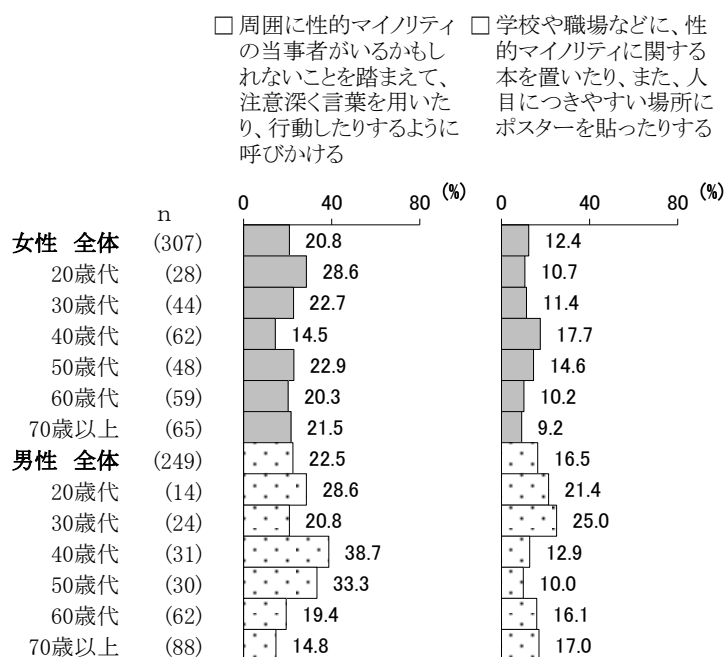
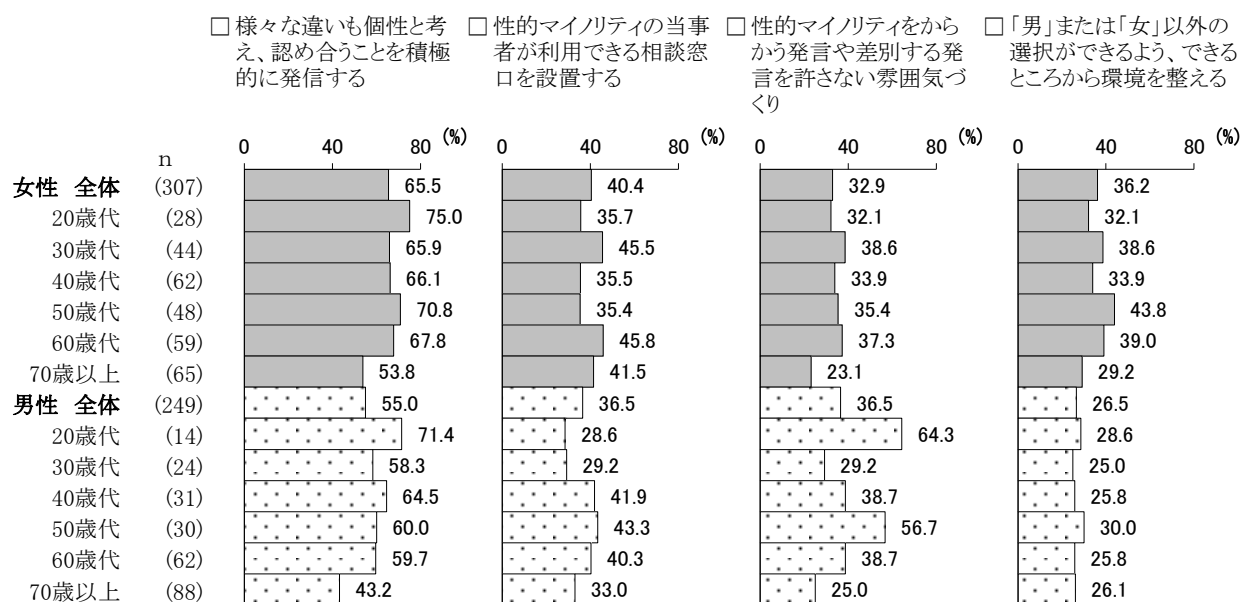


性的マイノリティが安心して過ごせる環境整備のための有効な取組みとしては、「様々な違いも個性と考え、認め合うことを積極的に発信する」が60.1%で最も高く、以下「性的マイノリティの当事者が利用できる相談窓口を設置する」(38.7%)、「性的マイノリティをからかう発言や差別する発言を許さない雰囲気づくり」(34.1%)、「『男』または『女』以外の選択ができるよう、できるところから環境を整える」(31.4%)の順で続いています。

性別でみると、女性では「様々な違いも個性と考え、認め合うことを積極的に発信する」が65.5%と、男性(55.0%)より高くなっています。

## ＜性・年代別＞

性・年代別にみると、性・年代別にみると、「性的マイノリティの当事者が利用できる相談窓口を設置する」は女性の30歳代と女性の60歳代以上、男性の40歳代から60歳代で4割台と高くなっています。また、「性的マイノリティをからかう発言や差別する発言を許さない雰囲気づくり」は男性の50歳代で5割台、『男』または『女』以外の選択ができるよう、できるところから環境を整える」は女性の50歳代で4割台、「周囲に性的マイノリティの当事者がいるかもしれないことを踏まえて、注意深く言葉を用いたり、行動したりするように呼びかける」は男性の40歳代と50歳代で3割台と他の年代より高くなっています。





## 11. 自由記述

## (1) 市の男女平等・男女共同参画施策への意見・要望

問26 東久留米市の男女平等・男女共同参画施策について、ご意見やご要望がありましたらご自由に記入してください。

市の男女平等・男女共同参画施策について、意見や要望を自由に記述していただいたところ、98件の貴重な意見をいただいた。1人で2つ以上の内容を記述している場合もあるため、件数は延べ件数となる。

以下は、記述いただいた意見を分類し、全文を掲載したものである。

## ■男女共同参画施策推進について

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代    |
|----|--|----|-------|
| 1  | 市が積極的に取り組んでいることで安心できます。  | 女性 | 60歳代  |
| 2  | 実際に市内で労働に従事している人口層が把握できれば、一定の方策も見つかるような気がするのですが、自分の生活を維持するだけで精いっぱいなので、何も協力できず申し訳ありません。   | 女性 | 40歳代  |
| 3  | 今回の設問の選択肢に「暴力的な映像やゲームソフトの販売や貸し出しの禁止」というものがありましたが、映像作品などは表現の自由を表すものであり、それを禁止するという選択肢がある時点で“そのようなものを「差別する」という思いがある”ということの表れではないかと感じました。些細なことかと思うかも知れませんが、こうしたことから様々な差別につながっていきます。市が男女差別を本気で考えたいと思うのであれば、このようなことにも配慮していくべきだと感じました。        | 女性 | 20歳代  |
| 4  | 性的マイノリティの方にとってはこのアンケートの第1問めから回答しづらいものかもしれません。男女の性差で苦しんでいるのはもしかしたら男性も女性も同じくらいか、あるいは男性の方が言いだしづらい環境にある可能性もあります。障害のある方たちもまた然りです。まずは一番弱い立場にある人達に優しい社会であるようにできれば、性差の問題も同様に良い方向に向かっていくのではないかと考えます。自分もこのアンケートを通して、この事業について初めて考えさせられたので勉強不足でした。 | 女性 | 40歳代  |
| 5  | まずは全ての男女比率を5：5にするべきと思います。  | 女性 | 40歳代  |
| 6  | 地方公共団体だけの取組みでは改善・改革は難しい。国家的な見地から根本的に取り組むことが必要ではないか。  | 男性 | 70歳以上 |
| 7  | 推進に向けて周知・理解が進まないなど大変でしょうが、がんばってください。   | 男性 | 70歳以上 |
| 8  | 交通安全の標語のように、基本的人権を大切にする標語を目につくような公的な紙媒体（市報等）を使って、常時市民に伝わるようにする（例えば立て看板、ポスター、横断幕等）。費用はかかるので、スポンサーをつけても良いと思います。  | 男性 | 70歳以上 |
| 9  | DV被害者が増えないよう、尽力してほしい。  | 男性 | 30歳代  |
| 10 | ・現在の低所得、格差社会が変化しない限り、地方自治体レベルでは施策を打ち出しても難しいと思う。女性の多くが満足に所得を有し、自立出来る社会になってからがスタートラインだと思う。<br>・逆差別、差別利権的な問題にも留意するべき  | 男性 | 40歳代  |

## 第2章 調査結果の詳細

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代   |
|----|---|----|------|
| 11 | 東久留米市でこのような施策をやっていたことを今回初めて知りました。日常ではあまり気にしていませんが、こうした施策を行っていくことは非常に重要なことだと思います。私はサラリーマンで週末（しかも日曜のみ）しか東久留米市民であることを実感していませんが、いろいろな取組みをこれからもたくさん行っていられることが望ましいと思います。がんばってください。  | 男性 | 40歳代 |
| 12 | 民間企業等に国や地方自治体が男女平等・男女共同参画施策を求めるのであれば、国家、地方公務員の女性活躍推進を今の基準以上に拡大してみてもはどうでしょうか。例えば出産・育児等で一度離職した女性が再びフルタイムで働きたいと思った時のためにも、東久留米市の正規職員の採用年齢の上限を今以上に引き上げたり、採用試験で女性を優遇することは、公には難しいと思うので、採用面接を担当する職員に女性活躍推進に関する研修を重点的に行ってみてはいかがでしょうか。また、様々な職業経験を持った女性が活躍できるよう、今以上に採用試験の筆記試験よりも面接試験に採点比率を多く置いてみてはいかがでしょうか。  | 男性 | 30歳代 |
| 13 | ・このアンケートが女性視点中心に見えます。本当に「機会の不平等」で女性の議員や役員、自治会長が少ないのでしょうか。女性の希望者の中での割合も見るべきではないですか。個人的には男性が働くべきという意識の改善よりも女性が働く意識を持つような教育の方法が1つあっても良いのではないかと思います。私の周辺だけでも知れませんが、大学院を出ても結婚したら仕事は辞めたい、子どもを産んだら辞めたいという女性も多くいました。（もし男性が同じことを言ったらどう思われますか）また男女平等を謳うなら、家事として家を守りたい男性の支援等は考慮されないのでしょうか。女性の地位向上はもちろん進めるべきかと思いますが、「平等」を謳うなら男性側も意識した作りにされるべきだと思います。そうでないと、これまで男性が優位な社会を作ってきた考え方と性別が逆になっただけの不平等になると思います。（※アンケートの気になった点を少し例として：問14（避難所運営における男女共同参画視点）での選択肢の「『女性専用スペース』など、女性同士の情報交換や不安解消の場を設置する」はなぜ女性だけなのでしょうか。なんとなく男性不要に思いますが、平等なら男性も考えましたか。また、「性犯罪や配偶者からの暴力、子育てに関する悩みなど女性の心のケアのための相談窓口を設置する」ですが、それは女性だけの悩みですか。なぜこれを女性の心のケアに分類しましたか。問21（配偶者等からの暴力）で女性→男性目線の暴力は考慮されていますか。すごくひいき目で見ればそれも入っているとは見えますが。）関心が低い割にいろいろと書きましたが、女性の地位向上≠平等という点も忘れないで頂きたいです。 | 男性 | 30歳代 |
| 14 | 具体的な成果があるのか検証してほしい。計画づくりで終わりではなく、きちんと進行管理をしてそれを更に市民に伝えてほしいと思う。  | 男性 | 60歳代 |
| 15 | 男女平等という言葉の中味の検証ができていないまま、施策を進めても駄目ではないか。  | 男性 | 50歳代 |
| 16 | 市では男女平等推進センターを中心にいろいろな講座を実施するなど、市民への啓発をそれなりに行っていると思っています。しかし、東久留米市役所の実態はどうなのでしょう。女性の管理職の方は何名いますか。市役所の多くの職員が非正規で、更にその大半が女性ではないのでしょうか。まずは市役所内の男女平等を推進し、民間企業や私たち市民に手本を示していただきたいと思います。  | 不明 | 50歳代 |

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代   |
|----|--|----|------|
| 17 | 行き過ぎた平等は決して弱者救済にはならない。多くの制度は対象外の人にとって不平等になってしまう。平等ではなく、性別、人種、文化等の違いを理解した上で公平、公正な社会を目指すべきである。政府や行政は法令や制度を作れば問題は解決すると思っているようだが、現実とは違う。有給休暇も自由に取れない会社員が、育児休暇など取れるはずもない。既存の法令すら守らない会社と公務員や大会社で、不平等感が大きくなるばかりである。女性参画に関しても、大臣や議員を増やす前に立候補者を増やすべきで、これは一般の会社でも同じ事。したい人がいないのにやれと言うのはおかしい。権利と同時に自由もあるのだから。女性リーダーを増やす事だけを目標にすれば、新銀行東京のように破綻するのは目に見えている。慣習や宗教、文化に通じる問題を、行政や教育によって変える事は危険であり、解決には至らないと考える。 | 男性 | 50歳代 |

### ■性別による役割分担について

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代    |
|----|--|----|-------|
| 1  | やれるべき人ができることをすればよい。  | 女性 | 40歳代  |
| 2  | 社会のような役割分担は、男女の性差ではなく、個人の能力差として、捉えられていくことが理想だと考えます。傾向としては、女性の方が子どもへの接し方がうまい人が多いとか、男性の方が力が必要な仕事に向いているとか、そういう個体差として当然あることなので、すべての事柄に平等に、ということにはならないと考えます。それぞれ「男女」ではなく、「一人の人間」として認められ能力を発揮できる社会になっていくことを望みます。 | 女性 | 40歳代  |
| 3  | 男性にも女性にもそれぞれの特性があります。それぞれの特性として、長所や短所があり、それが違うからこそ互いを補いあううまくいくようにできていると思うのです。ですから、必ずしも同じポジションにつくことが最善ではないと思うし、男性の特性が活かされる場、女性の特性が活かされる場でそれぞれが活躍すればいいと思います。違いのある相方（双方）がいるからうまくいく社会を願います。                    | 女性 | 40歳代  |
| 4  | 男女共同参画施策は、賛成ではあるが、理解の仕方によっては方向が違ってしまうと困難を巻き起こす。本来の男の役目（男は子を産めない）、女の役目（女は子を産める）の基準を忘れないことが大事だと思う。そこから何かを考え出し、進むことは良いことだと思う。前世は男か女か、いろいろな人の意見に耳を傾けて、いろいろな人の立場を考えて、これでいいと決めずに常に変化をもって最良にしていってほしいと願います。        | 女性 | 50歳代  |
| 5  | 男女平等という言葉にひっかかります。男性の特性、女性の特性、性的マイノリティの方の特性を大切に、ともどもに助け合う社会が来ることを願います。   | 女性 | 70歳以上 |
| 6  | 自分自身、あまり男女平等等を考えた事はありません。男性にしか出来ないこと、女性にしか出来ないことをバランスよくやればよいと思っています。   | 女性 | 70歳以上 |
| 7  | 人間としては平等であっても、男性・女性は違いがありますので、すべてを平等には出来ません。それぞれの個人を尊重しながら能力のある人を適材適所に配置し、弱者の人々を温かく見守る必要があります。共存が大切だと思います。   | 女性 | 60歳代  |

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 8  | 私は昭和の時代の方が好きでした。それほど男女平等が必要でしょうか。働いている人に感謝（言葉や態度で）し、讃え、女性は1歩下がっている方が好きです。自分の子どもを3歳以下で保育園に任せ、自分のため、生活のために働くなってもったいない。本当にやりたいことなら子どもが小学生に上がってからでも努力してできるはず。考えが古いかもしれませんが、平成の今の流れは好きになれません。女性がいつまでもへばりついて仕事をする方が増えてきて、新卒での仕事探しは厳しくなってきたのではないのでしょうか。「男らしさ」「女らしさ」はもう死語ですか。   | 女性 | 40歳代  |
| 9  | 今回このような取り組みに関するアンケートの調査につきましては、意義深いものと受け止めております。せっかく無作為に選ばれた二千人の中の一人として、参考になるような回答の出来なかったことを非常に残念に思い、且つ申し訳なく存じます。<br>私は本年87歳という後期高齢者となり、もはや人生の晩節を迎えております。そんな私ですがかつて30歳代より50歳半ばまで職業と家庭を両立させながら、23年間をめまぐるしく生きて参りました。当時は高度成長期の真っ只中でしたので、社会一般常識の中には男女平等・共同参画などは夢物語で存在しておりませんでした。そういう意味で現在は仕事を持つ女性にとっては、恵まれた状況になったと思います。とは申してもまだまだ課題山積み、道は遠いと感じております。社会全体の意識を上げるための制度も必要なことであると思いますが、先ず自分が（男女共に）自己意識を確立した上で、改善するために精神的な自立をすることが先決かと思えます。周囲に甘え制度に頼っているうちは絶対に男女平等・共同参画の実現は夢物語かと思えます。男女平等は基本ですが、やはり役割分担は不可欠であると思えます。結婚した女性が出産育児をするという役割は、生半可な気持ちでは到底出来るものではありません。一つの生命を育てるということは、自分の時間を犠牲にする（言葉は不適當かもしれませんが）という気持ちを素直に受け入れないと出来るものではありません。生まれてきた小さな命は理屈抜きで母親の愛情が頼りなのですから。イクメンとかしきりに話題になっていますが、特殊な動物を除いては子育ては母親の愛情とぬくもりが絶対的な宿命的なものであると思えます。せめて物心つくまでは母親のぬくもりで子どもを守ってほしいと思えます。女性の潜在能力は評価されるべきであると、常々実感いたしております。少子化の深刻な問題も重大事だと思えます。せめて女性が安心して出産、育児に専念できるように、企業も行政も協力と理解を示してくれたらと、そして女性も復職できるような制度を実現できたらと痛感いたします。<br>今回のアンケートには御期待に添えませんが本当に残念ですが、当時、セクハラ、パワハラなど公然とまかり通った時代を乗り越えて、仕事と家庭の両立に必死に生き抜いてきた先輩の一人として、以上のようなピントはずれの意見を述べさせていただきました。今後共益々ご健闘下さって真の男女平等・共同参画の実現を目指してくださいますよう、祈念いたします。 | 女性 | 70歳以上 |
| 10 | 男女平等は良いことだと思うが、「差別」と「区別」を混同している人もいる。男性、女性は全く同じではない。全く同じにすることは「平等」ではない。お互いの尊重が最も大事だと思う。  | 女性 | 20歳代  |

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代    |
|----|--|----|-------|
| 11 | 「男女平等」というと、「女性の立場を向上して男性と平等に」ということばかり話題にされますが、男性の立場が低い事柄も多くあります。本当の意味での平等は「女性優遇」というわけではないと思います。たとえば「男性が働くべき」という考えもそうです。逆に「平等」ではなく、「女性の方が男性より立場が上の方がよい」こともあります。たとえば、電車や街では男性は女性を守るべきです。なので、何でも「平等」ではなく、事柄によって性差があってよいと思いますし、凝り固まらないようにしていただきたいです。 | 男性 | 30歳代  |
| 12 | 「男女平等とは」と、あまりにも聴きすぎませんか。男には男としての、また女には女としての重要な役割があります。   | 男性 | 70歳以上 |
| 13 | 男女平等という概念が“権利の平等”なのか、“性差をなくしてまったく同様”にしようとしているのか、明確になっていない。質問の中にもこの両者を混同しているようなものもある。私としては、前者は当然であり、権利の不平等は絶対になくすべきである。後者についてはすべて一律に同等にするというのは理解できない。もともと男と女は肉体的にも精神的にも違っているのであるから、その長所をお互いに補っていくべきである。   | 男性 | 60歳代  |
| 14 | 男女平等だけに縛られず、個々の能力を重視すべし。   | 男性 | 20歳代  |
| 15 | 社会で男女平等、共同参画を訴えながら、一方で問13、14（防災分野での男女平等の視点、避難所運営における男女の視点）のような「女性」を特別に扱う必要がある矛盾は、この手の問題に感じる。性差は確実にあり、お互いのハンデを意識し理解した上で相互補完ができる社会にするべき。何から何まですべて同等に扱うことが平等社会ではないと思う。  | 男性 | 40歳代  |
| 16 | 何もかも男女平等にするのはおかしいと思う。男女の体が違うということは、それぞれの役目があるからだと思う。男性、女性の違いをふまえた上での平等なら納得する。  | 男性 | 70歳以上 |

### ■情報提供・施策のPR

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 1  | 現在の若者は、働いていると地域センターへ向かう用事も時間もない。その代わり、通勤・通学時にスマホを見る時間があるので、何か若者に対して発信したいのならば、SNSやHPを使って有効に発信してほしい。正直、アンケートもインターネットで回答できるともっと回収率も高まると思う。役所なので、いろいろなしがらみはあると思うが、がんばってほしい。あと、男女平等・共同参画とはどんなものか、どこで見れば政策の内容が見られるのですか。       | 女性 | 20歳代  |
| 2  | 市民の人達に対して男女平等・共同参画施策についてのPRが足りないと思う。私の近所でも知らない人がたくさんいるように思われる。  | 女性 | 70歳以上 |
| 3  | 今の政策では若い世代は内容を知らない、興味がない、などの人々がたくさんいると思います。それをなくすためには、今の政策や市が、若い世代に合わせることでいいと思っています。市は若い世代に対して良い政策を行っているとはとても思えません。まずは市から若い世代に歩み寄るべきだと思います。具体的に、SNSから細々と堅苦しくない発信をする、そんな些細なことで十分だと思います。そうすれば男女平等の理念もたくさんの人々、世代に広まると考えます。 | 女性 | 20歳代  |
| 4  | 東久留米市は私が物心ついた時からずっと暮らし育った町です。このような施策はもっと知ってもらいたいと思うし、私も知りたいと思うので、簡単に目につくところにぜひ広告を出してほしいです。  | 女性 | 20歳代  |

## 第2章 調査結果の詳細

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 5  | 男女平等、共同参画の取組みを市がしていることをあまり知らなかった<br>ので、駅や人が多く集まるところに取組みをしているポスターなどを<br>貼ってもらいたいと思います。   | 男性 | 20歳代  |
| 6  | 取り組んでいること（東久留米市男女共同参画都市宣言、第2次東久留<br>米市男女平等推進プラン、男女平等推進センター〔フィフティ・フィフティ〕、男<br>女共同参画情報誌「ときめき」）を、もっと積極的にアピールしてほしい。   | 男性 | 60歳代  |
| 7  | 市の取組みをまったく知りませんでした。SNSを通じて、市の取組み<br>を積極的に発信してはいかがでしょうか。   | 男性 | 40歳代  |
| 8  | 市民に活動自体を知ってもらおう啓蒙活動を、お金をあまりかけずにでき<br>たら良いと思う。私は男女平等センターを利用したことがあるので、<br>「ときめき」という冊子は読んだことがあるが、市民のほとんどは知ら<br>ないと思います。  | 男性 | 40歳代  |
| 9  | 失礼ながら東久留米市の男女平等・共同参画施策については、まったく<br>存じ上げません。市の方でも情報を発信しているとは思いますが、HP<br>や市報だったり、もともと興味がある方が情報を受け取るだけの形に<br>なっているのではないのでしょうか。市民が普通に生活する中で、情報が<br>入ってくるような発信力が必要だと思います。絵に描いた餅にならぬよ<br>う、東久留米市の「実行力」に期待しています。            | 男性 | 30歳代  |
| 10 | 地域社会の中で女性が活躍していることと思いますが、一般に伝わってき<br>ていません。もっと地域別でも項目別でも活躍している人の顔をいろい<br>ろな場面に使ってPR（広い意味で）したらどうですか。活躍している人の<br>顔が出ることにより、その人はより積極的になるでしょうし、又、知った<br>ことによりその人に親近感が生まれるでしょう。政治の世界（議員活動）<br>だけではなく、女性の活躍が盛んな開かれた市にしてほしい。 | 男性 | 70歳以上 |
| 11 | 認知度が低いのでもっとPRした方がよい。  | 男性 | 20歳代  |
| 12 | 市内でどれだけ多くの方が差を感じているのかということがわからない。<br>行政としてもっとわかりやすく、市民に説明する必要がある。言<br>われたからやる風土がまだまだ行政側に残っている。本当にこの施策が<br>大切であると思っているくらいだと伝わってこない。アンケートしなけ<br>ればわからない状態が問題である。  | 男性 | 40歳代  |
| 13 | 社会全体として問題は、全て自己で解決しなければいけないという風潮<br>にあると思う。東久留米市が施策を行っているということすら、知らない<br>人が多い（自分も初めて知った）ように感じる。取組みについてもっと<br>広く認知してもらうようにすべきではないか。  | 男性 | 20歳代  |
| 14 | 市で何かに取組む、発信するする姿勢が全く感じられない。   | 男性 | 40歳代  |

### ■男女平等推進センター(フィフティ・フィフティ)について

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代   |
|----|--|----|------|
| 1  | せっかく良い場所にセンターがあるのに、なかなか利用できない。音の問題<br>や制約、企画など参加が難しい。意識向上のためには、エンパワメント<br>できるように自立できる企画とその後のサポート（活動しやすい、継続し<br>やすい等）までが大切なかもしれないと思う。積極的な活動をされている<br>にもかかわらず、ちょっと“惜しい”といつも思っています。 | 女性 | 50歳代 |
| 2  | 東久留米市市民といっても西東京寄りに住んでいるので、フィフティ・<br>フィフティを利用しにくい。西東京市と合同でイベントや講座を企画す<br>るなど、どちらでも利用できれば便利だと思う。   | 女性 | 50歳代 |

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 3  | 男女平等推進センターの設置についてはその必要性に疑問を感じる。センターの利用者は一部の限られた市民ではないのか。センターを開設していなくても、他の方法で推進することは可能だと思う。厳しい財政状況を踏まえ、税金を無駄に使っているという印象を持たざるを得ない。                        | 女性 | 50歳代  |
| 4  | 3月に募集があったパブコメ「東久留米市公共施設のあり方に関する基本方針（案）への意見」が実施されたとき、公共施設についての市民アンケートが公表されていました。要らない施設の上位に男女平等推進センターがあったと記憶しています。私自身も正直ここはどのような活動をしているところなのか、まったくわかりません。 | 女性 | 30歳代  |
| 5  | 施設がある場所は知っていましたが、あまり施策については知らなかったし、ただ形だけの場所だと思っています。具体的なことがよくわからないので。   | 女性 | 40歳代  |
| 6  | 結婚相手が見つかっていないので、あまりよく質問がわからないものもありましたが、男女ともに平等に仲良くするためにある男女平等推進センターであってほしいと思いました。   | 男性 | 30歳代  |
| 7  | 都区内から引っ越して来ましたが、東久留米市の推進センターのスペースの狭さに驚いた。ショック。もっと広げて、たくさん本も置いて皆の物にしてほしい。今のままではただの事務所です。税をきちんと使っていただきたいです。（皆に開かれていない。相談なんてできるのか）                         | 男性 | 30歳代  |
| 8  | 基本的に赤字予算で何ができるのか。根本的に黒字になるようにもっていく方法論を考えるべきである。人口は減る一方で高齢者が残る。その中で市庁舎の中で空きスペースが多くあるはず。借家をなくしてほしい。市の人件費削減をやること。フィフティ・フィフティの場所も庁舎内に入れるべき。まずここから始めてください。   | 男性 | 70歳以上 |

### ■意識改革・啓発について

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代    |
|----|--|----|-------|
| 1  | 男女平等は、個人の意識の持ち方、共同参画で女性が優遇されているが、それが生かせるのは女性の意識の持ちように依る。女性でも出世意欲がある人は出産後も次々と復帰して、出世している。意識の低い女性が女性優遇を求めていることが多い。   | 女性 | 30歳代  |
| 2  | 自分の周り、特に職場では、男性より女性側の方が「女性なのだから、これはできない」とか、「この仕事は男性がすべきだ」というように考えている人が多いと感じる。女性だからという甘えがあるように見える。  | 女性 | 50歳代  |
| 3  | 「男女平等」 どうしてこればかり声高に叫ぶのか。核家族、少数家庭が増えた最近致し方ないと思う反面、すごく悲しい。昔の幼子達はあまり泣かなかった。父権が強く男性がしっかりしていたから母親も優しく、背中のぬくもりで子どもを育て、抱っこしたり幼子の精神も安定していた。今の若い母親はベビーカー専門で、ボディタッチして幼子の不安を取り除くことも知らない。ピーピー泣かせっぱなし、ほったらかし。江戸時代→昭和初期等の女性の役割、働き等もっと見習ってほしい。男性も父権とは、としっかり勉強しなおしてほしい。古いアルバムを見るとどの男性も姿勢が良く凛々しい顔つきをしていました。今は男性が女性化して情けない。顔がだらしない。正しい日本語を知らない。人間としてもっとも大切な挨拶すらできない。男女平等を問う前に父権、母権をしっかり認識しているかを問いたい。 | 女性 | 60歳代  |
| 4  | 一昨年、社）化学工学会の主催で男女共同参画推進のための講演会、見学会（筑波大学）に参加したことがあり、関心がありました。   | 男性 | 70歳以上 |

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代    |
|----|--|----|-------|
| 5  | 多様な広報活動によって意識を高めることが必要か。   | 男性 | 70歳以上 |
| 6  | 一人ひとりに関わることであるが、それだけに社会全体での動きを作っていくことは、大変困難なことであると思う。しかし、小さな一歩ずつであっても意識を高く持ちつつ、少しずつ前進させていくよう、すべての人が努力していかななくてはならないのだと思う。 | 男性 | 60歳代  |

### ■企業・職場における男女平等について

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 1  | “管理職の何割を女性にする”等の政策自体も不平等。優秀な男性が管理職になれない。平等に業績で判断すべき。女性、男性、適材適所がある。会社すべてに管理職に女性の割合目標を与えているが、アパレル系統の女性の職場等での男性の割合は設けられているのか。もっと男女平等の内容を広めるべき。   | 女性 | 30歳代  |
| 2  | 私の時代は男女の差がありました。私は企業に5年、その後大学に40年勤務しました。男性の多い男子社会でしたが、幸い女性だからと思わないで、男性と同じ仕事をしました。おかげで仕事は楽しくやりがいがありました。今は男女平等という時代ですが、女性もそれなりに仕事をしなくてはならないのでしょうか。  | 女性 | 70歳以上 |
| 3  | 暮らしに密接に関わるのが政治だと思います。50：50にするのなら、市議会議員は5割ずつにする仕組みにしなければなりません。コストリカだったか、3割が女性という結果になったときに、日本だと「よかった」となるところを、「3割しかないのか」と、そうしたことから比例選挙で男女男女の順にして必ず5割になる仕組みになったそうです。都議会、国会などではまだまだ平等意識が低く、女性を低く見ている男性議員が多いと思います。男女に関わらず低く見ている男性議員が多いと思います。男女に関わらず互いを思いやれる思いやりのある社会を作っていきたいです。 | 女性 | 50歳代  |
| 4  | 「男女平等共同参画社会だから」と、女の無能が職場にいるのは無駄だと思う。（男もそうだけど）   | 男性 | 20歳代  |
| 5  | 男性の育児休暇の義務付け（法律で決める）が必要。評価が下がることを恐れ、休暇申請できないので、子どもが生まれたら必ず取得するようにすればよいと思う。特に若い男性が社会参加（参画）すると（子どもを通して）社会全体が変化するという。今後の社会が男女平等になるにはまだまだだが、父親にPTA参加、育児休暇等を義務づけると、必ず数年後、数十年後には変化がみられるであろうと思う。   | 男性 | 50歳代  |

### ■子育て・介護について

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代   |
|----|--|----|------|
| 1  | いくらがんばっても保育所は増えないし、病児保育所はないに等しい。女性はどうやれば仕事を安心してできるのか知っているのかと思うことが多々ある。学童保育所は相変わらず18時までである。9時から18時までの仕事が多い中、18時までしか学童が開いていないのはおかしいと思う人はいないのか。男女が平等に社会に参加するには高すぎるハードルが多々ある。その結果、母親は家にいるしかないのではないかと思う。幼稚園の延長料金はとても高く、毎日利用できる人は少ないと思う。 | 女性 | 30歳代 |



| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代   |
|----|--|----|------|
| 2  | 男女平等・共同参画を目指すのであれば、共働きは避けられないと思います。子どもを持って働くためには保育園が必要です。東久留米市は公立保育園を全て廃園とする計画を打ち出していますが、共同参画からはかけ離れた政策です。公共施設についての市民アンケートで増やしてほしい施設のトップにあった公立保育園は、男女が平等に安心して働くためにはなくてはならないものです。   | 女性 | 30歳代 |
| 3  | 男女共同参画も結構ですが、女性が参加するため、保育園問題（待機児童）を先に解決すべきではないでしょうか。口先だけのきれいごとではあきません。シングルマザーの人でも保育園に落ちるのは死活問題です。先にすべきはそれでしょう。   | 男性 | 40歳代 |
| 4  | 出産は女性にしかなないので、その限りにおいて、女性の社会的役割はどちらが偉いという意味ではなく、男性とは相違するものと考えます。個人的に出産したくないという女性がいればそれも個人の自由として認めざるを得ないのかもしれませんが。ただ女性が安心して出産できる社会の実現と出産したら子どもにとっても、せめて幼稚園に上がる年齢ぐらいまでは母親が安心して子育てに専念でき、その後社会（職場）復帰できる社会を実現する事が家庭、地域、国家の反映につながる事だと思います。 | 男性 | 50歳代 |
| 5  | 保育や介護等の社会サービスのレベルが低いと思います。社会整備が最優先だと思います。  | 男性 | 50歳代 |

### ■学校教育における男女平等について

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 1  | 日本の未来のために重要な課題だと思いますが、小・中学生の親に向けて市がアピールしているのを見聞きした覚えがありません。子育て最中の親、保護者に向け学校公開日などにセミナーなど開催するのは難しいのでしょうか。男子・女子を育てている親の考え方が変わらないと子どもも変わらないでしょう。    | 女性 | 50歳代  |
| 2  | 子どものときの教育が重要だと思います。   | 女性 | 70歳以上 |
| 3  | 正直このような取り組みや活動があることを知りませんでした。関心がない人ならなおのこと知らないのかなと思います。学校教育で家庭科を男子、技術を女子にという皆が見える、関わる状況作りのような取り組みをこのような場でも行ったら、又、違ってくるのではないかと思います。皆に可視化をお願いします。 | 女性 | 40歳代  |
| 4  | 男女平等、子どもの時からのしつけ、今はそれがゆるいと感じる。子どもの時に習得した大事なことは身に入ると思う。それが若者に違った意味に取り入れられるから、こんな世の中になったと思う。美しい日本、私は大好きです。素敵な日本になってほしいと思います。                      | 女性 | 70歳以上 |

### ■性的マイノリティ(性的少数者)について

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代   |
|----|---|----|------|
| 1  | 性的マイノリティについて批判する方もいるが、個人の人権は尊重されるべき、だからと言って同性の結婚などは反対である。難しい問題。                         | 女性 | 20歳代 |
| 2  | 性的マイノリティも個性としては認められるべきで、差別されてはいけませんが、生物学的にマイノリティであることは認めるべきで、その差を埋めることを「平等」とするのは違うと考える。 | 男性 | 40歳代 |

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代   |
|----|--|----|------|
| 3  | 女性のマイノリティの為に特別に何かをすると、差別主義者が色めき立つので、そういう事はしない。トイレは男用・女用分けない。全部個室にする。選択肢を無くす。 | 男性 | 40歳代 |

### ■その他の男女平等について

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 1  | 私は女性の多い職場にいますので、男女性別など感じませんが、クルマを運転していると、特にタクシーなど性差別を感じます。      | 女性 | 30歳代  |
| 2  | 男女平等、人間平等   | 女性 | 60歳代  |
| 3  | 現在の70歳代以降の方はどうしても男女の差があると思う。（たとえば、老人会の集まりでは集会所のトイレ掃除や湯飲みの後片付け等） | 女性 | 70歳以上 |
| 4  | 駅前のポスターなどで、市の施策について興味をもって見えています。これからも興味のあるものに参加していきたいと思っています。   | 女性 | 60歳代  |
| 5  | 電車の女性専用は男女差別だと思う。男性専用もつくるべきではないか。女性に痴漢があるように、男性は痴漢冤罪があるので。      | 男性 | 40歳代  |
| 6  | 人生いろいろ、多様性の尊重。しかしもっぱら他人が迷惑と感ずる強要には歯止めをすべき。                      | 男性 | 70歳以上 |

### ■市政への要望(男女平等以外)について

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代   |
|----|--|----|------|
| 1  | 税金の使い方を考える。無駄のないように。   | 女性 | 30歳代 |
| 2  | 市内全域を歩きタバコ禁止にしてほしい。なおかつ罰金を取って他の市や23区のように子どもの医療費を0円にしてほしい。  | 女性 | 40歳代 |
| 3  | 長い時間ニートである人間にまともな仕事に就かれるようにしてほしいです。年齢で仕事に就きづらくなっていくのは何とかしてほしいです。ニート支援室等を増やしてほしいです。精神障害、発達障害等のある人がまともな賃金、まともな仕事内容、まともな職業に就けるような社会にしてほしいです。フリーター等の非正規雇用の人でもまともな人生を送れるような世の中にしてほしいです。発達障害があってもまともな楽しい人生を送れるようにしてほしい。発達障害のある人には世の中がかなり厳しくできているので、何とかしてほしいです。 | 女性 | 20歳代 |

### ■今回のアンケートについて

| 番号 | 意見の内容   | 性別 | 年代    |
|----|---|----|-------|
| 1  | アンケートの意味がわからない。選択肢自体が固定観念で固められていて選びづらい。   | 女性 | 30歳代  |
| 2  | 今回のアンケートについて75歳以上の方がどれだけ回答されるのか、疑問に思う。高齢になると、文章の意味がわからない人もいないわけではない。私自身、回答に時間がかかりました。       | 女性 | 70歳以上 |
| 3  | このアンケートは設問が多すぎです。途中から考えがまとまらなくなりました。  | 女性 | 40歳代  |
| 4  | 自分自身が今、人様の事を考えていないことが少し恥ずかしいです。ただ、人様には迷惑をかけないように心掛けている次第です。少し社会を見つめて行くよい機会をいただきありがとうございました。 | 女性 | 60歳代  |

| 番号 | 意見の内容  | 性別 | 年代    |
|----|--|----|-------|
| 5  | 問1の家族＝夫＋妻（＋子）という図式の選択肢に戸惑いました。「夫婦が協力」は「家族が協力」の中の1つではないでしょうか。家族というのは、同居しているという意味でしょうか。夫＋妻以外にもシングル親＋子、友人同士の同居、独居と世帯のパターンは多く、また家族といっても別居中の夫婦や単身赴任などもありますね。アンケート全体に夫＋妻＋（子）＋介護すべき親が標準という概念が感じられ、「男女共同参画の部署なのに多様性はやはり難しいのかな、役所には？」と感じてしまいました。全体として「～すべき」より「～でもいい」と考えている私には回答しにくかったです。「～でもいい」と認め合える社会になってほしい。 | 女性 | 50歳代  |
| 6  | 東久留米市がこうしたアンケート調査を行うことは大いに意義があることだと思います。今後の発展推進を希望、期待します。  | 男性 | 70歳以上 |
| 7  | このアンケートで質問が適切か見直した方がよいかもしれません。社会的な問題の解決方法はアンケートが役に立つとは思えません。   | 男性 | 40歳代  |
| 8  | 単身世帯では回答しようのない設問が多い。   | 男性 | 40歳代  |
| 9  | よく読むと、結局「同じ質問では」という設問が多すぎる。設問を減らし、各々の内容（文面など）を見直した方が良い。今のままの、このままのアンケートなら次回は答えたくありません。ぜひ再考を。   | 男性 | 60歳代  |
| 10 | このアンケートについて、DVの項目が入るのは当然としても、LGBTの問題についても項目として含めたことはとてもよいことだと思う。男女平等の問題も一般的な差別の問題も隣り合わせに存在している問題であると思うので、常により広い視野を持ちつつ、施策を進めていただければと思う。  | 男性 | 60歳代  |
| 11 | アンケートが配布されたことに驚いた。今後に期待します。  | 男性 | 40歳代  |

## 第 3 章 調査票



## 「東久留米市男女平等・共同参画に関するアンケート調査」 ご協力のお願い

皆さまには日頃より市行政にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本年度は、平成23年度に策定しました「東久留米市第2次男女平等推進プラン」の計画期間の最終年にあたります。現在のプランにおける取組みの進捗状況を確認するとともに、次期プランをより良いものとするため、今一度市民の皆さまの働き方や生き方、考え方などを「男女共同参画」という観点からお聞かせいただき、結果を施策に反映することを目的として、アンケート調査を実施することといたしました。

この調査は、住民基本台帳から、統計的手法により無作為に選んだ満20歳以上の市民の皆さま2,000人を対象としております。本調査をお送りした皆さまにおかれましては、ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

平成28年4月

東久留米市長

### 個人情報の取り扱いについて

本調査は無記名とし、結果は統計的数値としてまとめます。個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、回答された方にご迷惑をおかけすることは一切ございません。なお、本調査結果は市ホームページで公表いたします。

### ご記入にあたってのお願い

1. 調査票および返信用封筒に、ご住所・お名前などを記入する必要はありません。
2. 調査の対象は、あて名のご本人の方です。また、質問中の「あなた」とは、あて名のご本人を指します。
3. すべての質問は、男女問わずお答えください。
4. ご回答は、調査票に直接ご記入ください。選択肢および空欄に○をつけていただく形式です。特に指定の無い場合、○印は1つだけお選びください。複数回答の設問においては、○印は指定された数までお選びください。
5. その他を選んだ場合は、( ) 内に具体的な内容を記入してください。
6. 本調査にはフェイスシートと問が問1から問26まであります。回答しにくい設問は飛ばしていただき、なるべく最後まで回答してください。

ご記入が終わりましたら、誠に恐れ入りますが、同封しました返信用封筒にこの調査票を入れて、**5月31日までに**ポストに投函してください。

なお、封筒に**切手を貼っていただく必要はありません。**

本調査についてご不明な点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

|                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 東久留米市市民部生活文化課男女共同参画係 | 電話番号： 042-470-7738  |
|                      | FAX番号： 042-472-1131 |

|          |
|----------|
| あなた自身のこと |
|----------|

F 1. あなたの性別は。

1. 男性
2. 女性

生活の実態を調査し、今後の施策の参考とするものです。実際の日常生活における近い方いずれかに○をお願いします。

F 2. あなたの年齢は。

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 20～24歳 | 7. 50～54歳  |
| 2. 25～29歳 | 8. 55～59歳  |
| 3. 30～34歳 | 9. 60～64歳  |
| 4. 35～39歳 | 10. 65～69歳 |
| 5. 40～44歳 | 11. 70～74歳 |
| 6. 45～49歳 | 12. 75歳以上  |

F 3. あなたは、結婚していますか。(婚姻届を出していない場合も含みます)

- |            |                    |
|------------|--------------------|
| 1. 結婚している  | 3. 結婚していたが、離別・死別した |
| 2. 結婚していない |                    |

F 3-1. (F 3で「1」とお答えの方に) あなたの世帯は共働きですか。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. 共働きである   | 3. 妻だけ働いている |
| 2. 夫だけ働いている | 4. 夫婦とも無職   |

F 4. あなたは、お子さんはいらっしゃいますか。

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

F 4-1. (F 4で「1」とお答えの方に) お子さんの性別は。

- |          |            |
|----------|------------|
| 1. 男の子のみ | 3. 男の子と女の子 |
| 2. 女の子のみ |            |

F 4-2. (F 4で「1」とお答えの方に) 一番下のお子さんは、おいくつですか。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| 1. 1歳未満      | 5. 中学生             |
| 2. 1～2歳      | 6. 高校生             |
| 3. 3歳～小学校入学前 | 7. 短大・各種学校・大学・大学院生 |
| 4. 小学生       | 8. 成人(7を除く)        |

F 5. あなたの家族構成は、次のうちどれに当てはまりますか。ご自身の立場(自分が親、子)に関わらず、世帯の構成をお答えください。

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯          | 4. 親と子ども夫婦(二世帯家族) |
| 2. 夫婦のみ(事実婚含む)   | 5. 親と子どもと孫(三世帯家族) |
| 3. 親と未婚の子ども(核家族) | 6. その他( )         |

|      |
|------|
| 家庭生活 |
|------|

問1 あなたは、家庭内での役割についてどのように担うのがよいと思いますか。あなたの希望に最も近いものと、今の状況（現実）についてお答えください。

|                       | 希望  |       |     |       |     | 現実  |       |     |       |     |
|-----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-----|-------|-----|-------|-----|
| 項目                    | 主に妻 | 夫婦が協力 | 主に夫 | 家族が協力 | その他 | 主に妻 | 夫婦が協力 | 主に夫 | 家族が協力 | その他 |
| ア 仕事（収入）              | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   |
| イ 掃除・洗濯               | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   |
| ウ 買い物                 | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   |
| エ 料理<br>（支度・片付け）      | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   |
| オ 地域活動<br>（PTA・自治会など） | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   |
| カ 育児<br>（世話・しつけ）      | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   |
| キ 介護                  | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   | 1   | 2     | 3   | 4     | 5   |

問2 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。

- |                  |          |
|------------------|----------|
| 1. 賛成である         | 4. 反対である |
| 2. どちらかと言えば賛成である | 5. わからない |
| 3. どちらかと言えば反対である |          |



## 子育てと介護

従来、子育てと介護は家庭内で女性が担うのが一般的でした。これからは公的・民間サービスの整備とともに、男性も共に子育てと介護を担うことが求められます。

(参考データ)

育児休業取得率：男性1.7%、女性93.4% 介護休業取得者がいた事業所は13.5%

※平成25年度東京都「女性の活躍促進への取組等企業における男女雇用管理に関する調査」より

問3 男女が共に育児・介護と仕事の両立を推進するために、どんなことが必要だと思いませんか。男性、女性にとって、特に必要だと思うことに、それぞれ3つまで○をつけてください。

|                                    | 男性 | 女性 |
|------------------------------------|----|----|
| 1. 長時間労働を削減する                      | 1  | 1  |
| 2. 育児・介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度を作る | 2  | 2  |
| 3. 短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方を整備する        | 3  | 3  |
| 4. 育児・介護休業時の経済的補償を充実する             | 4  | 4  |
| 5. 保育・介護の施設やサービスを充実する              | 5  | 5  |
| 6. 職場や上司の理解・協力                     | 6  | 6  |
| 7. 「男は仕事、女は家庭」という社会通念を改める          | 7  | 7  |
| 8. 家族の理解・協力                        | 8  | 8  |
| 9. その他（ ）                          | 9  | 9  |

問4 もし、あなたに介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたいですか。2つまでお答えください。

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 1. 配偶者  | 6. その他の家族         |
| 2. 娘    | 7. 近所の人や友人・知人     |
| 3. 娘の夫  | 8. 公的・民間サービスを利用する |
| 4. 息子   | 9. その他（ ）         |
| 5. 息子の妻 | 10. わからない         |

## 仕事と職場

問5 あなたの職業は、次のどれに当てはまりますか。複数あてはまる場合は、主なもの1つをお答えください。

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 自営業主        | 5. 家事専業 |
| 2. 家族従業（家業手伝い） | 6. 学生   |
| 3. 勤め（全日）      | 7. 無職   |
| 4. 勤め（短時間）     |         |

問5-1 （問5で「3」～「4」とお答えの方に）あなたの働き方は、次のどれに当てはまりますか。

1. 正社員、正規職員
2. 派遣、契約・嘱託・パート・アルバイトなど

問5-2 （問5で「1」～「4」とお答えの方に）あなたの職場は、どこにありますか。

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| 1. 東久留米市内 | 3. 東京都多摩地域（東久留米市を除く） |
| 2. 東京都区部  | 4. その他（ ）            |

問5-3 （問5で「1」～「4」とお答えの方に）あなたが、働いている理由はどのようなことでしょうか。3つまでお答えください。

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1. 生計を維持するため                | 8. 社会的視野を広めるため      |
| 2. 生活費補助のため（教育資金、ローンの支払いなど） | 9. 社会や他人とのつながりをもつため |
| 3. 将来に備えて貯蓄するため             | 10. 働くのがあたりまえだと思うから |
| 4. 経済的に自立したいため              | 11. 家業だから           |
| 5. 自分で自由になる収入がほしいため         | 12. 時間的に余裕があるから     |
| 6. 自分の能力、技能、資格をいかすため        | 13. 健康のため           |
| 7. 働くことが好きだから               | 14. その他（ ）          |

問5-4 （問5で「1」～「4」とお答えの方に）あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で次のようなことがありますか。あてはまるものをすべてお答えください。

1. 賃金に男女差がある
2. 昇進に男女差がある
3. 募集、採用に男女差がある
4. 配置に男女差がある
5. 教育・研修に男女差がある
6. 定年退職に男女差がある
7. お茶くみや雑用は主に女性がする
8. 女性を幹部に登用しない
9. 女性が結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある
10. 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある
11. 育児休業が取得できない・とりにくい
12. 介護休業が取得できない・とりにくい
13. 正社員と同じような仕事をしているのにパート等の待遇が劣っている
14. 特にない

問5-5 (問5で「5」～「7」とお答えの方に) あなたが現在働いていない理由はどのようなことでしょうか。3つまでお答えください。

1. 働かなくても経済的に困らない
2. 家事・育児に専念したい
3. 託児施設が見つからない、子どもを預けられる人がいない
4. 高齢者や病人の介護、看護と両立できない
5. 健康に自信がない
6. 職業能力に自信がない
7. 希望や条件にあう仕事が見つからない
8. 趣味や社会活動など他にやりたいことがある
9. 家族の反対がある
10. 家族の転勤や転居がある
11. 求職に年齢制限がある
12. 高齢だから
13. 求職活動中だから
14. 学生だから又は資格取得に向け勉強中だから
15. 扶養家族の方が有利だから
16. その他 ( )

問6 一般的に女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

1. 子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい
2. 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは仕事を持つほうがよい
4. 結婚するまでは仕事を持つほうがよい
5. 女性は仕事を持たないほうがよい
6. その他 ( )
7. わからない

問7 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような効果と影響があると思いますか。3つまでお答えください。

1. 多様な視点が加わることにより新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 国際社会から好印象を得ることができる
5. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
6. 男女問わず仕事と家庭を両立しやすい社会になる
7. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
8. 男性の家事・育児などへの参加が増える
9. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
10. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
11. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
12. その他 ( )
13. わからない

問8 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。3つまでお答えください。

1. やりがいのある仕事ができる
2. 賃金が上がる
3. 能力が認められた結果である
4. 家族から評価される
5. 自分自身で決められる事柄が多くなる
6. やるべき仕事が増える
7. 責任が重くなる
8. やっかみが出て足を引っ張られる
9. 仕事と家庭の両立が困難になる
10. その他 ( )
11. わからない

### 地域活動

問9 あなたは次にあげる活動に参加したことがありますか。あてはまるものをすべてお答えください。

1. 趣味・学習・スポーツ活動
2. 福祉活動などのボランティア活動
3. PTA・子ども会・スポーツ指導員などの活動
4. 消費生活、自然環境保護などの活動
5. 自治会・町内会などの地縁活動
6. 消防団などの防災活動
7. 外国人との交流などの国際交流活動
8. 市の審議会などの政策決定にかかわる活動
9. その他 ( )
10. 活動・参加したことがない

問10 (問9で「10. 活動・参加したことがない」とお答えの方に) 今後、あなたが地域の活動や行事に参加しようとする場合に、必要なことを3つまでお答えください。

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| 1. 時間的に余裕がある | 6. 住居の近くに施設や活動の場がある |
| 2. 仲間がいる     | 7. 参加したい内容のものがある    |
| 3. 健康である     | 8. 参加のきっかけがある       |
| 4. 家族の理解がある  | 9. その他 ( )          |
| 5. 経済的に余裕がある | 10. 活動・参加するつもりはない   |

## ワーク・ライフ・バランス

我が国の社会は、人々の働き方に関する意識や環境が、社会経済構造の変化に必ずしも適応しきれず、仕事と生活が両立しにくい現実に直面しています。誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、家庭生活を充実させ、また、個人として過ごす時間を持ち、健康で豊かな生活ができるよう、今こそ、社会全体でワーク・ライフ・バランスの推進に向けて取組むことが求められています。

※内閣府「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」（平成19年12月）参照

問11 ワーク・ライフ・バランスは、仕事、家庭生活、個人の生活など、様々な活動を自分が望ましいと考える割合で実現できている状態です。あなたの希望と現実について、それぞれ近いものをお答えください。

※選択肢にある「仕事」「家庭生活」「個人の生活」とは下記のようにお考えください。

仕事・・・家庭の外で仕事をしている時間

家庭生活・・・家族団らんの時間、家事・育児・介護など家庭内の仕事をする時間

個人の生活・・・友達と会う時間、趣味に費やす時間など、家庭とは別に個人として過ごす時間

| 希望する状態              | 現実の状態               |
|---------------------|---------------------|
| 1. 仕事を優先            | 1. 仕事を優先            |
| 2. 家庭生活を優先          | 2. 家庭生活を優先          |
| 3. 個人の生活を優先         | 3. 個人の生活を優先         |
| 4. 仕事と家庭生活を優先       | 4. 仕事と家庭生活を優先       |
| 5. 仕事と個人の生活を優先      | 5. 仕事と個人の生活を優先      |
| 6. 家庭生活と個人の生活を優先    | 6. 家庭生活と個人の生活を優先    |
| 7. 仕事と家庭生活と個人の生活すべて | 7. 仕事と家庭生活と個人の生活すべて |
| 8. その他（ ）           | 8. その他（ ）           |

問12 ワーク・ライフ・バランスの推進のために必要なことは何だと思いますか。3つまでお答えください。

1. 育児・介護に関する社会的サポートの充実
2. 育児・介護休業時の経済的補償を充実する
3. 職場の両立支援制度の充実
4. 長時間労働の見直し
5. 職場や上司の理解・協力
6. 家族の理解・協力
7. 育児・介護休業制度の普及
8. 地域全体での子育て・見守り、助け合いの体制づくり
9. 「男は仕事、女は家庭」という社会通念の改善
10. 法律や制度の充実
11. その他（ ）

防災

東日本大震災においては、避難所によっては、衛生用品等の生活必需品が不足したり、授乳や着替えをするための場所がなかったり、「女性だから」ということで当然のように食事準備や清掃等を割り振られたりしたところも見られました。近年、国際社会において、「災害リスク軽減」という概念とともに、災害に強い社会の構築には、男女共同参画社会（男女が互いに人権を尊重しつつ、能力を十分に発揮できる社会）の実現が不可欠であることが強調されています。

問 13 防災分野で男女共同参画の視点をいかすためには、どのようなことが必要だと思いますか。3つまでお答えください。

1. 災害や防災に関する知識の習得を広く進める
2. 防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする
3. 災害対応や復興においてリーダーとなれる女性を育成する
4. 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる
5. 避難所設備に女性の意見を反映させる
6. 備蓄品に女性の視点を活かす
7. その他（ ）
8. わからない

問 1 4 男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営で、どのようなことが必要だと思いますか。3つまでお答えください。

「避難所」とは、災害で住まいを失ったときなどに、被災者が避難生活を送るための場所です。学校や体育館のような広い公共施設で、多くの人が共同で生活するような場面を想定してご回答ください。

1. 男女別の入浴施設や更衣室、物干し場、トイレ、乳幼児がいる家庭エリアなど、プライバシーに配慮した避難所を設計する
2. 着替えや授乳時に間仕切りパーテーションを設置するなど、プライバシーを確保する
3. 女性用生活必需品（生理用品、下着など）の配付は女性の担当者が行う
4. 避難所運営には、男性と女性の責任者を配置する
5. 避難者による食事作り・片付け・清掃などの役割分担の際、性別や年齢で役割を固定化しないこと
6. 「女性専用スペース」など、女性同士の情報交換や不安解消の場を設置する
7. 女性警察官などが避難所を巡回し女性の相談に対応するなど、安心・安全を確保する
8. 女性の健康や医療に配慮した医師・保健師による健康相談を実施する
9. 性犯罪や配偶者からの暴力、子育てに関する悩みなど女性の心のケアのための相談窓口を設置する
10. 防犯ブザーやホイッスル（笛）を配付するなど、防犯対策を図る
11. その他（ ）
12. わからない

## 男女平等

「男女格差の解消が世界経済の発展につながる」として、世界経済フォーラム（WEF）が、世界各国の男女平等の度合いを指数化した「ジェンダー・ギャップ指数」を、毎年発表しています。2015年版では、日本は調査対象の145カ国のうち101位でした。主に政治、経済分野での男女格差が大きく順位を引き下げています。

（参考データ）

- ・国会議員に占める女性の割合は、衆議院9.5%、参議院15.7%
- ・上場企業の役員に占める女性の割合は2.8%
- ・民間企業（100人以上）の課長相当職に占める女性の割合は8.3%
- ・全国の自治会長に占める女性の割合は4.9%

※平成27年度内閣府「女性の政策・方針決定参画状況調べ」より

問15 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。それぞれの分野ごとに、当てはまると思うところに○をつけてください。

|              | 優男<br>遇性<br>の<br>方<br>が<br>い<br>る | が<br>い<br>ど<br>て<br>優<br>え<br>ち<br>い<br>遇<br>ば<br>ら<br>さ<br>男<br>か<br>れ<br>性<br>と | 男<br>女<br>平<br>等<br>で<br>あ<br>る | が<br>い<br>ど<br>て<br>優<br>え<br>ち<br>い<br>遇<br>ば<br>ら<br>さ<br>女<br>か<br>れ<br>性<br>と | 優女<br>遇性<br>の<br>方<br>が<br>い<br>る | わ<br>か<br>ら<br>な<br>い |
|--------------|-----------------------------------|---|---------------------------------|---|-----------------------------------|-----------------------|
| ア 家庭生活で      | 1                                 | 2   | 3                               | 4   | 5                                 | 6                     |
| イ 職場で        | 1                                 | 2   | 3                               | 4   | 5                                 | 6                     |
| ウ 学校教育の場で    | 1                                 | 2   | 3                               | 4   | 5                                 | 6                     |
| エ 政治の場で      | 1                                 | 2   | 3                               | 4   | 5                                 | 6                     |
| オ 法律や制度で     | 1                                 | 2   | 3                               | 4   | 5                                 | 6                     |
| カ 慣習やしきたりなどで | 1                                 | 2   | 3                               | 4   | 5                                 | 6                     |
| キ 社会全体で      | 1                                 | 2   | 3                               | 4   | 5                                 | 6                     |

問16 あなたは、男女の平等に関わる国や市の施策などに関心がありますか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 関心がある     | 4. まったく関心がない |
| 2. ある程度関心がある | 5. わからない     |
| 3. あまり関心がない  |              |

### 第3章 調査票

問17 あなたは、政治や企業活動、地域活動において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。3つまでお答えください。

1. 男性優位の組織運営がある
2. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない
3. 家族の支援・協力が得られない
4. 女性側の積極性が十分でない
5. 女性の能力開発の機会が十分でない
6. 性別による役割分担や性差別の意識が高い
7. その他（ ）
8. わからない

問18 あなたは、次のことばや取り組みをご存じですか。

|  | い<br>る | も<br>よ<br>く<br>知<br>っ<br>て | 内<br>容<br>（<br>活<br>動<br>） | 少<br>し<br>は<br>内<br>容<br>も<br>知<br>っ<br>て<br>い<br>る | 言<br>葉<br>は<br>聞<br>い<br>た<br>こ<br>と<br>が<br>あ<br>る | 全<br>く<br>知<br>ら<br>な<br>い |
|--|--------|----------------------------|----------------------------|---|---|----------------------------|
| ア 東久留米市男女共同参画都市宣言（平成12年宣言）                   | 1      |                            |                            | 2   | 3   | 4                          |
| イ 第2次東久留米市男女平等推進プラン（平成23年策定）                 | 1      |                            |                            | 2   | 3   | 4                          |
| ウ 男女平等推進センター（ifty <sup>2</sup> ：フィフティ・フィフティ） | 1      |                            |                            | 2   | 3   | 4                          |
| エ 男女共同参画情報誌「ときめき」                            | 1      |                            |                            | 2   | 3   | 4                          |

問19 市における男女共同参画施策の推進のための取り組みを広く周知するため、どのような手段が有効だと思いますか。3つまでお答えください。

1. 男女共同参画情報誌「ときめき」の全戸配布
2. 市報（広報ひがしくるめ）での広報活動
3. 市ホームページでの広報活動
4. フェイスブック、ツイッター等のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）での広報活動
5. 地域情報を発信するテレビやラジオ放送、ウェブサイトでの広報活動
6. 男女平等推進センターの活用
7. 大型スーパー、スポーツジム等の民間施設での広報活動
8. 駅、電車、バス等の交通機関を利用した広報活動
9. その他（ ）
10. わからない

問19-1 あなたは、市が発信する情報をどのような媒体を通じて入手することが、もっとも多いですか。

1. 市報（広報ひがしくるめ）
2. 市ホームページ
3. フェイスブック、ツイッター等のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）
4. 公共施設や駅のチラシ・ポスター
5. その他（ ）
6. 特に入手していない



問20 男女平等を推進していくために、小・中学校で取り組むとよいと思うものは何ですか。3つまでお答えください。

1. 出席簿や座席の順番など、男女で分ける習慣をなくす
2. 学校生活での児童・生徒の役割分担に性別で差をつけない
3. 生活指導や進路指導において男女の別なく能力を活かせるよう配慮する
4. 男女平等の意識を育てる授業をする
5. 教材の登場人物・役割など、性別で偏りのないように教材を見直す
6. 教員へ男女平等に関する研修をする
7. 校長や副校長に女性を増やしていく
8. 保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める
9. その他（ ）
10. わからない
11. 学校教育の中で取り組む必要はない

### 配偶者等からの暴力

問21 今までに、配偶者等から次のような行為を受けたこと、または、配偶者等に次のような行為をしたことがありますか。

|  | 受けたことがある   |   |   |   | したことがある   |   |   |   |
|--|--|---|---|---|---|---|---|---|
|  | 1. 何度も受けた<br>2. 1、2度受けた<br>3. 全く受けたことがない<br>4. わからない |   |   |   | 1. 何度もした<br>2. 1、2度した<br>3. 全くしたことがない<br>4. わからない |   |   |   |
| ア 平手で打つ  | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| イ 大声でどなる   | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| ウ 外出などを制限する  | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| エ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する                             | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| オ 何を言っても無視する                                       | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| カ 相手の意に反して性的な行為を強要したり<br>避妊に協力しない                  | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| キ なぐるふりをしておどす                                      | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| ク 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」<br>などと侮辱的（ぶじょくてき）なことを言う | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |
| ケ 生活費を十分に渡さない                                      | 1  | 2 | 3 | 4 | 1   | 2 | 3 | 4 |

問21-1 (問21で、1つでも「1. 何度も受けた」「2. 1、2度受けた」とお答えの方に) 自分が受けた行為について、誰かに相談されましたか。あてはまるものをすべてお答えください。

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 家族に相談した            | 7. 医師・カウンセラーに相談した |
| 2. 知人・友人に相談した         | 8. 民間団体の窓口相談した    |
| 3. 配偶者暴力相談支援センターに相談した | 9. 女性活動団体に相談した    |
| 4. 市の窓口相談した           | 10. その他 ( )       |
| 5. 警察に相談した            | 11. 相談はしていない      |
| 6. 弁護士に相談した           |                   |

問21-2 (問21-1で「相談はしていない」とお答えの方に) 相談をしていない理由を教えてください。3つまでお答えください。

- |                                   |                               |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1. 相談できる相手がいない                    | 6. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思う |
| 2. 誰に相談してよいかわからない                 | 7. 自分も悪いところがあると思う             |
| 3. 恥ずかしくて誰にも相談できない                | 8. 相談する程のことではないと思う            |
| 4. 相談しても無駄だと思う                    | 9. 他人を巻き込みたくない                |
| 5. 相談したことがわかったら、仕返しをされるのではないかなと思う | 10. その他 ( )                   |

問22 配偶者等からの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。3つまでお答えください。

1. 家庭内でも暴力は犯罪であるという意識啓発
2. 住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援
3. 配偶者暴力の相談先の情報提供
4. 緊急避難場所（シェルター）の整備
5. カウンセリングや相談など、被害者の精神面の支援
6. 法律による規制の強化、法律の見直し
7. 学校や職場等での配偶者暴力に関する研修の実施
8. 加害者へのカウンセリングなどの更生支援
9. 暴力的な映像やゲームソフトの販売や貸し出しの規制
10. 学校や家庭におけるお互いを尊重する意識づくり
11. テレビや週刊誌などのメディアに対する倫理規定の強化の働きかけ
12. その他 ( )

### 性的マイノリティ（性的少数者）

「性的マイノリティ（性的少数者）」とは、性同一性障害や、LGBT※、自分を男女どちらとも思わないXジェンダー、誰にも性的感情が向かないアセクシュアルなどを含んだ、従来の『男性』と『女性』という性的な区別が当てはまらない人たちのことです。

LGBTとは－レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル：男性と女性いずれの性に対しても性的な魅力を感じる、トランスジェンダー：身体の性と心の性が一致しないが、外科的手術は望まない

問23 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。

1. ある 2. ない

問24 あなたは、性的マイノリティという言葉をご存じですか。

1. 知っていた 2. 初めて知った

問25 あなたは、性的マイノリティの方々が安心して過ごせる環境整備のため、どのような取組みが有効だと思いますか。3つまでお答えください。

1. 様々な違いも個性と考え、認め合うことを積極的に発信する
2. 学校や職場などに、性的マイノリティに関する本を置いたり、また、人目につきやすい場所にポスターを貼ったりする
3. 周囲に性的マイノリティの当事者がいるかもしれないことを踏まえて、注意深く言葉を用いたり、行動したりするように呼びかける
4. 「男」または「女」以外の選択ができるよう、できるところから環境を整える（具体例：トイレや更衣室に、男性用・女性用の他に、多目的用を設ける／書類の性別欄で男性、女性以外の選択肢を用意する）
5. 性的マイノリティをからかう発言や差別する発言を許さない雰囲気づくり
6. 性的マイノリティの当事者が利用できる相談窓口を設置する
7. その他（ ）
8. わからない

### 自由記述

問26 東久留米市の男女平等・男女共同参画施策について、ご意見やご要望がありましたらご自由に記入してください。

質問は以上です。アンケートにご協力いただきありがとうございました

東久留米市男女平等・共同参画に関する  
アンケート調査報告書

平成28年7月

【編集・発行】東久留米市 市民部 生活文化課  
〒203-8555 東久留米市本町3-3-1  
電話 042-470-7738  
FAX 042-472-1131